

◇七月(文月、朔月)
 一日 商家中元賣出し開始、富士山開、水泳場開始、施餓鬼(十五日迄)元寇記念日
 七 夕祭、本門寺大施餓鬼
 八 小暑
 十 觀世音四萬六千日、富士頂上大社開扉、鹽竈祭
 十一 國旗制定記念日、相馬の野馬追祭
 十一 十二日 草市
 十五 孟蘭盆、中元、大阪開港記念日
 十六 蘇入、開慶詣
 十七 京都祇園會
 下 旬 兩國花火
 二十 土用、定家忌
 廿三 大暑
 廿五 土用丑の日、相州大山開
 廿七 庚申
 三十 明治天皇祭
 卅一 甲子
 ◇八月(葉月、月見月)
 一 夏期休暇、八朔
 四 北野天満宮祭、建部神社納涼祭、成田祇園會
 五 己巳
 八 立秋
 十八 西鶴忌

十二日 王子神社槍祭、八幡祭、戸隠祭(信濃)
 十六日 大文字火(京都如意岳)、三島祭
 十八日 堀之内妙法寺千部會(二十八日迄)
 十九日 鎌倉圓覺寺蟲干(縦覽許可)、山城愛宕山燈籠焚き
 廿一日 住吉神社神輿渡御祭
 廿三日 鎌倉建長寺開山忌(二十六日蟲干縦覽許可)、樺太廳始政記念日
 廿六日 富士吉田口鎮火大祭
 廿九日 日韓併合記念日
 ◇九月(長月、寢覺月)
 一 二十日、大震災記念日、酒なし日、鎌倉圓覺寺開山忌、關東廳始政記念日
 初 旬 各學校始業
 八 上州太田呑龍開山忌
 八 二科、美術院等繪畫展覽會開かる
 上 旬 重陽節、生國魂祭
 九 芝神明生妻市、日蓮上人法難會(相州片瀨龍口寺)空也忌
 十一 司法保護デー、乃木祭
 十三 芝大神宮祭
 十四 神田神明祭、横濱山王祭、放生會
 十五 十三大學レガッタ(隅田川)
 中 旬 鎌倉半僧坊大權現祭、黃海々職記念日
 十七 念日

十八日 豐國祭(京都)、滿洲事變勃發記念日
 十九日 正岡子規忌
 廿一日 彼岸入り、六阿彌陀詣
 廿三日 社日
 廿四日 秋季皇靈祭、芝愛宕神社祭、秋分
 廿五日 龜戸神社大祭、鬼貫忌、諸新聞休刊
 庚申
 廿八日 各地不動尊開帳
 廿九日 甲子
 ◇十月(神無月、小春)
 一 更衣(軍人警官冬服着用)、各吳服店冬着賣出、朝鮮總督府始政記念日、東京市自治記念日、白髭神社祭
 四 己巳
 五 達磨祭、十夜講
 十日 視力保存デー、湯島天神祭、金比羅祭(讃岐)
 十二 池上本門寺會式、太秦廣隆寺牛祭
 十三 芭蕉祭
 十三 戊申詔書御下賜記念日
 十五 鏡鏡解禁
 十七 神嘗祭、朝鮮神宮祭
 十七 十一月二十日 帝展開催
 十九 べつたら市(日本橋區大傳馬町)
 二十 惠美須講、二宮尊徳忌
 廿一日 土用

廿二日 平安神宮時代祭、御取越、鞍馬火祭
 廿三日 靖國神社祭
 廿七日 十一月三日 明治神宮競技大會
 廿八日 臺灣神社祭
 廿九日 香椎祭(筑前)
 三十日 教育勸語漢發記念日
 下 旬 陸軍特別大演習
 ◇十一月(霜月、神降月)
 一 新曆賣出、結婚衛生強調日、西の市(二の酉十二日、三の酉十四日)
 一 七日 全國博物館週間、圖書館週間圖書念
 三 明治節、明治神宮祭、神農祭(京都)體操祭、全國體育デー
 六 京都極樂寺十夜講
 八 立冬、彌祭、火焚祭(伏見稻荷其他)
 十 國民精神作興詔書記念日
 十一 世界大戦平和克復記念祭、出雲大社神在祭
 十五 七五三祝、中山法華經寺會式
 十五 廿二日 全國兒童榮養週間
 廿一日 大師講、近松退林忌
 二十二 報恩講
 廿三 新嘗祭
 廿四 庚申
 中、下 旬 觀菊御宴
 廿七日 品川千體荒神祭

廿八日 甲子
 三十 滿期兵除隊
 此 月 交通安全デー、防火デー開かる
 ◇十二月(師走、春待月)
 一 羽子板賣出、北野神社大湯祭
 五 納の水天宮
 八 釋尊成道會、事納針供養
 八 納の金毘羅、氷川神社大湯祭
 十四 歳の市(十四、十五深川八幡、十七、十八淺草觀音、二十、二十一神田神明、二十三日芝大神宮、廿四日愛宕神社、廿五日平河天神、湯島天神、二十八日藥研堀不動尊、三十、三十一日市内各所)義士祭
 年賀郵便別扱(二十九日迄)
 賢所御神樂、詠進歌締切
 納の大師詣
 廿一日 冬至
 廿二日 大正天皇祭、帝國議會召集、各學校休業式、クリスマス、蕪村忌
 廿五日 帝國議會開院式
 下 旬 御用納、納の不動詣
 廿八日 大祓、年越の行事、除夜の鐘
 卅一日

て一年の間萬物の生ずる吉方を謂ふのである。何でこの吉方と定めるかと云ふと甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十干を陰陽に分ち、陽を甲丙戊庚壬とし、陰を乙丁己辛癸とする。陰の五干には自ら徳がないので陽の五干に配合して初て徳が生ずる。木の妹即ちきのとを以て庚なる金に妻はせ、火の妹即ち丁を以て壬即ち水に妻はせ、土の妹即ち己を以て木即ち甲に妻はせ、金の妹即ち辛を以て丙即ち火に妻はせ、水の妹即ち癸を以て土即ち戊に妻はせ、乙庚、丁壬、甲己、丙辛、戊癸の取組が出来、借て、甲の歳徳は東宮甲の方、丙は南宮丙の方、戊は中宮戊の方、庚は西宮庚の方、壬は北宮壬の方にある。即ち歳徳は左の方角にある。
 甲己——寅卯の間、北東東。乙庚——甲酉の間、西南西。丙辛——己午の間、東南南、丁壬——子亥の間、西北北。戊癸——己午の間、東南南。
 多くの神社、佛閣、祠堂が自然何所からかの恵方になる譯である。
 之を要するに恵方の説は陰陽家の説で人為より出でたるものではあるが、古くから行はれ來つた年中行事として重要なものである。

付積極的に所見を披瀝し、「日露國交調整には在滿兵備擴充が先決問題にて不侵略條約等は其後の事なり」と儼乎たる決意を表明○露國は陸軍強化の目的を以て兵役適齡を滿十九歳に引下ぐ○西班牙革命北軍總帥モラ將軍は「革命は國內問題なる故外國の援助不要なり」と革命軍の立場を闡明○無條約第一年度に處すべき海軍明年度豫算要求額は七億七千萬圓と決定豫算概算書を大藏省に提出

十二日 内務省の明年度豫算概算書大藏省に提出さる、要求總額二億七千七百五十萬圓○商工省にては豫て燃料國策の大綱方針を決定してその具體化を急ぎつゝありしが省議に於て最後案を決定○英國朝野に日英同盟復活論播頭し日本公債は連日昂騰○獨逸旅行通商協定成立し假調印する

十三日 平生文相は藏相官邸に馬場藏相を訪問、義務教育年限延長問題に關しその急務なる所以を陳陳諒解を求めた○有田外相は北支に於ける侮日行爲頻發に對し出先官意間に強硬論播頭せるに鑑み川越大使宛事應收拾方を訓電○西班牙内亂益々擴大して首都マドリッドは叛軍の重圍に陥り危殆に瀕せる爲め矢野公使は佛國

サン・ジャン・ド・ルツクに引揚ぐ。十四日 重要國策決定の事前工作として馬場藏相は各閣僚と個別的折衝を爲しその意見を聴取し來つたが島田農相、頼母木選相との會談を以て軍部大臣を除く第一次折衝を終つたので今後は第二段の工作に移ることとなつた○小川商相は陸相官邸に寺内陸相を訪問、燃料國策に就き協議

十五日 那須別邸に於て馬場藏相は語つて曰く國策中の難問は電力國營と義務教育年限延長問題であると言明○第六回太平洋會議開會式は米國カリフォルニア州ヨセミテ國立公園内で參加十一ヶ國の代表者列席華々しく舉行

十六日 海軍では軍事費の國內消化、地方還元に關し地方青年の採用、中小工業の利用の二方策を決定○電力國營問題に關し陸軍では廣義國防の見地から極力之が實現を要望し積極的に協力することに決す

十七日 馬場藏相は官邸に廣田首相を訪問各閣僚との折衝經過を報告の後、國策の項目決定に關し探るべき順序方法に就き協議○馬場藏相と會見後、廣田首相は藤沼、吉田、次田の三長官を招き國策決定

六名は銃殺を求刑さる。二十三日 大藏省は増收計畫の一部として郵便料金の引上による通信事業特別會計納付金増額を通信省に要望、通信省側も應諾の意向○露國は西方國境に常備軍を倍加して防備強化○全露共產黨中央委員會はトロツキー、シノグアイエフ一派のテロ陰謀事件に關與せる事實露見せるミハイルトムスキーは昨日自決せる旨發表

二十四日 新舊朝鮮總督の事務引継ぎは甲子園ホテルに於て約三時間亘つて行はれた○須磨總領事は陳外交部次長を訪問支那側の成都領事館再開拒否の態度に對し嚴重抗議○西班牙不干渉に關する佛の提案に對し獨逸も賛成を回答○滿洲に於ける水力電氣開發に就き關東軍は日本の國營案に呼應して國家統制確立の方針で邁進

二十五日 政府の諸重要國策の採擇に際して行政機構改革問題が等閑に付せられた感あるに對し陸軍側は極度に不滿を抱き首相の注意を喚起するものと觀られる○庶政一新を標榜する廣田内閣出現以來半歳にして政府の重點を置く進路たる七大國策、十四項目が決定され、今後は右國策の豫算化と内容の具體化に着手○電力

に就て側面工作に努力する様要望○駐露大田大使は廣田首相を官邸に訪問、ソ聯に關する詳細報告と重要進言を爲して辭去

十八日 廣田首相は閣議散會後、馬場藏相、寺内陸相、永野海相の居残りを求め明年度豫算中最も重視さるべき軍事費に關し軍部兩相からその輪郭に就て説明を聴取し、一方現内閣組閣の使命たる庶政一新の諸國策遂行に協力を要望○太平洋會議に於ける我が代表の海軍問題に關し所謂共通最大限案の原則堅持に對して各國代表とも日本政府は海軍力につき英米兩國との均勢を確保する権利があると云ふに意見一致

十九日 農林省は農村負債整理案及びその所要經費の概要を發表、先づ初年度に於て經費八百六十四萬圓を以て組合金庫を設置し貸付と保證を爲さしめんとするも○内務省社會局が研究立案中の商店法案は全國二百九十二の商工會議所に對し賛否の意見を求めつゝあつた處約七割強の同法案制定賛成に愈々來る通常議會に提案と決定、案文作成に着手

二十日 馬場藏相は官邸に廣田首相を訪問國策の最後の整理につき鳩山藏相の結果

統制具體化に就ては頼母木、馬場、小川、前田の關係四相間で大綱決定の方針、軍部兩相も必要に應じて參加の筈○支那四川省成都に於て抗日團の暴虐により邦人二名殺害され二名重傷

二十六日 國策項目決定を見たもの、十二年度豫算に全部を計上するは困難で十三年度以降に計上するものもあらうと馬場藏相語る○駐日西班牙公使館は本國の動亂に關しフランコ、カバネイナス、モラ各將軍を首班とする革命軍の行動に絕對的賛同、七月以來マドリッド政府とは完全に關係斷絶の旨宣明○成都事件に關し我が外務當局嚴重抗議○成都事件の重大性に鑑み國民政府は各地方に向つて各地居留外人の保護の徹底を電命

二十七日 電力統制強化の國策具現に關する第一回四相會議に頼母木選相より通信省の具體案を詳細説明○成都事件を契機として全支の排日一掃に我が外務當局の決意強硬○航空兵力の充實と民間航空事業の發達助成を期する航空國策の遂行と相俟つて優秀技術者養成の爲め東大工學部の航空學科の擴張大阪、九州兩帝大、横濱、名古屋、濱松、廣島の四高工に同學科を新設すべく明年度豫算に經費四百

採擇すべき國策に關し意見一致、その内容は一、國防國策二、増税を含む税制整理三、産業貿易の振興四、國民生活安定等で二十八日の閣議に語つて決定の方針○アラシエル國防委員會は上院のアマゾンア土地利權無効決定に對し之を支持する事を確認

二十一日 國策決定の事前工作は廣田、馬場兩相の會見を以て項目決定の大體を了り局面は一轉して國防費壓縮の難關に移り○國策として採擇された電力國營案は電力統制問題として取扱ふことに決定○民政黨の國策決定首腦部會議に於ける電力國策問題に對しては賛否兩論竟に可否の結論に達せず散會○政府の國防費壓縮工作に對し海軍側は歳入計畫の財源再検討が先決であるとし態度慎重

二十二日 明年度豫算概算書は陸軍、大藏兩省を除く大部分は大藏省主計局へ提出された。各省の新規要求總額は十三億五千萬圓となり之に基準豫算額十八億八千萬圓を加へると三十二億を突破する見込○大藏省の一般増收計畫の一部として關稅引上方策を採るべく調査したる結果二三千萬圓増收の見込○キエフ、カメネフ等十陰謀事件のシノグアイエフ、カメネフ等十

萬國を計上。

二十八日 閣議散會後陸、海、外三相會議に於て成都事件對策を協議、兩國中央政府間の問題として其根本に遡つて解決すべきものと決定、排日運動の絶滅と日支關係の根本調整に積極的行動に出づべく意見一致○行政機構改正問題に關し廣田首相は各關係に原案基礎を求めた○村井總領事カレット通商條約相との間に日濠交涉再開さる○中川臺灣總督正式辭表提出。

二十九日 臺灣總督後任に小林躋造大將決定○去る一日附待命仰付られし岸本綾夫大將以下二百五十五名は本日附を以て豫備役編入○成都事件の對策に就き川越大使を迎へて出先當局打合の上本省に請調を行ふ○軍需工業統制の法律制定に關し陸軍では關係者と下交渉を開始○太平洋會議閉會。

三十日 馬場鐵相は那須別邸に於て電力國營問題に關し所信を披瀝し、所謂電力國營案は公債政策上絕對賛成し難しと有明○英米兩國がエスカレーター條項採用により條約規定超過量四萬噸保有する以上、我が國は驅逐艦潜水艦を合して二萬八千噸を保有すべき對案を決定○義務教

地に陥り重大政治問題化するは必至の形勢○冀察政權財政當局は北平、天津等八ヶ所に稽査處設置の省令發布○全國特高外事課長會議で人民戰線運動を徹底的に取締ることに全員の意見一致○東京商工會議所役員會は電力民有國營案は國民經濟の發展を阻害し該案の本旨に悖るものとして反對建議案を決定。

八日 西班牙公使代表權の喪失を外務省公式に通告○國民政府は三月一日兵役法發布後第一回の徵兵令を發布○成都事件正式交渉に關し川越大使と打合を了せる須磨總領事は張群外交部長と會見豫備交渉開始○西班牙内亂に關する不干涉調整委員會ロンドンに開催さる○又もや北海に於て日本人虐殺さる。

九日 自動車製造事業委員會官制公布さる○本年度八月末現在國債總額は九十八億圓と大蔵省發表○北海に於ける邦人虐殺事件に鑑み蔣介石は舊十九路軍に撤退を嚴命○上海在泊中の第三艦隊所屬第十三驅逐隊、若竹、早苗の兩艦は北海に急航、先着の艦砲と共に我が調査隊の保護に當る○頻々たる不祥事件に我が出先軍部極度に憤激、國民政府に於て抗日取締の能力なきに於ては斷乎自主的行動を執るも

育年限延長問題に關し廣田首相は明年度準備に着手する方針決定。
三十日 成都事件の準備的折衝の爲須磨總領事張外交部長再會談○臺灣總督府總務長官に森岡二期起用決定○マドリッド駐劄大公使は西班牙内亂の人道化の爲め同政府に要請。

【九月】

一日 關東大震災滿十三年記念日○二百十日全國平穩○冀察政府經濟委員主席王克敏上海より北上○國民政府外交部高亞洲司長は川越大使を訪問成都事件に就き緩和運動を試みたるも一蹴さる。

二日 成都事件に關し外務、陸、海軍の第一回三省會議開催○許駐日支那大使は有田外相を訪問成都事件に就き寛容なる處置を要望して退出○高亞洲司長は喜多大使館附武官を訪問成都事件に付諒解を求めたるも峻拒さる○西班牙動亂に依りマドリッド市は食糧缺乏、無秩序に陥り政府の實權は共產主義者の手に歸し各國使臣殆んど退去す。

三日 成都事件の重大性に鑑み第三艦隊司令長官及川中將は旅順より上海に急航待機任務に就く○英國政府の惑星ロイド・ジョーシ翁はヘルヒテスカーゲンにヒト

又止むなしと強硬決意を固む。

十日 有田外相は日支交渉の調整を完全に中斷せる成都北海兩事件の惹起を極度に重大視し斯る惡質の抗日運動を根本的に艾除すべく極めて強硬なる決意を固め、在支邦人保護の爲め重大權限要求に決定○對支方策に關し陸、海、外三省は抜本塞源の解決を期することに意見一致○前西班牙公使ゲイゴ氏は橫濱出帆の途間丸で愈々歸國の途に就く。

十一日 陸軍では管下各工廠に職工の團體的行動を禁止各労働組合加入者は即時脱退すべき旨永持造兵廠長官より指令○國民政府は對日關係の不祥事件續發に鑑み地方當局に對し更に外人保護の命令を發す○日本の潜水艦保有量に對し米國抗議し来る、帝國政府はこの申入れを一蹴に決定○農林省では米穀自治管理法施行令、施行規則要綱を發表。

十二日 陸軍の工廠労働者の組合加入禁止問題に對し社大黨、勞協、總同盟は絕對反對の烽火を擧ぐ○電力統制問題に關する第三次四相會議の結果逕信省原案に代るべき案なしとの結論を諒解、更に軍部兩相を加へた六相會議開催に決定○王克敏は宋哲元代理張自忠と會見、冀察入り

ラ一獨總統を訪問歐洲危局打開策に就き意見交換。

四日 定例閣議の席上有田外相は成都事件に關する眞相を報告、政府の對支交渉根本方針を正式に確立決定○有田外相は成都事件に付抗日根絶を要求する調電を川越大使宛發送○許駐日支那大使は成都事件に付再度有田外相を訪問本國よりの調令に基き意見を開陳○西班牙内閣總辭職しカバレルロ氏組閣人民戰線更に強化さる。

五日 電力國策審議に關する第二回關係四相會議通相官邸に開かれ逕信省提出の資料に依り本格的審議に入る○成都事件の調査徹底的に完了○蔣介石は廣西との妥に全面的讓歩を爲し包圍軍撤退開始。

六日 樞密顧問官石原健三氏薨去享年七十○電力統制問題に對する民政黨首腦部會議の結果は大體逕信省原案支持に傾き廣田首相も亦庶政一新の具體的方向を決定するものであるとの見解から多少の反對陣害を押し切つても逕信省案を生かしたい意向と見られるに至つた。

七日 行政機構改革問題に關する寺内陸相の希望は組閣當初より強硬なるものあり之が實現に就き他まで追究せば政府は窮

斷念を表明○日本の北海事件調査員便乗の軍艦艦砲は北海着と同時に現地調査を行はんとするも十九路軍之を拒否、事態險惡に就き上陸を差控へ待機中○大蔵當局を中心として關係各省並に調査局との間に具體的方策を練りつゝあつた酒精の製造專賣問題は昭和十二年度より實施することに決定、豫算五百萬圓を以て七工場を新設の豫定○成都、北海兩事件に關し正式交渉を行ふべく訓令を受けた川越大使は陸海軍武官と前後して上海より南京へ乗込、我が見解を堂々開陳國府の猛省を要求すべく重大決意。

十三日 軍艦艦砲に搭乗入港せる我が調査員上陸に關し支那側調査員は十九路軍丘參謀長と會見諒解を求めしが言下に之を拒否、十九路軍は北海地方に戰時戒嚴令を布いて抗日氣勢を煽りつゝある爲め市内の人心動搖○サン・セバスチアン陥落、モラ將軍の率ゆる革命軍は堂々入城を開始。

十四日 農林省調査の全國小農家負債額は昭和十年八月末現在四十一億、内高利債十五億と發表○外務當局は十九路軍即時撤退を國民政府に嚴重要求するやう出先官憲に調電○冀察外交委員長陳中孚氏は

我が大使館に花輪書記官を訪問し豊臺事件に付き最後の折衝を遂げたる結果圓滿解決○李宗仁は本年中に日支戦争免れずと爲し十九路軍を擴充せよと放言○ヒトラー總統はナチス黨大會の席上に於てドイツ國民は全歐洲がボルシェヴィズム化して行くのに無關心では居れぬ斷乎ボルシェヴィズムの害毒と戦はうと獅子吼○十五日 滿洲國承認滿洲四周年記念日○政府の地方行政機構の根本的改革は愈々地方税制改革案の全貌判明を俟つて之が具體化につき廣田首相より閣議に提議の意向○英國政府のロカール會議開催に關する獨、伊兩國政府の意向打診せる處兩國とも難色あり結局流産の外なき模様濃厚○上海を中心とする抗日運動は全面的に惡質化し日本人殺害暴動計劃が進められつゝあること暴露し俄然我が方の事態監視嚴重化する○

十六日 川越大使は張群外交部長を訪問、國民政府が北海事件に關し不誠意の態度を續け我が調査を不可能ならしむるに於ては斷乎實力行使の已むなきに至るべしと重大警告○無任所相設置問題に就き首相は樞相の意向打診○蔣介石は李宗仁、白崇禧に對し十九路軍を南路より撤退せしむることを要求○反蔣抗日の急先鋒李濟、蔡廷楷は南寧を退去香港に向つた○十七日 陸軍では行政機構改革に付て先づ國策決定の綜合調査機關設置を陸相より強硬に進言する○北海占據の十九路軍は李宗仁、白崇禧氏の撤退命令に依り廣西省内に向け撤退開始○滿洲事變記念日を中心に不穩分子の大規模の暴動計劃あるに鑑み滬滬警備司令楊虎氏は上海支那街に臨時戒嚴令を施行○

十九日 關門海底トンネル起工式舉行さる○二十日 閣議席上馬場藏相より説明すべき税制整理案大綱發表さる、劃期的改革たる今回の税制整理案によれば純増税額初年度は約二億八千萬圓で平年度は三億七千八百萬圓に内定○地方税制改革に關する内務、大藏兩當局折衝の結果最後の決定を見るに至り現行地方税總額六億一千三百餘萬圓の約三割概算一億八千萬圓に及ぶ輕減を斷行に決定○豐臺事件圓滿解決○伯國經濟使節團入京○

二十日 外務省首腦部會議の結果北支緩衝地帯の要求を有田外相斷乎決意す○七月十日發生した壹生事件の眞犯人逮捕さる○地方税制改革案に關する大藏、内務兩省の最後折衝成り二十二日の定例閣議に附議する事に決定○

二十一日 海軍省首腦部會議の結果自衛手段を講ずる爲め所要陸戰隊を内地より増遣することに決し上奏の手續をとり當局談形式の聲明發表○北支に於ける侮日事件に付重大關心を有する關東軍は北支の安定には犠牲を厭はずと所信を發表○伯國使節團謁見の光榮に浴す○

二十二日 劃期的税制整理案は定例閣議に於て決定、首、藏兩相參内奏上○支那が侮日抗日行爲を繰り返へすやうでは斷乎たる方針に出づるも已むなきとする外相の方針に對し廣田首相も贊同○十九路軍撤退後我が調査員北海上陸○

二十三日 上海日本人街に於て我が陸戰隊員排日テロの爲め狙撃され一名即死二名重傷仍て直に現地に戰時警備を布き及川長官重大請調○

二十四日 大元帥陛下には陸軍特別大演習御統裁の爲め宮城御發聲あらせらる○上海特別陸戰隊は非常警備布告を以て治安擾亂は假借せずと公布○

二十五日 定例閣議は對支問題に關する意見を交換、永野海相は海軍の重大なる強硬決意を表明し各閣僚は軍部外務の方針を支持その處理を一任○有田外相は外務

省に許駐日支那大使の來訪を求め日支外交交渉に關し要請する處あり○

二十六日 天皇陛下には御召艦比叡にて御恙なく室蘭御入港御上陸あらせらる○佛國の平價切下に伴ふ英米佛三國の通貨協定成立○和蘭政府はフランの平價切下の應急對策として金輸出を禁止○芬蘭内閣總辭職○

二十七日 元貴族院議員飛鳥文吉氏は鐵道疑獄に關連せる贈賄嫌疑により檢舉されたので一時は取調べ一段落かと思われたのが更に進展する模様○フラン貨の切下に追隨してスイス政府も平價切下を公布した○

二十八日 非公式軍事參議官會議は霞ヶ關海相官邸に開催され我が對支強硬方針を全海軍一致して支持に決定○ひとの道教團教主御木徳一は貞操蹂躪の告訴を受けて檢舉さる○

二十九日 國民政府行政院會議に於て日支交渉問題討論され結果異常なる強硬論續出したる爲め外交部當局は蔣氏の裁斷を仰ぐ事としたるに對し川越大使本省に請調○佛國政府は金輸出禁止令公布○英國パレンスチナに戒嚴令布告○

三十日 馬場藏相は町田民政、鈴木政友兩

總裁を私邸に訪問、税制整理案につき詳細説明諒解を求めた○エチオピア代表の痛烈なる熱辯の爲め聯盟總會に一波瀾起る○

【十月】

一日 三笠宮殿下には騎兵少尉御任官、畏き邊りより大勳位に叙せられ菊花大綬章を授與あらせらる○陸海兩相提案の行政機構改革案の實現は現内閣に重大危機を齎すものとして廣田首相は局面の打開を計るべく國策綜合機關、無任所大臣の設置の二問題に對して誠意ある解決を圖る意嚮○行政機構改革問題に對する寺内陸相の態度は頗る強硬で庶政一新を斷行する以上犠牲も亦已むなきとの決意表明○關東州始政三十周年記念式旅順運動場に於て舉行○

二日 廣田首相は閣議開會に先立ち首相官邸に有田外相、永野海相、梅津陸軍次官の參集を求め外務省からは桑島東亞局長も列席して日支外交に關する重要協議○時局の重大性と事態の切迫に鑑み桑島東亞局長を外務大臣代理として南京特派に決定○中山兵曹暗殺犯人に對する判決を期し暗殺團の一味に不穩の企てあるので陸戰隊では虹口一帶の邦人居住地戒嚴○

オーストリア政府は國民強制募法案を國會に提出、再軍備に着手○西班牙フラン革命軍總司令は總統に就任、同時に革命政府の政綱を宣言○

三日 大元帥陛下には畏くも冷雨降り濺ぐ南狩の野に長時間に亘り陸軍特別大演習を御統裁あらせらる○蔣氏の歸京以前に重大豫備交渉を行ふべく亞洲司長高宗武氏は川越大使を訪問打合○梅津陸軍次官は長谷川海軍次官を海軍省に訪問、對支問題に關し要談、陸海協力して外務支持を申合せた○

四日 農林省では本年の米作第三次收穫豫想高は六千七百八十四萬六千六百八十石で前年の實收高に比し千四十二萬二千四百三十三石(一割八分一厘)を増加と發表○平生文相は時局談を試み國家的に必要なら行政機構改革も結構であると語つた○

五日 名古屋市公會堂に於ける關西銀行大會席上で馬場藏相は演説して今般の税制改革により約三億圓の増收を擧げる事となるが國民經濟の現狀を以てすれば此の程度の増税には十分堪へ得る域に達して居ると信ずると言明○寺内陸相は庶政一新は議論の時代にあらす實行の域に到達し

たとの見解の下に關係方面に對し現内閣出現以來の公約履行を迫る模様○イタリ政府はフランの平價切下げに伴ひリラの切下げを發表。

六日 逓信省では明年度通信特別會計豫算の編成に當り増税其他財政上の諸條件を考慮して郵便料金値上げ及事業益金の一般會計繰入問題に關する根本方針を決定、通信料金を有封書狀三錢を四錢、葉書一錢五厘を二錢に値上げの方針○桑島東亞局長南京到着○東北興業總裁に吉野信次氏、東北振興電力會社社長に金森太郎氏決定○チエツコ・スロヴァキア政府はコルナ貨の平價切下げを斷行。

七日 去月二十二日發表された劃期的稅制整理大綱に基く稅目及び稅率の細目を大藏省發表○川越大使との會見を前にして蔣介石氏は財政部長孔祥熙、外交部長張群兩氏と會見して重大密議を遂ぐ○米國海軍長官スワソン氏はワシントン・ロンドン條約の失効後に於ける情勢にして國際建艦競争起らば之を辭せず、要塞には要塞を、脅威には脅威を以て酬ゆる他なしと豪語。

八日 川越大使、蔣介石氏の會見は中山門外の財政部長孔祥熙氏別邸に於て午前十時より通譯以外を交へず直接折衝開始○日本大使館當局は川越、蔣兩氏會見に關しコミニエツク發表、一方蔣氏は川越大使との重大會見後、政府要人を召致して折衝方針を指示○大阪に於ける民政黨關西大演説會で町田總裁は電力國有國營案を示唆す○英國の新聞王デーリーメーブル社長ロザミア卿は世界一周旅行の途次、歐洲政局の歸趨を豫言して一九三九年前に獨り兩國開戦すべしと語つた。

九日 内閣調査局では大藏省の荒井專賣局長官、同松尾調査課長とアルコール及燒酎專賣に關する實行方法を検討○行政機構改革問題に關し陸海兩相は豫算編成後議會開會までの適當の時期に於て内閣改組を斷行すべきである旨までを含めた文書を以て強硬に主張○我が外務當局は南京交渉の促進に日支共同委員會を組織し決定諸問題の具體案作成に當る方針○西班牙内亂不干渉委員會は英外務省ロカルの間に於てプリマス卿司會の下に開會さる。

十日 本省の重要訓令を執行せる桑島東亞局長は川越大使に傳達を了へ歸朝の途に就く○蔣介石氏は及十節に方り「支那の統一と建設」と題するステートメントを發表支那を援助するは世界平和の基礎と聲明○英國政府は日本の對支要求は九ヶ國條約に違反せるものなりとの奇怪なる斷定の下に米、佛兩國を初め日本を除く各締約國共同して日本政府に抗議すべき事を提議せる文書を通達したこと判明。

十一日 政府の重要訓令を執行して渡支せる桑島局長は歸朝の船中に於て日支開戦なしと斷言は出来ないと言つた○行政機構改革問題は現在の情勢では政府と軍部の見解は全く相對立し、軍部兩相の出様によつては政局の危機を招來するものとしてその成行重視さる。

十二日 貿易の振興と統制の強化を目標として企圖された貿易局の機構改革問題は外務商工共管の外局とする折衷案成る○須磨高宗武兩氏の豫備的折衝に於て早くも兩者の主張に喰違ひを生じ今後の波瀾豫期さる○行政機構改革による廢合省の大員で剩員となるもの辭任に困難ありとせば之を無任所大臣として姑らく在任せしむる事とし可及的急速に實施する様軍部要求○英米佛三國間に金自由交換協定成立。

村檢事正宛提出の嘆願書發表さる○政府は貴族院改革に關する調査會設置を決し官制要綱を閣議で決定○軍部兩相は行政機構改革に伴ふ省の廢合に就て豫め議會前に必ず斷行する旨を何等かの形式で表現されたいと首相に要望○ソ聯又も不法射撃を敢てし我が富永中尉行方不明○支那側不誠意抗目的風潮尖鋭化する。

十四日 内閣調査局立案の國策統合機關は首相直屬とし長官には無任所大臣を以てする案を決定○新ロカルの會議に獨逸は重大な修正を提示して英政府へ回答○ロンドン條約第二十二條潜水艦使用制限條項の一般化に就て今春倫敦海軍會議に採擇され英政府より佛伊の参加を勸説中の處漸く参加承認。

同日 兩閣下を御差遣相成る旨を宮内省發表○馬場、前田、小川の三相會議の結果電力國營逓信省原案に修正を加ふると共に名稱も電力國家管理法とする事の決定に對し頼母木選相も同意明日の閣議に附議正式決定を見る答○川越、張群第四次會談○重慶、成都間の鐵道を佛支合辦にて建設するの取極め成立○二・二六事件關係の田中大尉自決。

政府は日印通商條約廢棄を通告○須磨總領事を歸國せしめ重大請訓を仰ぐ事に現地首腦部會議で決定。

二十二日 永田拓相は首相官邸に廣田首相を訪問、行政機構改革問題に關し軍部案に拘泥せず改革案を樹立せよと進言○民政黨は北陸大會に於て時局を擔當する政黨の外になしと宣言○電氣協會は電力管理案絕對反對を表明○外務當局は依然支那側誠意を缺かば外交手段を打切り所信に従ひ北支工作に邁進の決意を固む。

二十三日 定例閣議は行政機構改革問題を中心、地方に別けて擔任閣僚を決定具體的研究を爲すことに正式議定、同時に政府聲明を發表○軍部兩相共同提案の行政機構改革具體案を閣僚に配布○軍部は國策綜合統制機關を即刻設置せよと強硬に主張○有田外相は駐日支那大使許世英氏よりの我が對支態度緩和を斷乎一蹴○西安大軍事會議は西北抗日戰線強化を決定○葡國政府は西班牙と國交を斷絶。

二十五日 議會制度改革具體案に就て軍部は今後鋭意研究、必要に應じて五相會議に進言○伊獨共同防禦に關しチアノ外相聲明發表○湖北省主席楊永泰氏現役軍人の爲めに暗殺さる。

良排日煽動の事實明白となる○陸軍の抱く議院制度改革に對する要望は根本的問題に關するものと豫測さる○トルコ政府は日土通商貿易暫定協定の廢棄を通告し來る。

すべき川越、張群第七次會議を前にして南京に首腦部會議を開催、我が要求貫徹に邁進○伊太利首相ムソリーニ氏はミラノに於ける二十五萬のファシスト黨員を前にして平和政策遂行には聯盟は無用の長物と喝破。地中海に於ける英伊均等の勢力關係を決定すべきであると主張。

賜ふ○伊太利首相ムソリーニ氏の新外交政策の宣言に關連して歐洲政局は新たな勢力均衡を希求する活潑なる胎動を呈す○須磨南京總領事と亞州司長高宗武は須磨氏歸任後最初の會見。

六日 議會制度改革に關する軍部案に對し政黨方面に強硬な護憲運動起らんとし首相は兩者の板挟みとなり黨出身閣僚に救投追擊緩和工作に腐心○議院制度特別調査委員會を首相官邸に開催、陸軍案として傳へらる、議會の權限縮小、政黨政治否認等を中心として政府側と質問應答を交したるも不滿前途の波瀾を豫想さる○西班牙首都マドリッド革命軍の包圍下に修羅場現出。

二日 前鐵相内田信也氏の處分問題決定の爲めの檢察首腦部會議大審院檢察總長室に開かれ四日再召喚に決す○教育總監杉山元中將大將に親任さる○太原事件に關する我が強硬態度に閻錫山以下山西省當局狼狽、解決交渉を申入る○廣西の李宗仁、白崇禧、四川の劉湘、雲南の龍雲等は抗日戰線の擴大強化を標榜して西南四省聯携の反蔣聯盟の結成を策謀○シヤムベリ居留の伊太利居留民大會の開催に佛共產黨等大舉して會場を襲撃、領事以下五名を傷害○西班牙大統領アサニア氏はマドリッド脱出後、逃亡、自殺を企圖して失敗に了つたとの風評。

四日 行政機構改革に關する閣僚會議(中央制度、四相會議は午後一時半より於蔵相官邸、地方制度並に議會制度の再檢討、五相會議は午後二時より於内相官邸)第一回を開いたが各閣僚審議に積極的熱意なく期待薄の初會合○米國大統領選舉開票の大勢は前大統領レーヴヴェルト氏全戰線に壓倒的優勢を獲得○國鐵疑獄事件にて再召喚の内田前鐵相は遂に瀆職罪で起訴され市ヶ谷刑務所へ收容。

七日 政府は行政機構實現に邁進、差當り國策綜合機關は是非明年度豫算に計上すべく首相決意○各政黨憲政擁護を絶叫して氣勢を擧ぐ○新議事堂竣工の式典本日盛大に舉行さる○西班牙革命軍愈々首都總攻撃を開始、政府首都を放棄東方グアレシヤ方面へ向け都落。

三日 明治神宮御例祭、畏き邊りに於かせられては明治節の佳辰に内外臣僚を召され豊明殿に御盛宴を御催しあらせらる○大元帥陛下には在郷軍人會新會令發布記念式典に方り陸海兩相に異例の勅語を

五日 十九年の歳月と二千八百萬圓の巨費を投じた新議事堂は落成大祝典に先立ち天皇陛下御臨幸の榮光に輝き我が憲政史を飾る○暹羅政府通商條約廢棄を通告○重光駐ソ大使は赴任途上に於て國民は對ソ問題に關心興味を持つとの車中談を試みた○軍部の議會制度改革問題に關し政、民、社大黨共異常の衝撃を受け各黨の態度頗る強硬○ムソリーニ伊首相の新外交政策に對しイ・テン英外相強硬に應酬。

八日 西班牙革命軍は政府の反撃を斥けてマドリッドのセゴウイア橋及びブリンセツサ橋を占據首都に侵入○西班牙内亂も革命軍の首都入城、直ちに各國政府に新政府成立を通告、我が政府は治安回復を待つて矢野公使一行をマドリッドに引揚げしめ新政府と交渉開始の模様。

九日 第七十議會召集詔書公布○中央行政機構改革に關する第二回四相會議に陸海

軍次官を招き軍部の真意聴取の上今後の審議方針を樹立すべく四相より夫々重要質疑○二週間振りで川越、張群第七次會見行れ我が最後方針を正式通達○北支開發に關し支那駐屯軍幕僚會議開催、長時間に亘り協議○日ソ新漁業條約兩國代表意見一致。

十日 本年度第二回米收穫豫想は六千六百萬石弱、昨年より一千万石増收の旨島田農相閣議に報告○閣議に於て思想犯保護觀察法施行令、保護觀察所官制、保護觀察審査會官制を決定、十四日公布二十日より施行○川越張群第七次會見、日支交渉最後の段階に入る○大藏省は愈々煙草値上を本日官報號外を以て發表十一日より實施に決定○英獨海軍協定を契機として獨逸國大建艦を計畫。

十一日 十二月一日附で行はれる海軍定期異動内定○平生文相の義務教育年限延長案を首相容認して内閣に大調査會設置を決定○川越張群會談に於て支那側は北支、防共の二問題を全面的に拒否の旨川越大使より外務省宛公電○上海バイカル路桃源里通行中の郵船笠置丸の乗組員高瀬氏狙撃さる。

十二日 豫算折衝愈々本格化し各省夫々省議を開いて大藏省主計局の査定案に對し猛烈に復活要求を行ふ模様○大藏當局の査定による一般産業費の壓縮は庶政一新に反すと爲し島田農相は復活を要求の意向○上海の紡績罷業抗日闘争に進展化する。

十三日 内鮮滿一如の産業統制策を講ずる必要上一大産業調査會の設置方を松井資源局長官より廣田首相に進言○若杉總領事は高瀬事件に關し吳上海市長に嚴重抗議○伊壘洪三國維納會商に於て新ウイン議定書を締結、歐洲を南北に縱斷する合從陣を結成す○西班牙首相ガパレロ氏は首都マドリッドに歸還、俄然政府軍攻勢に轉ず。

十四日 貴族院制度調査會第一回總會は首相官邸に開會さる○電力國營に對し業者側の對案作成の爲めの五大電力社長は協議の結果現行電氣事業法で統制強化を爲すことが最なりとの結論より必要に應じて五社合併の用意ある旨申合○獨政府はグエルサイエ條約中のダニエューブ、エルベ兩河等の國際河川たることを規定せる條項を廢棄するに決定各關係國政府へ通告。

十五日 大藏省では藏相官邸に稅制改革案未決定分について省議を開き外貨證券課稅及相續稅の改正案を決定○獨伊經濟會議の結果恒久的經濟提携成立。

十六日 議院制度調査會總會は首相官邸に開催され政黨側委員より深刻なる質問出で極度に緊張、結局次回總會に寺内陸相の出席を要求し首相も篤と考慮の旨答辯○中央行政機構改革に關する四相會議第三次會談は藏相官邸に開かれ國策統合機關設置に就て討議の結果大體總務廳を設置する方針決定○蒙古錫林郭勒盟副盟長徳王は綏遠、山西方面より侵入の赤軍並に之が使職軍閥を討伐の爲め自衛的軍事行動を開始○英國香港防備強化の爲めスタンレー半島に新要塞構築中の旨聲明す。

十七日 廣田首相は閣議の席上文化貢獻者の顯彰を提言各閣僚の諒解を求めた○第二次五相會議で富分議會制度問題を後廻しとし地方制度改革問題を先議すべく申合せを爲す○今春渡滿の河村部隊の一部は初年兵教育の爲め原隊に凱旋○綏遠軍と内蒙軍との抗争危惡を機軸として蔣介石氏は太原に閻錫山、除永昌、王靖國氏等を招致し軍事會議を開催○上海の紡績罷業は日支關係の惡化を策する爲めの歐

治的争議に轉化暴徒八千豊田紡を襲撃。

十八日 日蘇漁業條約樞密院御前會議にて可決○獨伊兩國は西班牙反政府軍政權を承認○佛内相サラングロ氏瓦斯自殺を遂ぐ、左右兩派抗争の犠牲となつたものと稱せらる。

十九日 巴里東京間百時間以内莖翔のアン・ドレ・ジャヒー氏は驚異的快翔を續けつゝあつたが香港より東京への途中佐賀縣背振山中に墜落重傷を負つた○西班牙新政權總統フランコ將軍は英政府に對し西班牙政府への軍需品密輸を阻止する爲めパロセロナ港の封鎖を通告。

二十日 鈴木侍從長辭任し海軍大將百武三郎氏從從長に親任さる○議院制度調査會委員と寺内陸相の懇談問題は漸く歩み寄つて來月開催の事に決す○秋田縣尾去澤町三菱經營の尾去澤鑛山のダム決潰し流失家屋三百三十戸、死傷者數百名に上る慘事突發○北支冀東保安隊突如叛亂、開平附近にて列車襲撃山海關守備隊長古田少佐等十數名を拉致。

二十一日 外務省は内蒙軍と綏遠軍との衝突事件に關し帝國政府の闡明せざる所なりとの聲明を中外に闡明○大藏省では豫て日滿兩國政府に於て設立計劃中の滿洲

二十日 興業銀行の設立趣旨並に其の經過、内容を發表○ソ聯政府は駐ソ日本大使館に對しソ聯政府は最近形成せられた險惡な空氣が拂拭さるゝまでは日ソ漁業條約に調印するを得ずと通告し來る。

二十二日 大藏省議は明年度豫算概算の大綱を決定、總額三十億四千萬圓、内陸軍七億二千萬圓、海軍六億八千萬圓を決定○伯林訪問中のシュミット境外相により獨逸防共協定成立。

二十三日 冀東保安隊の叛亂を鎮撫した山海關守備隊長古田龍三少佐は叛亂勃發の責任を感じ東陽庄子に於て割腹○和蘭政府は英米佛三國協定に参加する旨聲明○全露を震駭させた反革命陰謀事件に關するソヴオシビリスク高等法院軍事部裁判で被告獨逸國籍人シュエクリング氏以下九名に銃殺の判決言渡あり。

二十四日 畏き邊りでは尾去澤鑛山慘事を御軫念あらせられ畏多くも侍從を御差遣御救恤金を御下賜あらせらる○内蒙軍の奇襲に綏遠軍全面的退却○英國政府は西班牙内亂に對し地中海艦隊第一潜水艇隊を西班牙沖に出動せしむ。

二十五日 日獨防共協定調印完了、外務省より右成立に關し聲明を發表○炭鐵爆破

リトヴィンフ外相は日獨防共協定に言及し、日獨伊三國の侵略的活動は益々露骨となると毒付く○宋子文を中心に海南島開發に着手。
三十日 ヴァン・セーランド白國首相は倫敦にイーデン英外相を訪問、白國侵略の場合に英國は即時援助に乘出す旨の公約成立。

【十二月】

一日 郵便料値上げに關する具體案内定す有封書狀四錢、葉書二錢○キヤンペラに於ける村井、カレット會談は頗る友好的に進捗、濠洲側數量問題を以て讓歩せし爲め妥協成立の曙光見ゆ○伊國總領事館を奉天に設置承認の旨滿洲國對伊回答を發す。
二日 外務省は在エチオピア公使館を閉鎖しアデス・アベバに領事館を開設の用意ある旨を伊政府に通告せりと發表○ホルドウィーン英首相は定例閣議後エドワード八世陛下に拜謁し陛下の御結婚問題に就き政府及議會の意向言上、皇帝と内閣との對立深化す。
三日 海軍は無條約第一年に對處すべき明年度帝國海軍の常備艦隊編成を公表○最後の段階と目されたる川越・張第八次會

見に於て支那側全く誠意なく折衝三ヶ月遂に日支正式交渉は事實上打切の形となつた○青島の邦人紡績罷業悪化し職工側暴動の惧れあるに對處すべく北支警備先任指揮官宇垣大佐指揮の陸戰隊上陸。
四日 吉田内閣調査局長官辭任○三日の川越・張第八次會議に於て川越大使は會議内容に關する文書を張外交部長に手交したるに國民政府外交部は之を拒絶、我大使館に返送し來たので直に又之を突戻した。
五日 日支交渉の終結に關聯し今後の方針に就て陸海外三相會議開催の結果、日支交渉決裂後の全支に亘る抗日運動を豫想して我居留民保護に關する豫防的自衛措置を講ずる方針決定○中央行政機構改革審議の四相會議第四回會議は國策統合機關としての總務廳の構成に就き再檢討を行つた○露國全聯邦大會は新憲法全文を満場一致を以て採擇。

六日 川越、張第八次會議の際川越大使より提出せる文書を正確ならずした國民政府は更に聲明を發し日支交渉に對し、根本的拒否の態度を表明して決定的に決裂○英首相は緊急重大閣議を召集更に首相はメリー皇太后陛下に拜謁。皇帝御退位

に決定す但し未だ退位宣布令に御署名せられず○同業朝日日運親善機關型號は航程五千キロを突破して午後五時四十八分無事バンコック着陸。

七日 財界の巨頭鄭誠之助男は老齡に加ふるに社會狀勢の變化に鑑み東電會長他一切の公職を辭し財界を引退する旨發表○滿洲國國務總理は協和會長の資格を以て共產勢力の進出を排撃する爲め内蒙軍を援助すべき意嚮を表明○シンブソン夫人は王位安泰の爲めには何時にても英皇帝と袂別する旨聲明し又々波紋を起した。

八日 有田外相は日ソ漁業條約の年内調印を圖れと重光駐ソ大使に調電○安藤政友會幹事長は廣田首相を訪問、外交行詰りに關し政府の秘密主義が事態を斯く悪化せしめた旨を指摘して警告○佛國政府は小協商國との通商提携の見地よりユーゴ一國と條約締結。
九日 樞密院定例本會議終了後、外交問題に關する懇談會に於て有田外相は日獨、日伊兩協定に關する國際的反響、日蘇漁業條約調印遷延事情、日支交渉經過、現狀に就き詳細説明、樞密院は猶釋然ならず○ニカラガ國大統領に國防軍司令

モザ將軍就任。

十日 外務省は日支交渉に關する支那側の聲明を反駁し覺書實行を嚴視し我在支權益確保を表明の聲明書を發表○シンブソン夫人との結婚問題の爲め遂に退位を決定せられた英皇帝エドワード八世陛下の退位を決定すべき英議會は空前の興奮裡に開會され、ホルドウィーン首相より皇帝の退位、ヨーク公段下の踐祚次第を正式發表、新帝はジョージ六世と奉稱○懸案の日濠交渉は約六ヶ月の日子を費し村井、カレット會談により羊毛輸入は一シーズン四十萬俵、織物輸出は一億二百萬碼等の條項に依り圓滿解決に到達。
十一日 重光大使の二回に亘る督促に拘らずリトヴィンフ外相は全く應ずるなく日ソ交渉行詰りに陥る○英國皇帝退位法案は四〇三票對五票の多數を以て下院を通過○國民政府は我が聲明を全面的に反駁し非法行動は斷乎許さずとの強硬態度を表明、抗日氣勢濃化。

十二日 海軍軍事參議官會議は外務當局を鞭撻して確乎不動の外交を遂行せしめることに意見一致○英國新帝ジョージ六世陛下御即位の樞密院會議はセント・ジェームス宮殿に於てマクドナルド樞密司會

の下に開會、新帝は御即位の布告に御署名遊ばされた○張學良西安に於てクイデターを敢行、蔣介石氏首め幕僚要人を華清池温泉にて襲撃監禁、主張を天下に誇らん各各方面に通電、國民政府全支の上震撼す。

十三日 支那西安事件に對し外務省首腦部は重要協議の結果暫らく時局の推移を重大關心を以て監視する方針を決定○全支重大危局に直面せる國民政府は取敢へず蔣氏の方針堅持を決議し行政院責任者に孔祥熙、學良討伐總司令に何應欽氏等を任命。

十四日 貴族院改革調査會第二回總會の席上廣田首相は改革案の來議會提否の言質を與へず慎重審議を要すと答辯○陸軍省では二・二六關係叛亂幫助の容疑を以て豫審取調中の久原房之助に對し證據不十分として不起訴處分とせる旨發表。
十五日 海軍では海相官邸に衆議院各派に對する明年度豫算内示會を開催し六億八千萬圓の内容に就て説明懇談○スイス聯邦議會は一九三七年大總統選舉を執行、外相ギセツペ・モツタ氏當選○須磨南京總領事は外交部に張部長を訪問川越大使の代理として今次事件に對し深甚の

見舞の辭を述べたるに張部長は學良の叛亂は抗日を目標として居るも對日態度は變更されずと言明。
十六日 樞密院本會議散會後別室に於て首相及び外、海、陸、農の四相は日蘇漁業條約に就て協議の結果自由出漁辭せずとの方針を決定○光行檢事總長正式辭表提出、後任に泉二大審院部長を奏請○支那國民政府中央政治會議は張學良討伐令を發出、總司令に何應欽氏を任命○米・伊通協定廢棄の爲假協定成る。
十七日 逕信省は内國郵便料金の値上げを決定、次期議會に關係諸法案を提出協賛を求め昭和十二年四月一日より實施の方針○我國最初の内亂罪適用事件として神兵隊事件の天野辰夫辯護士安田中佐等五十四名は大審院泉二裁判長より内亂豫備陰謀の罪名の下に公判開始決定さる○埼玉縣會計課長福田清次の公文書偽造による公金百二十二萬圓欺詐横領事件に關する記事解禁。

十八日 東京商科大学長の後任に上田貞次郎博士選舉さる○貴族院制度調査會總會首相官邸に開催され幹事會試案討議○西安脫出最初の要人蔣鼎文氏は孔祥熙氏邸で蔣介石近親者に蔣氏は西安東城金家巷

の學良邸に監禁され居る旨報告○内蒙軍總司令德王は西安事件に鑑み綏東の軍事行動停止通電を發す。

十九日 有田外相は許駐日支那大使の來訪を求め國民政府と張學良との妥協工作の推移如何に重大關心を持たざるを得ぬ旨事前に決意表明○日露漁業條約問題に關し重光・リトヴィノフ會見に於て重光大使に先手を打ちリトヴィノフは不遜にも調印を峻拒す。

二十日 西安事件に對する中央の動向を重視し我が政府の意圖傳達の爲め川越大使は戒嚴令下の南京に到着○サルグアドルに激震あり各地の被害甚大の模様。

二十一日 川越・張外交部長會見、西安事件に對する我が好意的靜觀に對し謝意を表せりと○選舉制度調査會總會は首相官邸に開催され選舉法改正要項に關する特別委員會案を原案通り可決○英、佛政府はエチオピアに領事館設置を伊太利政府に通告。

二十二日 關稅調查委員會は關稅定率法改正案を決定○議院制度調査會總會は議會召集期變更、豫算審査期間延長の兩答申案を可決○秋田縣尾去澤鐵中の澤ダム降雨の爲め再度決潰して死傷者四十名を出す。

二十三日 皇太子繼宮明仁親王殿下には御芽出度き第三回の御誕辰を迎へさせ給ふ○義に紡績罷業の悪化により居留民保護のため青島に上陸せる我が陸戰隊は治安平靜に歸した爲め撤收○第七十議會を前に民政、政友兩會とも議員總會を開催。

二十四日 第七十議會召集され新議事堂に於て兩院夫々成立○日露通商交渉妥協成立○滿洲國國境地帶法制定公布○瑞西政府伊太利のエチオピア帝國併合を承認。白耳義も事實上承認を爲し領事館設置を伊政府に通告。

二十五日 大正天皇十年式年祭は宮中皇靈殿、多摩陵で嚴かに行はせらる○蔣介石氏は宋夫人、宋子文、ドナルド顧問と共に西安を飛行機にて出發洛陽に生還した。

二十六日 第七十通常議會開院式は 天皇陛下御親臨の下に貴族院に於て行はせられる○對濠洲通商擁護法發効令廢止を議する關稅調查委員會は首相官邸に開かれ昭和十一年勅令第二百二十四號廢止の幹事會案を可決○南京歸來の蔣介石氏は行政院會議及び軍事委員會を召集し張學良の處罰並に舊東北軍の處置に就き協議。

二十七日 外務省では日露通商交渉が正常に復したので通告文要領並に外務當局談を發表○伊豆新島に激震襲來し死傷五十三名、倒半壊家屋三百七十戸、被害額七十六萬圓。

二十八日 樞密院本會議は日露現行漁業條約の効力一ヶ年延長に關する暫定協定を原案通り可決○久原房之助氏が二・二六事件當時の犯人龜川哲也を匿まつた犯人藏匿事件は東京地方検事局で起訴と決定○駐ソ重光大使・ストモニアコフ露國外務次長との間に現行漁業條約一ヶ年延長に關する議定書に調印完了。

二十九日 地方行政機構改革に關する第八次五相會議は東京都制案に就き検討を行つた○蔣介石氏は西安事變に對する責任を負ひ國民政府に辭表提出。

三十日 須磨南京總領事、高亞細亞司長兩氏會談の結果、成都、北海兩事件は支那側の陳謝、責任者處罰並に引責、賠償金十二萬元を支拂ふ件の正式文書交換を了す。

三十一日 華府・倫敦兩條約愈々消滅○張學良處罰に關する軍法會議は南京軍事委員會大禮堂で李烈鈞氏裁判長となつて開會、叛亂罪として禁錮十年に處するとの判決言渡しありたり。

【昭和十二年一月】

一日 米國海軍長官スワソン氏は年頭の辭に於て一九三七年に於ける我が海軍の主として目標とする所は如何なる敵國も濫りに挑戦し得べからざるやう國防の第一線を充實するにありと無條約時代の第一聲を發す。

二日 英、伊地中海協定成立し羅馬に於て伊外相チアノ伯と駐伊英大使ドラモンド氏との間に調印を了す。

三日 張學良氏が南京に去つた後の西安殘留部隊は張氏の中央屈服を不満とし漸次不穩の形勢濃厚化する。

四日 政治の御儀、宮中東一ノ間に於て嚴行あらせらる○楊虎城昂然と一路抗日に邁進すと言明○國民政府は張學良特赦の件を發表○英國政府は自國商船に對し不法發砲せる事實に關し西班牙反政府軍側に強硬抗議、同時に驅逐艦派遣。

五日 新年御宴、天皇陛下豊明殿に出御、文武官各國大使等八百餘名を召され優渥なる勅語を賜ふ○外務省では廣田、カヲハン協定による安定漁區も先の日露漁業條約同様一ヶ年效力の延長をウラサオの極東漁業廳と折衝し全部手續終了○支

那國民政府行政院會議で楊虎城の西安綏靖主任、干學忠の甘肅省政府主席を留任と決定。

六日 島田農相は京都に於て義務教育年限延長案が今議會の重大問題となる懼れなしとせずと言明○支那國民政府は西北剿匪司令部の廢止を發表○シリアの紛争擴大し土耳其軍國境に集中し佛・土兩國關係悪化。

七日 大藏省では圓の先行きを憂慮し爲替の安定を圖り兼ねて現在の爲替水準を保持する爲め外國爲替管理法に基く省令を制定實施し外國爲替管理の強化を圖ることとなつた○オリソヒツク東京大會組織委員會は内務、逓信、大藏、海軍の五省次官を組織委員に推薦○義勇兵の西班牙入國禁止提案に對する獨、伊兩國は夫々英佛大使宛回答さる。

八日 陸軍始觀兵式は長くも 大元帥陛下の御親臨を仰ぎ十七年振りで宮城外苑二重橋前に舉行せらる○第七十議會の再開を控へて政府政黨一齊に對議會策協議に入り政戰氣分漲る○警視總監石田馨氏辭職し後任に廣島縣知事早川三郎氏任命さる○米大統領ルーズヴェルト氏は三萬五千噸新銳戰艦二隻の着工命令を發した。

九日 外交問題に關する政民兩黨の強硬有志代議士懇談會は有田外交の糺彈に就て協議を遂ぐ○楊虎城は自ら陝西省政府主席兼西安警備司令に就任、爲に西安城内の人心不安に陥る。

十日 佛國政府は西班牙領モロッコに於ける獨逸の活躍を重大視し革命政府に重大警告を發し佛の要求に應ぜざれば實力を以てモロッコを占領する旨言明○獨逸ヒトラー總統は駐獨佛大使を引見し西領モロッコ問題に就き何等野心なき旨言明。

十一日 支那國民政府は西安事件を契機として日支再交渉を非公式に延期要求○長野縣を中心に暴動計劃を企てたる秘密結社「農村青年社」の一味三百五十餘名を檢舉せる記事解禁さる。

十二日 馬場、前田、頼母木、平生の四相會議は中央行政機構改革に關する國策統合機關としての總務廳の要綱を決定○樞密院審査會は議院法改正案を議院制度調査會の答申原案通り可決○米大統領ルーズヴェルト氏は特別教書を以て上下兩院に行政機構改革の實現を要請。

十三日 海軍中將小林省三郎氏は芝水交社に政民兩黨首腦部を招待時局に關する意見を交換○蘇聯邦では前年度より三割五

分割増加の國防豫算を決定。

十四日 外交問題に關する民政黨の有志代議士懇談會では各自より種々意見の開陳があつたが結局自重に傾く。政友會幹部會は強硬方針を以て尅大豫算、外交問題に臨む状態、政界頗に險惡の兆を呈す。ナリノ内閣總辭職。

十五日 外交問題の取扱力に關する衆議院各派交渉會開かれ意見交換行はる。宋哲元氏は中央支持の態度を明かにし西安討伐に協力の爲め馮治安氏の三十七師に待機を命じた。佛國下院は全員一致を以て西班牙に義勇軍派遣禁止案を採擇可決。

十六日 鐵道省全局長會議は減俸復活問題に對する省の方針に就き協議。獨逸政府は外國軍艦のキール運河通航の自由を禁止する旨關係各國政府に對し通牒。

十七日 民政黨では生産力無視の尅大豫算に對し徹底的糾明を爲す方針。政友會は尅大豫算の編成に對し非難の聲高く國民生活の爲め將又健全なる國防的見地からも國內の消化能力の限度に歲出を削減すべしとの修正論據頭。米國下院海軍委員長ゲインソン氏は上院海軍委員長ウォルシュ氏の協力を得てニカラガ運河開鑿案を今議會に上程することになつた。

十八日 臨時閣議は議會休會明け劈頭提出すべき政府提出法律案中義務教育法案、電力管理法案、増稅關係法案外三十二件を正式決定。獨逸海軍練習艦エムデン號横濱入港。

十九日 議會再開を控へての閣議は休會明け劈頭に於ける廣田首相、有田外相、馬場藏相の演説を附議決定。陸軍省は二・二六事件の外廓關係にある齋藤少將、滿井佐吉中佐並に民間十五名に對し禁錮の判決言渡しありたる旨發表。ソ聯檢事局はラテック、ピヤタコフ、ソコリニコフ等をトロツキズム反政府テロ陰謀團として起訴。

二十日 議會再開を前に民政、政友、社大各黨夫々大會を開き宣言を發表、外交問題或は三十億四千萬圓の尅大豫算に對する再檢討要求の空氣濃厚となり之が推移注目さる。米大統領ルーズヴェルト氏再選就任宣誓式舉行さる。ゲリーソン獨逸特使とムソリーニ伊首相、チアノ外相のローマ會談の結果對西班牙義勇軍禁止案に就き獨伊兩國共同戰線成立。西班牙大統領バルセロナ退去。

二十一日 第七十議會は新議事堂に再開され廣田首相は七大政策を遂行し國運躍進

に萬難を排除立憲政治を確守せんとの施政演説あり。尙衆議院本會議に於ける質問第二陣政友濱田國松氏の痛烈なる軍部攻撃演説に對し寺内陸相は軍人に對し聊か侮蔑さるゝやうの感致す所の言葉ありとの反響あり、俄然軍部對政黨正面衝突す。政府は本會議散會後臨時緊急閣議の結果二日間の停會を奏請。

二十二日 政府は首相官邸に臨時緊急閣議を開き遂に斷乎解散の方針を決定し政黨の出方を注視、小川商相は閣議後町田民政黨總裁前田鐵相を訪問し議會解散により軍民對立を誘致するが如き事態は極力回避すべきであるとして永野海相を私邸に訪問重要會談を遂ぐ。永野海相は政・民兩黨總裁を訪問、時局打開策につき懇談。緊急閣議に先立ち永野海相、寺内陸相會見、難局打開につき海軍側の所信を披瀝、陸軍の協力を要望せるも寺内陸相は陸軍の決意を述べ、依然強硬方針を堅持。

二十三日 停會満了の日を控へ閣内の對立意見益々深刻となり遂に最後の態度決定の爲め重大閣議を開き總辭職を執行する事に一決辭表捧呈。

二十四日 湯淺内府は興津へ出發に當り先

づ平沼樞相を訪問、重要會談を遂げ、後西園寺公を興津坐漁莊に訪問、後繼首相に就て畏き邊りより御下問を拜し慎重熟慮の上陸軍大將宇垣一成氏を奏薦の旨奉答。日米綿業協定正式調印了る。

二十五日 宮中より御召の電話を拜した宇垣大將は伊豆長岡より東上午前一時參内後繼内閣組織の天命を拜し暫らくの御猶豫を請ひ奉り退下。陸軍首腦部は宇垣内閣の成立は肅軍の達成と部内の統制上絶對反對に意見一致。貴衆兩院休會決議、後繼内閣成立迄。

二十六日 杉山教育總監は陸軍首腦部會議の結果に基き宇垣大將を訪問部内の強硬情勢を詳述組閣の斷念を遂遁。陸軍三長官會議は陸相の入閣拒絶を決定、寺内陸相は組閣本部に宇垣大將を訪問し右の旨正式に回答。宇垣大將は陸軍の入閣拒絶回答を受たる後、尙組閣に努力する旨の談話を發表。建川中將は宇垣大將を訪問軍の決意を傳達し善處方要望。

二十七日 宇垣大將は參内、内大臣府に於て湯淺内府と會見、組閣經過を詳細報告。梅津次官は宇垣大將反對の陸軍の態度に就ての談話發表。

二十八日 流産に直面せる組閣本部では宇

垣大將談として最後の御奉公として何等かの局面打開方途に就き苦心して居る旨の決意を表明。

二十九日 組閣の天命を拜してより五日間に亘り組閣工作に努力を續けしも萬策盡きて竟に宇垣大將は天命を拜辭。宇垣大將は大命拜辭と共に陸軍大將を辭する決意を固め辭表提出。湯淺内府は興津に西園寺公を訪問、後繼首相御下問の聖旨を傳達。後繼首相に關し西園寺公は樞密院議長平沼驥一郎男を奏薦、若し大命拜受の意なき場合は林銑十郎大將を奏薦の旨湯淺内府より奉答。後繼内閣組織の天命は平沼男の拜辭により林銑十郎大將に降下。

三十日 組閣の天命を拜した林大將はその第一着手として梅津次官を自邸に招き陸軍の情勢を聴取。林大將の組閣本部では十河信二氏談の形式を以て内外重大なる時難を克服し舊套を脱し清新明朗なる内閣を組織すべく閣僚の銜衡に着手の旨發表。ヒトラノ總統は獨逸ナチス政權樹立四周年記念日に際しゲエルサイエ條約の終焉を説き日獨協定の意義、植民地の要求等を強調。

三十一日 林大將は陸相官邸に寺内陸相を

一月

訪問、後任陸相推薦方を懇請したるに對し寺内陸相は教育總監部本部長中村孝太郎中將を推し、林大將は諾否を留保して辭去。林大將は海相の銜衡に就て永野海相に推薦方を依頼し海軍一任に方針決定。○比律賓大統領ケソン氏入京。

一日 林大將は入閣交渉に先立ち國體明徴の徹底、外交方針の確立、國防充實と産業振興の併行、憲法の精神並に條章に恪循したる政治、等の重大政綱を提示。陸軍では寺内陸相、杉山教育總監、梅津次官參集組閣本部と折衝に就て協議の結果中村孝太郎中將に陸相就任方を遂遁。○文相兼拓相として入閣交渉を受けた民政永井柳太郎氏及商相兼鐵相としての政友中島知久平氏は孰れも離黨の條件に對し入閣を拒絶。

二日 林内閣成立。

三日 政府は對議會策を決定すべき閣議を開き十日迄休會を要求する事に決す、貴族院は之を諒とせしも衆議院側は各派交渉會の結果休會要求を拒絶に決定。○支那西安に又々叛亂起り王以哲射殺さる。

四日 四日より十日迄一週間議會停會の詔書公布さる。○大藏省は前内閣の立案にか

る税制改革案を一先づ白紙に還元し増
税新税の創設を考究する事に決定○支那
行政院副院長孔祥熙氏は支那時局に對し
日本政府の同情的自重ありたき旨の要請
を寄す。

五日 支那駐屯軍司令官田代中将は冀察政
權宋哲元氏と會見、三中全会に對する態
度に就き懇談○日本經濟聯盟常任委員會
は對英、米、獨へ經濟使節派遣を正式に
決定。

六日 獨政府は植民地要求に就ての原則的
承認を求むる爲め先づ英國に交渉の表明
を非公式に爲し英政界に波瀾起る。

八日 林首相聲明の形式を以て國體明徴、
獨特の立憲政治へ、外交一元、軍備充實、
産業統制等五項目に亘り中外に聲明○
結城藏相池田成彬氏を自邸に訪問、日銀
總裁就任方を懇話。

九日 中村陸相病氣辭任の爲め後任に杉山
元大將と決定、教育總監後任には寺内大
將と決定○池田成彬氏日銀總裁に就任決
定○税制修正に伴ふ地方財政調整交付金
一億五千萬圓を七千萬圓に減額、戸數割
も幾分整理することに方針決定。
十日 專任丞相に見玉秀雄伯親任さる○明
年度豫算に二億六千萬圓の差額を加へ歳

出二十七億臺に止むべき修正大綱を決定
○豫算案其他議會準備十日迄に未完了と
見て政府は十一日より更に四日間停會を
奏請するに決定。

十一日 科學、藝術等文化創造を御獎勵遊
ばさる思召を以て紀元の佳節を卜し文化
勳章令を公布さる○政友會首腦部聯合會
議は鈴木總裁の引退を正式承認。

十二日 政府は結城藏相の修正豫算案豫算
總額二十七億六千九百四十萬圓、並に修
正増税案の大綱を閣議に於て決定。
十三日 關稅調查會は鋼材の輸入税二ヶ年
間免除に關する件を可決。

十四日 鈴木總裁の病氣問題に對し政友會
緊急顧問會は協議の結果その引退實現を
圖ることが黨の急務なりとの事に意見一
致。

十五日 停會明けの第七十議會再開され、
林首相兼外相の演説後、結城藏相の財政
演説あり、政府は衆議院に臨時租稅増徴
法案を提出○鈴木政友會總裁引退表明○
西班牙内亂不干渉委員會は義勇兵の入國
禁止、武器禁輸の爲めの海岸封鎖實行の
英佛獨露伊五國勸告案を決定。
十六日 衆議院本會議で政友會議長吉氏は
痛烈に軍人の政治干與を論難○英國政府

は總額十五億磅五ヶ年計畫の海陸空各軍
に亘る大擴張案を發表。

十七日 衆議院本會議に於て尾崎行雄氏軍
攻撃の演説を爲し議場少しく緊張。

十八日 政府は増税案臨時租稅増徴法案等
五法案を衆議院に提出○結城藏相は衆議
院本會議で私の在任中は我が財政經濟の
將來に就て何等不安なきを期する考へな
りと言明。

十九日 衆議院本會議に上程された増税案
は各派代表の質疑を了へ特別委員附託と
なる○一月二十一日の衆議院本會議で爲
した政友會演田國松氏の演説内容に關し
提出したる釋明的文書は富田議長より陸
軍當局に提示したるに對し陸軍側は當時
の言説を問題とする意思なき旨議長に回
答。

二十日 カナダ政府は平時未曾有の三千五
百萬ドル國防豫算を議會に提出下院通
過。

二十一日 支那三中全会は今後の國民政府
の對外政策は冀東、冀察の北支主權障害
の除去を日支關係調整の端緒なりとし、
對内策として赤禍根絶を期すとの宣言を
發表。
二十二日 杉山陸相は貴族院本會議に於て

菅原通敬氏の質問に對しソ聯の攻勢に備
ふる軍備の擴充は極めて緊要なりと國際
情勢の逼迫を説示○獨外相ノイラート男
は訪埃ウインに於てシユシニツク首相
と會談。

二十三日 第十二回オリソピツク組織委員
會は主競技場を神宮外苑とする事を可決
○政府は閣議で重要産業統制法の朝鮮施
行の件を正式決定。

二十四日 衆議院關稅委員會に於て伍堂商
相は鐵鋼國策に日滿一元化の必要なる旨
答辯。

二十五日 政府は明年度豫算修正案豫算總
額二十八億一千五百三十萬圓を衆議院豫
算總會に提出○鈴木總裁引退に關し政友
會臨時緊急總務會は總裁代行委員制を設
け委員三名を公選する事に決定。

二十六日 政友會總務顧問聯合會議は總裁
代行機關を公選によらずその趣旨を達す
る方法を見出し今月中に最後の決定を爲
す事に一決。

二十七日 地方交附金増額問題に就て永井
民政、安藤政友兩黨幹事長は再會談を爲
し四千五百萬圓の増額申合。
二十八日 政友會總裁代行機關設置決定の
議員總會は代行委員數、人選を鈴木總裁

に一任に決定、同總裁は鳩山、前田、島
田、中島四氏を指名。

三月

一日 滿洲國帝位繼承法公布、建國五周年
記念日に當り全文十ヶ條よりなる帝位繼
承法發布、友邦の國體愈々鞏固を加ふ○
日通商協定は米澤總領事とヒルマ代表
クレイグリー財務長官とにより假調印が
行はれた○地方財政交附金増額問題に關
する第一回正式懇談會に於いて四千五百
萬圓増額の政黨側要求に對し政府熟慮回
答を約した○衆議院に政府農地法案提出
○新任駐日フランス大使モール・アンリ
氏着任。

二日 英國皇帝陛下戴冠式觀禮式に軍艦足
柄派遣する旨海軍省より發表○米國海軍
豫算案下院に提出さる、總額五億二千六
百五十五萬ドル○外相就任の交渉を受け
た元駐獨大使小幡西吉氏正式に就任を辭
退した○政府は電力國家管理法案、義務
教育年限延長案を不提出に決定○新任の
裁判長林仙之太將により植村中將にかゝ
る瀆職事件の陸軍高等軍法會議第一回公
判開廷。
三日 駐佛大使佐藤尙武氏外相就任を受諾
直ちに親任式舉行さる○地方財政交附金

増額に關する政府政黨側懇談會は三千萬
圓増額に意見が一致した○國民政府外交
部長に王寵惠氏就任發表さる○英海相下
院に於いて一九三七年海軍豫算案總額
一億五百六十五萬五千ポンドを發表した。

四日 英國政府一九三七年海軍豫算案總
額八千二百萬ポンドを發表○林首相地方
財政交附金三千萬圓増額を言明、政民兩
黨では増額一億圓要求の申合せを行つた
○爲替水準維持のため金約五千萬圓を米
國に現送することに閣議決定した。

五日 豫算案に對し民政黨無修正承認に應
度決定○佛政府は財政難打開のため金の
自由通商を許しフラン貨再切下げ斷行を
議決す○英航空省一九三七年航空豫算
案八千二百五十萬ポンドを發表。

六日 衆議院豫算總會は豫算案に對し政民
昭和共同の附帶決議を附して無修正可決
○駐日支那大使許世英氏歸國の途につ
く。

八日 佐藤外相は貴族院に於て外交方針を
率直に闡明し日支交渉は互惠平等の立場
より更めて交渉してみたいと演説した○
豫算案衆議院通過○植村中將に對し懲役
三年追懲金四萬五千七十圓の求刑があつ
た○國民政府外交部長王寵惠氏は平等互

憲、和平に努力せんと對外方針の原則を
闡明○國際聯盟資源特別委員會に於いて
我が首藤代表は原料獲得の平等化を力説
した。

九日 豫算案貴族院本會議に上程さる○衆
議院に國民健康保險法案提出さる○ナリ
ムヒツク東京大會第十二次組織委員會は
久保田敬一男を事務局長に推薦した○普
通郵便貯金利率を三分より二分七厘六毛
に据置貯金を三分二厘四毛より三分三毛
六糸に各引下げ四月一日より實施に決定
○駐ソ大使館付杉原通譯官に對しソ聯政
府査證交付を拒絶す。

十日 衆議院に農村負債整理資金特別融通
及び損失補償法案提出さる○佛國飛行家
ヒサグイ・コルネー兩氏はパリ東京間飛
行記録樹立をめざしパリ出發壯途に上つ
た。

十一日 佐藤外相は衆議院本會議に於いて
「日本が危機に直面するものではないも日本
自體の考によつて決まるもので日本の考
へ方一つでその危機は避け得られる」と
所信を述べた○政府は議院制度調査會の
決議を尊重し次期議會より十一月召集實
現に努力する旨言明した○植村中將夫人
は瀆職事件共同正犯として起訴裁判史上

二十一日 ムツソリーニ伊首相は西班牙反
政府軍に参加せる伊義勇兵の慘敗の報に
痛く失望し、豫定を變更して急遽歸國し
た。

二十二日 貴族院本會議は昭和十一年度追
加豫算を可決した○總額五億二千二百八
十四萬七千八百八糸に及ぶ海軍豫算案米
國上院を通過、軍縮會議召集案は否決さ
れた○英國陸海空軍連絡大演習の結果に
つき、防禦軍は攻撃軍に對し陣地確保の
能力なかりきと發表した。

二十三日 佐藤外相は衆議院豫算總會の席
上日英同盟復活の意志なきことを闡明○
郵便料値上に關する郵便法中改正案は貴
族院を通過成立す○伊太利フアシスト黨
結成十八周年記念祭に當りムツソリーニ首
相は反フアシスト論難に斷じて屈せずと
揚言し對英強硬態度を表示。

二十四日 樞密院定例本會議は 天皇陛下
の親臨を仰ぎ英米の永代借地權制度解消
に關する御諮詢案を上程原案可決す、尙
同席上佐藤外相は昭和十七年四月迄に全
部解消する旨言明す○難航の國民健康保
險案は衆議院委員會を修正通過○政民兩
黨は小會派全體の猛反對を押し切つて選舉
法改正案を上程一氣に可決○外務省は日

未曾有の處断として注目さる。

十二日 佐藤外相は貴族院で昨日の衆議院
本會議においてなしたる外交演説中に危
機の意味を釋明林首相の言と背馳せずと
答辯○兒玉謙次氏を團長とする訪支經濟
使節團一行十三名は長崎丸で神戸出發○
三月一日現在の米穀在高四千六百八十七
萬二千五百八十三石(前年より七分増)
と農林省發表す○英國駐日大使に外務次
官補サ・ロバート・クレイギ氏任命
さる。

十三日 佐藤外相の衆議院での釋明は小會
派の形勢險惡化により中止した○新舊海
員組合合同は手打式を終了した○西班牙
國境並に海上監視案實施さる。

十四日 衆議院は五箇條御誓文發後七十周
年を記念し各派共同提案の聖旨格條に關
する決議案を満場一致で決定した。

十五日 大橋書記官長衆議院各派を歴訪し
増稅諸案を十七日迄に議了する様懇請し
た○香港に於ける英國陸海空軍特別國防
連絡演習施行せらる○デンマーク、クリ
スチヤン十世陛下は伯林でヒトラー獨總
統と懇談遊ばされた。

十六日 郵便料値上の郵便法中改正案衆議
院を通過○東京市會議員選舉行はれ、棄

編通商協定の内容を當局談をもつて發表
○英外相イーアン氏は下院に於て佐藤外
相の日英兩國間の親善關係強調の演説に
呼應し日英親善強化を力説賛意を表明○
英佛兩國は伊太利兵の西班牙上陸問題に
關し協議し強制的取締りに意見一致。

二十五日 帝國議會會期は二十六日より三
十一日迄六日間延長された○貴族院増稅
案委員會は衆議員修正原案を全會一致可
決○日英日米間の永代借地制度解消に關
する一切の手續完了し公文書を交換○テ
杯戦出場の日代表山岸、西村、中野三
選手はアメリカに向つて出發した○伊國
外相チアノ伯はユーゴスラヴィア、ペ
ルグランドを訪問、ユ國首相ストヤチ
ノヴィツチ氏と協議しアドリヤ海恒久平
和を圖るべく新政治協定を締結調印し
た。

二十六日 農地法案に對し政民兩黨對立す
民政黨は繼續委員會設置を提案、政友會
は無修正可決の方針を主張して反對す○
訪支經濟使節團一行歸國の途に就く○休
職造兵廠勅任技師西山文雄にかゝる收賄
事件第一回陸軍高等軍法會議公判始る。

二十七日 佐藤外相は英大使を招致し新ロ
ンドン海軍條約第四條による主力艦備砲

權率三割六分六厘○靜岡縣持越金山大澤
坑で地下坑道に火災起り坑夫五十八名窒
死す○訪支經濟使節團を蔣介石氏茶話會
に招待し、論語より引用して「己の欲せ
ざる所人に施す勿れ」と挨拶を試む○米
國作戦部長主力艦の威力を維持するため
代艦建造すべしと方針を闡明す。

十七日 東京市會開票終る、新分野次の如
し、民政六四、政友五二、社大二二、國
同四、日無四、市革九、中立五、合計一
六〇

十八日 衆議員本會議は増稅各案を政民の
三ヶ條の修正、六項目の附帶決議を附し
て可決した○貴族院本會議は三十年以上
勤続者十三名に對し院議を以て表彰す。

十九日 増稅各案貴族院に上程さる○ケッ
ン大統領比島獨立線上を聲明す、マニラ
方面の米系企業は株式動搖す。

二十日 林首相臨時閣議の席上新政策につ
いて協議し大綱を決したいと提言した○
英帝戴冠式觀艦式に參列の軍艦足柄は觀
艦式終了後日獨親善交誼のためキールに
寄港ドイツを公式訪問することに決定し
た○オーストリー大統領ミク拉斯氏は親
獨派のシュチュエルメル保安相を罷免す、
獨塊の確執深刻。

口徑を十四インチ制限に参加強迫に對し
拒否する旨通過○大橋内閣書記官長は院
内に岡田副議長、永井民政、安藤政友幹事
長と會見議事促進方を懇請○増稅各案貴
族院本會議は無事通過成立す○テリ
に於ける米澤、ダグ兩代表の第十七次會談
によつて意見全く一致し日印協定成立共
同コムニニク發表せらる、交渉技に九
ヶ月。

二十九日 昭和十二年度本豫算案並に追加
豫算案は共に貴族院で可決され、二十八
億一千三百九十三萬七千圓の總豫算及び
五千八百九十九萬七千圓の追加豫算は原案
通り貴衆兩院を通過成立した○衆議院農
地法委員會は政民共同修正通り多數を以
て可決した○ソヴェト聯邦中央執行委員
會並に人民委員會は一九三七年の國家
經濟計畫を決定す。

三十日 政府は定例閣議で貴衆兩院の情報
を持ち寄り會期再延長の問題につき重要
協議を行つた。

三十一日 政府は緊急閣議の結果、政黨が
議會の末期に至つて徒らに議事遷延策に
出で審議を停滯せしむるは誠意を認むる
能はずとなし議會政治廓清を標榜し衆議
院解散に決定○衆議院解散の詔書下る○

總選舉は四月三十日と決まる○政民兩黨政局の重大化に驚くと共に反政府の態度を明らかにす。

【四月】

一日 林首相政府委員慰安會席上に於て解散安當を強調○今回の總選舉有権者總數を一千四百六十一萬八千二百九十八人と内務省發表す。

二日 内務省警保局は選舉法運用に關し取締非常議とならぬ様通牒を發した○神風號歐亞連絡大飛行の壯途に上つたが悪天候のため九州南沖より引返す。

三日 滿洲國皇弟溥儀氏と嵯峨公令孫浩姫の御結婚式は本庄大將夫妻の媒酌で九段軍人會館で行はれた○英帝戴冠式觀艦式に帝國海軍代表として參列の巡洋艦足柄は横須賀を出發した。

四日 ソ聯元帥・ヘー・ウー長官ヤーゴダ氏はトロツキー派反革命事件に關聯し司法檢察機關に引渡された。

五日 全國地方長官會議開催さる、林首相は議會刷新の第一歩は政黨の自覺とし至公至平明瞭なる選舉の行はれることを望むと訓示し、河原田内相は人権蹂躪の聲に徒らに逡巡することなく非違は徹底的に彈壓すべしと強調した○西下中の結城

藏相は政黨の態度如何によつては再解散も當然考慮すべきことと志を同する新人による新黨組織を希望すると時局談を試む○民政黨聯合大會上野に開催され、町田總裁は今次の解散を以て非立憲的暴舉と斷じ現内閣の存在否認の決意を表明○ひとのみ教團に不敬事件發覺し幹事十數名檢舉さる、内務省は治安警察法により近く結社禁止を命ずることに方針決定す。

六日 林首相は平沼樞密院議長を訪問し政界の情勢に關し重要會談を遂ぐ○軍司令官師團長會議に於て杉山陸相は國家の綜合的能力の飛躍的向上を切望す○全國警察部長會議席上に於て河原田内相は選舉取締につき惡質犯滅に全力を注ぐ様力説○結城藏相は信託協會定期總會の席上産業金融の疏通が金融界緊急の任務であると説く○神風號は午前二時十二分四秒舉國の聲援の下に世界記録を目ざして立川飛行場より再舉壯途に上つた。

七日 國際經濟會議に對し招請あれば欣然之に参加せんと外務省我が態度を表明す。

八日 林首相は近衛公を訪れ政府の對政局態度を明かにし懇談○訪支經濟使節團長

ユレニエフ氏は歸任の途中清津で日ソ關係の調整は日本の出方一つで打開可能であると語つた。

十二日 日印會議は米澤大將間に假調印を行ひ協定成立○米國、大審院はワグナー労働法は憲法違反に非ずといふ判決を下した○稅務監督局長會議の席上結城藏相は負擔の均衡を強調し苛斂誅求を戒むと訓示○文部省は神佛道教會所規則によりひとのみ教團本部取消を命ずることに決定。

十三日 林首相は日比谷公會堂で開催された選舉肅正中央聯盟主催の講演會で滅私奉公眞に國家的見識ある人々を選出されんことを希望すと理想選舉の第一聲を放つ○政友會は非立憲解散糾弾林内閣打倒の宣言を發表。

十四日 樞密院定例本會議は御諮詢案鐵鋼輸入關稅免除に關する緊急勅令案を上程金子堅太郎伯の反對あるも多數を以て可決○昨年十月基隆に於て英國水兵との間に惹起された事件は森岡・アーチャー領事間に公文交換され解決を見たる旨發表された○伍堂商相は鐵鋼需給問題に關し消費節約につき考慮し日滿一體の見地から國策を樹立したいと述べた○社會大衆

兒玉謙次氏は佐藤外相を訪問し、日支國交調整並に經濟提携促進につき重要建言す。

九日 國民政府は日支國交調整工作のため前外交部長張群氏を日本に特派すること決定○日蘭通商交渉進み假調印完了遂に成立實に交渉開始以來四年目である○貯蓄銀行協會第七回總會で結城藏相は不當投資を避けよと警告した。

十日 林内閣は臨時閣議に於て次の如き具體的政策を決定した、文教の刷新、政治の刷新行政の改善、舉國一致の外交政策の具體化軍備の充實國家總動員の準備を進むること、社會政策の徹底國民生活の安定産業の綜合的振興國力の伸張に務むること、農山漁村の更生、稅制の整理物價對策及び國際收支の改善を期すること

○林首相は記者團に對し積極的に新黨樹立の意志なしと言明○兒玉選相は西下の車中で新黨組織も選舉後でなければ起つて来ないだらうと語つた○神風號は午前零時三十分遂にロンドンに到着朝業成る總所要時間實に九十四時間十七分五十六秒。

十一日 桑島オランダ公使は一ヶ月餘の蘭印諸島の視察を終へ歸朝○駐日ソ聯大使

黨關東大會は難局打開我黨の他になしと宣言○松江市に大火、全燒家屋四百戸罹災民二千餘名。

十五日 駐日ソ聯大使ユレニエフ氏は佐藤外相を訪問し歸任の挨拶を兼ね諸懸案につき意見を交換した○鐵鋼價格統制の一方法として資源調査法の規定により鐵鋼調査に關する商工省令を定め公布即日實施○民政黨選舉委員會林内閣否認の宣言發表○植村中將の遺職事件に對する判決は懲役二年六月追徴金四萬三千七十圓○東京オリムピック招致の恩人ガーランド氏夫妻來朝○ヘレン・ケラー女史來朝○文部省はひとのみ教團本部に對し閉鎖命令を下した。

十六日 民政黨關東大會は日比谷に開かれ打倒林内閣の氣勢上る○英國駐支代表カークパトリック氏を中心とし英國の對支活動活潑化する。

十七日 川越駐支大使は歸朝を前に汪兆銘氏と會見し對日動向を打診した○冀東自治政府長官殷汝耕氏は冀東政府解消を行はんとする南京政府の主張に對し斷じて應ぜずと聲明○訪日チリ商業使節團と我が貿易業者との日智通商會議第一回會議行はる。

十九日 政府は閣議で國策統合國策具現の第一歩として企劃廳を設置することに決定、總裁は結城藏相を兼任せしむること決定○農林省荷見米穀課長は米價昂騰のため最高米價引上説あるに對し引上ぐることを絕對になしと言明○川越駐支大使は王外交部長を訪問日支國交調整につき意見を交換○英國前労働黨首領ランズベリー氏はヒトラー總統と前後二時間半に亘り國際政局につき重要會談を遂げた○英佛獨伊の西班牙海岸封鎖は迂餘曲折の後漸く受持ち區域を決し實施された。

二十日 緊迫せる日ソ國交調整對支政策を練るため佐藤外相は杉山陸相米内海相と隔意なき意見の交換を行つた○全國手形交換所大會の席上結城藏相は現内閣の財政經濟政策の全貌を率直に闡明し財界の援助を要請した○米國大統領ルーズベルト氏は議會への教書に於て増稅と緊縮政策を強調した。

二十一日 佐藤外相は歐米訪問經濟使節團送別の辭に於て我が通商政策は飽くまで自由貿易主義を基調として邁進する方針であると強調○サンドラー瑞典ムンク丁抹コト諾威の三外相はヘルキンスに乗込みハクセル芬蘭外相と會談、夜ラサオ

を以て協議の結果は北歐に於て強固なるバルチック諸邦の政治的地歩を確保せる旨發表した○ワシントン輸出銀行頭取ヒリアソン氏は上海上陸對支經濟提携に積極的工作を開始。

二十一日 新駐佛大使に杉村陽太郎駐伊大使起用に決す○宋哲元氏は北支開發に就き政治問題を離れて經濟問題のみの解決に同意し難しとする南京政府の態度に反對し、國家並に人民の利益を害せざる限り敢て之に頼らない旨決意を言明した○中國共產軍と中央政府との提携成立し、西安より朱德毛澤東の名を以て愈々抗日に入ると放送○ヴェニスに於て埃國首相シユジュニツク博士と伊太利首相ムソリニ氏は會見し中歐問題に關し懇談、獨政府の參加の下にダニユニア政局の全面的組織を企圖することに意見一致した。

に入る○英佛白三國代表の意見一致し大戦後二十年にして自耳義中立に復歸した○近衛公は西下の車中談に於て總選舉の結果が政府に不利であつても直ちに退却したのでは意味をなさないから何か打つ手があるのではないかと思ふ、新黨問題についてはこの内閣の手では大したもの出来さうもないと語つた。

ルト氏は一九三七、三八年度海軍豫算案を裁可署名。

二十九日 米國の恒久中立法案上下兩院を通過した○ソ聯人民委員會は第三次五ヶ年計畫を委員會を以て公布した。

【五月】

一日 川越駐支大使歸朝○北海道美唄町で三百四十戸焼失した○滿洲國政府は日滿經濟確立のために重要産業統制法を公布した○テ杯戦日米グリーン・ダブルスで山岸、中野組は敗れ失格○メーデーは總選舉と重なつたため行はれず全國靜謐○ソ聯メーデーに於て國防人民委員ウオロシロフ元帥は赤軍及労働大衆を前にフアシムは世界的殺戮の組織者なりと演説したドイツヒトラー總統はオリムピック・スタジアム參集の青年に對しソヴェト聯邦には眞の國民のための指導者なしと辛辣に應酬した。

二日 總選舉開票、民政一七九、政友一七

五、社大三六、昭和一八、國同一一、東方一一、諸派七、中立二九、合計四六六○民政黨は國民の總意既に明瞭となつた以上政府は立憲政治を尊重し速かに桂冠すべしと聲明○川越大使佐藤外相に對し對支策を進言。

三日 總選舉後の政局に關し林首相は政府は時局に對處し緊要なる諸般の政策の遂行を期せんとするものである國民諸君に於ても舉國一致協力せられんことを望むと聲明○重大聲明後記者團と會見、政黨の反政府態度に屈せず必要な政策を逐次具體化し特別議會に臨むと言明○民政、社大は政府の聲明に對し各々強硬に反駁を加ふ○訪伊のノイラト獨外相はムソリニ伊首相と中歐諸國連繫問題につき凝議した。

四日 東鐵従業員三割増俸を提出拒絶にあひ千餘の委員籠城す○宮城縣志津川町で三百四十戸焼く○上海香上銀行は當座預金の利率二分を一分に引下ぐ。

五日 臨時物價對策委員會規程閣議で決定會長林總理、副會長結城大藏、山崎農林、伍堂商工の三相○駐日ソ聯大使ユレネフ氏佐藤外相を訪問國交調整問題につき意見交換○社大黨物價問題に關し國民生

活安定に緊急措置を望む要請書を政府に提出○東鐵従業員増俸争議は喜安次官の説得により解散○青年航空團成立す團長は井上幾太郎大將。

六日 伍堂商相は西下車中で議會で不信任案が出ても政府は桂冠の必要なし再解散あるのみと語つた○瀆職事件の西山技師に對し懲役二年三月追徴金八千五百圓の判決あり○神奈川縣松田町を中心とする保險外交員町村有力者、消防等の保險詐欺放火團事件の記事解禁○空の巨船ヒンデンブルグ號は大西洋横斷レークハースト飛行場に着陸せんとした剎那爆破し搭乗者中四十一名惨死。

七日 新任駐米支那大使王正廷氏赴任の途次佐藤外相杉山陸相と日支提携問題につき懇談○滿洲國內閣改造○民政代議士會の席上町田總裁現内閣彈劾を絶叫す。

八日 滿洲國行政機構改革發表さる、即ち國務總理の一元下に各部門を統合するも七月一日より實施○英國新聞の反伊宣傳に憤激した伊國新聞省は在英記者の引揚命令を發した○ロンドンに開催中の國際砂糖會議で新協定調印を完了○遞信従業員同盟従業員大會は特別手當二割要求に決す。

十日 臨時物價對策委員會の民間側委員十五名正式決定、池田成彬、兒玉謙次、矢野恒太、各務鎌吉、三宅川百太郎、南條金雄、小倉正恒、藤原銀次郎、井坂孝、津田信吾、平生銀三郎、鮎川義介、松本健次郎、大河内正敏、山崎覺次郎○佐藤外相提唱の對支三省會議開かる○軍艦足柄英國ホーツマスに入港。

十一日 農林省は四月末春蠶豫想播立數量を六千六百二十六萬八千三百九十グラム(前年より一分九厘増)と發表○政友會議員總會で鳩山代行委員は民意に背反せる現内閣を彈劾すべしと強調○ソ聯政府は國防人民委員部長トハチエフスキ元帥をヴォルガ軍管區司令に轉出し次長に參謀總長エゴロフ元帥を任命。

十三日 英國皇帝ジョージ六世陛下の戴冠式はロンドン・ウェストミンスター寺院で嚴肅に舉行遊ばされ、御盛典後特にメッセーヂを御放送遊ばされた○農林省は昭和十二年五月一日現在内地米穀現在高は總數量三千七百四十萬二千六十一石前年より七分増と發表した○國民同盟代議士會で安達總裁は嚴正なる是非々主義の下に林内閣を監視すべき旨を強調。

十三日 樞密院本會議は企劃廳官制を政府

の修正案通り可決。

十四日 企劃閣開議。日本銀行金買入値段改訂され一グラム三圓七十七錢(現三圓五十錢)一匁十四圓十三錢七厘七毛(現三圓十二錢五厘)となる。小泉民政松野政友兩黨幹事長會見し兩黨提携して林内閣打倒に邁進すべく申合せた。○英本國自治領、印度その他の代表三十餘名出席し對外政策、國防問題協議を目的とする英帝國會議始る。○濠洲ライオレズ首相は太平洋不可侵條約を示唆す。

十五日 東京市長銜衛委員會は宇垣大將を推薦することに決定。○駐日ソ聯大使ユレネフ氏は歸國に當つて、日ソ國交調整問題につきお互に十分な理解の下に討議すれば結局圓滿な解決も至難でないと言つた。○伊太利第三回組合全體會議でムソリニ首相は統制經濟主義を保持し資源強固と對抗せんと説いた。

十六日 兒玉選相林内閣が退却する潮時は過ぎた政黨との決戦あるのみと時局談を試む。

十七日 全國地方長官會議で林首相は國體の眞姿を顯現し革新政策斷行を期する旨の訓示をなし、招待會に於ては政黨の反省を見る迄は退却の意志毛頭なしと所信を述べた。○東京市長就任の交渉を受けた宇垣一成大將は就任を拒絶。○香港港内でランチ爆発しりおでじやれる丸乗組の移民四十三名死亡す。○ソ聯國防人民部直轄下の軍事會議に重要問題の決定權掌握のため條令公布。

十八日 臨時物價對策委員會の自由討議始まる。○民政黨は地方長官會議席上の談話に對し強硬聲明を發す。○美濃部達吉博士狼撃事件の記事解禁。○社會黨首領ネグリ博士の西班牙新内閣成立。

十九日 樞密院本會議では結城藏相より高物價と社會不安對策を聴取す。○林内閣打倒を目標とする兩黨代表委員會會同し倒閣本部設置その他の具體策を決定。

二十日 東京市長就任再交渉を受けた宇垣大將は再び之を拒絶。○英國皇帝戴冠式觀艦式は日本派遣の足柄以下十七ヶ國の參列軍艦を交へホーツマス軍港沖合スピットヘッドに於いて舉行せられた。○ソ聯政府はトロツキー派鐵道破壊間諜團四十四名に對し死刑を執行。

二十一日 望月圭介氏の提案により昭和會突如解黨。○神風號ロンドンより歸還飛行に成功、荒天を衝いて東京着市民の熱狂的歡迎を受けた。

二十二日 凱旋した神風號の飯沼塚越兩勇士は 天皇陛下に拜謁仰付けらる。○建川小林兩中將は林首相を訪問し激勵し再解散と新黨樹立につき進言した。○帝人事件公判で兩角豫審判事を喚問。○佛國飛行家ドレ・ミケレツチ兩氏はパリ出發東京に向つた。○汕頭で支那巡警我が官憲を侮辱す。

二十三日 林首相は時局問題に關し再解散論に對してはその社會人心に及ぼす影響と國務の停滯などを考慮せねばならぬので私を減して考へねばならぬと言つた。○米國の富豪ジョン・ディー・ロツクフェラー翁急逝享年九十八。

二十四日 文教會議の官制と委員正式に決定。○望月圭介氏昭和會解黨の趣旨によつて林首相を訪問し時局の重大性を強調し善處を要望。○國際聯盟第九十七回理事會開く。○ルーズベルト大統領は長文の特別教書を議會に送つて最長労働時間、最低賃銀、幼年労働並に未組織労働の搾取取締りに關する法案の審議を要望した。

二十五日 全國警察部長會議で河原田内相は左右兩思想の對立豫防と勞資協調に關して訓示。○帝大航空研究所試作の長距離機の試験飛行はテスト・パイロット藤田と○杉山陸相は留任に決した。○東京新京間、東京天津間及び東京臺灣間の一貫連絡航空路開かる。

二日 米内海相留任決定。○安井大阪府知事文相就任。○馬場前藏相内相に。○鹽野法相は留任。○永井民政黨幹事長は選相に。○中島政友會黨代行委員は鐵相に。○有馬伯は農相に決定。○内閣書記官長に風見章氏。○法制局長官に瀧正雄氏決まる。○藏相の人選では前正金頭取兒玉謙次氏に交渉したが同氏は固辭、依つて賀屋大藏次官の昇格を内定。○西班牙反政府北軍司令官モラ將軍バスタク戦線で墜落惨死。

三日 平生前文相は商相就任を拒絶。○賀屋氏藏相就任を受諾。○大谷尊山氏拓相就任。○廣田前首相外相就任を受諾し。○最後に吉野前商工次官商相を正式に受諾し、こゝに近衛公は組閣を完了。○前英帝ウインザイ公と前シンブロン夫人との結婚式は南佛の古城カンテで行はれた。

四日 近衛内閣成立晴れの親任式舉行さる。○初閣議の後近衛首相は對立相尅を極力緩和し國際正義に基き平和確立に務めつゝ社會正義に立脚する施設の實施に務める旨施政根本方針を闡明した。○賀屋藏相吉野商相は新内閣の財政經濟政策の大綱

大尉によつて行はれ見事に成功。○支那油頭における領事館巡查に對する支那巡警の暴行侮辱事件に關し日高代理大使は強硬抗議す。

二十六日 萬國博覽會の席上獨經濟相シヤハット博士は獨逸の食糧保證こそ世界不安を除く基であるとし植民地返還を要望した。○キールに入港した軍艦足柄の小林司令官はベルリン訪問ヒトラー總統と會見。○上海を出發した佛ドレ・ミケレツチ機は悪天候に難航を續け遂に高知縣戸原の海岸に不時着兩氏は負傷し機體大破し雄圖空しく挫折す。

二十七日 杉山陸相は歸京車中において政黨がいつまでも時局に對する認識を缺き革新政策に協力しないならば政局は一層不安となるであらう、多數必ずしも正しからずと語つた。

二十八日 政民兩黨の聯合懇談會は林内閣即時總辭職要求の共同聲明を發す。○物價對策委員會は事項別六委員會を設置し具體案作成を決定。○英首相ボールドウィン氏辭表を捧呈。○チェンバレン藏相直ちに新内閣組織。

二十九日 近衛公は關西よりの歸京の車中で林内閣の對政黨對策は既に手遅れとな

【六月】

一日 湯淺内大臣は午前興津に西園寺公を訪問、拜謁に先立ち内府官邸において近衛貴族院議長の意嚮を聴取し、午後五時參内後繼首相として近衛文磨公を奏薦す。○湯淺内府は平沼樞府議長を訪問し時局拾収に關し所信を求めた。○獨逸政府は西班牙不干渉委員會が確實なる保證を與へる迄不干渉委員會に關係せざることを發表した。

二日 米内海相留任決定。○安井大阪府知事文相就任。○馬場前藏相内相に。○鹽野法相は留任。○永井民政黨幹事長は選相に。○中島政友會黨代行委員は鐵相に。○有馬伯は農相に決定。○内閣書記官長に風見章氏。○法制局長官に瀧正雄氏決まる。○藏相の人選では前正金頭取兒玉謙次氏に交渉したが同氏は固辭、依つて賀屋大藏次官の昇格を内定。○西班牙反政府北軍司令官モラ將軍バスタク戦線で墜落惨死。

を明示した、國際收支の均衡を維持することにつき政策の確立を計ること、生産力の擴充、物資の需給の豫測及び調節に關し見透しをつけること○社大黨は近衛内閣は現状維持勢力の合作政權に過ぎず我黨は唯一の反對黨として國家革新と國民生活の安定のため戦はんを聲明發表○ソ聯政府はアムール鐵道建設局首腦及びゲバウ極東幹部二十八名をトロツキ一派に參畫の理由で逮捕銃殺

五日 滿洲國政府は七月一日より實施の行政機構改革に伴ふ組織法の改正並に新官制を公布
 六日 近衛首相は風見書記官長及び瀧法制局長官と新内閣の政綱につき三時間に互り下協議を行つた○風見書記官長は杉山陸相米内海相を歴訪政綱に對する意圖を聽取陸軍は革新策を要望○駐日滿洲國大使謝介石氏歸國
 七日 近衛内閣が今後實行すべき政綱に關しては抽象的聲明を行はず、六月四日の首相談話を基礎に政策を検討樹立する旨申合せた○企業廳總裁は廣田外相起用に決定○蘭印綿業代表ラーベン・ホール氏來朝○政友會革新派山本(佛)宮田氏等は新黨結成を特望の意向を含めた申合せ

を行つた○濠洲首相ライオレズ氏はロンドンに於いて太平洋不可侵條約案の眞意を闡明した
 八日 近衛首相は平沼樞密院議長を訪問し政局に關し懇談○司法官會同の席上鹽野法相は停年々齡引下、人材簡拔につき力説した○帝人事件公判の兩角豫審判事の證人訊問で兩角判事は證人の適格性について論争證言を拒否した○駐英大使吉田茂氏はライオレズ濠洲首相に招かれ同首相より太平洋不可侵條約案の趣旨を聽取した

九日 第七十一特別議會は七月二十三日召集、會期は二週間と決す○國民の衛生保健に關する中央機關の設置案につき閣議の席上近衛首相より提案あり全員一致で社會保健省(假稱)を創設特別議會に提案に決定○ワルソーの國際オリムピック委員總會において冬季大會は札幌と決定、東京大會の開始期日は八月の最後週から十六日間と確定した
 十日 西下中の安井文相は義務教育延長は十分考究した上決定すべきであると語つた○ソ聯政府は前國防人民委員部長トハチエフスキー元帥以下エイテマン、カキール、ウホレワイツチ、フェルドマン、

アトナ、プリマコフ、コルケの八將軍を軍規違反の罪をもつて逮捕し審理開始を發表
 十一日 無條約第一年の本年度海軍大演習を九月から二ヶ月に互り行ふ旨海軍省公表す○賀屋藏相は西下の車中に於いて財政經濟政策の基幹につき積極政策遂行の中にも踏止まる限度を知らねばならぬと抱負を述べた○有馬農相は今日の農村行政は生産力増殖方面と農家本位の經濟との二つに分けられるが農村對策の凡ては農家經濟を土臺としてやらねばならぬと語つた○ソ聯特別軍事裁判はトハチエフスキー元帥等八將軍を軍紀紊亂賣國の罪名の下に即時銃殺

十二日 西下の車中で近衛首相は政務官問題については特別議會前に現行通りで行きたい、新黨問題については政黨更生せば新黨は不要だ、貴族院改革問題については、その方向は廣田内閣時代の調査局案のやうなものになるだらうが自分としてはこれだけは是非やりとげたいと決意を語つた○吉野商相は物資需給の綜合的見透しを確立することが急務であると語つた○中島鐵相は西下出發前に近衛内閣は舉國一致の體制を採つてゐるから組織

リすぞ水だん進歩一に療治と防豫

水香モセア

藥用

面白いほど
ヨクキク
ぬりぐすり
薬價 三十錢・五十錢

あせも
くさ
にきび

眞に「ヨクキク」
高級治淋新薬
「りん病」に「せうかち」に
スグ試みよ!

ネオザロサン

りん病 重症用

全国藥店
にあり

堂進誠貝大元青癸
一通中條九阪大

◎淋病と治療法の小冊子進呈
薬價 二圓、四圓、五圓

著生先有大畑田宿耆の界相觀

誰にも わかる 人相と手相

現代科學の威力も運命の前にはカラいくぢがない、よければよいで、悪ければ悪いで人間は迷ふ、また迷はざるを得ない不思議な不可抗的な力を持つからだ。此の運命を豫知できるのが易占であり、人相、手相である。殊に人相、手相は運命判断としては比較的根據が確かであり、判断が容易である。本書は田畑大有氏が三十餘年の實験を基礎として最も平易に説いたものである。一讀百ちに應用ができる。

誰にも わかる 家相の見方

家相と運命の研究は随分古くから行はれてゐる。家相が運命の進歩を促したことは事實であるがまた運命判断の發達に寄與したことも多い。一體に家相と云つても流派にも分れ中には馬鹿的な説もあるが、本書は著者が三十餘年の經驗を基礎に力めて家相の正法に立脚して意味的に講述したものである。一讀百ちに應用が拓に資せられよ。

頁四十六判六四
錢三錢十價定

頁四十六判六四
錢三錢十價定

發行所 國民新聞社 發行所 國民新聞社

前大審院長・前明治大學總長・法學博士 横田秀雄序・辯護士 鍛冶良作著

婦人法律讀本

一判菊一
錢十八價定
(錢四料送)

現代の女性は法律を知らねばならぬことは云ふまでもないが、さてこんな法律を知らねばならぬかと云ふと自らその立場や周囲の關係を異にしておるからなか／＼六ヶ敷い問題である。著者が多年辯護士として取扱つた多くの女性に關する事件から見ると、女性は社會生活上ごんな事にかゝり合が多いかと云ふ事はつきり判る。本書は即ちこの女性に必要な事とされる法律を判り易く説いたものである。妻たるものも未婚の女性も必ず一讀の要がある。

發行所 國民新聞社 發行所 國民新聞社

活字・印刷機械

各種製造販賣

宋朝活字長體方體
最新の正楷書活字

各號全部完成

名古屋市東區鶴重町

津田三省堂

書風見本定價表
申越次第贈呈

名古屋私書函一二〇號
電話東二一〇九五番
振替名古屋七二〇番

の目的はすでに述べてあると言へると述べてた。

十四日 佛政府はフラン貨危機対策並に赤字財政切掛け策につき蔵相の處置案を可決し資本家團の攻勢に對する方針を確立す○佛國銀行は最近のフラン貨不安に鑑み公定割引歩合を四分から六分に引上げた。

十五日 蔵相商相提案の生産力の擴充、國際收支の適合、物資需給の調査の財政經濟の三原則は閣議に於いて正式承認○吉野商相はラサオ放送を行ひ經濟三原則を闡明し、すべての機構が物資競争のために計畫的に再編成されればならぬと結んだ○固圀三年九ヶ月の河上肇博士出所し「刑餘老殘の此廢軀たゞ自然の衰へに任す」と語つた○英帝國會議終る。

十六日 上京した南朝鮮總督は内鮮一體下に産業協調が必要で更に滿鮮融和に進まねばならないと抱負を語つた○有馬農相は中央農林協議會で農林行政は物を對象とする行政から人を對象とする行政に推し及ぼすべきであるとの所信を披瀝○文部省は帝國藝術院の官制整備及び人選を始む○經濟使節團一行は米國に於ける使命を果し紐育出帆英國に向つた○白ロシア

ソヴェト中央執行委員會議長チエルグイヤコフ氏は自殺した。

十七日 貴族院議員には現副議長松平頼壽伯の昇格決定し、副議長には佐々木行忠侯が就任に決定○東北興業會社總裁兼東北振興電力會社社長は前滿鐵副總裁八田嘉明氏に正式決定○東京市會の市長銚衛委員會は各委員の投票の結果土岐嘉平氏七票、安部磯雄氏三票小橋一太氏二票で土岐氏最有有力○米國オハイオ州を中心とする鐵鋼争議險惡化。

十八日 廣田外相は駐日米國大使グルー氏に對し米國政府より主力艦備砲口徑制限に關する日本側の意向を求め來つたことに對し希望に副ひ難しと回答○貴族院制度調査會副會長となつた馬場内相は成案を得た幹事會案を基礎にして改革案の具體化を圖ることとならうと語つた○西下中の米内海相は京都で既定の第三次補充計畫を實施すれば國防の確保は期し得るから我が新補充計畫に何等變更増補の必要はないと語つた○ソ聯飛行家チカロフ、バイドウコフ、パリヤコフの三氏はモスコイ出發北極經由米國オークランドへの無着陸飛行決行。

十九日 近衛首相は杉山陸相より滿洲國に

於ける經濟建設の進捗状況、産業五ヶ年計畫、討匪討伐、治安狀態等につき説明聴取○箱根に週末靜養に赴いた近衛首相は貴族院改革の目標は有爵議員定員數の減少と多額議員制度の再檢討が必要であると語つた○西班牙反政府軍ビルバオ入城。

二十日 北極經由無着陸飛行のソ聯機は濃霧のためワシントン州グアンクレーグアに着陸した、モスコイ出發より六十三時間十七分○ヒマラヤ連峰ナンガ・パルバツト登攀隊員七名並に案内人九名は大雪山崩のため隊長以下全員惨死す○滿洲國監視隊が東部國境乾岔子北方警備中ソ聯砲艦より砲撃を受けこれに應戦した。

二十一日 永井逕相は近衛首相を訪問し政務官問題につき懇談○佛國アルム内閣は財政危機打開のための金融全權案が上院で否決された爲め遂に總辭職○佛國大統領ルアララン氏は後編内閣組織を急進社會黨領袖上院議員カミーユ・ショータン氏に委嘱。

二十二日 閣議は政務官設置を可決、更に首相の提案により次官參與官二十四名全部を衆議院より任命することに決定○首相は政務官各派割當につき政民各十名小

會派四名とすることに決意○佛國シヨ
タン氏は組閣に成功、人民戦線を樞軸と
してブルム前首相は副總理として入閣し
た。

二十三日 帝國藝術院誕生、新會員は三
十六名○永井逕相は電氣協會の席上電力
問題については次の通常議會までに最善
と信する具體案を得たいと挨拶○獨伊兩
國は對西班牙國際監視隊を脱退すること
に決した。

二十四日 政務官の各派割當は政務次官政
民各六名參與官政民各四名、國盟一名舊
昭和會二名、無所屬一名○明年年度豫算編
成方針審議のため大藏省豫算會議始ま
る。

二十五日 英國首相チエンパレン氏は議會
の外交演説で歐洲平和を維持せんとする
ことは戦争を西班牙國內に限定すること
であると述べた○英國サイモン蔵相は議
會に於いて爲替平衝資金を二億磅増額し
て五億六千萬磅とすると發表。

二十六日 有馬農相は近衛首相を訪問し貴
族院調査會では委員の自由討議により結
論を得ることが妥當である旨進言○中央
經濟會議議員三十名決定○市長選舉の東
京市會は決選投票を行つた結果百四十六

票中六十四票で小橋一太氏が當選○ソ滿
國境黒龍江内の滿洲領乾谷子島をソ兵が
占據集結してゐるに對し關東軍は眞相を
發表。

二十七日 ヒトラー獨總統はナチス黨大會
の席上でワイプナツヒ號襲撃事件により
獨逸は獨自で安全保障の途を講ずると演
説した。

二十八日 東京市長に選舉した元文相小橋
氏は正式受諾の回答を爲した。

二十九日 臨時物價對策委員會首相官邸に
開かれ根本より再檢討獨自の對策樹立の
方針に決定○近衛内閣の豫算編成方針を
決定すべき定例閣議で賀屋蔵相より豫算
編成十原則を發表原案承認さる○重光駐
ソ大使はリトヴィノフ外務人民委員を訪
問し、滿ソ國境乾谷子島よりソ兵及軍艦
を撤収することに同意した。

三十日 馬場内相は西下の車中に於いて人
事刷新に伴ひ地方制度の改革も必要であ
ると述べた○關東軍は乾谷子島における不
法挑戦のソ砲艦に應戦し一隻を撃沈せし
めた旨發表。

七月

一日 本年度上半期六億四千萬圓の大入超
となり問題化す○淺草同情園出火し兒童

十名焼死した○駐ソ重光大使はリトヴィ
ノフ外務人民委員に會見、ソ聯艦艇の滿
洲領水不法侵入及び占領地帯より武裝兵
の撤収につき嚴重抗議した。

二日 馬場内相は地方行政刷新のために
内閣直屬の大調査會の組織を決議してゐ
ると語つた○賀屋蔵相は西下の車中談で
三原則の統合については積極的意圖をも
つて進み物資供給を豊富にし消費節約は
せずと述べた○日大生殺し事件に對し求
刑が行はれた父徳田寛死刑母は無期懲役
妹榮子懲役八年。

三日 廣田外相はソ聯リトヴィノフ人民委
員の賠償要求の權利保留に對しては一切
拒絶し帝國の意向は不動な旨重光大使
に訓令した○重光駐ソ大使はリトヴィノ
フ外務人民委員と重要懇談を遂げたがそ
の結果ソヴィエト政府は曩に占據した乾
谷子島並に金阿穆河島より撤兵同時に兩
島附近に集結中の二十隻以上の砲艦を撤
収することとなつた○永井逕相は石川縣
に向ふ車中で生産力の擴充に併行して電
力政策を確立すると語つた○西班牙不干
渉委員會は英佛の國際監視體制補強案と
獨伊のフランコ政權交戰團體承認案につ
き討議對立激化す○東廻り世界一周飛行

をを目指すイヤハート女史はハイランド島
附近で遭難救援を求む。

四日 ソ軍の撤退に關し關東軍は聲明を發
し今後再び不法繰返さば斷乎たる措置を
講ずと決意表明○近衛首相は鎌倉別邸で
施政一ヶ月の經驗を以て率直に内閣制度
の缺陷を指摘し政治機構全般に互り改善
の必要を力説し特に議院制度の刷新と學
制改革に主力をおくと抱負を語つた○農
林省は昭和十一年度木材パルプの需要増
大により國內生産は追隨不能で海外依存
度高まると發表。

五日 賀屋蔵相は臨時増徴案を平年化し公
債消化力の基準を國際收支適合と物資需
給調節におくと語り豫算編成の重要指針
を闡明○國立パリー音楽院のピアノコン
クールで草間和子嬢(一五)歳は一等首席
を獲得した。

六日 政友會總裁決定問題に關し宮内代議
士の發言により幹部會はその處置に苦慮
す○安井文相は現行學制の全般的改革斷
行の意圖を以て一大調査機關設置案を閣
議に提出決定○廣田外相はイヤハート機
捜査に米國政府へ協力を申出た○簡易保
險移管に逕相讓歩し保健社會省構成案漸
く成る○ソ聯兵東部國境で我が監視所を

砲撃す。

七日 地方官大異動發令さる○西班牙不干
渉委員會で英佛は獨伊が海上監視隊に復
歸することを條件としてフランコ政權を
交戰團體として承認することに意見一致
○獨政府は四十二萬噸を目標に六ヶ年大
建艦計畫を發表す。

八日 内務省では地方官界刷新を計り百十
八名に達する部長級の大異動を決定○有
馬農相は健康保險原案を特別議會に提出
せんと決意した○農相は化學肥料の自給
化を斷乎決意す○北京郊外蘆溝橋附近に
於いて演習中の我が駐屯部隊に對し宗哲
元麾下第二十九軍第三十七師(師長馮治
安)は突如發砲、八日拂曉より激戦を展
開、我が軍は龍王廟を占據○英帝陛下戴
冠式觀禮式に参加次いでドイツ訪問を爲
した第四艦隊司令官小林少將坐乗の足柄
は母港佐世保に入港した。

九日 蘆溝橋事件に關する現地交渉は協定
成立せず、日支兩軍再び交戦○支那駐屯
軍司令部は戰開状況を發表、支那軍にし
てその非違を反省せず戦線を擴大せんと
するが舉に出るか軍は遂に斷乎たる措置
に出るの止むなきに至るべしと○事件重
大化に對し近衛、廣田、杉山、米内各相

如きは四相會議で對策を協議し續いて閣
議開催處理方針を決定一、今次事件は全
く支那側、不法行為に基き二、我が方と
して事件不擴大方針を堅持する三、支那
側の反省により圓滿收拾を希望す、若し
も憂慮すべき事態を招來する危機を見れ
ば、我が方は適切迅速に機宜の處置を講
ずること四、各關係は何時でも招集に應
ずる様待機すること○第三艦隊警備につ
く○秦北京市長陳謝連行を約すも我が軍
尙嚴重監視○熊谷飛行學校校長澤賢二郎
少將は福島縣で墜落重傷を負つた。

十日 日高參事官は南京に嚴重抗議す、支
那側違抗的抗議を提出○我軍當局は現地
處理主義で冀察當局と蘆溝橋事件善後處
置に關し交渉開始○米支兩國政府間に現
行米支銀協定を強化擴充する新協定成立
○日英通商會議會開かれ、日英競争防止
に産業別協定締結に意見一致。

十一日 支那前線部隊の間には依然抗日意
識熾烈で四度不法攻撃し我軍は應戰東辛
莊を占據○支那軍盛んに集結し、蔣介石
は廬山會議の結果中央軍の進撃準備命令
を發し、我が軍の不擴大の努力も水泡に
歸さんとす○政府は閣議決定に基き聲明
を中外に發表舉國一致重大危局に對處し

て北支派兵に強硬決意した。○政府は舉國一致の體制をとるため言論界、政界、財界の代表的人物を招待したが、各代表政府支援を表明した。

十二日 支那軍態度を急變前線部隊不法攻撃を開始す、我駐屯軍は重大決意をするに至った。○日本經濟聯盟會、日本工業クラブ等は極力政府を支援する旨決議した。○イヤーハート機捜査遂に絶望。

十三日 支那政府は廬山に緊急會議を開き我が最後の警告を無視し武力抗日の軍事的措置に付き熟議した。○支那中央軍は續々北上、全空軍に準備命令、徐州に空軍大部隊集結。

十四日 支那戰時國家動員を斷行、中央軍進撃す。○廣田外相は樞密院本會議に於いて北支事變に關し諸種の説明を行った。○贛澤品の全面的輸入制限に大藏省當局の方針が決つた。○馬村に於いて支那軍は計畫的に我が軍を攻撃した、四圍の情勢は支那駐屯軍の自衛權發動の遷延を許さざる状態となつた。○許世英駐日大使は堀内外務次官を訪問し逆境的抗議を提出したが堀内次官は支那側の反省を求め斷乎一蹴した。○保健社會省設置準備委員決定。

十五日 香月宋哲元本格的和平交渉天津で

開始さる。○政府は地方長官會議を首相官邸に招集、舉國一致國家總動員につき指示した。○賀屋藏相は同會議に於て適當な物價高に對し暴利取締の用意ある旨述べた。○上海南京に抗日有力團體組織さる。○北支の現勢に鑑み内地より一部の部隊を派遣することに決せらる。○陸軍省發表す。○北京郊外南苑南方で日支兩軍衝突。○有馬農相は農林關係團體代表者を首相官邸に招き協力を要望した。

十六日 日支問題に第三國の介入は斷乎一蹴の方針に外務省首腦會議で一決した。○英國政府は我聲明を信頼し居中調停の意なきことを明かにした。○廬山教育會議開く。○銑後の生活保護のため軍事扶助委員會生る。

十七日 外、陸、海、内、藏の五相會議開かれ帝國の最後の重大處置を決定した。○陸軍南京駐在武官大城戸大佐は北上中央軍の撤收を要求し國民政府に公文を手交した。

十八日 日高參事官は王寵惠外交部長に政府の覺書を手交し、凡ゆる挑戰行為を即時停止し現地當局の解決條件を妨害せざることとを要求した。○支那政府は緊急行政院會議を召集我が方の覺書に對して對策

シ氏は北支問題不介入の方針を下院において闡明。

二十二日 駐支英國大使ヒューゲツセン氏は蔣介石氏を訪問し國民政府の方針を聴取し英國政府の態度を説明した。○政友會は議員總會、民政黨は兩院議員評議員聯合會を夫々開き對議會態勢を決定した。○國民政府は我が鋭鋒緩和のため現地協定を是認す。○疏安新建値に關し重要肥料業委員會は議論紛糾の後來年度八月以降五ヶ月間は最高三圓五十八錢最低三圓五十錢とする案を承認。○米國議會の中心問題たる大審院改革案否決。

二十三日 第七十一議會召集せらる。○兩院各派現有勢力は貴族院皇族御一方、研究會一六三、公正會六六、火曜會四二、交友俱樂部三五、同和會三四、同成會二二、無所屬三二、議員三、衆議院民政黨一八〇、政友會一七四、第一議員俱樂部四八、社大黨三六、第二控室一三、東方會一一、其他四〇大久保、近兩助役は前例のない辭表撤回を執行。○陸軍省は支那駐屯軍の報告により現地協定を發表した。○即日支國交を阻害する人物の排除、共產黨の彈壓、排日教育の取締。○獨逸政府は國民負擔の均衡をはかるべく兵役免除者

協議した。○政府は對議會方針を練り政黨に協力要望に決した。

十九日 大使館附武官喜多少將は南京着國民政府に帝國陸軍の斷乎たる決意を傳へ最後の國民政府の反省を促した。○宋哲元北京に向ふ、我が要求の全面的受諾に難色を示してゐる。○許駐日大使歸任す。○北支中の支那軍我が飛行機を猛射す、我が機は之に應戰した。○滿洲討匪戰に於いて岡田少佐等戰死す。○日大生徳田貢殺し事件判決は父冤死刑母は無期懲役妹榮子懲役六年(未決通算四百日)。○國民政府は帝國政府の覺書に對する回答を提出したが、中央軍北上は自衛措置とし地方的解決は認めず兩軍同時に軍事行動を停止する等述べ、北支時局は最後の段階に達した。○支那駐屯軍司令部は支那の重なる不信不法行為に對し廿日以後獨自の行動を執るの止むなきに至るであらうと重大聲明を發表した。○喜多少將は何應欽軍政部長に最後の勸告をなした。○盧溝橋に新陣地構築中の廿九軍は又も我警備隊を猛射す。○蔣介石氏は中央軍の前線部隊に對して戰闘準備を命じた。

二十日 外務省は支那の回答に對し全面的に反駁し、國民政府の動向を顧慮せず既に對し課税するに決定。○衆議院議長選舉の結果議長に民政小山松壽氏、副議長に政友金光庸夫氏當選。

二十四日 臨時閣議に於いて健康保險案の原案が修正かの兩論對立し首相裁斷に一任。○宮崎一等水兵上海に於て拉致され行方不明となつた。○支那側不信行為を繰返し兵力を集申す。

二十五日 第七十一特別議會の閉院式行はせられた。○軍用線修理のため郎坊に派遣せられた通信部隊及五ノ井部隊は不法射撃を受けた。○大藏省豫算省議は北支事變追加豫算案を審議したが九千六百八十八萬圓と決定。

二十六日 郎坊の敵に對し空軍及艦隊部隊は攻撃を行ひ郎坊を占領。○支那兵は居留民保護のため北京に入城せんとした。廣部部隊を廣安門に於て驅討の猛射を浴せた。○支那駐屯軍司令官香月中將は宋哲元に對し廿八日を限つて廿九軍の撤退を要求し、實行なきときは獨自の行動を執るべしと通告した。○健康案の取扱方を一任された近衛首相は閣内の對立を憂へ特別議會に提出せず通常議會にゆづる方針に決定。○東京市會は小橋市長推薦の三邊長治篠原英太郎、原全路三氏に對し決選當票

の結果右三氏を助役に決定○内田良平氏逝く、享年六十四
 二十七日 日本銀行總裁更迭し、結城豊太郎氏に決定した○臨時閣議の結果政府は書記長談をもつて協定履行確保のため斷乎暴支を清懲すと重大決意を表明した○近衛首相は議會演説に於て支那民族の自省自律を希望し東亞の平和確保を強調した○廣田外相は事變解決の鍵は支那の態度に懸ると演説した○我大使館は在北平邦人に引揚命令を發令した○南苑の支那兵の挑戦に應戦し我が空陸より斷乎反撃した○宋哲元氏は我が通告を拒否した○宋哲元氏は進退に窮し辭任を申出た○一九三七年度テ杯決戦で米國は三點を擧げて十年振りでテ杯を獲得した○吉野商相は五々年度の産金年額五億八百萬圓の政府増産計畫概要を發表した。

對日宣戰を全國に通電した○馬村に於いて第三十八師張自忠軍の主力は殆ど潰滅○沙河鎮、清河鎮を我軍占領○近衛首相は衆議院本會議で杉浦氏の質問に答へて事變解決の根本基調は支那民衆と國民政府要路者が速かに反省することであると答辨○松井北平特務機關長は廿九軍長宋哲元氏に對して最後通牒を通達した○我が軍の全廿九軍掃滅を期する總攻撃は果敢を極む。
 二十九日 戦局天津に擴大し猛烈なる市街戦を展開した○我が空軍出動し支那兵掃蕩を開始す○我が海軍大沽を攻撃○通州に存置されてある我部隊に對し敗殘部隊が攻撃を加へ冀東保安隊叛亂し日本人を攻撃した○宋哲元は保定に逃亡した○北支事變追加豫算案は貴族院を通過し成立した○我が空軍は天津の支那軍六陣地を爆破した○香月司令官は各國領事の抗議を強硬に駁撃した○我が軍平津地帯完全に占據○蔣介石氏は平津地方の敗戦を認め、これに對しては自ら全責任を負ふものである、今や國民は舉國一致あくまで民族的抗戦に邁進しなければならぬと聲明した。
 三十日 天皇陛下には北支事變を中心とす

る時局を御診念あらせられ近衛首相に對し御召の御沙汰あらせられたので首相は恐懼して参内最近の時局に關して委曲奏上御下問に奉答した○蔣介石は舉國日本に挑戦せよと重要聲明し、保定の中央軍に北上を命じた○我が海軍西沽を占領し、陸空軍は廿八師に砲撃を開始○有馬農相は衆議院豫算總會で農業保險の設置來議會提案を言明○通州の敵に對し再爆撃を決行し増援隊急行す○廿九日保安隊叛亂により我居留民の死傷多しと報ぜらる○冀東政府委員長殷汝耕氏は拉致されてゐたが無事救出された○北京に江朝宋氏を中心とする自治會結成時局收拾に當る。
 三十一日 我が軍北上中の中央軍列車を空爆○國民政府は抗日救國戦線を結成し國防政府を組織することとなつた○上海の排日貨激化し殆ど經濟斷交となつた○杉山陸首は衆議院で北支事變の經過を説明我軍の目標は抗日抗戦の支那軍で善良なる支那民衆を敵とするものでないと力説○通州に於ける邦人虐殺は天人共に許さざるもので、特別機關、警察官はいづれも悲壯なる最後を擧げ、在留民大多數毒牙に斃れ、我國論憤激沸騰す。

職員録

附人名録

- 官廳職員録
- 六大都市高級吏員・市長一覽
- 警視廳管内署長一覽
- 東京市會議員一覽
- 貴・衆兩院議員一覽
- 有樽者一覽
- 各政黨・政派役員
- 全國商工會議所會頭
- 學術團體役員會員・新博士銘鑑
- 神社宮司・各宗派管長
- 日本畫・洋畫家銘鑑
- 邦樂・能樂・洋樂・舞踊家銘鑑
- 新・舊・映畫・俳優銘鑑
- 文藝家銘鑑
- 新聞通信社一覽
- 主要團體一覽

哀悼録

職員錄—宮内省

頭 渡部 信
 庶務課長 森田 久造
 圖書課長(兼) 森田 久造
 編修課長 芝 葛 盛
 侍醫寮
 頭 八田 善之進
 庶務課長(兼) 小倉 庫次
 醫事課長 高橋 信
 藥劑課長 細井 美水
 大膳寮
 頭 黒田 長敬
 庶務課長(兼) 小倉 庫次
 主膳課長(兼) 小倉 庫次
 内蔵寮
 頭 三浦 篤
 主計課長 池田 秀吉
 財務課長(兼) 池田 秀吉
 用度課長 鈴木 重孝
 内匠寮
 頭 岩波 武信
 監理課長 林 與之助
 工務課長 鈴木 鎮雄
 臨時帝室博物館造營課長 北村 耕造
 主馬寮
 頭 杉村 愛仁

庶務課長 岡松 進次郎
 自動車課長(兼) 岡松 進次郎
 厩務課長 城戸 俊三
 △宮内省下總牧場(千葉縣印旛郡遠山村) 酒井 克巳
 場長
 ○皇后宮職
 大夫 廣幡 忠隆
 内廷課長 永積 寅彦
 經理課長 小倉 庫次
 庶務課長(兼) 大金 益次郎
 東宮傳育官 石川 岩吉
 同(兼) 小田 英經
 同 東園 基文
 同 山田 康彦
 皇子御養育掛長藤井 種太郎
 △皇太后宮職(赤坂區大宮御所) 大谷 正男
 大夫 西 邑 清
 庶務課長 清閑寺 良貞
 會計課長
 ○皇族附
 △秩父宮(赤坂區表町御殿) 今村 信次郎
 別當
 △高松宮(芝區高輪西臺町) 山内 豐中
 別當
 △三笠宮(赤坂區青山東御殿) 別當

別當 厚東 篤太郎
 △閑院宮(麹町區永田町二丁目) 別當
 別當 稻垣 三郎
 △東伏見宮(澁谷區常磐松町) 別當 高橋 紳
 別當 四龜 孝輔
 △伏見宮(麹町區紀尾井町) 別當
 △山階宮(麹町區富士見町二丁目) 別當 大石 正吉
 別當 松浦 淳太郎
 △賀陽宮(麹町區三番町) 別當 字 川 濟
 別當 三雲 敬一郎
 △久邇宮(澁谷區宮代町) 別當
 △梨本宮(澁谷區美竹町) 別當 森田 宣
 △東久邇宮(麻布區市兵衛町) 別當 松本 幹之介
 △北白川宮(芝區高輪南町) 別當 石川 謙平
 △竹田宮(芝區高輪南町) 別當 茨木 清次郎
 ○帝室會計審査局 別當

摩那橫山村 中村 賢一郎
 場長
 ○御歌所
 所長(兼) 公 三條 公輝
 庶務課長(兼) 伯庭田 重行
 記録課長(兼) 伯庭田 重行
 ○學習院(豊島區目白町一丁目)
 院長 野村 吉三郎
 庶務課長 藤井宇多治郎
 會計課長(兼) 藤井宇多治郎
 衛生課長 清水 眞
 衛生課長 倉敷 福太郎
 教務課長 渡邊 八郎
 學生課長 金山 鬼一
 圖書課長 長屋 順耳
 (女子學習院(赤坂區青山北町))
 院長 柿崎 兵部
 庶務課長(兼) 柿崎 兵部
 會計課長(兼) 上田 駿一郎
 教務課長 山口 德三郎
 學生課長 佐藤 幹二
 圖書課長
 ○帝室博物館(下谷區上野公園内)
 總長 杉 榮三郎
 副總長 淺野 長光
 經理課長

美術課長 溝口 頑次郎
 歴史課長(兼) 原田 淑人
 △奈良帝室博物館(奈良市奈良御料地) 山口 巍
 館長
 ○京都地方事務所
 所長 伊夫伎 準一
 庶務課長 法 有 孚
 工務課長 武村 忠
 ○李王職(朝鮮京城府) 李王職 趙町區紀尾井町
 李王家東京邸 趙町區紀尾井町
 長官 篠田 治策
 次官 李 恒 九
 庶務課長 志賀 信光
 禮式課長 李 謙 聖
 主殿課長(兼) 李 謙 聖
 會計課長 佐藤 明道
 ○帝室經濟顧問 西園寺 公望
 公 男 一木 喜徳郎
 伯 男 牧野 仲顯
 ○學習院評議會 近衛 文麿
 議長 公 三條 公輝
 ○華族世襲財産審議會 議長 公 三條 公輝

○宮内官考査委員會 委員長 宮内次官 男 白根 松介
 ○宮内省恩給審査會 會長 宮内次官 男 白根 松介
 ○王公族審議會 總裁 樞密院議長 男 平沼 騏一郎
 ○公刊明治天皇御紀編修委員會 會長 宮内大臣 松平 恒雄
 ○臨時陵墓調査委員會 委員長 男 白根 松介
 委員 男 白根 松介
 大臣 廣田 弘毅
 政務次官 松本 忠雄
 次官 堀内 謙介
 參與官 船田 中
 ○大臣官房 山田 芳太郎
 秘書官(兼) 岸 倉 松
 同 松本 俊一
 人事課長 鈴木 九萬
 儀典課長 土田 豐
 文書課長
 會計課長

翻譯課長(兼) 蘆野 弘
 電信課長 武藤 義雄
 ○東亞局 局長 石射 猪太郎
 第一課長 上村 伸一
 第二課長 佐藤 信太郎
 第三課長 花輪 義敬
 ○歐亞局 局長 東郷 茂徳
 第一課長 加瀬 俊一
 第二課長 山路 章
 第三課長 吉田 丹一郎
 ○亞米利加局 局長 吉澤 清次郎
 第一課長 石井 利隆
 第二課長 塚本 利隆
 第三課長(兼) 大久保 利隆
 ○通商局 局長 松島 鹿夫
 總務課長 小林 龜久雄
 第一課長 水野 伊太郎
 第二課長 新納 克巳
 第三課長 千葉 憲一
 ○條約局 局長 三谷 隆信
 第一課長 大久保 利隆

職員錄—宮内省・外務省

職員録——外務省

第二課長 杉原 荒太
 第三課長(兼) 大久保 利隆
 情報部
 部長 河相 達夫
 第一課長 田代 重徳
 第二課長 子 本野 盛一
 第三課長 矢野 征記
 文化事業部
 部長 岡田 兼一
 第一課長 林 申郎
 第二課長 宮崎 彦太郎
 第三課長 市河 彦太郎
 調査部
 部長事務取扱 堀内 謙介
 第一課長 永田 安吉
 第二課長(兼) 永田 安吉
 第三課長(兼) 安東 義良
 第四課長 加藤 三郎
 第五課長 井口 貞夫
 對支文化事業調査會
 會長外務大臣 廣田 弘毅
 大使館
 英國大使 吉田 茂
 佛國大使 杉村 陽太郎
 參事官 富井 周
 參事官 内山 岩太郎

獨國大使 子 武者小路公共
 參事官 柳井 恒夫
 伊國大使 堀田 正昭
 參事官 松宮 順
 白耳義國大使 來栖 三郎
 ソヴィエト聯邦大使 重光 葵
 參事官 西 春彦
 土耳其國大使 武富 敏彦
 參事官 宮崎 勝太郎
 米國大使 齋藤 博
 參事官 須磨 彌吉郎
 ブラジル國大使 澤田 節藏
 參事官 天城 篤治
 滿洲國大使(兼) 植田 謙吉
 參事官 澤田 廉三
 中華民國大使 川 越 茂
 參事官 日高 信六郎
 公使館
 瑞西國公使 天羽 英二
 西班牙國公使 矢野 眞
 ポルトガル國臨時代理公使 大森 元一郎
 蘭國公使 桑島 主計
 瑞典國(兼) 諾威國、丁抹國) 栗山 茂

ラトヴィア國(兼) エストニア國、リシアニア國) 公使 佐久間 信
 ポーランド國公使 伊藤 述史
 フィンランド國公使 酒匂 秀一
 チェッコ・スロヴァキア國 公使 藤井 啓之助
 埃國(兼) ハンガリー國) 公使 谷 正之
 ルーマニア國(兼) ユーゴスラヴィア國) 公使 栗原 正
 希臘國公使(兼) 武富 敏彦
 イラン國公使 中山 詳一
 アフガニスタン國公使 北田 正元
 エジプト國公使 橫山 正幸
 暹羅國公使 村井 倉松
 カナダ公使 加藤 外松
 キュバ國公使(兼) 齋藤 博
 メキシコ國(兼) サルヴァドル國、グアテマラ國、ホンジュラス國、ニカラガ國、

コスタ・リカ國) 公使 越田 佐一郎
 ベルギー國(兼) エクアドル國、ボリヴィア國) 公使
 チリ國公使 三宅 哲一郎
 アルゼンティン國(兼) パラグアイ國、ウルグアイ國) 臨時代理公使 寺嶋 廣文
 コロンビア國公使 岩手 嘉雄
 總領事館
 倫敦總領事(兼) 松山 晋二郎
 漢堡總領事 江戶 千太郎
 ジェネーブ總領事(兼) 宇佐美 珍彦
 浦潮斯德總領事 杉下 裕次郎
 アレクサンドロフスク 總領事 田中 文一郎
 ハバロフスク總領事 島田 滋
 哈爾濱總領事 鶴見 憲
 齊齊哈爾總領事 田中 莊太郎
 新京總領事(代理) 領事 柴崎 白尾
 吉林總領事 中野 高一

間島總領事 川村 博
 奉天總領事 森岡 正平
 天津總領事 堀内 干城
 青島總領事 大鷹 正次郎
 濟南總領事 有馬 季學
 上海總領事 岡本 季正
 南京總領事(代理) 領事 福井 淳
 漢口總領事 加藤 傳次郎
 福州總領事 内田 五郎
 廣東總領事 中村 豊一
 香港總領事 水澤 孝策
 厦門總領事 宗村 丑生
 新嘉坡總領事 同崎 勝男
 新嘉坡總領事 那司 喜一
 檳榔嶼總領事 伊東 隆治
 マニラ總領事 内山 清
 バタヴィア總領事 石澤 豊
 カルカタ總領事 米澤 菊二
 シドニー總領事 若松 虎雄
 ホノルル總領事 福間 豊吉
 桑港總領事 堀崎 親三
 紐育總領事 若杉 要
 サンパウロ總領事 杉 要

メキシコ總領事 河原 峻一郎
 リゾアブル領事 高瀬 眞一
 アンヅエルス領事 玉木 鶴彌
 馬耳塞副領事 山下 芳郎
 オデッサ領事 齋藤 輝字良
 ブラゴウエスチンスク 副領事 下村 未郎
 ベトロパウロフスク領事 小柳 雪生
 ノヴォ・シビルスク副領事 太田 日出雄
 緩芬河副領事 興津 良郎
 滿洲里副領事 後藤 安嗣
 海拉爾副領事 三村 哲雄
 安東領事 瀧山 靖次郎
 錦州領事 川西 豊藏
 赤峰副領事 工藤 敏次郎
 承德副領事 松浦 敏興
 張家口副領事 中根 直介
 芝罘副領事 田中 高義
 鄭州副領事 佐々木 高義

杭州副領事 松村 雄蔵
 九江領事 白井 康
 宜昌領事 田中正一
 沙市副領事(事務代理) 小林 喜久壽
 長沙副領事 高井 末彦
 重慶領事 糟谷 廉二
 仙頭領事 山崎 誠一郎
 雲南領事 川南 省一
 西貢領事(事務代理) 手塚 浩介
 ダヴァオ領事 柴田 市太郎
 スラバヤ領事 姉齒 準平
 メダン領事 米垣 興業
 關貢副領事 金子 豊治
 コロンボ領事 久我 成美
 孟買領事 石川 實
 アレキサンドリヤ領事 黒木 時太郎
 ポートサイド領事 大野 道造
 ベイルート領事 小長谷 紳
 モンバサ領事 茂垣 長作
 ケープタウン領事 太田 知庸
 アデイス・アベバ領事

野田 實之助
 ロス・アシゼルス領事 堀 公一
 ボートランド領事 吉田 寛
 シヤトル領事 岡本 一策
 シカゴ領事 榎谷 秀夫
 ニューオルレアンス領事 佐藤 由己
 晚香坡領事 根道 廣吉
 ハヴァナ領事 寺崎 英成
 サン・サルヴァドル領事 大谷 彌七
 パナマ領事 海本 徹雄
 里馬領事 藤村 信雄
 ブエノスアイレス領事(兼) 寺嶋 廣文
 リオ・デ・ジャネイロ 副領事(兼) 小峰 俊一
 パウルー領事 早尾 季鷹
 ベレイン領事 古關 富彌
 サントス副領事 南 條 榮
 〇國際會議帝國事務局(瑞西國) 局長(兼) 天羽 英二
 局長 宇佐美 珍彦

職員錄——大藏省

企畫課長 田中 新平
特別調査課長 竹内 忠三
理財局長 關原 忠三
國庫課長 木内 四郎
地方債課長 梅北 末初
金融課長 日比野 謙
銀行局長 追水 久常
入問野 武雄
雄普通銀行課長 小宮 陽
特別銀行課長 山際 正道
検査課長 星野 喜代治
庶民金融課長 岸 喜二雄
調査課長 廣瀬 經一
爲替局長 廣瀬 經一
總務課長 上山 英三
第一管理課長 松山 宗治
第二管理課長 菅村 道太郎
外資課長 石井 茂樹
預金部資金局(大藏省内) 長谷川安次郎
局長 廣瀬 豐作
運用部長 山路 鎮夫
資金課長 富樫 久吉
運用課長 高雄 時夫

監理部長 栗原 修
監理課長事務取扱 栗原 修
考查課長 高瀬 武寧
△東京支部長 原 邦道
△大阪支部長 福地 惣治
△仙臺支部長 中村 重喜
△名古屋支部長 深田 養一
△廣島支部長 中村 應
△熊本支部長 太田 龜太郎
○管轄管財局(大藏省内)
長官大藏次官 石渡 莊太郎
總務部長 江口 順一
國有財産課長 橋本 昂藏
總務課長 森本 靖男
工務部長 池田 讓次
第一技術課長 元 連
第二技術課長 小島 榮吉
第三技術課長 伊部 貞吉
△神戸出張所長 中村 孝次郎
△門司出張所長 岡 勝美
○造幣局(大阪市北區新川崎町)
局長 山田 龍雄
總務部長 杉村 正武
製造部長 柴田 久治
試金部長 小松原 久治

△東京出張所長 岡村 馨
○專賣局(麹町區大手町一丁目)
局長 荒井 誠一郎
局長官房 永井 誠一郎
總務課長(兼) 永井 誠一郎
調査課長(兼) 永井 誠一郎
販賣部 花田 政春
販賣課長 相馬 敏夫
監査課長 森尾 敏男
收納部 河西 金城
收納課長 濱田 幸雄
第一技術課長 谷 正良
第二技術課長 黒野 勸六
企劃課長 松尾 俊次
製造部 森澤 博
部長 杉基 一
管理課長 田中 重夫
作業課長 野呂 一雄
主計課長 沼野 英不二
會計課長 黒瀬 勸一
△板橋製作所(板橋區板橋町五丁目)

所長 中村 精吾
△中央研究所(荏原區戸越町) 兒玉 章
△秦野試驗場(神奈川縣中郡東秦野村) 長谷川 浩
△水戸試驗場(茨城縣久慈郡山田村) 仁藤 武雄
△岡山試驗場(岡山縣淺口郡玉島町) 守屋 眞楠
△三田尻試驗場(山口縣佐波郡中關町) 福永 範一
△鹿兒島試驗場(鹿兒島縣鹿兒島郡谷山町) 中村 壽夫
△東京地方專賣局(本所區横川橋一丁目) 松崎 漸吉
△水戸地方專賣局(水戸市) 平澤 法人
△宇都宮地方專賣局(宇都宮市) 南 勝治

職員錄——大藏省

△高崎地方專賣局(高崎市) 局長 上林 一枝
△郡山地方專賣局(郡山市) 局長 吉田 勘三
△仙臺地方專賣局(仙臺市) 局長 加藤 嘉藏
△函館地方專賣局(函館市) 局長 原 辰次郎
△名古屋地方專賣局(名古屋市中區古澤町) 局長 鈴木 徹雄
△金澤地方專賣局(金澤市) 局長 常陸 庫二
△大阪地方專賣局(大阪市) 局長 光山 盛貞
△岡山地方專賣局(岡山市) 局長 宇田 吉一
△廣島地方專賣局(廣島市) 局長 長谷川 孝治
△坂田地方專賣局(香川縣綾歌郡坂田町) 局長 小林 末夫
△德島地方專賣局(德島市) 局長 富田 浦町
△福岡地方專賣局(福岡市) 局長 吉田 秀穂

字妙見)
局長 米村 佐一郎
△熊本地方專賣局(熊本市) 局長 木内 五助
△鹿兒島地方專賣局(鹿兒島市榮町) 局長 鈴木 榮
○横濱税關(横濱市中區海岸通一丁目)
稅關長 元尾 光輝
監視部長 松崎 憲司
總務部長 小山 直彦
會計課長 柳澤 治郎
鑑査部長 中本 清次
植物檢査課長 狩谷 精之
港務部長 山田 定男
○神戸税關(神戸市神戶區加納町六丁目)
稅關長 中村 孝次郎
監視部長 北井 幾夫
總務部長 今泉 兼寛
會計課長 小原 謙夫
鑑査部長 飯田 龍夫
植物檢査課長 岩佐 龍夫
港務部長 河北 一男
○大阪税關(大阪市港區三條

通四丁目)
稅關長 高橋 周三
監視部長(兼) 太田 幸作
總務部長 吉田 清一
會計課長(兼) 吉田 忠平
鑑査部長 三宅 秀雄
植物檢査課長 白岩 幸作
港務部長 太田 幸作
○長崎税關(長崎市羽衣町二丁目)
稅關長 玉井 德和
監視部長 濱田 哲九郎
總務部長 濱田 哲九郎
會計課長 濱田 哲九郎
鑑査部長 濱田 哲九郎
植物檢査課長 原田 信行
○門司税關(門司市西海岸通地先埋立地)
稅關長 谷岡 勝美
監視部長 新 敏雄
總務部長(兼) 新 敏雄
會計課長 江淵 香松
鑑査部長 木下 勇男
植物檢査課長 金山 巖
港務部長 伊藤 陽
○函館税關(函館市仲濱町)
稅關長 川又 公平

鑑査部長 平野 良貞
○東京稅務監督局(麹町區大手町一丁目)
局長 原 邦道
總務部長 山住 克巳
直稅部長 式村 義雄
間稅部長 谷口 吉太郎
經理部長 大槻 義公
鑑定部長 金井 春吉
○大阪稅務監督局(大阪市北區中ノ島四丁目)
局長 中村 應
總務部長 山田 義見
直稅部長 福井 榮治郎
關稅部長 三崎 庸
經理部長 渡邊 逸龜
鑑定部長 山田 滋朗
○札幌稅務監督局(札幌市大通西七丁目)
局長 福地 惣治
總務部長 佐藤 一郎
間稅部長(兼) 佐藤 一郎
直稅部長 立山 雪
經理部長(兼) 立山 雪
鑑定部長 川崎 義德
○仙臺稅務監督局(仙臺市北

一番丁) 局長 中村 重喜
 總務部長 青木 正映
 經理部長(兼) 青木 正映
 間稅部長 久米 武文
 直稅部長 吉村 丈三
 鑑定部長 鈴木 重一郎
 ○名古屋稅務監督局(名古屋市中區古澤町)
 局長 深田 養一
 總務部長 榎谷 孝典
 經理部長 中出 芳雄
 直稅部長 前尾 繁三郎
 間稅部長 北島 武雄
 鑑定部長 小穴 富司雄
 ○廣島稅務監督局(廣島市八丁堀)
 局長 武部 弘成
 總務部長 齋藤 和三郎
 經理部長 三由 政一
 直稅部長 渡邊 喜久造
 間稅部長 細倉 重義
 鑑定部長 渡會 六治
 ○熊本稅務監督局(熊本市練兵町)
 局長 太田 龜太郎

總務部長 金山 國臣
 經理部長 安井 義夫
 間稅部長 藤塚 繁
 直稅部長 村岡 信勝
 鑑定部長 山内 山彦
 ○釧路試驗所(瀧野川區瀧野川町)
 所長 大矢 半次郎
 庶務課長 濱田 徳海
 事業課長 黒野 勲六
 ○關稅廳審査委員會
 會長 大藏次官 石渡 莊太郎
 ○國有財産調査會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○預金部資金運用委員會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○中央諸官衙建築準備委員會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○關稅調查委員會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○特別融通審査會
 會長 日本銀行總裁 結城 豊太郎
 ○特別融通損失審査會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○外國爲替管理委員會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣

會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○外貨評價委員會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○政府貸付金處理委員會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○稅制調査會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○各省海峽拂節約協議會
 會長 大藏次官 石渡 莊太郎
 ○金融評議會
 會長 大藏大臣 賀屋 興宣
 ○大臣官房
 參事官
 政務次官 鹽野 季彦
 次官 久山 知之
 長官 藤田 若水
 秘書官(兼)
 秘書課長 船津 富宏
 人事課長 矢萩 富吉
 會計課長 坂野 千里
 保護課長 齊藤 直一
 民事局 森山 武市郎

局長 大森 洪太
 ○刑事局
 局長 松坂 廣政
 ○行刑局
 局長 瀧川 秀雄
 ○調查部
 部長 井上 登
 ○大審院(麹町區西日比谷町)
 院長 池田 寅二郎
 須賀 喜三郎
 木村 尙達
 三宅 正太郎
 佐藤 共之
 宇野 要三郎
 前田 直之助
 矢部 克己
 霜山 精一
 遠藤 健夫
 神谷 新熊
 泉二 通世
 岩村 通世
 ○東京控訴院(麹町區西日比谷町)
 院長 皆川 治廣
 杉浦 忠雄
 佐々木 良一

小林 四郎
 古川 鈿一郎
 下飯坂 潤夫
 神垣 秀六
 齋藤 喜一
 黒川 眞前
 小中 公毅
 垂水 克己
 梶原 彌之助
 吉益 俊次
 ○大阪控訴院(大阪市北區)
 院長 田中 右構
 部長 福地 劔吉
 前川 博彦
 田中 秀雄
 小堀 保
 村田 正雄
 高野 綱雄
 大西 道太郎
 古山 茂夫
 齋藤 悠輔
 金山 季逸
 立石 謙輔
 佐藤 龍馬
 梅山 賞明
 ○名古屋控訴院(名古屋市中區)
 院長 梅山 賞明

宮城 長五郎
 櫻田 壽
 坂崎 成敏
 渡邊 彦士
 三橋 市太郎
 清水 壯左久
 岩村 流芳
 宮山 武兵衛
 和田 良平
 ○宮崎控訴院(仙臺市片平丁)
 院長 久保田 美英
 部長 勅使河原直三郎
 岩松 玄十
 ○札幌控訴院(札幌市大通)
 院長 日高 要次郎
 部長 北本 常三郎
 島津 二郎
 猪俣 治六
 ○東京民事地方裁判所(麹町區西日比谷町)
 部長 豊水 道雲
 關 安二郎
 山口 金一郎
 山崎 一郎

鈴木 國久
 丁野 鳴春
 小野 愈一
 渡邊 義一
 鎌原 義治
 大野 璋五
 高橋 靜一
 根本 松男
 根尾 實友
 松中 治彦
 田中 嘉治
 奥田 嘉治
 ○東京刑事地方裁判所(麹町區西日比谷町)
 部長 鬼頭 豊隆
 吉川 英一
 小泉 道一
 潮 久保 良行
 西野 保雄
 中野 保雄
 藤井 五一郎
 藤永 榮吉
 德永 榮吉
 ○橫濱地方裁判所(橫濱市中區)
 部長 赤羽 照
 酒卷 貞一郎
 中島 民治
 橋本 匡也

神谷 敏行
 ○浦和地方裁判所(浦和市)
 部長 三輪 智
 山口 富次郎
 佐々木 與次郎
 ○千葉地方裁判所(千葉市)
 部長 立石 種一
 保持 道信
 金澤 次郎
 ○水戸地方裁判所(水戸市仲町)
 部長 水野 忠行
 柴田 元一
 西村 卯
 ○宇都宮地方裁判所(宇都宮市小幡町)
 部長 秋山 高彦
 楠木 芳
 安岡 靜四郎
 前橋地方裁判所(前橋市曲輪町)
 部長 上條 桂十郎
 秀島 敏行
 中村 理雄
 安倍 輔
 ○静岡地方裁判所(静岡市追手町)
 部長 安倍 輔

所長 森 章三郎
 部長 野村 熊太郎
 所長 松野 嘉七
 所長 甲府地方裁判所(甲府市錦町)
 部長 細谷 朝次
 部長 中村 弘明
 部長 石川 近之進
 所長 長野地方裁判所(長野市花咲町)
 部長 石井 壽太郎
 部長 中村 泰藏
 部長 宮重 左馬吉
 所長 新潟地方裁判所(新潟市)
 部長 白井 茂
 部長 増田 喜一郎
 部長 緒方 省一郎
 所長 京都地方裁判所(京都市中京區丸太町通)
 部長 原田 繁藏
 部長 藤野 三郎
 部長 高野 正保
 部長 松井 和義
 所長 大阪地方裁判所(大阪市北區)
 部長 鈴木 秀人
 部長 今谷 健一
 部長 稻田 得三

同 萩野 益三郎
 同 富田 仲次郎
 同 外島 英二
 同 竹野 竹三郎
 同 新田 佐逸
 同 石井 平雄
 同 大江 保直
 同 小野 秋靜
 同 黒正 太助
 所長 神戸地方裁判所(神戸市湊東區)
 部長 福地 劍吉
 部長 小原 直治
 部長 庄司 定雄
 部長 小林 政雄
 部長 佐藤 常壽
 部長 遠藤 常壽
 所長 奈良地方裁判所(奈良市)
 部長 香川 茂正
 部長 青木 敬輔
 部長 田口 環
 所長 大津地方裁判所(大津市四宮町)
 部長 並山 興道
 部長 山本 武雄
 部長 國分 丸治

○和歌山地方裁判所(和歌山市二番丁)
 所長 柴田 貞輝
 部長 澤野 信藏
 部長 兼松 謙太郎
 所長 徳島地方裁判所(徳島市徳島町)
 部長 小玉 平太郎
 部長 黒瀬 善治
 部長 磯 悌三郎
 所長 高松地方裁判所(高松市内町)
 部長 大野 惠眼
 部長 山下 雅邦
 部長 古賀 才次郎
 所長 高知地方裁判所(高知市帶屋町)
 部長 赤松 正行
 部長 三好 眞一
 部長 岩淵 彰郎
 所長 名古屋地方裁判所(名古屋市中區)
 部長 淺沼 彦一郎
 部長 深井 正男
 部長 岩野 稔
 部長 御園 生淳

同 萩本 毫逸
 同 榎木 悦太郎
 所長 安濃津地方裁判所(津市九之内殿町)
 部長 井上 鏡太郎
 部長 松島 政一
 部長 成亥 忠一
 所長 岐阜地方裁判所(岐阜市今澤町)
 部長 田沼 金造
 部長 島宗 一永
 部長 南部 金夫
 所長 福井地方裁判所(福井市)
 部長 伊佐早 信
 部長 松浦 欣
 部長 小澤 八十
 所長 金澤地方裁判所(金澤市)
 部長 橋川 喜三
 部長 六鹿 貢
 部長 森 勇
 所長 富山地方裁判所(富山市西田地方町)
 部長 小松 鐵太郎
 部長 六鹿 貢
 部長 猪原 敬勝
 所長 廣島地方裁判所(廣島市三

川町) 所長 松田 孫治郎
 部長 福田 豊市
 部長 原田 左近
 部長 藤井 健一
 所長 山口地方裁判所(山口市今道)
 部長 吉田 茂久郎
 部長 江本 清平
 部長 石塚 揆一
 所長 岡山地方裁判所(岡山市弓之町)
 部長 白井清左衛門
 部長 小林 右太郎
 部長 國枝 謙三
 所長 鳥取地方裁判所(鳥取市東町)
 部長 高野 寛治
 部長 田村 四平
 部長 山口 龍作
 所長 松江地方裁判所(松江市母衣町)
 部長 中西 保則
 部長 夢 傳
 部長 前田 前之助
 所長 松山地方裁判所(松山市一番町)
 部長 樋口 良助

部長 杉本 藤一
 部長 谷田 勝之助
 所長 長崎地方裁判所(長崎市萬歳町)
 部長 大原 利文
 部長 本郷 雅廣
 部長 棚町 丈四郎
 所長 佐賀地方裁判所(佐賀市松原町)
 部長 堀 耕作
 部長 小林 秀一郎
 部長 稻塚 庄三郎
 所長 福岡地方裁判所(福岡市大和町)
 部長 和田 一夫
 部長 衛 顯
 部長 星子 廣記
 部長 水田 正之
 所長 大分地方裁判所(大分市大字大分)
 部長 淺沼 猪助
 部長 渡邊 嘉兵衛
 部長 佐藤 伊惣治
 所長 熊本地方裁判所(熊本市京町)
 部長 石田 伊太郎
 部長 原 義介

同 山本 康三
 同 後藤 省三
 所長 鹿児島地方裁判所(鹿児島市山下町)
 部長 佐藤 修一
 部長 石橋 嗣次郎
 部長 宮崎 國吉
 所長 宮崎地方裁判所(宮崎市宮田町)
 部長 阪口 清
 部長 白石 雄治
 部長 村上 雄治
 所長 那覇地方裁判所(那覇市松山町)
 部長 平山 慎英
 部長 佐藤 三郎
 部長 青山 春齋
 所長 仙臺地方裁判所(仙臺市片平丁)
 部長 加藤 健一
 部長 遠藤 周蔵
 部長 山田 市三
 所長 福島地方裁判所(福島市)
 部長 友真 碩太郎
 部長 金貞 次郎
 部長 増田 鳴彦

○山形地方裁判所(山形市旅籠町)
 部長 菅波 鶴雄
 部長 小林 新太郎
 所長 盛岡地方裁判所(盛岡市内丸)
 部長 西岡 國吉
 部長 中谷 爲吉
 部長 田口 環
 所長 秋田地方裁判所(秋田市西根小屋町)
 部長 松野 祐齋
 部長 武山 敏二
 部長 松田 計治
 所長 青森地方裁判所(青森市大字大野)
 部長 日下一 郎
 部長 阿部 勇
 部長 中村 惣平
 所長 札幌地方裁判所(札幌市大通)
 部長 清水 正一
 部長 吉本 榮一
 部長 櫻田 忠美
 所長 函館地方裁判所(函館市沙見町)
 部長 井上 健一郎

職員録—司法省・文部省

部長 岡田 又兵衛
 検事正 木村 正
 ○旭川地方裁判所(旭川區八條通)
 部長 佐久間 辰二
 部長 矢口 毅
 検事正 谷津 慶次
 ○釧路地方裁判所(釧路市浦見町)
 部長 大和田 三治
 部長 秋本 要吾
 部長 高橋 久衛
 ○樺太地方裁判所(樺太豊原町)
 部長 柳澤 雅休
 部長 森岡 信二
 部長 本間 寛二
 ○辯護士審査會
 會長司法次官 長島 毅
 ○大臣官房
 秘書課 田中西 茂
 ○文部省(麹町區三年町)
 大臣 安井 英二
 政務次官 内ヶ崎作三郎
 次官 伊東 延吉
 參事官 池崎 忠孝
 同(兼) 堀池 英一
 秘書課長 堀池 英一
 文書課長(兼) 朝比奈策太郎
 會計課長 橋本 政實
 建築課長 柴垣 鼎太郎
 體育課長 岩原 拓
 ○專門學務局
 局長 山川 建
 學務課長 本田 弘人
 普通學務局長 有光 次郎
 ○普通學務局
 局長 藤野 惠
 學務課長 朝比奈策太郎
 伊藤 日出登
 ○實業學務局
 局長 小笠原 豊光
 局長 岩松 五良
 局長 田中 保平
 ○社會教育局
 局長 田中 重之
 局長 清水 芳一
 局長 清水 芳一
 局長 柴沼 直
 ○教育局
 局長 菊池 豊三郎
 局長 田中 義男
 企劃部長 阿原 謙藏
 企劃課長 石井 昂
 思想課長 劍木 亨弘
 指導部長 葛西 千秋
 指導課長 水野 敏雄
 普通課長 志水 義暉
 ○圖書局
 局長事務取扱 石井 忠純
 發行課長 松下 寛一
 編輯課長 藤本 萬治
 ○宗教局
 局長 松尾 長造
 宗教課長(兼) 稻田 清助
 保存課長 青戸 精一
 ○教育調査部
 部長(兼) 伊東 延吉
 ○東京帝國大學(本郷區本富土町)
 總長 長與 又郎
 庶務課長 江口 重國
 會計課長 木村 甲一
 營繕課長事務取扱 内田 祥三
 學生課長 竹内 良三郎
 附屬圖書館長 高柳 賢三
 △法學部長 田中 耕太郎
 △醫學部長 石原 康藏
 △工學部長 坂口 康藏
 △文學部長 平賀 謙
 △文學部長 柴田 芳藏
 史料編纂所長 辻 善之助
 △理學部長 柴田 桂太
 附屬臨海實驗所長 谷津 直秀
 附屬植物園長 中井 猛之進
 △農學部長 佐藤 寛次
 附屬演習林長 園部 一
 附屬農場長 佐々木 壽
 附屬農業教員養の所主事 佐々木 林治郎
 附屬水産實驗所長 雨宮 育作
 △經濟學部長 土方 成美
 △傳染病研究所(芝區白金臺町) 長 宮川 米次
 △航空研究所(目黒區駒場町) 長 和田 小六
 ○東京天文臺(北多摩郡三鷹村) 長 關口 經吉
 ○地震研究所(東京帝國大學構内)

長 石本 巳四雄
 ○京都帝國大學(京都市左京區)
 總長 濱田 耕作
 庶務課長 豐田 多久藏
 會計課長 岸田 源壽
 學生課長 阿部 三四
 營繕課長 大倉 三郎
 管理課長心得水上 邦三郎
 附屬圖書館長 新村 出
 △法學部長 宮本 英修
 △醫學部長 前田 鼎
 △工學部長 星野 貞次
 △文學部長 濱部 源次郎
 △理學部長 小島 祐馬
 △經濟學部長 松山 基範
 △農學部長 沼田 三郎
 附屬演習林長 市河 三祿
 附屬農場長 柴池 秋雄
 ○化學研究所(京都帝國大學内)
 長 喜多 源逸
 ○東北帝國大學
 總長 本多 光太郎
 庶務課長 世良 琢磨
 會計課長 遠藤 龍藏
 學生課長 武内 義雄
 營繕課長 堀井 啓治
 附屬電氣通信研究所長 拔山 平一
 附屬圖書館長 窪田 忠彦
 附屬臨海實驗所長 畑井 新喜司
 △醫學部長 近藤 正二
 △工學部長 杉村 七大郎
 △法文學部長 宮城 晉五郎
 ○金屬材料研究所(仙臺市)
 長 村上 武次郎
 ○九州帝國大學(福岡縣糟屋郡箱崎町)
 總長 荒川 文六
 庶務課長 久保田 藤麿
 會計課長 豐田 茂久藏
 學生課長 岡部 龍玄
 建築課長 鳥岡 泰三郎
 附屬圖書館長 春日 政治
 附屬醫院長 赤岩 八郎
 附屬農學院長 箕田 貢
 附屬農場長 寺野 寛二
 附屬農場長 丹下 正治
 ○北海道帝國大學(札幌市)
 主事 藤原 正
 附屬演習林長 片山 茂樹
 △法文學部長 長沼 賢海
 ○溫泉治療學研究所(別府市)
 總長 鶴見原 直助
 ○北海道帝國大學(札幌市北八條西五丁目)
 總長 高岡 熊雄
 庶務課長 德川 秀二郎
 學生課長 尾崎 卓郎
 會計課長 岡村 信雄
 營繕課長 落藤 藤吉
 附屬圖書館長 上原 敏三郎
 △農學部長 星野 勇三
 附屬植園長 長柄 正夫
 附屬農場長 明峰 乙熊
 附屬演習林長 大野 精七
 附屬醫院長 志賀 亮夫
 △工學部長 倉塚 良夫
 △理學部長 田所 哲太郎
 附屬臨海實驗所長 内田 亨
 ○附屬土木專門部(札幌市)
 主事 西田 辰三郎
 ○大阪帝國大學
 總長 楠本 長三郎
 庶務課長 渡邊 己丑太
 會計課長 茂呂 武三郎
 營繕課長 石崎 卯藏
 學生課長 吉本 一郎
 附屬圖書館長 高木 耕三
 附屬醫院長 古武 彌四郎
 附屬醫院長 佐谷 有吉
 △理學部長 眞島 利行
 △工學部長 鉛 市太郎
 △微生物病研究所(大阪市北區堂島)
 長 古武 彌四郎
 (東京府以下各大學、高等學校長の氏名は「教育」の項中にあり)
 ○東京盲學校(小石川區雜司ヶ谷町)
 校長 片山 昇
 ○東京聾啞學校(小石川區指ヶ谷町)
 校長 橋本 綱太郎
 ○帝國圖書館(上野公園内)
 館長 松本 喜一

職員錄—文部省・農林省

○中央氣象臺(麹町區大手町) 臺長 岡田 武松 三島支臺長 川野 昌美 盛岡支臺長 中田 良雄 大阪支臺長 和達 清夫 福岡支臺長 須田 皖次 沖繩支臺長 平野 烈介 柿岡地磁氣觀測所長 今道 周一 ○海洋氣象臺(神戸市神戶區) 臺長(兼) 岡田 武松 ○高層氣象臺(茨城縣筑波郡 小野川村) 臺長 大石 和三郎 ○緯度觀測所(岩手縣水澤町) 所長 木村 榮 ○東京科學博物館(上野公園) 館長 秋保 安治 ○體育研究所(澁谷區代々木 西原町) 所長(兼) 岩原 拓 ○航海練習所(文部省內) 所長(兼) 小笠原 豊光 ○國民精神文化研究所(品川 區上大崎) 所長 關屋 龍吉

事業部長 紀平 正美 ○測地學委員會 委員長 平山 信 ○教員檢定委員會 會長 文部次官 伊東 延吉 ○理學文書目錄委員會 會長 櫻井 銳二 ○帝國學士院(上野公園) 院長 櫻井 銳二 ○維新史料編纂會 總裁 金子 堅太郎 副總裁 黑澤 次久 顧問 田中 光顯 ○維新史料編纂事務局 局長 文部次官 伊東 延吉 ○帝國藝術院 院長 清水 澄 ○美術研究所(上野公園) 所長 矢代 幸雄 ○教科書調查會 會長 永田 秀次郎 副會長 野村 益三 ○學術研究會議 會長 櫻井 銳二 副會長 田中 愛橋 ○國語審議會

會長 南 弘 副會長 穗積 重遠 ○航空評議會 會長 文部大臣 安井 英二 ○學生衛生調查會 會長 文部次官 伊東 延吉 ○震災豫防評議會 會長 文部次官 伊東 延吉 ○宗教制度調查會 會長 荒井 賢太郎 ○國寶保存會 會長 細川 護立 ○體育運動審議會 會長 文部大臣 安井 英二 ○史蹟名勝天然記念物調查會 會長 三上 參次 ○實業教育振興委員會 會長 文部大臣 安井 英二 ○大臣官房 參事官 高橋 守平 次官 井野 碩哉 大官 助川 啓四郎 秘書官(兼) 鈴木 一

同 秘書課(事務官)鈴木 豐福 保次 文書課長 湯河 元威 統計課長 津田 儀三郎 會計課長 周東 英雄 ○農務局 局長 小濱 八彌 農政課長 重政 誠之 肥料課長 山添 利作 耕地課長 片岡 謙 農產課長 森 肆郎 △互核地開墾國營工事事務所 所長 狩野 直博 ○山林局 局長 原 辰二 監理課長 梶原 茂嘉 林政課長 山口 立 業務課長 貴島 圭三 林務課長 田中 八百八 森林保險課長 久保 覺次郎 ○水產局 局長 三宅 發士郎 漁政課長 平岡 梓 監督課長 井出 正孝 海洋課長 寺田 省一 漁船保險課長 倉上 晃

○畜産局 局長 細川 利壽 畜政課長 平山 洋三郎 畜畜保險課長 中村 直大 畜產課長 石崎 芳吉 經營改善課長 藤波 理平 ○蠶絲局 局長 田淵 敬治 絲政課長 吉田 清二 蠶繭課長 佐藤 公明 蠶業課長 明石 弘 ○經濟海外生絲市場調查事務所 所長 植田 武彦 △橫濱輸出生絲登錄所長 久保 吉造 △神戸輸出生絲登錄所長 三堀 參郎 ○米穀局 局長 荷見 安 米政課長 橫山 敬教 調查課長 小松 孝行 內地課長 中尾 桂一郎 外地課長 小山田 光一 經理課長 三須 武男 米穀利用研究所長(兼) 對馬 彌作

△東京米穀事務所長 對馬 彌作 △大阪米穀事務所長 井水 正名 △酒田米穀事務所長 中野 代二 △門司米穀事務所長 水川 潔 △新潟米穀事務所長 酒井 正男 △名古屋米穀事務所長 砂田 久雄 △小樽米穀事務所長 鈴木 義勝 △仙臺米穀事務所長 近藤 宣保 △金澤米穀事務所長 佐藤 續 △神戸米穀事務所長 柴田 勝三郎 △岡山米穀事務所長 齋藤 廣三 △熊本米穀事務所長 野崎 貫一 △青森米穀事務所長 木下 義親

△松江米穀事務所長 鈴木 鼎三郎 △京城米穀事務所長 安孫子 藤吉 △臺北米穀事務所長 半田 久美 ○經濟更生部 部長 小平 權一 總務課長 三浦 一雄 產業組合課長 石黒 武重 金融課長 西村 彰一 副業課長 須田 立 販賣改善課長 岡本 直人 △積雪地方農村經濟調查所 所長 山口 弘道 ○馬政局 局長(兼) 村上 龍太郎 次長 少將 吉田 陽一 總務課長 永松 陽一 競馬監督課長 石井 英之助 馬產課長 橫屋 潤 馬事課長 伊藤 莊之助 資源課長(兼) 騎中佐 佐々木 登 ○農事試驗場(澁野川區西ヶ原町)

場長 安藤 廣太郎 ○茶葉試驗場(靜岡縣金谷町) 場長(兼) 安藤 廣太郎 ○園藝試驗場(靜岡縣興津町) 場長(兼) 安藤 廣太郎 ○青森營林局(青森市大字神館) 局長 原 三六 庶務課長 山根 東明 造林課長 原 耕太 計畫課長 藤島 信太郎 利用課長 菊池 繁雄 ○秋田營林局(秋田市東根小 屋町) 局長 石原 清逸 庶務課長 溝江 誠 利用課長 羽岡 愛之助 造林課長 金原 善知 計畫課長 岩崎 準次郎 ○東京營林局(麹町區大手町) 局長 山中 謙治 庶務課長 小林 淳吉 計畫課長 大泉 勝吉 造林課長 河田 文一 利用課長 吉田 文一郎 ○大阪營林局(大阪市東區) 局長 村上富士太郎

庶務課長 石川 準吉
 計費課長 吉江 汪
 造林課長 吉川 昇二郎
 利用課長 長美 邦太郎
 ○高知營林局(高知市西弘小路)
 局長 村上 正彦
 庶務課長 山本 豐
 造林課長 末林 實
 計費課長 小寺 農夫
 利用課長 關 重雄
 ○熊本營林局(熊本市京町本町)
 局長 中 金 三
 庶務課長 家村 末熊
 利用課長 矢野 立志郎
 造林課長 野間 隆一
 計費課長 田中 波慈女
 ○林業試驗場(日黒區下目黒)
 局長 藤岡 光長
 ○東京國有林產物販賣所
 所長 小關 東九郎
 ○大阪國有林產物販賣所
 所長 土肥 俊
 ○水産講習所(深川區越中島町)
 所長 杉浦 保吉
 ○水産試驗場(京橋區月島)
 局長 春日 信市

○畜産試驗場(千葉縣都村)
 局長 釘本 昌二
 ○種羊場(北海道札幌郡豐平町)
 局長 岡本 正行
 ○防疫調査所(瀧野川區)
 局長 山崎 圭吉
 ○蠶業試驗場(杉並區高圓寺)
 局長 平塚 英吉
 ○蠶業生絲検査所(横濱市中區)
 所長 肥後 俊彦
 ○神戸生絲検査所(神戸市)
 所長 北尾 富烈
 ○家畜再保險審査會
 會長 農林次官 井野 碩哉
 ○生絲需要増進調査會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○米穀統制委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○米穀處理委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○馬政調査會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○日本競馬會
 理事長 伯 松平 頼壽
 ○買收生絲審査會
 會長 伯 有 馬 頼寧

○蠶品種審査會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○米穀配給新機構調査委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○絲價安定委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○農村經濟更生中央委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○競馬會審査委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○農林災害保險及共濟制度調査會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧
 ○米穀配給調整中央委員會
 會長 農林大臣 伯有 馬 頼寧

統計課長(兼)
 會計課長 波江野 繁
 ○商務局
 局長 新倉 利廣
 商政課長 本郷 壽次
 取引課長 西川 浩
 商務課長 末永 浩
 博覽會監理課長 豊田 雅孝
 ○工務局
 局長 小島 新一
 工政課長 美濃部 洋次
 監督課長 吉田 悌二郎
 工業課長 白井 義三
 工務課長(兼)
 地方課長 美濃部 洋次
 中央度量衡檢定所長 天日 光一
 ○鐵山局
 局長 東 榮二
 鐵政課長 山本 茂
 鐵業課長 高嶺 明達
 地質調査所長 松本 彬
 ○保險局
 局長 山根 新次
 總務課長 後藤 保晴
 永田 彦太郎

生命保險課長 山口 喬
 損害保險課長 細川 政之助
 ○統制局
 局長 黒田 鴻五
 統制課長 諸井 桃二
 合理課長 猪熊 信二
 金融課長(兼)
 特許局(麹町區三年町)
 局長 石井 銀彌
 總務部長 大貝 晴彦
 審判部長 安達 祥二
 意匠商標部長 大島 永明
 化學電氣部長 淺見 起平
 機械部長 三根 繁太
 陳列館長 關本 賢治
 △總務部
 出願課長 衣川 毅夫
 庶務課長 石田 磊
 調査課長 松田 太郎
 登録課長 三木 秋義
 △審判部
 書記課長(兼)三木 秋義
 商標課長事務取扱 大島 永明
 意匠課長 奥田 誠一

△化學電氣部
 電氣課長 東條 起一
 無機化學課長 堀川 冬弘
 有機化學課長 中林 朝吉
 △機械部
 第一課長 小川 潤次郎
 第二課長 家永 文彦
 第三課長 日下 繁
 第四課長 吉見 義明
 第五課長 八木 靜一郎
 ○燃料局
 局長 竹内 可吉
 總務課長 立花 俊一
 企劃課長 岡松 成太郎
 第一部長 堀 三也
 第二部長 柳 博光
 第三部長 島中 大輔
 第四部長 高井 孝藏
 第五部長 寺 武人
 第六部長 妹川 進
 第七部長 乘杉 研壽
 第八部長 楠瀬 常猪
 第九部長 企劃課長

情報課長 宮田 忠雄
 施設課長 齋藤 吉臣
 第二部長 齋谷 野吉
 輸出入課長 奥田 新三
 検査課長(兼) 奥田 新三
 大阪貿易事務所長 石田 祐次郎
 ○東京工業試驗所(澁谷區幡ヶ谷本町)
 所長 小寺 房治郎
 第一部長 西村 常吉
 第二部長 伊藤 亮
 第三部長 芳野 守三
 第四部長(代理) 井上 春成
 第五部長 北脇 市太郎
 第六部長 北脇 市太郎
 ○大阪工業試驗所(大阪府西淀川區)
 所長 莊司 市太郎
 第一部長 櫻田 茂一
 第二部長 片山 徹吉
 第三部長 高松 英之助
 第四部長 篠崎 英之助
 第五部長 池下 守清
 ○纖維工業試驗所(横濱市神

奈川區)
 所長(兼) 吉岡 直富
 第一部長 角替 利策
 第二部長 丸山 善樹
 第三部長 三平 文
 ○陶磁器試驗所(京都市伏見區)
 所長 平野 耕輔
 ○工藝指導所(仙臺市)
 所長 國井 喜太郎
 ○機械試驗所
 所長事務取扱 小島 新一
 ○東京鐵山監督局(麹町區)
 局長 杉山 正雄
 鐵政課長 海老根 毅
 分析課長 大野 正見
 鐵業課長 森田 幸八
 ○仙臺鐵山監督局(仙臺市)
 局長 中村 幸一
 鐵政課長 齋藤 大助
 鐵業課長 佐分利 輝一
 ○大阪鐵山監督局(大阪府)
 局長 鈴木 英雄
 鐵政課長 桑田 俊夫
 鐵業課長 菅野 健三郎
 分析課長 村瀬 竹次郎
 ○福岡鐵山監督局(福岡市土

職員錄——商工省・逓信省

手町) 局長 堀 義臣
 鑛政課長 榎本 勝造
 鑛業課長 瀨尾 健二
 ○札幌鑛山監督局(札幌市南一條)
 局長 辻 謹吾
 鑛政課長 阿部 豐
 鑛業課長 竹井 清
 ○燃料研究所(川口市)
 所長 伴 義定
 第一部長(事務取扱) 伴 義定
 第二部長 新村 唯治
 ○花菱検査所(神戸市灘區泉通)
 所長 蜂谷 德三郎
 ○輸出絹織物検査所
 所長 武富 喬
 京都(京都市左京區) 所長 武富 喬
 大阪(大阪市港區) 所長 田部 永次
 横濱(横濱市中區山下町) 所長 牧 厚
 神戸(神戸市林田區) 所長 松井 隆
 桐生(桐生市永樂町) 所長 隆 厚

所長 大類 徳一郎
 足利(足利市巴町) 所長 小林 直
 名古屋(名古屋西區) 所長 若狭 源藏
 岐阜(岐阜市大字本莊) 所長 高木 頼三
 福島(福島縣伊達郡川俣町) 所長 過足 國治
 鶴岡(鶴岡市家中新町) 所長 齋藤 辰五郎
 福井(福井縣足羽郡木田村) 所長 岡本 善之
 金澤(金澤市長町河岸) 所長 中村 林治
 富山(富山縣上新川郡堀川町) 所長 萩原 博
 ○工藝審査委員會 委員 長岡 次官村瀬 直義
 ○工業規格統一調查會 會長 吉野 信次
 ○副會長 吉野 直義
 ○瓦斯事業委員會 會長 吉野 信次
 ○國產振興委員會 會長 吉野 信次

○製鐵事業評價審査委員會 會長 吉野 信次
 ○不當廉價審査委員會 會長 吉野 信次
 ○統制委員會 會長 吉野 信次
 ○發明獎勵委員會 會長 吉野 信次
 ○石油業委員會 會長 吉野 信次
 ○度量衡制度調查會 會長 吉野 信次
 ○自動車製造事業委員會 會長 吉野 信次
 ○生産管理委員會 會長 山下 興家
 ○財務管理委員會 會長 鈴木 島吉
 ○川紙標準化委員會 會長 大河内 正敏
 ○小賣業改善調查委員會 會長 内池 廉吉
 ○セメント製造業改善委員會 會長 郷 誠之助
 ○自動車營業改善調查委員會 會長 伍堂 卓雄

大臣 永井 柳太郎
 次官 田島 勝太郎
 參事 平澤 要
 大臣官房 犬養 健
 秘書官(兼) 小林 武治
 同 小林 武治
 文書課長 安田 文助
 保健課長 中村 純一
 現業調査課長 東 博仁
 監察課長 平田 耕藏
 逓信官吏練習所長 藤川 靖
 逓信博物館長 出塚 祐助
 (兼) 出塚 祐助
 郵務局長 進藤 祐一
 業務課長 遠藤 祐一
 外國郵便課長 岡崎 誠一
 電務局長 藤川 靖
 局務課長 高木 正道
 津田 鐵外喜
 規畫課長 津田 鐵外喜

職員錄——逓信省

無線課長 宮本 吉夫
 工務局長 梶井 剛
 庶務課長 山根 貞一
 線路課長 淺見 親
 機械課長 白井 武
 無線課長 小野 孝
 調査課長 松前 重義
 試驗課長 堤 正岡
 日滿電話建設課長 石井 淺八
 市内建設課長 渡邊 孝正
 市外建設課長 荒川 大太郎
 電氣局長 大和田 悌二
 局長 大和田 悌二
 監理課長 有田 喜一
 業務課長 大野 勝三
 検査課長 古池 信三
 技術課長 森 秀
 水力課長 高橋 三郎
 火力課長 後藤 清太郎
 水力調査課長 野口 寅之助
 管船局長 小野 猛
 局長 小野 猛
 庶務課長 米田 富士雄
 監理課長 新谷 寅三郎

船舶課長 佐々木 松賢
 造船課長 岩井 祐文
 海員課長 田倉 八郎
 船舶試驗所長 生島 莊三
 航空局長 小松 茂
 局長 小松 茂
 總務課長 荒木 萬壽夫
 監督課長 中尾 國次郎
 技術課長 新井 三郎
 東京飛行場長 福士 剛
 大阪飛行場長 甲斐 茂吉
 福岡第一飛行場長 石田 正規
 同第二飛行場長 石田 正規
 (兼) 石田 正規
 那覇飛行場長 中込 由正
 青森飛行場長 飯塚 十郎
 札幌飛行場長 大庭 哲夫
 局長 大庭 哲夫
 主計課長 鈴木 恭一
 需品課長 長 得一
 管轄課長 大島 三郎
 監査課長 松永 忠男
 貯金局(麻布區飯倉町) 局長 古屋 好正

局長 萩原 丈夫
 庶務課長 荒船 清一
 業務課長 前田 利生
 國際業務課長 山戸 俊吉
 經理課長 岸上 修
 集計課長 岩永 喜敬
 第一貯金課長 三好 忠三
 第二貯金課長 五十嵐 一
 振替貯金課長 水谷 彌三
 證券課長 三浦 義二
 爲替課長 西山 保正
 恩給課長 寺田 新六
 簡易保險局(芝區赤羽町) 局長 伊勢谷 次郎
 局長 伊勢谷 次郎
 業務課長 中村 太郎
 事業課長 深川 太郎
 監理課長 生田 武夫
 經理課長 深水 六郎
 積立金運用課長 景山 準吉
 積立金監査課長 廣瀬 勝
 年金監理課長 森 義信
 庶務課長 小野 吉郎
 契約課長 石田 建英
 第一支拂課長 長田 治
 第二支拂課長 小川 正弘
 第三支拂課長 石井 新藏

第四支拂課長 安原 武夫
 貸付課長 弓木 幹
 辨濟課長 高橋 琢也
 司計課長 小林 政人
 第一徵收課長 勝部 虎之助
 第二徵收課長 青木 市治
 第三徵收課長 田中 且丸
 第四徵收課長 小田 庄市
 第五徵收課長 荒井 一雄
 第六徵收課長 荒井 一雄
 (兼) 荒井 一雄
 年金契約課長 安原 武夫
 醫務課長 佐藤 喜八
 統計課長 金成 正
 福岡簡易保險支局(福岡市) 局長 龜田 豊治朗
 支局長 櫻井 學
 庶務課長(心得) 櫻井 學
 契約課長 上田 敏夫
 徵收課長 山田 敏夫
 仙臺簡易保險支局(仙臺市) 局長 渡邊 清一
 支局長 渡邊 清一
 庶務課長 松原 清一
 契約課長 松原 清一
 徵收課長 松原 清一
 電氣試驗所(品川區五反田) 局長 密田 良太郎
 第一部長 神保 成吉

職員錄——通信省

第二部長 大橋 幹一
第三部長 笠井 完
第四部長 楠瀬 雄次郎
第五部長 貞清 玄龜
試作課長(兼) 貞清 玄龜
庶務課長(兼) 増井 常太
○東京地方通信局(赤坂區葵町)
局長 山田 良秀
庶務課長 杉崎 清人
監督課長 村上 景介
規畫課長 田邊 正
工務課長 眞崎 尚忠
保險課長 井關 博行
電氣課長 青木 誠之
經理課長 辻 利信
購買課長 山戶 利生
海軍部長 長井 實行
○東京都市通信局(赤坂區葵町)
局長 飯野 毅夫
庶務課長 成松 馨
監督課長 佐佐 慎三
規畫課長 小笠原 光壽
工務課長 村田 善七
保險課長 千葉 清也
經理課長 渡邊 達也
現業調査課長 楠瀬 熊彦

○名古屋通信局(名古屋市中區)
局長 田村 謙次郎
庶務課長 小泉 潤
監督課長 山中 道夫
規畫課長 吉田 弘苗
工務課長 日下部 鉦次郎
保險課長 長井 宅三郎
電氣課長 田中 敏郎
經理課長 三村 令二郎
海軍部長 半間 巖保
○大阪通信局(大阪市中區)
局長 藤原 保明
庶務課長 中村 俊一
監督課長 白井 修一
規畫課長 大久保 武雄
工務課長 沼田 七次郎
保險課長 立川 繁
電氣課長 大岡 馬淵雄
經理課長 肥爪 龜三
購買課長 柴田 信一郎
海軍部長 猪間 信一郎
○廣島通信局(廣島市基町)
局長 長岡 信捷
庶務課長 青木 彌三郎
監督課長 岡井 彌三郎
規畫課長 浦島 喜久衛

工務課長 和氣 幸臣
保險課長 吉村 正太郎
電氣課長 野尻 茂治
經理課長 加藤 雄一
海軍部長 岡本 誠
○熊本通信局(熊本市花畑町)
局長 中村 松次郎
庶務課長 濱田 余市
監督課長 高松 順茂
規畫課長 高橋 順等
工務課長 天野 次郎
保險課長 堀 雄一
電氣課長 大跡 喜久太
經理課長 小池 行政
海軍部長 三宅 保
○仙臺通信局(仙臺市多門通)
局長 森島 美之助
庶務課長 長野 眞水
監督課長 鶴田 誠
規畫課長 市田 重太郎
工務課長 齋藤 勇之助
保險課長 齋藤 勇之助
電氣課長 豐川 熊雄
經理課長 藤川 熊雄
海軍部長 坂部 長
○札幌通信局(札幌市大通)
局長 長

局長 藤井 崇治
庶務課長 土井 順次
監督課長 伊藤 順二郎
規畫課長 中澤 勝次郎
工務課長 神尾 健夫
保險課長 佐々木 元勝
電氣課長 吉安 秋夫
經理課長 勝矢 和三
海軍部長 熊谷 直行
○燈臺局(橫濱市中區北仲通)
局長 福原 敬次
監督課長 遠藤 精一
工務課長 森川 富士助
○高等海員審判所
所長(兼) 小野 猛
○東京地方海員審判所
所長(兼) 山田 良秀
○大阪地方海員審判所
所長(兼) 藤川 保明
○門司地方海員審判所
所長(兼) 三宅 保
○館地方海員審判所
所長(兼) 熊谷 直行
○電氣委員會
會長 永井 柳太郎
○船員職業紹介委員會

鐵道省

會長 通信次官 平澤 要
○簡易生命保險審查會
會長 通信次官 平澤 要
○簡易生命保險積立金運用委員會
會長 通信次官 永井 柳太郎
○航路統制委員會
會長 通信次官 永井 柳太郎
○航空事業調查委員會
會長 通信次官 永井 柳太郎
○鐵道省(麹町區丸の内)
大臣 中島 知久平
政務次官 田尻 生五
次官 喜安 健次郎
參事官 今井 正夫
監督官 坂口 忠次
同 高桑 謙二
同 堀尾 豐雄
同 平田 猷雄
同 三富 秀夫
○大臣官房
秘書官(兼) 平山 孝
同 澁澤 金藏

人事課長 坪内 直文
文書課長 平山 孝
法規課長 玉置 善雄
保健課長 大山 秀雄
現業調査課長 江口 胤顯
研究所長 樋口 行彦
○監督局
局長 鈴木 清秀
總務課長 山崎 秀輔
業務課長 鈴木 正次
陸軍第一課長 川井 健太郎
陸軍第二課長 小倉 俊夫
監理課長 片岡 壽郎
技術課長 佐土原 勳
○運輸局
局長 山田 新十郎
總務課長 中島 寅之助
旅客課長 堀木 謙三
貨物課長 齋藤 義八
配車課長 吉松 義喬
運送課長 武井 明道
船舶課長 山本 定一
自動車課長 高橋 定一
○建設局
局長 平山 復二郎
計書課長 岡田 實

○工務局
局長 淺間 逸雄
局員 阿曾 均
○建築課長 山中 良樹
○改良課長 三浦 義男
○工作局
局長 坂本 麒雄
工場課長 紀伊 壽次
車輛課長 小坂 羽二
機械課長 德永 晋作
○電氣局
局長 森田 重彦
電化課長 永田 盛三
電力課長 坂元 常樹
通信課長 魚住 朝治
○經理局
局長 池井 啓次
會計課長 青盛 忠雄
倉庫課長 湯本 昇
購買第一課長 手塚 操
購買第二課長 益子 梓
審查課長 原 武
被服工場長 中村 橋男
木村防務工場長 數賀山 兼寬

○東京鐵道病院(澁谷區千駄ヶ谷)
院長 阿部 齊夫
副院長 櫻井 久一
○建設事務所長
北海道 菊池 清
熊本 佐藤 忠三郎
東京 高井 信一
米子 宮本 保
岡山 出島 嘉吉
山口 足立 貞嘉
熱海 星野 茂樹
盛岡 小田 慶治郎
秋田 上山 經亮
長岡 瀧淵 實烈
岐阜 小林 紫朗
○改良事務所長
東京 井上 隆浩
大阪 後藤 宇太郎
下關 釘宮 磐
○電氣事務所長
東京 重信 四郎
信濃川 倉田 玄二
○國際觀光局(麹町區丸の内)
局長 田 誠

職員録 鐵道省・拓務省

庶務課長 藤原久信
事業課長 高田寛
鐵道調査部 部長 喜安健次郎
第一課長 藤本哲
第二課長 井上剛
第三課長 濱野信一郎
鐵道會議 議長 中島知久平
國際觀光委員會 會長 中島知久平
鐵道運貨審議會 會長 結城豊太郎
東京鐵道局(麹町區丸ノ内) 局長 長崎惣之助
總務部長 高須俊一
運輸部長 吉川美男
工務部長 山井國男
電氣部長 向笠金吾
經理部長 野中春三
名古屋鐵道局(名古屋西區) 局長 早川慎一
總務部長 丸山武治
運輸部長 穴澤貞利

運輸部長 淺野英次
工務部長 柳ヶ瀬正哉
電氣部長 甲斐久三郎
經理部長 花岡龜藏
大阪鐵道局(大阪北區) 局長 木村隆規
總務部長 馬場篤四郎
運輸部長 關田友吉
工務部長 青山秀雄
電氣部長 山口敬太郎
經理部長 鈴木徳之助
廣島鐵道局(廣島市宇品町) 局長 堀越清六
總務部長 伊藤信之
運輸部長 三輪眞吉
工務部長 羽田中喜代作
電氣部長 友枝俊二
經理部長 森尾喜一
門司鐵道局(門司市大字門司) 局長 島岡浩一郎

總務部長 小島信彦
運輸部長 繁野三野
工務部長 小平長兄
電氣部長 小早川貞三
經理部長 樫島太郎
新潟鐵道局(新潟市流作場) 局長 森本義夫
總務部長 岡本一
運輸部長 野田篤一
工務部長 馬場裕吉
電氣部長 大島末彦
經理部長 兼坂高三郎
仙臺鐵道局(仙臺市清水小路) 局長 山本頼雄
總務部長 上林市太郎
運輸部長 大塚武邦
工務部長 土屋恒治
電氣部長 木村英太郎
經理部長 今井信雄
札幌鐵道局(札幌市北五條) 局長 波田敏夫

局長 山下雅實
運輸部長 金丸富夫
工務部長 西尾壽男
電氣部長 中原健弘
經理部長 內山俊吾
船舶部長 中村善次郎
拓務省(麹町區西日比谷町) 大臣 大谷尊由
次官 萩原彦三
參事 伊禮
秘書官(兼) 今吉敏雄
文書課長 海守敏雄
會計課長 赤木親之
司計課長(兼) 副島勝
朝鮮部 次官 萩原彦三
管理局長 棟居俊一
地方課長 眞室亞夫

警務課長 中野勝次
殖産局 局長 植場鐵三
農林課長 本多保太郎
商工課長(兼) 渡邊肆郎
理財課長 増本甲吉
拓務局 局長 安井誠一郎
東亞第一課長 大野季夫
東亞第二課長 有松昇
南洋課長 宮木廣大
移住教養所 所長 川本邦雄
△神戸(神戸市山本通三丁目) 所長 長嶺昇
△長崎(長崎市梅崎町) 所長 德永俊雄
海外拓殖委員會 會長 大谷尊由
會計検査院(麹町區三年町) 院長 河野秀男
院長官房 川鍋正雄
總務科長 菊池武紀
第一課長 第一課長

第一課長 河本文一
第二課長 清原徳次郎
第三課長 武藤榮治郎
第四課長 近藤榮一
第一課長 岡正路
第二課長 岡今朝雄
第三課長 廣瀬正一
第四課長 清水至
第五課長 大山常藏
第六課長 市川要四郎
第七課長 井上綾太郎
第八課長 内藤照
第九課長 水島房吉
第十課長 津屋幸右衛門
第十一課長 高島彌三
第十二課長 木村精一
第十三課長 東谷傳次郎
第十四課長 國島貞一
第十五課長 高島彌三
大臣 大將 米内光政

政務次官 一宮房治郎
次官 山本五十六
參事 岸田正記
大臣官房 副官 近藤泰一郎
秘書官(兼) 柳澤藏之助
同(兼) 中佐 柳澤藏之助
同(兼) 少佐 吉井道教
同(兼) 少佐 杉永敬介
海軍文庫主管(兼) 中佐 島峯次
電信課長 大佐 黒瀬浩
軍務局 局長 中將 豊田副武
第一課長 大佐 保科善四郎
第二課長 大佐 西尾秀彦
第三課長 大佐 森田貫一
人事局 局長 少將 清水光美
第一課長 大佐 德永榮
第二課長 大佐 多田武雄
教育局 局長 中將 住山徳太郎
第一課長 大佐 山口儀三郎
第二課長 大佐 丸茂邦則

第三課長 機大佐 澤達
軍需局 局長 中將 氏家長明
第一課長 大佐 中村俊久
第二課長 大佐 細谷信三郎
第三課長 大佐 南里昌治
醫務局 局長 中將 高杉新一郎
經理局 局長 主中將 村上春一
第一課長 主大佐 山本丑之助
第二課長 主大佐 横尾石夫
第三課長 主大佐 森島種雄
建築局 局長 技師 吉田直
法務局 局長 法務官 潮見茂樹
海軍將官會議 議員(兼) 元帥大將 博恭王

職員録 拓務省・會計検査院・海軍省

同(兼) 大將 百武 源吾
 同(兼) 中將 山本 五十六
 同(兼) 中將 上田 宗重
 同(兼) 中將 豊田 副武
 ○海軍艦政本部(海軍省構内)
 長 中將 上田 宗重
 總務部長少將 澤本 頼雄
 同第一課長 大佐 妹尾 知之
 同第二課長 大佐 伍賀 啓次郎
 同第三課長 大佐 清宮 弘
 同第四課長 大佐 桑原 憲
 會計部長 主少將 高橋 四郎
 第一部長 造兵少將 谷村 豊太郎
 第二部長少將 砂川 兼雄
 第三部長少將 平岡 磯
 第四部長 造船中將 山本 幹之助
 第五部長 造船少將 福岡 忠徳
 第六部長少將 熊岡 謙

出仕造船少將 福岡 啓二
 同 造兵少將 菱川 万三郎
 同 造兵少將 松岡 俊躬
 ○海軍技術研究所(目黒區三田)
 長 造兵少將 日高 鏡一
 理學研究部長 少將 林田 恒雄
 化學研究部長 大佐 竹内 牧人
 電氣研究部長 造兵少將 向山 均
 造船研究部長 造船大佐子 徳川 武定
 庶務課長 大佐 寺田 祐次
 會計課長 主大佐 榎野 逸彌
 醫務課長 大佐 田川 資造
 ○海軍火藥廠(平塚市)
 長 造兵少將 山家 信次
 火藥部長 造兵少將 松岡 俊躬
 爆藥部長少將 川瀬 義重
 研究部長技師 荒木 久吉
 醫務部長 大佐 河野 千萬城
 同 大佐 原 鼎三
 同(兼) 大佐 黒瀬 浩
 同 大佐 福留 繁
 同 大佐 前田 稔
 同 大佐 井上 保雄
 ○大使館及公使館附武官
 中華民國少將 本田 忠雄
 滿洲國(兼) 大佐 鈴木 義尾
 英國 大佐 矢野 英雄
 米國 大佐 小林 謙五
 カナダ 中佐 竹内 馨
 アルゼンティン 中佐 花田 行武
 ブラジル(兼) 中佐 花田 行武
 チリ(兼) 中佐 花田 行武
 佛國 大佐 山田 定義
 獨逸(兼和蘭國) 中佐 小島 秀雄
 伊國 中佐 平出 英夫
 暹國 中佐 中堂 觀惠
 メキシコ 中佐 濱中 匡甫
 ソヴィエト 中佐 川畑 正治

醫大佐 竹雅 進平
 會計部長 主大佐 隈野 四郎
 ○海軍航空本部(海軍省構内)
 長 中將 及川 古志郎
 總務部長大佐 塚原 二四三
 同第一課長 大佐 奥田 喜久司
 同第二課長 主大佐 西野 定市
 同第三課長 主大佐 鎌立 金矢
 教育部長大佐 大西 瀧治郎
 技術部長少將 杉山 俊亮
 同第一課長 主大佐 中村 止
 同第二課長 大佐 山本 順平
 ○水路部(京橋區築地五丁目)
 長 少將 太田 垣富三郎
 第一課長大佐 下坊 定吉
 第二課長大佐 松原 寛三
 第三課長大佐 草川 淳
 第四課長大佐 秋吉 利雄
 第五課長大佐 田代 蘇平
 會計課長 主中佐 鳩田 權藏

○海軍大學校(品川區上大崎長者丸)
 長 中將 佐藤 三郎
 教頭 少將 佐藤 市郎
 主計長主少佐 淺野 親次
 ○海軍兵學校(廣島縣安藝郡江田島村)
 長 中將 出光 萬兵衛
 教頭兼監事長 大佐 角田 覺治
 軍醫長大佐 高田 六郎
 主計長主少佐 山川 廣一
 ○海軍機關學校(京都府加佐郡中舞鶴町)
 長 少將 兼田 市郎
 教頭兼監事長 主大佐 和住 篤太郎
 軍醫長中佐 森島 敏雄
 主計長主少佐 福本 西吉
 ○海軍醫學校(京橋區築地五丁目)
 長 少將 向山 美弘
 教頭 少將 長田 勝芳
 主計長(兼) 主少佐 石淵 知定
 ○海軍經理學校(京橋區小田)

原町三丁目)
 長 主中將 佐々木 重蔵
 教頭 主大佐 荒川 信
 軍醫長中佐 横倉 誠次郎
 主計長主少佐 石淵 知定
 ○皇族附武官
 宣仁親王附 中佐 林 葉通
 博恭王附中佐 中佐 楠木 重徳
 博義王附中佐 中佐 田中 菊松
 朝融王附中佐 早川 幹夫
 三好 恒

大佐 河野 千萬城
 同 大佐 原 鼎三
 同(兼) 大佐 黒瀬 浩
 同 大佐 福留 繁
 同 大佐 前田 稔
 同 大佐 井上 保雄
 ○大使館及公使館附武官
 中華民國少將 本田 忠雄
 滿洲國(兼) 大佐 鈴木 義尾
 英國 大佐 矢野 英雄
 米國 大佐 小林 謙五
 カナダ 中佐 竹内 馨
 アルゼンティン 中佐 花田 行武
 ブラジル(兼) 中佐 花田 行武
 チリ(兼) 中佐 花田 行武
 佛國 大佐 山田 定義
 獨逸(兼和蘭國) 中佐 小島 秀雄
 伊國 中佐 平出 英夫
 暹國 中佐 中堂 觀惠
 メキシコ 中佐 濱中 匡甫
 ソヴィエト 中佐 川畑 正治

横須賀鎮守府 (横須賀市)
 司令長官 大將 百武 源吾
 參謀長 少將 岩村 清一
 人事長(兼) 少將 太田 泰治
 機關長機大佐 御所 靜
 軍醫長(兼) 少將 田中 朝三
 主計長(兼) 主少將 武井 大助
 法務長 主少將 鳥田 清
 ○横須賀海軍人事部(横須賀市)
 長 少將 太田 泰治
 ○横須賀海軍港務部(横須賀市逸見町)
 長 大佐 梶島 節雄
 ○横須賀海軍工廠(横須賀市)
 長 少將 古市 龍雄
 總務部長 大佐 下村 勝美
 造船部長 大佐 山本 弘毅
 造船少將 鈴木 恪司

造船部長少將 澁谷 隆太郎
 光學實驗部長 大佐 片岡 太司郎
 電池實驗部長 大佐 村瀬 藤十郎
 造兵大佐 堀内 茂禮
 航海實驗部長 大佐 金子 豊吉
 機關實驗部長 大佐 鈴木 武次
 會計部長 主少將 本田 増藏
 醫務部長 主少將 高城 喬
 ○海軍航空廠(横須賀市浦郷)
 長 少將 原 五郎
 總務部長大佐 石黒 廣助
 科學部長少將 廣瀬 正經
 飛行機部長 少將 櫻井 忠武
 發動機部長 少將 花島 孝一
 兵器部長大佐 佐藤 源藏
 飛行實驗部長 大佐 桑原 虎雄

職員錄——海軍省・軍令部・横須賀鎮守府

職員錄——橫須賀鎮守府・吳鎮守府

會計部長 主大佐 鈴木 亨
醫務部長 主大佐 石黒 芳雄
○橫須賀海軍經理部(橫須賀市稻岡町)
長 主少將 武井 大助
第一課長 主大佐 渡邊 佐助
第二課長 主大佐 川島 禮次
○橫須賀海軍需部(橫須賀市長浦)
長 主少將 大東 健夫
總務課長 大佐 一瀬 信一
第一課長 大佐 久重 一郎
第二課長(兼) 大佐 久重 一郎
第三課長 主大佐 野宮 三郎
第四課長 大佐 長妻 篤嶋
會計課長 大佐 長妻 篤嶋
○橫須賀海軍艦船部(橫須賀市長浦)
長 主少將 木梨 律馬
○橫須賀海軍建築部(橫須賀市長浦)
長 主少將 大東 健夫
第一課長 大佐 久重 一郎
第二課長(兼) 大佐 久重 一郎
第三課長 主大佐 野宮 三郎
第四課長 大佐 長妻 篤嶋
會計課長 大佐 長妻 篤嶋

長 技師 松本 伊之吉
第一課長 主中佐 大川戸 翁吉
第二課長 技師 住木 直二
○橫須賀海軍病院(橫須賀市長浦)
長 醫少將 田中 朝三
第一部長 醫大佐 堀田 慎之
第二部長 醫大佐 小林 賢語
藥劑部長 藥中佐 都丸 俊男
○湊海軍病院(靜岡縣賀茂郡竹麻村)
長 醫大佐 若生 良穗
第一部長(兼) 醫大佐 若生 良穗
第二部長 醫中佐 天野 先吉
○橫須賀海軍刑務所(神奈川縣三浦郡浦賀町)
長 監獄長 小泉 藤治郎
○海軍砲術學校(橫須賀市長浦町)
長 少將 草鹿 任一
教頭 大佐 入船 直三郎

軍醫長 醫中佐 黒木 武一
主計長 主中佐 松尾 尊義
○海軍水雷學校(橫須賀市長浦町)
長 少將 三木 太市
教頭 大佐 栗田 健男
軍醫長 醫中佐 神立 金作
主計長 主中佐 船山 忠一
○海軍通信學校(橫須賀市長浦町)
長 少將 細登 戊子郎
教頭 大佐 中島 寅彦
軍醫長 醫中佐 木庭 保喜
主計長 主中佐 篠田 清志
○海軍航海學校(橫須賀市長浦町)
長 少將 小池 四郎
教頭 大佐 岸 福治
軍醫長 醫中佐 廣田 棄夫
主計長(兼) 主中佐 小林 準一
○海軍工機學校(橫須賀市長浦町)
長 少將 朝隈 彦吉
教頭 大佐 小畑 愛喜
軍醫長 醫中佐 牛窪 成恒

八〇四
主計長 主中佐 野村 三治
吳鎮守府 (吳市)

司令長官 中將 加藤 隆義
參謀長 少將 戸蒔 隆始
人事長(兼) 大佐 奥 信一
機關長 大佐 奥 信一
軍醫長(兼) 醫少將 菅原 佐平
主計長(兼) 主少將 菅原 佐平
法務長 主少將 平井 博
○吳海軍人事部長 大佐 奥 信一
○吳海軍港務部(吳市) 長 大佐 原 顯三郎
○吳海軍工廠(吳市) 長 中將 豊田 貞次郎
總務部長 大佐 松本 益吉
砲術部長 少將 若荷 秀雄
火工部長

造兵大佐 神足 勝孝
水雷部長 少將 岸本 鹿子治
電氣部長 少將 足立 吉平
造船部長 少將 桑原 重治
造船實驗部長 江崎 岩吉
造船部長 少將 都築 伊七
製鋼部長 少將 二階堂 行健
製鋼實驗部長 技師 宇留野 四平
潜水艦部長 機大佐 日尾 清
砲術實驗部長 大佐 相馬 六郎
魚雷實驗部長 大佐 春日 篤
電氣實驗部長 機大佐 山田 清
會計部長 主少將 茂木 知二
醫務部長

醫大佐 小金井 良一
職工教習所長(兼) 少將 都築 伊七
○海軍技手養成所(吳海軍工廠(兼))
長 主少將 荒木 彦彌
總務部長 機大佐 大野 董
航空機部長 大佐 飯倉 貞造
造船部長 機大佐 赤坂 功
會計部長 主大佐 赤坂 功
醫務部長 主大佐 米花 德太郎
○海軍燃料廠(德山市) 長 少將 吉成 宗雄
總務部長 機大佐 上田 儀右衛門
煉炭部長 機大佐 清水 葵

製油部長 機大佐 別府 良三
研究部長 少將 野村 將之
會計部長 主大佐 吉村 武雄
醫務部長 醫大佐 白井 一精
探炭部長 主少將 金谷 隆一
平壤鐵業部長 少將 石井 常次郎
○吳海軍經理部(吳市) 長 主少將 平井 博
第一課長 主大佐 佐野 嘉末
第二課長 主大佐 服部 薫
○吳海軍需部(吳市) 長 少將 脇 鼎
總務課長 機大佐 小野 庵
第一課長 大佐 大橋 竜男
第二課長(兼) 大佐 大橋 竜男
第三課長

機大佐 種子田 榮
第四課長(兼) 主中佐 倉富 明五郎
會計課長 主中佐 倉富 明五郎
德山軍需支部長(兼) 機大佐 上田 儀右衛門
○吳海軍艦船部(吳市吳鎮守府構内) 長 少將 立花 才次郎
○吳海軍建築部 長 技師 服部 保
第一課長 技師 田中 秀康
第二課長 技師 高木 義照
○吳海軍病院(吳市) 長 醫少將 菅原 佐平
第一部長 醫大佐 上原 純之助
第二部長 醫大佐 菅田 直樹
藥劑部長 藥中佐 一條 正一
消毒部長(兼) 醫大佐 菅田 直樹
○別府海軍病院(大分縣別府)

職員錄——吳鎮守府

職員錄 吳鎮守府・佐世保鎮守府・舞鶴要港部

市) 醫少將 豐田 實
第一部長 醫中佐 川島 秀志
第二部長(兼) 醫少將 豐田 實
○舞野海軍病院(佐賀縣藤津郡)
長 醫大佐 田邊 優
第一部長(兼) 醫大佐 田邊 優
第二部長 醫中佐 伊藤 慎一
○吳海軍刑務所
長 監獄長 三隅 恆一
○海軍潜水學校(吳市吉浦町)
長 少將 浮田 秀彦
教頭 大佐 吉富 說三
軍醫長 醫中佐 板倉 駿
主計長 主少佐 佐藤 省

佐世保鎮守府

人事長(兼) 少將 祝原 不知名
機關長 機大佐 鈴木 久武
軍醫長 醫少將 中野 太郎
主計長(兼) 主少將 石黒 利吉
法務長 主少將 萩原 竹治郎
○佐世保海軍人事務部(佐世保市)
長 少將 祝原 不知名
○佐世保海軍港務部(佐世保市)
長 大佐 後藤 權造
○佐世保海軍工廠(佐世保市)
長 中將 菊野 茂
總務部長 大佐 佐藤 唯一
造兵部長 少將 原 清
航空機部長 大佐 加藤 成禧
造船部長 大佐 加藤 成禧
造船少將 正木 宣恒
造船部長 大佐 平田 周二
會計部長 主大佐 久武 戒三
醫務部長 醫大佐 楠木 喜平
○佐世保海軍經理部(佐世保市)

長 主少將 石黒 利吉
第一課長 主大佐 白神 君太郎
第二課長 主大佐 河村 浩
○佐世保海軍軍需部(佐世保市)
長 少將 須田 稔
總務課長 大佐 近藤 憲治
第一課長 大佐 堀内 馨
第二課長 大佐 堀内 馨
第三課長 機大佐 黒原 退蔵
第四課長(兼) 主中佐 内山 正太郎
會計課長 主中佐 内山 正太郎
○佐世保海軍艦船部(佐世保鎮守府構内)
長 少將 中村 重一
○佐世保海軍建築部(佐世保市)
技師 住木 直二
技師 住木 直二
第一課長(兼) 技師 住木 直二

第二課長(兼) 技師 長谷川鏡次郎
○佐世保海軍病院(佐世保市)
長 醫大佐 原 準八
第一部長 醫大佐 松本 暢
第二部長 醫大佐 高橋 豊
藥劑部長 藥中佐 村田 秀
消毒部長(兼) 醫大佐 高橋 豊
○佐世保海軍刑務所(佐世保市)
市日字福石免) 吉岡 音藏
舞鶴要港部 (京都府加佐郡舞鶴町)
司令官 中將 中村 龜三郎
參謀長 大佐 大野 一郎
機關長 機大佐 赤坂 卯之助
軍醫長(兼) 醫大佐 小金井 良一
主計長(兼) 主大佐 加納 金三郎
法務長 小田垣 常夫

港務部長 大佐 三浦 友三郎
軍需部長 大佐 竹岡 健治
經理部長 主大佐 加納 金三郎
病院長 醫大佐 原 準八
建築部長 技師 權藤 博
○舞鶴海軍工廠
長 少將 本多 喜一郎
總務部長 機大佐 宮田 一
造船部長 造船大佐 庭田 尙三
造船部長 造機大佐 朝永 研一郎
造兵部長 大佐 大原 進
醫務部長 醫大佐 金澤 信太郎
會計部長 主大佐 是川 重之助

大湊要港部

機關長 機大佐 山中 朋二郎
軍醫長 醫大佐 原田 福象
主計長 主大佐 齊藤 鳳雄
港務部長 中佐 中村 正雄
工作部長(兼) 機大佐 山中 朋二郎
病院長(兼) 醫大佐 原田 福象
馬公要港部 (澎湖島)
司令官 少將 和田 專三
參謀長 大佐 三輪 茂義
機關長 機大佐 内田 五郎
軍醫長 醫大佐 内田 五郎
主計長 主中佐 森岡 龍夫
港務部長 中佐 大藤 正直
工作部長(兼) 機大佐 内田 五郎
病院長(兼) 醫大佐 田代 良顯

鎮海要港部

軍醫長 醫大佐 山之内 秀三
主計長 主大佐 鈴木 常治
法務長 機大佐 樋口 芳包
港務部長 中佐 伊藤 徳堯
工作部長(兼) 機大佐 栗野 定四郎
病院長(兼) 醫大佐 山之内 秀三
旅順要港部 (旅順市東郷町)
司令官 少將 前田 政一
參謀長 大佐 原 忠一
機關長 機大佐 辻 周正
軍醫長 醫大佐 後藤 歡三郎
主計長 主大佐 石原 徳次郎
港務部長 中佐 東郷 二郎
工作部長(兼) 機大佐 辻 周正
病院長(兼) 醫大佐 後藤 歡三郎

駐滿海軍部

機關長 機大佐 渡邊 瑞彦
主計長 主中佐 大西 達三郎
司令官 少將 大川内 傳七
○橫須賀警備戰隊
司令官 少將 近藤 英次郎
○吳警備戰隊
司令官 少將 水戸 春造
○佐世保警備戰隊
司令官 少將 雪下 勝美
○橫須賀防備戰隊
司令官 少將 園田 滋
○吳防備戰隊
司令官 少將 藤森 清朗
○佐世保防備戰隊
司令官 少將 鈴木 新治
海軍航空隊司令
少將 片桐 英吉
横濱 大佐 加藤 尙雄
横須賀 大佐 三笠 貞三
館山 大佐 戸塚 道太郎
大湊 大佐 加來 止男
木更津 大佐 竹中 龍造
吳 大佐 長谷川 喜一
佐伯 大佐 今村 喜一
佐世保 中佐 三木 森彦

職員錄——艦長・陸軍省・行政裁判所・貴族院事務局・衆議院事務局・文官高等懲戒委員會

薄(兼) 少佐 愛甲 文雄
藤 少佐 愛甲 文雄
葛 少佐 上杉 義男
...

陸軍省
原稿校訂本稿一切に合は
ず遺憾ながら別項八三九頁に
收録しあり、御参照を乞ふ。

行政裁判所(勸告部尾井町)

書記官長 長古 世吉
庶務課長 長古 保次
...

貴族院事務局

書記官長 長古 世吉
庶務課長 長古 保次
...

文官高等懲戒委員會(樞密院内)

委員長 西澤 哲四郎
西村 千代作
...

會計検査官懲戒裁判所

樞密顧問官 原 嘉道

行政裁判所長官評定官懲戒裁判所

長官樞密顧問官 原 嘉道
裁判長 樞密顧問官 原 嘉道
朝鮮總督府(京城府)
...

土木課長

土木課長 樅葉 孝平
△土木出張所長 本間 孝義
京城 武居 軍次郎
...

土地改良課長(兼)

土地改良課長(兼) 橋本 左太郎
農村振興課長 岸 勇一
...

書記官長(兼)

書記官長(兼) 大竹 十郎
朝鮮關稅訴訟審査委員會
會長政務總監 大野 綠一郎
...

職員錄——會計検査官懲戒裁判所・行政裁判所長官評定官懲戒裁判所・朝鮮總督府

局長 吉田 浩
 庶務課長 荻原 三郎
 監督課長 西崎 鶴司
 營業課長 佐藤 作郎
 運轉課長 菅 利一
 經理課長 小 林 義人
 建設課長 江 崎 幸次
 電氣課長(兼) 清水 幸次
 工作課長 福 見 貞治
 工務課長 清 水 幸次
 專賣局 專賣局長 鈴 川 壽男
 局長 森 長 文
 庶務課長 富 山 修
 鹽務課長 宇 野 友八
 製造課長 木 下 麟太郎
 經理課長(兼) 富 山 修
 京城地方專賣局長 陣 內 利夫
 全州地方專賣局長 檜 原 弘
 大邱地方專賣局長 國 分 重慶
 平壤地方專賣局長 增 田 道義
 ○仁川稅關

稅關長 小田 正義
 ○釜山稅關 兵 頭 佛
 ○新義州稅關 池 清
 ○羅津稅關 小田 島 嘉吉
 ○京城稅務監督局 古 庄 逸夫
 ○光州稅務監督局 小 池 泉
 ○大邱稅務監督局 土 屋 傳作
 ○平壤稅務監督局 芳 賀 文三
 ○咸興稅務監督局 阿 部 明治太郎
 ○高等法院 小 川 梯
 ○京城覆審法院 笠 井 健太郎
 ○京城地方法院 伊 東 淳吉
 ○京城地方法院 岡 本 至德
 ○京城地方法院 宮 本 元
 ○仁川地方法院 福 田 甚二郎

○公州地方法院 原 田 福藏
 ○咸興地方法院 早 田 福藏
 ○清津地方法院 田 尻 隣造
 ○平壤地方法院 酒 井 赴夫
 ○平壤覆審法院 松 下 直英
 ○咸興覆審法院 元 橋 曉太郎
 ○大邱地方法院 野 村 調太郎
 ○平壤地方法院 水 野 重功
 ○新義州地方法院 末 廣 清吉
 ○大邱地方法院 大 沼 惟隆
 ○忠清南道(大邱府) 金 子 秀顯
 ○忠清南道(大邱府) 石 川 鶴吉
 ○忠清南道(大邱府) 矢 本 正平
 ○忠清南道(大邱府) 下 村 三四郎
 ○忠清南道(大邱府) 原 正 昭
 ○忠清南道(大邱府) 河 村 靜水
 ○忠清南道(大邱府) 長 谷 部 光雄

○釜山地方法院 里 見 寬二
 ○光州地方法院 森 田 秀治郎
 ○光州地方法院 玉 名 友彦
 ○全州地方法院 吉 田 平治郎
 ○全州地方法院 齋 藤 榮治
 ○濟生院(京城府) 五 味 逸平
 ○濟生院(京城府) 千 綿 榮六
 ○濟生院(京城府) 大 竹 十郎
 ○小島島更生園 周 防 正季
 ○穀物検査所(京城府) 石 塚 峻
 ○種馬牧場(咸鏡北道慶源郡) 油 井 岱治
 ○種羊場 坂 卷 海三郎
 ○農事試験場(京畿道水原郡) 湯 川 又夫
 ○中央試験所(京城府) 山 村 銳吉
 ○獸疫血清製造所(慶尙南道 東萊郡)

所長 昆野 恒太郎
 ○警備官講習所(京城府) 三 橋 孝一郎
 ○水産試験場(釜山府) 西 田 敬三
 ○林業試験場(京城府) 楠 木 德二
 ○京城帝國大學 速 光 澁
 總長 上 野 直昭
 法文學部長 上 田 常吉
 醫學部長 中 村 寅松
 豫科部長 鷹 松 龍種
 ○京城醫學專門學校 佐 藤 剛藏
 ○京城高等工業學校 山 村 銳吉
 ○京城高等農林學校 湯 川 又夫
 ○京城高等商業學校 岩 佐 重一
 ○京城師範學校 渡 邊 信治
 ○全州師範學校

○平壤師範學校 小 林 致哲
 ○大邱師範學校 津 田 信
 ○京城女子師範學校 鳥 飼 生駒
 ○京城工業學校 高 橋 濱吉
 ○京城中央試驗所 山 村 銳吉
 ○水興學校(感化院) 阿 部 虎之助
 ○圖書館(京城府) 荻 山 秀雄
 ○經學院(京城府) 藤 萬 朝
 ○大提學(京城府) 甘 蔗 義邦
 ○京畿道(京城府) 尹 泰 彬
 ○京畿道(京城府) 神 谷 小一
 ○京畿道(京城府) 尹 伯 顯
 ○京畿道(京城府) 永 井 照雄
 ○京畿道(京城府) 權 重 植
 ○忠清北道(清州邑)

知事 金 東 勳
 參事 楊 在 河
 內務部長 吉 岡 三浦
 警察部長 安 田 宗次
 ○忠清南道(大邱府) 鄭 萬 源
 參事 田 中 保太郎
 內務部長 鳥 山 進
 警察部長 野 口 三郎
 ○大田府 孫 永 穆
 參事 李 鍾 殷
 內務部長 門 脇 默一
 警察部長 福 島 四雄三
 ○全羅南道(光州府) 高 堂 健二
 參事 佐 藤 德重
 內務部長 高 堂 健二
 警察部長 高 堂 健二
 ○全羅南道(光州府) 新 具 肇
 參事 李 源 甫
 內務部長 李 源 甫
 警察部長 李 源 甫
 ○慶尙北道(大邱府) 山 本 實
 參事 山 本 實

知事 上 瀧 基
 參事 李 昌 根
 內務部長 松 本 昌根
 警察部長 李 昌 根
 ○大邱府 八 木 信雄
 參事 古 市 進
 ○慶尙南道(釜山府) 阿 部 千一
 參事 阿 部 千一
 內務部長 嚴 昌 燮
 警察部長 嚴 昌 燮
 ○釜山府 山 本 義一郎
 參事 山 本 義一郎
 ○馬山府 藤 江 崎一
 參事 藤 江 崎一
 ○黃海道(海州邑) 姜 弼 成
 參事 姜 弼 成
 內務部長 李 基 枋
 警察部長 李 基 枋
 ○平安南道(平壤府) 上 內 彦策
 參事 上 內 彦策
 內務部長 朱 榮 煥
 警察部長 朱 榮 煥
 ○平壤府 白 石 光治郎
 參事 白 石 光治郎
 ○平壤府 矢 野 桃郎
 參事 矢 野 桃郎
 ○平壤府 坂 本 官藏

○平安北道(新義州府)

知事 美座 流石
參事官 崔益 夏
內務部長 關口 聰
警察部長 服部 伊勢松
△新義州府尹 村上 耻巳
○江原道(春川邑)

臺灣總督府(臺北市)

總督 小林 躋造
總務長官 森岡 二郎
秘書官 中村 寬
同(兼) 須田 一三三
人事課長(兼) 山本 眞平
文書課長 須田 一三三
審議室 山本 眞平
外事課長 山本 龍起
法務課長 中村 八十一
會計課長(兼) 山岸 金三郎
調查課長(兼) 山本 眞平
督察課長 井手 薫
△臨時勢調查部 部長 森岡 二郎
副部長 二見 直三
同 內務局長 山縣 三郎
同 內務局長 山縣 三郎
局長 山縣 三郎
地方課長 西村 高兄
地理課長(兼) 西村 高兄
土木課長 石川 定俊
△臺北觀測所(臺北市) 所長 西村 傳三

△高雄海洋觀測所(高雄市)

所長 白鳥 勝義
△阿里山高山觀測所(臺南州嘉義郡) 所長(兼) 西村 傳三
○文教局 局長 島田 昌勢
學務課長 廣谷 致貞
社會課長 廣谷 隆夫
編輯課長 三屋 靜
△博物館長(兼) 慶谷 隆夫
○財務局 局長 嶺田 丘造
主計課長 中島 一郎
金庫課長 山岸 金三郎
稅務課長 江藤 昌之
○殖產局 局長 田端 幸三郎
特產課長 奧田 達郎
農務課長 一番ヶ瀬 佳雄
商工課長 井田 憲次
水產課長(兼) 松野 孝一
山林課長(兼) 劉明 孝一
礦務課長(兼) 玉手 亮一
米穀課長 松野 孝一
水產講習所長 劉明 朝

天然瓦斯研究所長(兼)

田端 幸三郎
○警務局 局長 二見 直三
衛生課長 加藤 重喜
理番課長 鈴木 秀夫
保安課長 橋爪 清人
警務課長 細井 英夫
○臺灣總督府評議會 會長 總督 小林 躋造
副會長 總務長官 森岡 二郎
○臺灣國立公園委員會 會長 總督 小林 躋造
副會長 總務長官 森岡 二郎
○高等法院 院長 齊藤 三郎
○臺中地方法院 院長 齊藤 三郎
○臺北地方法院 院長 齊藤 三郎
○臺南地方法院 院長 齊藤 三郎
○臺南地方法院 檢察官長 伊藤 兼吉

○交通部

總長 泊 武治
總務課長 松浦 信次
道路港灣課長 松本 虎太
鐵道部長事務取扱(兼) 泊 武治
通信部長 戶水 昇
專賣局長 今川 潤
局長 木原 圓次
鹽課長 佐々波 外七
煙草課長 高橋 友吉
酒課長 樋口 友吉
○基隆稅關(基隆市) 稅關長 小林 長彦
監視部長 宮尾 五郎
庶務課長(事務取扱) 小林 長彦
檢查課長 西村 信一
○高雄稅關(高雄市) 稅關長 坂口 主悅
監視部長 劉茂 雲
檢查課長 坂田 國助
○臺北帝國大學 總長 三田 定則
文政學部長 矢野 禾積

理農學部長

山根 甚信
醫學部長 三田 定則
附屬農林專門部主事 八谷 正義
附屬醫學專門部 主事事務取扱 三田 定則
○臺北高等商業學校 校長 遠藤 壽三
○臺南高等工業學校 校長 若槻 道隆
○臺北高等學校 校長 谷本 清心
○臺北第一師範學校 校長 大浦 精一
○臺北第二師範學校 校長 藤谷 芳太郎
○臺中師範學校 校長 松谷 治平
○臺南師範學校 校長 本田 乙之進
○警察官及司獄官練習所 所長 警務局長 二見 直三
○圖書館 館長 山中 樵
○成德學院(臺北州七星郡) 院長 許濶 義房

○松山療養所(臺北州七星郡)

所長 新免 勝
○榮生院(臺北州新莊郡) 院長 上川 豐
○榮神院 院長 加藤 重喜
中央研究所(臺北市幸町) 所長 總務長官 森岡 二郎
農務部長 澁谷 紀三郎
林業部長 關 文彦
工業部長 中澤 亮治
衛生部長 三田 定則
庶務課長 安達 左京
○糖業試驗所(臺南市竹篙厝) 所長 岡田 幸生
○臺北州(臺北市) 知事 藤田 偶治郎
內務部長 三輪 幸助
警務部長 佐々木 金太郎
港務部長(兼) 佐々木 金太郎
△臺北市尹 石井 龍猪
△基隆市尹 川添 修平
○新竹州(新竹市) 知事 赤堀 鐵吉
內務部長 森田 俊介
警務部長 樂滿 金次

△新竹市尹

池田 斌
○臺中州(臺中市) 知事 松岡 一衛
內務部長 佐治 孝德
警務部長 中平 昌
△臺中市尹 藤田 淳敦
△彰化市尹 安陸院 貞熊
○臺南州(臺南市) 知事 川村 直岡
內務部長 鶴友 彦
警務部長 西村 德一
△臺南市尹 古澤 勝之
△嘉義市尹 伊藤 英三
○高雄州(高雄市) 知事 內海 忠司
內務部長 高橋 逸人
警務部長 高橋 尚秀
港務部長(兼) 高橋 尚秀
△高雄市尹 松尾 繁治
△屏東市尹 宗藤 大隆
○臺東廳(臺東街) 廳長 大野 誠三
○花蓮港廳(花蓮港街) 廳長 藤村 寬太
○澎湖廳(馬公街) 廳長 福元 岩吉

關東局 (滿洲國新京)

○總長 武部 六藏
 ○官房 山中 德二
 ○秘書課長 御野 信市
 ○文書課長 三浦 直彦
 ○司政部長 大塚 喜一
 ○部長 杉村 正
 ○財政課長 成田 政次
 ○行政課長 山中 德二
 ○殖産課長(兼) 田中 靜壹
 ○警務部長 田中 靜壹
 ○警務課長 青木 重信
 ○警備課長(事務取扱) 田中 靜壹
 ○高等警察課長(兼) 青木 重信
 ○衛生課長 小坂 隆雄
 ○監理部長 田中 信良
 ○交通課長事務取扱 田中 信良
 ○選信課長(兼) 伊藤 敏行
 ○關東州廳(旅順市)

長官 御影池 辰雄
 △長官官房 鹽谷 末吉
 △會計課長 荒木 和成
 △内務部長 白石 喜太郎
 △部長 農工水産課長 山口 倭太郎
 農林課長(兼) 山口 倭太郎
 財務課長 石原 次郎
 地方課長 田中 稔
 學務課長 蟻川 久太郎
 土木課長 清水 本之助
 △警察部長 大和田 彌一
 警務課長 井之上 理吉
 高等警察課長(兼) 井之上 理吉
 保安課長 石橋 美之介
 衛生課長(兼) 石橋 美之介
 旅順民政署 安永 登
 大連民政署 米内山 震作
 金州民政署 細川 清
 普蘭店民政署

署長 林田 龍喜
 ○隸子高民政署 富崎 眞
 ○警察官練習所 青木 重臣
 ○高等法院(旅順市) 鹿島 鶴之助
 ○檢察官長 下田 勝久
 ○地方法院(大連市) 中里 勝久
 ○檢察官長(兼) 下田 勝久
 ○海務局長 西澤 久雄
 ○海事課長 松岡 太郎
 ○港務課長 江原 幹三
 ○庶務課長 河合 務
 ○觀測所(大連市) 草間 茂登
 ○刑務所(旅順市) 宮崎 德安
 ○選信局長 伊藤 敏行
 ○局長 宮本 武夫
 ○監督課長 石田 勝英
 ○經理課長 金子 勝榮
 ○電氣課長 中里 末雄

大連貯金管理所所長 小島 榮次郎
 大連飛行場長 石橋 健
 ○專賣局長(兼) 米内山 震作
 ○局長 笹川 辰治
 ○業務課長 森岡 謙一郎
 ○農事試驗場 中富 貞夫
 ○水産試驗場 姉帶 定助
 ○鹽業試驗場 菅理 是夫
 ○場長 菅理 是夫
 ○植物檢査所 中富 貞夫
 ○種馬所 岩崎 庄作
 ○旅順博物館 今井 順吉
 ○旅順圖書館 今井 順吉
 ○旅順體育研究所 今井 順吉
 ○關東工科大学 巖川 久太郎
 ○旅順師範學校 野田 清一郎

樺太廳 (豊原町)

校長 板倉 操平
 ○旅順女子師範學校 丸山 英一
 ○校長官房 今村 武志
 ○秘書課長 山田 容義
 ○調查課長 本山 修策
 ○内務部長 武藤 公平
 ○殖産部長 厚地 法人
 ○警務部長 中村 警祐
 △支廳長 北村 得三
 豊原 堀安 次郎
 大泊 杉野 健男
 本斗 河井 智茂
 眞岡 肥後 龍夫
 泊居 坂本 只次
 元泊 坂本 只次
 數香 薄木 希二郎
 ○交通部長 伊藤 正良
 ○鐵道事務所長 草野 虎一

○觀測所 重富 剛策
 ○中央試驗所 三宅 康次
 長官 (パラオ諸島コロール島)
 ○秘書課長 北島 謙次郎
 ○文書課長(兼) 古川 武二郎
 ○調查課長 古川 武二郎
 ○内務部長 堂本 貞一
 ○地方課長 黒部 潔
 ○財務課長 堤 武雄
 ○警務課長 森 直太郎
 ○土木課長 田吹 行雄
 ○拓殖課長 高橋 進太郎
 ○農林課長 高坂 喜一
 ○交通課長 渡邊 謙次郎
 ○商工課長 中村 涉
 ○水産課長(兼) 高坂 喜一
 ○選信課長
 ○パラオ支廳
 ○サイパン支廳
 ○支廳長 依光 重親

○ボナベ支廳 田中 茂
 ○支廳長 小林 喜代一
 ○トラツク支廳 山本 繁藏
 ○支廳長 川崎 英男
 ○觀測所 石川 香次
 ○高等法院 江崎 政行
 ○高等法院檢察局 江崎 政行
 ○パラオ地方法院 石川 香次
 ○院長(兼) 江崎 政行
 ○パラオ地方法院檢察局 江崎 政行
 ○サイパン地方法院 柳田 太郎
 ○サイパン地方法院檢察局 吉永 廣衛
 ○ボナベ地方法院 奥野 彦六郎
 ○ボナベ地方法院檢察局 江崎 政行
 ○ボナベ支廳 井關 鼎

○アンガウル醫院 中尾 正雄
 ○ヤツプ醫院 長崎 協三
 ○サイパン醫院 藤井 秀旭
 ○トラツク醫院 最上 泰
 ○ボナベ醫院 藤井 保
 ○ヤルト醫院 村田 帶雲
 ○南洋熱帶産業研究所 蘆澤 安平
 ○同 サイパン支所 山中 一郎
 ○同 同 星野 守太郎
 ○同 同 星野 守太郎
 ○警視總監 齊藤 樹
 ○官房 村田 五郎
 ○官房主事 岸本 太郎
 ○文書課長(警部) 鈴木 匡
 ○情報課長(兼) 鈴木 匡

會計課長(警部)根本 英治
 第一方面擔當 山下 豐
 第二方面擔當 久井 忠雄
 第三方面擔當 秋山 博
 警務部長 藤岡 長敏
 警務課長 藤原 惠吉
 警衛課長 石原 虎好
 特別警備隊長 保岡 武久
 特別高等警察部 菊池 盛登
 課長 菊池 盛登
 課長 小川 喜一
 外事課長 廣岡 謙二
 特高第一課長 高橋 庸彌
 特高第二課長 永岡 支男
 労働課長 榎本 三郎
 内務課長 羽根 盛一
 検閲課長 水野 薫
 調停課長 服部 直彰
 刑部 服部 直彰
 部長 服部 直彰
 庶務課長(警部)青山 直彰
 家出人收容課(警部)青山 直彰
 捜査第一課長 田多羅 摺志

捜査第二課長 岡崎 英城
 鑑識課長 高木 保三
 防犯課長(警部)(兼) 服部 直彰
 (保安部) 保安課長 松澤 美雄
 交通課長 田中 榮一
 工場課長 豊原 道也
 建築課長 鈴木 宗正
 健康保険課長 石井 新桂
 衛生部 佐藤 新桂
 部長 佐藤 新桂
 衛生課長 重成 格
 衛生課長 岸本 太郎
 警務課長 加藤 寛二郎
 防疫課長 井口 幸海
 獸醫課長 池上 三郎
 衛生検査所長 柿沼 健
 細菌検査所長 大坪 五也
 消防部 伊能 芳雄
 部長 伊能 芳雄
 消防課長 阿部 源藏
 監察課長(兼) 伊能 芳雄
 機械課長 金子 保太郎
 警務練習所 留岡 幸男
 所長(兼) 留岡 幸男

○消防練習所 伊能 芳雄
 所長(兼) 伊能 芳雄
 地方廳 北海道的(札幌市) 石黒 英彦
 長官 留岡 幸男
 警務部長 高辻 武邦
 警務課長 遠山 信一郎
 警務課長 中村 忠充
 警務課長 奥野 定八
 警務課長 土肥 米之
 警務課長 能木 善七
 警務課長 石川 志一
 警務課長 前田 豊次郎
 警務課長 山田 三義
 警務課長 後志 政能
 警務課長 空知 政能
 警務課長 上川 政能
 警務課長 留萌 政能
 警務課長 宗谷 政能
 警務課長 網走 政能
 警務課長 釧路 政能
 警務課長 日高 政能
 警務課長 十勝 政能
 警務課長 釧路 政能

根室 大村 壽
 東京府(麹町區九ノ内) 館 哲二
 警務部長 佐々木 芳遠
 警務課長 多胡 實夫
 警務課長 渡辺 正監
 警務課長 吉岡 計之助
 警務課長 市川 光
 警務課長 大島 支應長
 警務課長 八丈 支應長
 警務課長 小笠原 支應長
 警務課長 東都府(京都市上京區) 鈴木 敬一
 警務課長 橋本 清吉
 警務課長 岩重 隆治
 警務課長 外山 福男
 警務課長 岩崎 雄治
 警務課長 山崎 喜
 警務課長 池田 清
 警務課長 長谷川 透
 警務課長 鈴木 省吾
 警務課長 土居 章平
 警務課長 三輪 周藏
 警務課長 荒木 義夫
 警務課長 神奈川縣(横浜市區) 半井 清

警務部長 中野 善教
 警務部長 中原 啓造
 警務部長 江邊 清夫
 警務部長 横山 喬
 警務部長 島田 昌福
 警務部長 兵庫縣(神戸市神戶區) 岡田 周造
 警務部長 岡田 周造
 警務部長 安岡 正光
 警務部長 奥田 久七郎
 警務部長 石井 錦樹
 警務部長 西義 一
 警務部長 長崎縣(長崎市) 岡田 文秀
 警務部長 岡田 文秀
 警務部長 副見 喬雄
 警務部長 遠藤 直人
 警務部長 小菅 芳次
 警務部長 入江 壽男
 警務部長 大塚 初治
 警務部長 原田 實文
 警務部長 新潟縣(新潟市) 關屋 延之助
 警務部長 關屋 延之助
 警務部長 梁井 淳二
 警務部長 岡利 和
 警務部長 山田 武雄
 警務部長 山田 武雄

警務部長 荒木 榮二
 警務部長 福本 柳一
 警務部長 本間 要
 警務部長 川西 實三
 警務部長 岩上 夫美雄
 警務部長 和田 隆一
 警務部長 武政 隆一
 警務部長 坂信 彌
 警務部長 群馬縣(前橋市) 土屋 正三
 警務部長 安井 章一
 警務部長 川崎 義雄
 警務部長 崎田 義雄
 警務部長 石原 專一
 警務部長 千葉縣(千葉市) 多田 安信
 警務部長 上田 誠一
 警務部長 川井 章知
 警務部長 清水 虎雄
 警務部長 田中 省吾
 警務部長 茨城縣(水戸市) 林 信夫
 警務部長 今松 治郎
 警務部長 山崎 隆義
 警務部長 井上 文介

警務部長 沖野 悟
 警務部長 松村 光磨
 警務部長 北星 善從
 警務部長 宮崎 謙太
 警務部長 星子 政雄
 警務部長 久安 博忠
 警務部長 奈良縣(奈良市) 三島 誠也
 警務部長 八田 三郎
 警務部長 床次 德二
 警務部長 乾武 秀夫
 警務部長 青木 秀夫
 警務部長 三重縣(津市) 安藤 狂四郎
 警務部長 藤野 英
 警務部長 關口 勳
 警務部長 松木 茂一
 警務部長 町村 誠一
 警務部長 加藤 誠一
 警務部長 愛知縣(名古屋) 田中 廣太郎
 警務部長 足立 浩
 警務部長 永井 浩
 警務部長 高野 源進
 警務部長 山口 十一郎

警務部長 早川 元
 警務部長 飯沼 一省
 警務部長 中里 喜一
 警務部長 刀彌 有秋
 警務部長 岡田 包義
 警務部長 關谷 新造
 警務部長 生悦馬 求馬
 警務部長 山梨縣(甲府市) 藤原 孝夫
 警務部長 久保 田
 警務部長 浦長 貞四郎
 警務部長 石川 貞四郎
 警務部長 桃井 直美
 警務部長 滋賀縣(大津市) 平 敏彦
 警務部長 内藤 三郎
 警務部長 渡邊 信男
 警務部長 福光 正義
 警務部長 岡本 茂
 警務部長 岐阜縣(岐阜市) 宮野 省三
 警務部長 宮村 才一郎
 警務部長 高野 長春
 警務部長 田中 進
 警務部長 重田 忠保

△飛騨支廳長 前名 三藏
 長野縣(長野市) 近藤 駿介
 總務部長 出石 於鬼彦
 學務部長 物部 薰郎
 經濟部長 上原 參良
 土木部長 土肥 憲二郎
 警察部長 西廣 忠雄
 宮城縣(仙台市)
 總務部長 菊山 嘉男
 學務部長 永安 百治
 經濟部長 水谷 秀雄
 土木部長 工藤 鐵太郎
 警察部長 大石 巖
 福島縣(福島市)
 總務部長 井田 完二
 學務部長 君島 清吉
 經濟部長 眞崎 長年
 警察部長 和田 眞臣
 岩手縣(盛岡市)
 總務部長 雪澤 千代治
 學務部長 柳井 義男
 警察部長 伊藤 謹二

經濟部長 古城 資吉
 警察部長 高島 宇一郎
 △下閉伊支廳長 宮川 宇一郎
 青森縣(青森市)
 總務部長 小河 正儀
 學務部長 小田 光伴
 經濟部長 堀田 喜一郎
 警察部長 手島 長吉
 山形縣(山形市)
 總務部長 武井 群嗣
 學務部長 熊野 周二
 經濟部長 藤澤 喜久郎
 警察部長 田村 浩平
 秋田縣(秋田市)
 總務部長 辻山 治平
 學務部長 本間 精
 經濟部長 久慈 學
 警察部長 伊藤 久松
 酒井 榮吉
 福井縣(福井市)
 總務部長 羽生 雅則
 學務部長 松崎 陽一
 警察部長 高橋 一郎

警察部長 關 外全男
 石川縣(金澤市)
 總務部長 兒玉 政介
 學務部長 白戸 半次郎
 經濟部長 山口 乾治
 警察部長 中川 剛毅
 富山縣(富山市)
 總務部長 土岐 銀次郎
 學務部長 小早川 貞登
 經濟部長 坂田 啓造
 警察部長 佐伯 敏男
 鳥取縣(鳥取市)
 總務部長 立田 清辰
 學務部長 清水 谷徹
 經濟部長 上村 靖
 警察部長 龍野 喜一郎
 島根縣(松江市)
 總務部長 三樹 樹三
 學務部長 並川 義隆
 經濟部長 新見 俊介
 警察部長 藤野 英陽
 鳥取縣(松江市)
 總務部長 坂根 繁雄

岡山縣(岡山市)
 總務部長 伊藤 武彦
 學務部長 矢野 兼三
 經濟部長 高橋 三郎
 警察部長 長谷川 公一
 廣島縣(廣島市)
 總務部長 富田 愛次郎
 學務部長 淵上 房太郎
 經濟部長 中村 元治
 警察部長 鈴木 備藏
 山口縣(山口市)
 總務部長 戶塚 九一郎
 學務部長 白井 義隆
 經濟部長 平本 義隆
 警察部長 奥田 茂造
 和歌山縣(和歌山市)
 總務部長 吉永 時次
 學務部長 中島 知道
 經濟部長 小田 成就
 警察部長 廣田 増太郎
 △東牟婁支廳長 木野 富太郎

德島縣(德島市)
 總務部長 清水 良策
 學務部長 後藤 耕造
 經濟部長 横山 一俊
 警察部長 柴山 吾博
 香川縣(高松市)
 總務部長 佐藤 正俊
 學務部長 稻垣 潤太郎
 經濟部長 乾伊 太郎
 警察部長 沖森 源一
 愛媛縣(松山市)
 總務部長 古川 靜男
 學務部長 荒山 隆
 經濟部長 高濱 淳
 警察部長 山田 俊介
 高知縣(高知市)
 總務部長 宮本 平八
 學務部長 網島 覺左衛門
 經濟部長 山田 俊介
 警察部長 宮本 平八
 知事 小林 光政
 總務部長 長橋 茂一
 學務部長 岡本 正一
 經濟部長 渡邊 廣
 警察部長 安田 稔
 △幡多支廳長 高原 早雄

福岡縣(福岡市)
 總務部長 如山 四男美
 學務部長 玉田 昇次郎
 經濟部長 篠山 千之
 警察部長 坂本 義夫
 大分縣(大分市)
 總務部長 栗屋 仙吉
 學務部長 相野田 彌平
 經濟部長 磯部 巖
 警察部長 越野 菊雄
 佐賀縣(佐賀市)
 總務部長 小山 知一
 學務部長 加藤 初夫
 經濟部長 柳川 久雄
 警察部長 柏木 輝夫
 熊本縣(熊本市)
 總務部長 今井 久
 學務部長 藤岡 長和
 經濟部長 小西 竹次郎
 警察部長 西岡 廣吉
 長船 克章
 △天草支廳長 北田 正重

宮崎縣(宮崎市)
 總務部長 相川 利吉
 學務部長 辻内 清二
 經濟部長 引野 重夫
 警察部長 菅野 義郎
 △西白支廳長 西澤 喜義
 △鹿兒島縣(鹿兒島市)
 總務部長 中村 安次郎
 學務部長 山内 義文
 經濟部長 堀野 重光
 警察部長 堀口 功
 △熊本支廳長 西井 孝
 △大分支廳長 江口 義昭
 沖繩縣(那霸市)
 總務部長 藏重 久
 學務部長 森下 重格
 經濟部長 佐藤 幸一
 警察部長 渡邊 龜吉
 △宮古支廳長 松浦 辰雄
 △八重山支廳長 平良 辰雄

市役所
 市長 小橋 一太
 助役 三邊 長治
 助役 藤原 英太郎
 助役 原 全路
 助役 衣斐 清香
 助役 後藤 梯次
 助役 鈴木 榮一郎
 助役 大倉 喜七郎
 助役 中央卸賣市場 船津 新四郎
 助役 電氣研究所(事務取扱) 助役
 文書課長 磯村 英一
 秘書課長 草間 時光
 職員課長 大野 定男

○東京市役所

(麹町區九ノ内)

神田區 日本橋區 芝區 赤坂區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 本所區 深川區 品川區 荏原區 大森區 蒲田區 世田谷區 澁谷區 中野區 杉並區

長 中屋重治 宮尾時三 川口寬三 荳場順治 守屋正二 間宮龍真 宮澤文作 土生文之助 城澤龜吉 市川守吉 井上桂 工藤隆治 筒井茂也 穴澤藤作 三好毅 千葉胤次 大杉功 服部鶴五郎 岡崎榮松 三宅龜吉 高田賢次郎 馬場密藏 大迫元繁 加藤守道 增田守道

市參事會員 西野吉三郎 橫瀨精一 鈴木堅次郎 川田友之 有竹雅巳 本田義成 小坂梅吉 淺沼稻次郎

東京市會議員 (昭和十二年三月十八日選舉) 議長 松永東 副議長 林健 龜町區(定員二) 三輪田元道(市革) 池田清秋(民)

石森勳夫 上田房吉 田淵義雄 早川秋一 福島正守 三村露太郎 杉本謙治 小島武人 蓮田琴次郎 安田三次

神田區(定員六) 中村高一(社大) 近藤次繁(市革) 桑原信助(政) 深澤豐太郎(政) 坂下卯三郎(民) 鈴木正之助(民)

日本橋區(定員五) 渡邊明(政) 石島參郎(民) 平尾東策(民) 細田綱吉(社大) 小幡敏男(政)

京橋區(定員六) 篠原虎之輔(政) 黑田保次(中立) 小坂梅吉(民) 早川庄太郎(政) 柴崎輔(民) 富田富次郎(國盟)

芝區(定員七) 高橋義次(民) 中塚榮次郎(民) 矢田直三(民) 鹽坂雄策(民) 畔高定行(政)

麻布區(定員三) 林武一(社大) 黑井直良(民) 染谷關太郎(民) 佐藤信一郎(民) 石原美行(社大)

赤坂區(定員二) 中西敏二(民) 羽田如雲(民)

四谷區(定員三) 本田義成(政) 道家齊一郎(市革) 橋本祐幸(民)

牛込區(定員四) 島田辰太郎(政) 菊池民一(民) 橫川春野(政) 溝口信(民)

小石川區(定員五) 安部磯雄(社大) 川口壽(政) 井上卓一(政) 松永東(民) 荒木文太郎(民)

本郷區(定員五) 友成四(郎民)

高久清一(社大) 萩原利右衛門(政) 安部利七(民) 大島正德(市革) 下谷區(定員七) 長野高一(民) 小澤佐重喜(民) 伊木寅雄(政) 小野利三郎(政) 森富太(民) 倉持忠助(政) 佐伯健(社大) 淺草區(定員九) 茂木太市(民) 松崎權四郎(政) 吉田眞一郎(民) 伊藤仁太郎(政) 大久保重直(民) 上條貞(民) 泉留吉(社大) 加藤榮助(民) 有竹雅巳(民) 本所區(定員九) 山田竹治(民) 阿部茂夫(社大) 瀧澤七郎(政)

品川區(定員五) 大橋清太郎(民) 石原永明(政) 松原傳吉(政) 石山賢吉(市革) 西本啓(民)

目黒區(定員四) 加藤勘十(日無) 高梨二男(社大) 島崎七郎(政) 神山鏡五郎()

荏原區(定員三) 森兼道(民) 精屋磯平(國盟) 井田左平(政) 小野孝行(民) 坂本一角(政) 小椋善夫(民) 淺沼稻次郎(社大) 本多市郎(中立) 廣瀬新平(民) 宮村龜一(民) 一又安平(政) 中西雄洞(民) 卯木國三郎(民)

安平鹿一(日無) 鈴木小平次(政) 石井良太郎(民) 原虎一(社大) 橫溝直也(民) 松野喜内(市革) 平林淺次郎(政) 杉崎欽八(民) 吉田直治(民) 仙波虎五郎(政) 藤卷多一(社大) 丸山鶴吉(市革) 川田友之(政) 關口彌三郎(民) 北田一郎(日無) 吉峰誠一(政) 廣川弘(政) 東舜英(民) 鈴木堅次郎(民) 吉川末次郎(社大) 萩島茂留(政)

中野區(定員三) 佐藤榮志(政) 曾我祐邦(市革) 小針孫太郎(民) 森俊成(政) 花村四郎(政) 小池長太郎(政) 内田秀五郎(政) 平野學(社大) 三上英雄(政) 鈴木茂三郎(日無)

豐島區(定員六) 菊池寛(市革) 中村梅吉(民) 須藤喜三郎(民) 爲藤五郎(社大) 山口玉造(政) 佐藤德松(中立)

瀧野川區(定員三) 橫瀬精一(國盟) 西田秀雄(社大) 折本勝治(政) 荒川區(定員八) 遠山丙市(民) 山口久太郎(政)

公爵議員

職員錄—貴族院議員

北久通宮 東久通宮 朝香宮 朝香宮 久通宮 梨本宮 賀陽宮 山階宮 伏見宮 伏見宮 三笠宮 高松宮 秩父宮 皇 長伯 松平 賴壽 副議長 侯 佐佐木 行忠

貴族院議員

(昭和十二年九月一日現在貴族院事務局開)

伯爵議員

岩倉具榮(火) 伊藤博精(火) 一條實孝(火) 德川家達(火) 德川實順(火) 德川實孝(無) 大寺實孝(無) 鷹司信輔(火) 九條道秀(火) 山縣有道(火) 近衛文麿(火) 西園寺公望(無) 三條公輝(火) 島津忠重(火) 島津忠承(火) 毛利元昭(無) 井上三郎(火) 池田仲博(火) 池田宣政(火) 池田宣正(火) 細川護立(火) 東鄉彪(火) 德川義親(火) 德川義貞(火) 大久保利武(研)

伯爵議員

大隈信常(火) 華頂博信(無) 醍醐忠重(無) 伊達宗彰(火) 筑波藤麿(火) 鍋島直映(火) 中山輔親(火) 中御門經恭(火) 中野鎮之助(火) 野田長成(研) 黑田景成(研) 山內芳麿(火) 山階芳麿(火) 山階利昌(火) 前田康昌(火) 松平昌昌(火) 久我通顯(火) 小村捷治(火) 小野輝久(無) 淺野長之(火) 西郷從德(火) 西郷公勝(火) 佐竹義春(火) 木戶幸一(火) 菊亭公長(火) 四條隆愛(火) 廣橋忠隆(火)

子爵議員

林博太郎(研) 橋本實斐(研) 堀田正恒(研) 川村鐵太郎(研) 榊原三太郎(研) 柳田義光(研) 山田英夫(研) 松本宗隆(研) 二荒芳德(研) 後藤秀一(研) 兒玉秀雄(研) 有馬頼寧(研) 酒井忠克(研) 酒井忠正(研) 溝口直亮(研) 岩城隆德(研) 伊藤二郎丸(研) 井上勝純(研) 井上匡四郎(研) 今城定政(研) 池田政時(研) 伊集院兼知(研) 西大路吉光(研) 西尾忠方(研)

水都宮 宇都宮 足利宮 杉木宮 奈良宮 津島宮 四日市 宇治山田 桑名 松阪 豐橋 岡崎 一宮 瀨戶 靜岡 濱松 沼津 清水 熱海 甲府 大津 大根 彦根 岐阜 高野 長野

職員錄—市長一覽

中時俊秀 河合慶四郎 赤土正強 神原經武 石原善三郎 堀川美哉 吉田勝太郎 齋藤眞激 貝塚榮之助 和田榮三郎 神戶小三郎 菅野經三郎 菅野經三郎 森林右工門 泉崎三郎 尾崎元次郎 橫光吉規 森田泰次郎 山田勝四郎 樋口修次 齋木逸造 堀田義次郎 木島茂 松尾國松 東島卯八 直井佐兵衛 (缺)

松本 上谷 岡田 飯田 仙臺 石卷 福島 若松(福島) 郡山 平岡 盛岡 釜石 釜石 弘前 八戸 山形 米澤 鶴岡 酒田 秋田 福井 敦賀 金澤 富山 高岡 鳥取

百瀬與政 成澤伍一郎 今井悟樓 野原文四郎 野原德三郎 佐藤眞平 佐藤眞平 佐藤剛 村井八郎 青沼錄太郎 大矢馬太郎 小野寺有一 千野傳藏 石郷岡文吉 神田重雄 大沼保吉 登坂又藏 熊田周八 中里重吉 鈴木安孝 齋藤直桶 (缺) 澤野外茂次 山崎定義 堀城嘉一

米子 松江 岡山 倉敷 津島 廣島 吳 尾道 福山 三原 下關 宇部 山口 萩 德島 防府 和歌山 新宮 海南 德島 高松 丸龜 松山 今治 宇和 八幡濱

西尾常彦 石倉俊寬 石原市三郎 古屋橋衛 有元史郎 橫山金太郎 水野甚次郎 齋藤勘治 中野有光 波邊庄三郎 松井信助 紀藤閉之介 高橋忠治 古屋武助 本城嘉守 武光嘉一 田口易之 島幸之助 柳五郎 藤岡直兵衛 富家清三郎 大柏久吉 井上久吉 村上紋四郎 赤松三郎 西村彌三郎

高岡 福留米 久留米 門司 小倉 若松 大車田 八幡 八幡 直方 飯塚 大分 別府 中津 佐賀 唐津 藤津 宮崎 都城 延岡 鹿兒島 那霸 首里 豐原

川淵治馬 久世庸夫 石野斐夫 後藤多喜藏 百濟文輔 田中無事生 前田慎吾 圓師兼武 鶴田兼武 勝野重吉 猪野龜次 朝吹龜三 小野吉太郎 竹岡吉太郎 橋爪茂 西山康 根井久吾 曾木重貴 (缺) 伊地知四郎 金城紀光 高安玉兔 北村得三 (×は代理又は職務暫行)

職員錄——貴族院議員

西四辻 公亮(研) 保科 正昭(研) 豐岡 圭資(研) 戶澤 正己(研) 土岐 章(研) 富小路 隆直(研) 大河内 輝耕(研) 大久保 立(研) 岡部 長景(研) 織田 信恒(研) 渡邊 千冬(研) 加藤 泰通(研) 片桐 貞央(研) 米津 政賢(研) 吉田 清風(研) 谷 儀一(研) 立花 種忠(研) 高橋 是賢(研) 高倉 篤磨(研) 高木 正得(研) 立見 豊丸(研) 冷泉 爲勇(研) 曾我 祐邦(研) 鍋島 直綱(研) 裏松 友光(研)

梅園 篤彦(研) 梅小路 篤彦(研) 植村 家治(研) 野村 益三(研) 前田 利定(研) 松平 忠壽(研) 松平 直平(研) 松平 乘統(研) 松平 康春(研) 松平 保男(研) 松平 廣城(研) 增山 正興(研) 舟橋 清賢(研) 缺 清賢(研) 米田 國臣(研) 青木 信光(研) 綾小路 護(研) 秋田 重季(研) 秋月 種英(研) 秋元 春朝(研) 安藤 信昭(研) 實吉 純郎(研) 清岡 長言(研) 京極 高修(研) 水無瀬 忠政(研) 三室戸 敬光(研)

男爵議員

三島 通陽(研) 白川 資長(研) 新庄 直知(研) 毛利 元恒(研) 岩倉 一木(公) 岩倉 道俱(公) 伊藤 文吉(公) 伊藤 馨楠(公) 井田 昌植(公) 井上 清純(公) 今國 貞規(公) 今枝 直規(公) 伊江 朝助(公) 飯田 精太郎(公) 原田 熊雄(公) 橋本 正輝(公) 東郷 喜安(公) 德川 基連(公) 長川 大太郎(公) 小畑 成元(公) 大藏 公望(公) 大森 佳一(公) 奧田 剛郎(公)

神貞 貞男(公) 渡邊 汀(公) 渡邊 修二(公) 加藤 成之(公) 金子 有道(公) 郷誠之助(公) 高崎 弓彦(公) 高木 喜寬(公) 園田 武彦(公) 辻 太郎(公) 鍋島 直明(公) 中村 謙一(公) 中島 久萬吉(無) 黑田 長和(公) 山根 健男(公) 矢吹 省三(公) 安場 保德(公) 松岡 均平(公) 松尾 義夫(公) 松田 正之(公) 松平 外與廣(公) 前田 勇(公) 深尾 隆太郎(公) 福原 俊丸(公) 近藤 滋彌(公) 安保 清種(公)

貴族院令第一條第四號二依ル議員

有地 藤三郎(公) 赤松 範一(公) 足立 豊(公) 淺田 良逸(公) 佐藤 達次郎(公) 阪谷 芳郎(公) 阪本 俊篤(公) 紀 俊秀(公) 北河原 公平(公) 北島 貴孝(公) 菊池 武夫(公) 肝付 兼英(公) 三須 精一(公) 柴山 昌生(公) 東久世 秀雄(公) 關 義壽(公) 千田 嘉平(公) 千秋 季隆(公) 周布 兼道(公) 杉溪 由言(公)

稻畑 勝太郎(和) 今井 五介(研) 伊澤 多喜男(同) 今井田 清德(無) 馬場 鏡一(研) 八田 嘉明(研) 橋本 圭三郎(交) 坂西 利八郎(研) 林 頼三郎(研) 仁井田 益太郎(和) 西野 元(研) 堀切 善次郎(研) 堀切 善次郎(研) 朴 泳孝(無) 德富 猪一郎(和) 小幡 西吉(和) 大橋 新太郎(研) 大橋 八郎(研) 大谷 尊由(研) 大塚 政弘(研) 太田 惟精(研) 大塚 健一(和) 岡喜七郎(交) 岡田 文次(和) 織田 萬(和) 小野寺長治郎(和)

小原 直(和) 小倉 正恒(研) 若林 資藏(研) 若尾 璋八(交) 若槻 禮次郎(和) 渡邊 暢(無) 和田 彦次郎(交) 川上 親晴(同) 河村 竹治(交) 川村 資英(無) 柳山 政之助(同) 加藤 幾之進(和) 門野 謙吉(和) 各務 治五郎(和) 嘉納 英五郎(研) 金杉 茂(無) 吉田 茂(無) 芳澤 謙吉(交) 田所 美治(和) 高田 早苗(同) 武富 時敏(同) 竹越 與三郎(交) 田澤 義鋪(無) 塚本 清治(同) 次田 大三郎(同) 根津 嘉一郎(研)

內藤 久寬(研) 長岡 隆一郎(交) 中川 小十郎(交) 中川 健藏(同) 永田 秀次郎(和) 中村 純九郎(交) 室田 義文(交) 內田 重成(交) 鶴澤 總明(交) 宇佐美 勝夫(和) 潮 惠之輔(研) 野村 德七(和) 黑田 英雄(無) 黑崎 定三(研) 倉知 鐵吉(和) 山岡 萬之助(研) 山川 端夫(研) 山本 達雄(交) 丸山 鶴吉(同) 松井 慶四郎(無) 松井 茂(和) 松村 義一(公) 松村 眞一郎(研) 松浦 鎮次郎(和) 松本 學(研) 松本 丞治(無)

職員錄——貴族院議員

職員録——貴族院・衆議院議員

眞野 文二(和)
藤原 銀次郎(研)
藤沼 庄平(研)
藤山 雷太(研)
二上 兵治(無)

水野 鍊太郎(交)
南 弘(交)
宮尾 舜治(研)
宮田 光雄(研)
三宅 秀(同)

島根 絲原 武太郎(研)
北海道 板谷 宮吉(研)
佐賀 石川 三郎(研)
山口 林 平四郎(交)

山梨 名取 忠愛(研)
愛媛 仲田 傳之松(研)
靜岡 中村 圓一郎(研)
熊本 長野 忠次(研)

衆議院議員

(昭和十二年九月二日第
七十二議會開會前現在)

議長 小山 松壽(愛知第一區)
副議長 金光 庸夫(大分第一區)
第一區(五人) 河野 密(社大)
高橋 義次(民)
本田 義成(政)

第五區(五人) 麻生 久(社大)
斯波 貞吉(民)
牧野 曉男(政)
第六區(五人) 鈴木 文治(社大)
山田 清(民)
田中 源(政)

鈴木 英雄(政)
第一區(四人) 松永 東(民)
高橋 泰雄(政)
第二區(四人) 高橋 守平(民)
石坂 養平(政)

職員録——衆議院議員

廣島 水野 甚次郎(交)
山形 三浦 新七(和)
徳島 三木 與吉郎(研)
新潟 白勢 春三(研)

群馬 澁澤 金藏(交)
愛知 下出 民義(交)
神奈川 平沼 亮三(同)
沖繩 平尾 喜三郎(研)

大分 久恒 貞雄(交)
大阪 森 平兵衛(研)
岩手 瀨川彌右衛門(無)
静岡 鈴木 幸作(研)

備考 人名の下括弧内、火は火曜會、
研は研究會、公は公友會、和は同和會、
同は同成會、交は交友俱樂部、無は無所
屬の略

第一區(四人) 多田 滿長(民) 篠原 陸郎(民) 成島 勇(民) 川島正次郎(政) 第二區(三人) 今井 健彦(政) 吉植 庄亮(政) 宇賀 四郎(民) 第三區(四人) 岩瀬 亮(政) 小高長三郎(政) 土屋清三郎(民) 池田 清秋(民) 茨城縣 第一區(四人) 内田 信也() 中崎 俊秀(民) 豐田 豊吉(民) 葉梨新五郎(政) 第二區(三人) 中井川 浩(民) 川崎 巳之太郎(政) 大内竹之助(政) 第三區(四人) 風見 章(中立) 赤城 宗徳(中立) 佐藤洋之助(政) 飯村 五郎() 栃木縣 第一區(五人) 船田 中(政) 高田 耘平(民) 坪山 徳彌(政) 江原 三郎(政) 岡田喜久治(民) 第二區(四人) 森下 國雄(民) 松村 光三(政)

小平 重吉(政) 木村 淺七(民) 宮城縣 第一區(五人) 内ヶ崎作三郎(民) 菊地養之輔(社大) 庄司 一郎(政) 守屋 榮夫() 宮澤 清作(政) 第二區(三人) 村松 久義(民) 小山谷之助(民) 大石 倫治(政) 福島縣 第一區(三人) 栗山 博(民) 釘本 衛雄(民) 菅野善右衛門(政) 第二區(五人) 八田 宗吉(政) 仲西 三良(民) 助川啓四郎(政) 林 平馬(民) 中野 寅吉() 第三區(三人) 比佐 昌平(民) 星 一(政) 山田 六郎(民) 岩手縣 第一區(三人) 田子 一民(政) 高橋壽太郎(民) 八角 三郎(政) 第二區(四人) 泉 國三郎(政) 松川 昌蔵(政)

鶴見 祐輔(民) 志賀和多利(政) 青森縣 第一區(三人) 小笠原八十美(政) 工藤 鐵男(民) 森出重次郎(民) 第二區(三人) 小野謙一(東方) 小野謙三(政) 秋田縣 第一區(四人) 町田 忠治(民) 信太儀右衛門(民) 中田 儀直(政) 中川 重春(民) 第二區(三人) 川俣 清香(社大) 小山田義孝(政) 土田 莊助(民) 山形縣 第一區(四人) 木村 武雄(東方) 高橋熊次郎(政) 西方 利馬(政) 佐藤 啓(國盟) 第二區(四人) 松岡 俊三(政) 熊谷 直太(政) 伊藤 五郎(民) 清水徳太郎(民) 北海道 第一區(四人) 山本 厚三(民) 板谷 順助(政) 澤田 利吉(民) 一柳仲次郎(民)

第二區(四人) 東 武(政) 林 路一() 坂東幸太郎(民) 松浦周太郎(民) 第三區(三人) 大島 寅吉(民) 渡邊 泰邦(東方) 田代 正治(政) 第四區(五人) 赤松 克磨(日革) 手代木隆吉(民) 北 勝太郎(中立) 岡田 春夫(民) 南條 徳男(政) 第五區(四人) 遠山 房吉(民) 木下成太郎(民) 東條 貞(政) 南雲 正朔(民) 新潟縣 第一區(三人) 北 吟吉(民) 松井 郡治(民) 山本悌二郎(政) 第二區(四人) 高岡 大輔(國盟) 佐藤 與一(民) 松木 弘(民) 小柳 牧衛(政) 第三區(五人) 三宅 正一(社大) 大竹 貫一(國盟) 加藤 知正(政) 今成留之助(民) 佐藤謙之輔(民) 第四區(三人) 武田徳三郎(政) 増田 義一(民)

川合 直次(民) 長野縣 第一區(三人) 松本 忠雄(民) 丸山辨三郎(政) 田中 邦治(民) 第二區(三人) 小山邦太郎(民) 小山 亮(中立) 羽田武嗣郎(政) 第三區(四人) 宮澤 胤勇(民) 北原阿智之助(日) 原 謹司(中革) 第四區(三人) 植原悦二郎(政) 野溝 勝(社大) 田中 耕(養正) 百瀬 渡(民) 山梨縣 全縣一區(五人) 田邊 七六(政) 平野 力三(皇道) 笠井 重治(中立) 堀内 良平(民) 今井 新造(中立) 靜岡縣 第一區(五人) 山田 順策(民) 深澤豊太郎(政) 山口忠五郎(政) 平野 光雄(民) 宮本雄一郎(政) 第二區(四人) 山崎 勉二(社大) 鹽川 正蔵(政)

高木桑太郎(民) 春名 成章() 第三區(四人) 太田 正孝(政) 津倉 龜作(民) 倉元 要一(政) 坂下仙一郎(民) 愛知縣 第一區(五人) 塚本 三(民) 小山 松壽(民) 服部 崎市(民) 椎尾 辨匡(中立) 山崎 常吉(日革) 第二區(三人) 安藤 孝三(日革) 樋口善右衛門(政) 丹下茂十郎(政) 第三區(三人) 加藤 調一(民) 瀧 正雄(中立) 渡邊玉三郎(民) 第四區(三人) 大野 一造(民) 岡本實太郎(民) 小笠原三九郎(政) 第五區(三人) 鈴木 正吾(國盟) 大口 喜六(政) 岐阜縣 第一區(三人) 清 寛(民) 西田 鏡吉(政) 大野 伴陸(政) 第二區(三人) 大野 伴陸(政) 西田 鏡吉(政)

木村作次郎(政)
三田村武夫(東方)
第三區(三人)
牧野 良三(政)
加藤 謙造(社大)
福井縣
全縣一區(五人)
猪野毛利榮(政)
池田七郎兵衛(政)
谷五右衛門()
石川縣
第一區(三人)
永井柳太郎(民)
箸本 太吉(政)
第二區(三人)
櫻井兵五郎(民)
喜多壯一郎(民)
富山縣
第一區(三人)
高見 之通(政)
野村 嘉六(民)
第二區(三人)
卯尾田毅太郎(民)
土倉 宗明(政)
京都府
第一區(五人)
伊藤東一郎(民)
古屋 慶隆(民)
添田敬一郎(民)
齋藤 直橋(民)
長谷 長次(中立)
青山 憲三(政)
寺島 權藏(民)
松村 謙三(民)

水谷長三郎(社大)
福田關次郎(民)
江藤直三郎(政)
第二區(三人)
川崎末五郎(民)
田中 好(政)
第三區(三人)
若田 均(政)
村上 國吉(民)
大 阪 府
第一區(三人)
田万 清臣(社大)
一松 定吉(民)
第二區(三人)
紫安新九郎(民)
井上 良二(社大)
第三區(四人)
塚本 重藏(社大)
内藤 正剛(民)
第四區(四人)
川村保太郎(社大)
中村 福藏(民)
第五區(四人)
杉山元治郎(社大)
田中 万逸(民)
第六區(三人)
中村三之丞(民)
西村金三郎(民)
池本甚四郎(民)
津原 武(民)
板野 友造(政)
山本 芳治(政)
池崎 忠孝(中立)
上田 孝吉(政)
西尾 末廣(社大)
本田彌市郎(民)
勝田 永吉(民)
曾和 義次(政)

井阪 豊光()
南 鼎三(政)
兵庫縣
第一區(五人)
河上丈太郎(社大)
永江 一夫(社大)
濱野徹太郎(民)
第二區(四人)
前田房之助(民)
小林房之助(民)
第三區(三人)
小林 絹治(政)
田中源三郎(政)
第四區(四人)
清瀬 一郎(國盟)
原 惣兵衛(政)
第五區(三人)
齋藤 隆夫(民)
山川頼三郎(政)
和歌山縣
第一區(三人)
松山常次郎(政)
西田 郁平(民)
第二區(三人)
小山 谷藏(民)
竹耕 弘一(政)
松田竹千代(民)
中井 一夫(政)
野田文一郎(民)
米窪 滿亮(社大)
立川 平(政)
河合 義一(社大)
田中 武雄(民)
小畑虎之助(民)
若宮 貞夫(政)
木本主一郎(政)
田淵 豊吉(中立)

奈良縣

全縣一區(五人)
江藤源九郎(日革)
森 榮藏(政)
八木 逸郎(民)
三重縣
第一區(五人)
加藤久米四郎(政)
片岡 恒一(民)
馬岡 次郎(政)
第二區(四人)
尾崎 行雄(中立)
長井 源(民)
滋賀縣
全縣一區(五人)
堤 康次郎(民)
森 幸太郎(政)
服部 岩吉(政)
岡山縣
第一區(五人)
久山 知之(政)
行吉 角治(政)
玉野 知義()
第二區(五人)
小川郷太郎(民)
犬養 健(政)
福井 甚三(政)
松尾 四郎(民)
松田 正一(民)
川崎 克(民)
濱地 文平(政)
濱田 國松(政)
青木 亮貫(民)
田中 養達(東方)

小谷 節夫(政)
廣 島 縣
第一區(四人)
岸田 正記()
名川 侃市(政)
第二區(四人)
木原 七郎(民)
山道 襄一(民)
第三區(五人)
永山 忠則()
作田高太郎(民)
森田 福市(政)
鳥 取 縣
全縣一區(四人)
稻田 直道(政)
三好榮次郎(民)
第一區(三人)
櫻内 幸雄(民)
高橋圓三郎(政)
第二區(三人)
島田 俊雄(政)
沖島 録三(政)
山口縣
第一區(四人)
西川 貞一(政)
古田喜三太(民)
藤内 若水(民)
望月 圭介()
肥田 琢司(政)
土屋 寛(民)
宮澤 裕(政)
山折 儀重(民)
豊田 收()
原 夫次郎(民)
俵 孫一(民)
青木 作雄(東方)

庄 晋太郎(政)
全 區(五人)
西村 茂生(政)
國光 五郎(政)
中野 治介(政)
德 島 縣
第一區(三人)
生田 和平(政)
紅 露 昭(政)
第二區(三人)
眞鍋 勝(民)
三木 武夫(中立)
香 川 縣
第一區(三人)
前川 正一(社大)
宮脇 長吉(政)
第 區(三人)
三土 忠造(政)
松浦 伊平(政)
愛 媛 縣
第一區(三人)
武知 勇記(民)
大本貞太郎(政)
第二區(三人)
河上 哲太(政)
村瀬 武男(民)
安倍 寛(中立)
窪井 義道()
福田 悌夫(民)
田村 秀吉(民)
秋田 清(中立)
藤本 捨助(中立)
矢野庄太郎(民)
松田喜三郎(民)
小野 寅吉(民)

第三區(三人) 砂田 重政(政) 村上紋四郎(民) 高知 縣

第一區(三人) 大石 大(東方) 長野 長廣(民) 第二區(三人) 佐竹 晴記(社大) 林 讓治(政) 福岡 縣

第一區(四人) 中野 正剛(東方) 簡牛 凡夫(中立) 第二區(五人) 龜井貫一郎(社大) 石井徳久次(政) 松尾 三蔵(民) 第三區(五人) 野田 俊作(政) 鶴 惣市(政) 岡野 龍一(民) 第四區(四人) 勝 正憲(民) 田原 春次(社大) 佐 賀 縣

第一區(三人) 高島龜太郎(政) 池田 秀雄(民) 田中 亮一(政) 第二區(三人) 藤生安太郎(政) 愛野時一郎(民) 長崎 縣

第一區(五人) 馬場 元治(東方) 倉成庄八郎(政) 太田 理一(政) 第二區(四人) 牧山 耕蔵(民) 川 副 隆(民) 熊本 縣

第一區(五人) 安達 謙蔵(國盟) 木村 正義(政) 大藤 唯男(民) 第二區(五人) 伊豆 富人(國盟) 坂田 道男(政) 藏原 敏捷(國盟) 大分 縣

第一區(四人) 金光 庸夫(政) 長野 綱良(民) 中野 邦一(民) 一ノ瀬俊民(政)

西岡竹次郎(政) 中村不二男(民) 森 肇() 佐保 畢雄(政) 松野 鶴平(政) 石坂 繁(國盟) 三善 信房(政) 小見山七十五郎(政)

第一區(五人) 井上 知治(政) 松方幸次郎(中立) 藏園三四郎() 第二區(四人) 富吉 榮二(社大) 寺田 市正(政) 第三區(三人) 永田 良吉(政) 小林 三郎(民) 沖繩 縣

全縣一區(五人) 漢那 憲和(民) 仲井間宗一(民) 盛島 明長(政) 鹿兒島 縣

第一區(五人) 小泉 純也(民) 津崎 尙武(中立) 東郷 實(政) 岩元榮次郎(政) 金井 正夫()

第二區(三人) 重松 重治(民) 綾部健太郎(政) 宮崎 縣

全縣一區(五人) 伊東 岩男(政) 曾木 重貴(中立) 陣 軍吉() 鹿兒島 縣

三浦 虎雄(東方) 鈴木憲太郎(民) 清瀬規矩雄(政)

池田 秀雄(民) 田中 亮一(政) 藤生安太郎(政) 愛野時一郎(民) 長崎 縣

馬場 元治(東方) 倉成庄八郎(政) 太田 理一(政) 牧山 耕蔵(民) 川 副 隆(民) 熊本 縣

安達 謙蔵(國盟) 木村 正義(政) 大藤 唯男(民) 伊豆 富人(國盟) 坂田 道男(政) 藏原 敏捷(國盟) 大分 縣

金光 庸夫(政) 長野 綱良(民) 中野 邦一(民) 一ノ瀬俊民(政)

西岡竹次郎(政) 中村不二男(民) 森 肇() 佐保 畢雄(政) 松野 鶴平(政) 石坂 繁(國盟) 三善 信房(政) 小見山七十五郎(政)

井上 知治(政) 松方幸次郎(中立) 藏園三四郎() 富吉 榮二(社大) 寺田 市正(政) 永田 良吉(政) 小林 三郎(民) 沖繩 縣

漢那 憲和(民) 仲井間宗一(民) 盛島 明長(政) 鹿兒島 縣

小泉 純也(民) 津崎 尙武(中立) 東郷 實(政) 岩元榮次郎(政) 金井 正夫()

重松 重治(民) 綾部健太郎(政) 宮崎 縣

伊東 岩男(政) 曾木 重貴(中立) 陣 軍吉() 鹿兒島 縣

三浦 虎雄(東方) 鈴木憲太郎(民) 清瀬規矩雄(政)

重松 重治(民) 綾部健太郎(政) 宮崎 縣

伊東 岩男(政) 曾木 重貴(中立) 陣 軍吉() 鹿兒島 縣

小泉 純也(民) 津崎 尙武(中立) 東郷 實(政) 岩元榮次郎(政) 金井 正夫()

重松 重治(民) 綾部健太郎(政) 宮崎 縣

伊東 岩男(政) 曾木 重貴(中立) 陣 軍吉() 鹿兒島 縣

三浦 虎雄(東方) 鈴木憲太郎(民) 清瀬規矩雄(政)

元帥府

元帥 陸軍大將 載仁 親王
海軍大將 博 恭 王
陸軍大將 守 正 王

軍事參議院

軍事參議院は元帥、陸海軍大臣、參謀總長、軍令部總長並に特に軍事參議官に親補せられたる陸海軍將官を以て組織せられるもので、元帥、陸海軍大臣、參謀總長、軍令部總長は當然軍事參議官たるのである。左には特に親補せられたる軍事參議官のみを掲ぐ。

海軍大將 野村 吉三郎
海軍大將 末次 信正
海軍大將 大角 岑生
陸軍中將 鳩 彦 王
陸軍中將 稔 彦 王
陸軍中將 中村 孝太郎
海軍大將 高橋 三吉
海軍大將 藤田 尙徳

侍從武官府(宮内省内)

陸軍中將 ○ ○ ○ ○
武官長 陸軍中將 宇佐美 興屋
武官 海軍少將 平田 昇
陸軍少將 町尻 量基
海軍大佐 遠藤 喜一
陸軍砲兵大佐 酒井 康
陸軍歩兵大佐 ○ ○ ○ ○
陸軍騎兵中佐 四手井 綱正
海軍大佐 山澄 貞次郎
陸軍歩兵中佐 後藤 光藏

長 少將 松田 常太
補任課長 歩大佐 ○ ○ ○ ○
徵募課長 歩大佐 ○ ○ ○ ○
恩賞課長 歩大佐 及川 源七
軍務局 中將 後宮 淳
軍事課長 砲大佐 田中 新一
軍務課長 輜重兵大佐 柴山 兼四郎
兵務局 少將 飯田 祥二郎
兵務課長 歩大佐 飯田 泰二郎
防備課長 工大佐 林 柳三郎
馬政課長 騎大佐 ○ ○ ○ ○
整備局 少將 山脇 正隆
戰備課長 歩大佐 長谷川 基
整備課長 砲大佐 ○ ○ ○ ○
兵器局 少將 木村 兵太郎
銃砲課長 砲大佐 菅 晴次
機械課長 歩大佐 青木 成一
經理局 ○ ○ ○ ○
主總監 ○ ○ ○ ○

東京警備司令部

主計課長 一主正 栗橋 保正
監査課長 一主正 ○ ○ ○ ○
衣糧課長 一主正 ○ ○ ○ ○
建築課長 一主正 杉 浦 章
醫務局 長 醫總監 小泉 親彦
衛生課長 一軍正 神 林 浩
醫事課長 一軍正 ○ ○ ○ ○
局長(兼) 大山 文雄

東部防衛司令部

司令官(兼) 中將 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
參謀長 少將 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

中部防衛司令部

司令官(兼) 中將 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
參謀長(兼) 少將 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

職員録——元帥府・軍事參議院・侍從武官府・陸軍省・防衛司令部

國民同盟役員

總裁 安達謙藏
總務 伊禮肇
幹事 中村繼男
政務 鈴木正吾

社會大衆黨役員

中央執行委員長 安部磯雄
書記長兼會計 麻生久
會計監督 吉川守國
爲藤 五郎 和田操
政務調査會長 片山哲

養正會

(事務所 澁谷區代々木)
(深町) 田中澤二
會長

大日本生産黨

(事務所 麴町區内幸町)

日本革新黨役員

總務委員長 江藤源九郎
黨務委員長 赤松克廣
總務委員 小池四郎
山崎常吉 佐々木一晃
津久井龍雄 高山久藏
神田兵三 石橋彌
赤松克廣 佐々木一晃
政務調査會長

研究會

(事務所 麴町區三年町)
常務委員 伯樺山愛輔
伯酒井忠正 子井上匡四郎
子曾我祐邦 子舟橋清賢
子松平康春 湖惠之輔
西野元 松岡潤吉

公正會

(事務所 麴町區三年町)
會計監督 子梅小路定行
幹事 子今城定政 子池田政時
松平忠壽 子高木正得
政務調査部長 伯酒井忠克
同副 子伊東二郎丸

同成會

(事務所 麴町區三年町)
幹事 辻太郎 安保清種
東久世秀雄 淺田良逸
中村謙一 周布兼道
矢吹省三 杉溪由言
加藤成之 岩村一木
會計監督 佐藤達次郎

同和會

(事務所 麴町區三年町)
幹事 田所美治 仁井田益太郎
有吉忠一 赤池濃
宇佐美勝夫 織田萬
松井茂 岩田宙造
土方久微 野村徳七
小幡西吉 眞野文二
佐藤鐵太郎 松浦鎮次郎
松本勝太郎 江口定條
大島健一 佐々木平八

交友俱樂部

(事務所 麴町區永田町二)
(イロハ順)

岡喜七郎 川村竹治
田中徳兵衛 内田重成
水野甚次郎 久恒貞雄
交涉委員 橋本圭三郎 大西虎之介

火曜會

(事務所 麴町三年町)

竹越與三郎 小久保喜七
古島一雄 下出民義
交涉委員 公徳川 閉順
×侯池田宣政
侯細川 護立
侯島津 忠重
侯井上 三郎
侯小村 捷治

商工會議所

(昭和十二年六月現在)

會所所在地 設立年
札幌市北一條 明治元
小樽市 明治元
函館市鶴岡町 明治元
旭川市六條通 大正八
室蘭市常盤町 大正三
釧路市 明治三
東區九ノ内 明治二
八王子市 明治二
京都市烏丸通 明治二
大區堂島濱通 明治二
堺市甲斐町 大正二
横濱市 明治三
横須賀市 昭和三
神戸市海岸通 明治三
姫路市本町 大正二
明石市 大正二

人名錄——商工會議所

會長 長崎市櫻町 明治三
佐世保 佐世保市湊町 大正二
新沼 新潟市大川前 明治三
長岡 長岡市坂上町 明治三
高田 高田市大町 明治三
直江津 直江津町 明治三
川越 川口市 明治三
前橋 前橋市本町 明治二
高崎 高崎市末廣町 昭和二
高崎 高崎市末廣町 昭和二
水戸 水戸市 昭和二
宇都宮 宇都宮市旭町 昭和二
宇都宮 宇都宮市 昭和二
栃木 栃木市 昭和二
津市 津市大門町 昭和二
四日市 四日市市 昭和二
宇治山田 宇治山田市中區 昭和二
名古屋 名古屋市中區 昭和二
名古屋 名古屋市中區 昭和二
豐橋 豐橋市 昭和二
一宮 一宮市公園通 大正二

日本學術振興會(省內)

總裁 秩父宮雅仁親王殿下
會長 近衛 文麿
理事 櫻井 錠二
評議員 法博、男 一木喜徳郎
總務部長 海軍大將 財部 彪
學術部長 理博 長岡半太郎
第一常置委員會(法律學、政治學)
委員長 織田 萬
委員 菊井 維大 池田寅二郎 佐藤丑次郎 長島 毅 田中耕太郎 山田 三良 宮本 英倫 中島 玉吉 加藤 正治 三浦 信三

(經濟學、商業學)
委員長 神戶 正雄
委員 河田 嗣郎 塩澤 昌貞 河合榮治郎 上田貞次郎 沙見 三郎 小島昌太郎 高橋誠一郎 瀧谷 善一 土方 成美 服部文四郎
第四常置委員會(數學、物理學、天文)
委員長 平山 清次
委員 木下 正雄 窪田 忠彦 田中 務 清水 武雄 高嶺 俊夫 谷村豊太郎 松澤 武雄 藤原 咲平 和田 健雄 仁科 芳雄

(地質學、地理學、海洋學)
委員長 井上禧之助
委員 仁田 勇 原 龍三郎 平塚 英吉 堀場 信吉 水田 政吉 小松 茂 山家 信次
第六常置委員會(地質學、地理學、海洋學)
委員長 井上禧之助
委員 太田垣富三郎 神津 俣祐 小牧 實繁 木下 龜城 野滿 隆治 坪井誠太郎 辻村 太郎 渡邊 久吉 横山 次郎 長尾 巧
第七常置委員會(動物學、植物學、人類學)
委員長 柴田 桂太
委員 池野成一郎 藤井健次郎 谷津 直秀 川村多實二 胸井 卓 山田 幸男 畑井新喜司 郡場 寛
第八常置委員會(醫學、衛生學)
委員長 林 春雄

(應用物理學、機械工業、船舶工業、航空工業、探礦學、冶金學)
委員長 山本 武藏
委員 小林 六造 石原 忍 板垣 政參 古武彌四郎 寺師 義信 高杉新一郎 長谷部言人 戶田 正三 長與 又郎 山上 熊郎
第九常置委員會(應用物理學、機械工業、船舶工業、航空工業、探礦學、冶金學)
委員長 山本 武藏
委員 井口 常雄 青山秀三郎 紀伊 壽次 生源寺 順 永持 源次 德川 武定 中村 龍輔 日高 鏡一 村上武次郎 濱部源次郎 吉成 宗雄 山内 鎮一 眞島 正市
第十常置委員會(應用電氣學、電氣工業)
委員長 梶井 剛
委員 多田 禮吉 荒川 文六 笠井 完 鳥養利三郎 中上 豊吉 瀨藤 象二 丹羽保次郎

向山 均 渡邊 寧
第十一常置委員會(土木學、建築學)
委員長 內田 祥三
委員 岸田日出刀 井口 鹿象 佐野 利器 高橋 逸夫 桑原 四郎 藤井 眞透 林 桂 一 坂 靜雄 山口 昇 坂 靜雄 山田 隆二

帝國學士院(上野公園內)
委員長 岡田 武松
委員 岡田 武松
第五特別委員會
委員長 岡田 武松
委員 金原 信泰 第六特別委員會
委員長 佐藤 寛次
委員 佐藤 寛次 災害研究所 楠本長三郎
院長 櫻井 錠二
理事 櫻井 錠二
第一部長 櫻井 錠二
第二部長 法博 加藤 正治
第三部長 法博 小野塚喜平次
第四部長 法博 佐藤 三吉
第五部長 法博 佐藤 三吉

美濃部達吉 高橋順次郎 山崎覺次郎 服部宇之吉 小野塚喜平次 織田 萬 大類 伸 白鳥 倉吉 松本文三郎 春木 一郎 立 作 太郎 松本亦太郎 姉崎 正治 市村環次郎 横田 秀雄 德富猪一郎 狩野 直喜 山田 三良 穂積 重遠 加藤 正治 高野岩三郎 吉田 靜致 瀧 精一 桑木 嚴翼 中田 英一 牧野 英一

松本 滋治 清水 澄 松波仁一郎 西田幾多郎 幸田 成行 新村 出 高田 早苗 佐伯 定風 藤井 乙男 神戶 正雄 濱田 耕作 辻 善之助 鹽澤 昌貞 高岡 熊雄 佐々木信綱 林 毅 陸 三宅 秀 櫻井 錠二 小金井良精 田中館愛橘 三浦謹之助 長岡半太郎 佐藤 三吉 平山 信 水野敏之丞

人名錄——新博士

(關町區九ノ内二丁目明治生命館内)

會長 公爵 近衛 文麿
副會長 侯爵 德川 頼貞
理事 男爵 郷 誠之助
理事 伯爵 榊山 愛輔

常務理事

子爵 岡部 長景
伯爵 黒田 清
男爵 三原 繁吉
男爵 正治

理事 福井菊三郎
門野重九郎
正木 直彦
白根松介

伊東 延吉
濱田 耕作
串田 萬藏
小倉 正恒
堀内 謙介

高楠順次郎
永井 松三
監事 永井 松三
主事 男爵 森村市左衛門
青木 節一

八五四

新博士名鑑

(昭和十一年七月一日より 昭和十二年六月三十日まで)

醫學博士

內橋 禮次(兵庫)岡 河村 謙一(岐阜)岡
森口 昇(和歌山)九 中山 元雄(福岡)九
石田 義夫(福岡)九 林 靜(島根)九
藤岡 正人(徳島)九 延谷不二雄(大分)九
大内 軍一(新潟)城 安野 權次(栃木)城
武田 義章(鳥取)阪 永井 巖(廣島)阪
高橋 末雄(東京)阪 奥山 一也(兵庫)阪
石田 和義(福岡)阪 星 靜(北海道)阪
伊藤 四郎(宮城)北 佐藤 巖(大分)北
庄司 猛之助(宮城)北 丹野 英男(宮城)北
橋本 卷藏(福岡)北 堀内 一誠(長野)北
丸田 公雄(長野)北 堀内 忠夫(福岡)京
下村 八郎(大分)京 古閑 鐵男(大阪)京
赤堀 英三(群馬)京 鈴木 三郎(東京)京
太田 一郎(福岡)京 檀上 順三(徳島)岡
藤野 博義(前山)岡 橋本 健(兵庫)岡
龜田 神三(奈良)阪 河野 宗喜(大分)阪

末廣 茂逸(岡山)阪 井村孫一郎(宮城)阪
泉 松之助(大分)阪 方 斗 翰(朝鮮)新
齊藤 虎二(新潟)新 小野江爲信(岐阜)海
尾崎 邦俊(福岡)熊 六反田藤吉(鹿児島)熊
稻田 七郎(東京)東 安井 洋(東京)東
井上 良平(東京)東 金子丑之助(埼玉)東
田部 寅吉(埼玉)東 伊東 二榮(長崎)東
川上 英敏(岡山)東 三枝 正孝(茨城)東
荒木 啓治(大阪)阪 小來田幸雄(大阪)阪
尾崎 明晴(奈良)阪 依光 好喜(高知)阪
鈴木時之助(千葉)阪 吉田 哲夫(京都)京
李 甲 秀(朝鮮)京 小島居才吾(長崎)京
津田 傳(長崎)京 桐山 實隆(東京)京
林田 英夫(兵庫)京 石川 齊(新潟)京
堀田 秀雄(和歌山)京 深井 辰男(三重)京
浮田 勝造(香川)岡 岡崎 衛生(山口)岡
秦 健雄(徳島)長 杉山 貫一(愛知)名
安藤 兵次(愛知)名 水澤 滋(岩手)名
安藤 今朝治(宮城)名 石田 靜男(静岡)名
泉 水澤 與一(富山)金

倉重外幾雄(石川)金 加藤 茂(東京)東
柿本新太郎(大阪)北 小山 恒男(大阪)阪
山田 有時(鳥取)阪 山口 要道(和歌山)阪
淺野 純吉(東京)北 眞田 幸和(秋田)北
鳴海 康仲(青森)北 今井 倭武(新潟)京
新湯市五郎(山形)千 隅田 清一(佐賀)長
松井 俊三(東京)九 山本 逸美(岡山)九
玉置 正捷(愛知)九 井上 清(福岡)九
齊藤 忠夫(福岡)九 永江 侃二(福岡)九
小川 泓六(新潟)九 福島 忠見(愛媛)京
村田 三郎(静岡)京 福崎 範太郎(兵庫)京
濱本 英次(兵庫)京 跡地 實成(青森)京
岡上 芳次(兵庫)京 高坂 政一(京都)京
神前 武和(和歌山)京 水口 俊明(東京)千
朴 容 來(朝鮮)千 川路 亮雄(東京)千
秋田 宗次(茨城)千 三坂 明一(愛知)名
吉田 敬二(岐阜)名 佐々木 英一(愛媛)名
服部 一雄(愛知)名 伊藤 正之(愛知)海

長井 米造(北海道)海 中田 四郎(神奈川)海
堀江 實(京都)阪 芋川 稜威(新潟)阪
都築 和雄(東京)阪 大澤 天臣(富山)金
佐伯 季一(大阪)金 角田 眞一(石川)金
吉岡 彦太郎(鳥根)京 北條源之助(徳島)京
尹 致 旺(朝鮮)京 宮澤 美敬(高知)京
嘉海 武夫(兵庫)京 藤原 憲文(香川)京
川田 綱別(高知)京 西 靜憲(東京)京
齋藤 猛(岐阜)京 福井 潤(東京)京
岩城 寛(徳島)京 松崎 清博(京都)京
小林 裕三(三重)阪 青木 益三(長崎)阪
阪口 義三(大阪)阪 莊田 泰一(愛知)阪
山上 芳(大阪)阪 三井 駿一(大阪)阪
山本 哲次郎(兵庫)九 横山 量平(愛知)九
增澤 五六(東京)九 中島 謙(福岡)九
石館 文雄(北海道)海 安田 作次郎(青森)海
菅原 一郎(東京)海 安田 作次郎(青森)海
中川 佐平(岩手)名 川口 政一(愛知)名
維田 哲夫(兵庫)名 上田 文男(岐阜)名
田中 謙吉(愛知)名 關 和夫(山口)京
庄山 省三(三重)京 立川 義彦(大分)京
岡田 才一(滋賀)京 大田 裕(鳥取)京
杉本 一良(三重)京 石野 寛吉(福岡)京
齊藤 賢吉(山形)京 高原 滋夫(岡山)京
中西 政男(岡山)京 星島 忠夫(岡山)京
竹岡 文學(東京)名 安藤 清(愛知)名

武市 龍男(岐阜)名 景山 政勝(鳥取)名
後藤 修二(静岡)名 公 炳 禹(朝鮮)名
平井 光信(愛媛)名 荒島敏太郎(東京)東
升田 廣(東京)東 村田 三千彦(埼玉)東
渡邊 徳之助(茨城)東 吉田 富三(福岡)東
山根 太郎(東京)東 大村 泰男(山口)東
吉岡 博人(佐賀)東 谷口 善實(宮崎)東
山本 賢三(鳥取)東 山崎 幹夫(廣島)東
大澤 林之助(埼玉)東 岡田 義男(岡山)金
玉岡 誠(兵庫)千 江尻 三郎(福岡)千
長内 健三(青森)千 嶺宮 廉爾(岡山)千
宇賀 武俊(東京)東 敷下 優(岐阜)東
竹中 繁雄(富山)東 赤塚 京治(鹿児島)東
梅澤 武雄(神奈川)東 村松 楠雄(愛知)東
石原 惠三(神奈川)東 平松 左右一(愛知)東
天野 尹三(三重)東 水野 育雄(東京)東
前田 大郎(東京)東 松島 周藏(和歌山)東
堀野 貞次(大阪)阪 野須 新一(岐阜)阪
堀口 清良(福井)阪 竹村 賢一郎(秋田)阪
山田 貫一(兵庫)阪 五木 和次郎(茨城)阪
本郷 芳郎(熊本)長 蓮澤 孝義(熊本)長
光武 種助(佐賀)長 永山 寛(鹿児島)長
大熊 正隆(福岡)長 雨森 二郎(福岡)長
伊藤 義雄(長崎)長 蒲池 巽(長崎)長
喜多島 保(山梨)東 柏木 正章(神奈川)東
小笠原 道正(和歌山)東 鹽川 五郎(福岡)東

廣田 寛治(青森)東 永江 大助(兵庫)東
原 進一(千葉)東 岡本 興二(香川)京
稻葉 實(岡山)岡 平井 出正三(山梨)岡
赤枝 守一(岡山)岡 實藤 保(北海道)海
五味朝一郎(宮城)北 西本 源一郎(和歌山)北
山口 八郎(神奈川)北 四少 柳正造(北海道)北
幡野 實(山梨)北 安部 公男(宮城)北
木村 茂(宮城)北 小松 嘉右衛門(宮城)北
多田 慎吾(山形)北 橋本 照治(福岡)北
本郷 直喜(東京)北 吉澤 幸男(宮城)北
田村 庄五郎(福岡)熊 林田 滿男(福岡)熊
岡本 さかき(東京)京 橋本 泰三(三重)九
安部 明義(大分)九 中尾 六三郎(鳥根)九
立野 善(宮城)九 李 世 珪(朝鮮)城
萩 森壽(愛媛)城 野村 捷一(東京)城
細野 七郎(新潟)新 眞保 敬三郎(新潟)新
山本 英雄(愛媛)岡 横山 保(岡山)岡
龜井 俊夫(廣島)岡 有馬 馨(大分)岡
高松 孚(福岡)岡 田中 英之(大分)岡
山邊 顯彦(佐賀)京 阪本 俊一(北海道)海
吉田 安喜(熊本)熊 大脇 俊一(北海道)海
武田 博(鹿児島)阪 黒田 雅治郎(愛媛)阪
山脇 虎雄(奈良)阪 塚田 早苗(大阪)阪
三宅 秀隆(兵庫)阪 窪田 一夫(石川)金
新井 雨(埼玉)金 深迫 愛山(熊本)千
柳澤 達次郎(長野)千 川崎 丞(千葉)千

人名錄——新博士

八五五

宮原	貞美(滋賀)京	津田	信吉(福井)京
鱈坂	滋彦(滋賀)京	草野	久也(富山)京
伊藤	良平(香川)京	八木	貫一(大阪)京
井福	大策(長崎)九	川本	辰雄(奈良)京
江下	良彦(福岡)九	森山	三治(福岡)九
江浦	榮山(福岡)九	石	西進(鳥取)九
小森	拓(佐賀)九	大橋	正(埼玉)九
長島	次男(千葉)東	中澤	隆格(岐阜)海
三木	威勇(福岡)東	藤村	紫朗(京都)東
黒澤	辰男(茨城)東	高崎	壽市(愛知)東
筒井	義次(愛知)東	山内	憲禧(東京)東
字井	邦一(和歌山)東	古泉	光一(栃木)東
押田	草子(大阪)東	寺坂	覺三(岡山)東
毛利	元一(石川)東	玉井	正光(大阪)東
北村	義男(石川)東	小林	長美(廣島)東
西村	菊次郎(東京)東	田中	英夫(山口)東
五十嵐	信一(富山)金	布施	郁三(千葉)東
小西	吉三郎(大阪)阪	野崎	秀英(樺太)新
井上	覺永(奈良)阪	笠原	孝夫(大阪)阪
井尻	兼三(京都)阪	代田	完藏(神奈川)阪
金岡	英雄(岡山)岡	竹島	輝之介(三重)阪
淺井	宗弘(愛知)名	岡部	和男(岡山)岡
野村	稔(愛知)名	岸本	鎌一(奈良)名
服部	敏良(岐阜)名	竹内	一夫(愛知)名
宮内	義之介(神奈川)千	廣田	剛(三重)名
		貞治	(千葉)千

加藤	精一(群馬)北	齊藤	善兵(福島)北
手島	遼(宮城)北	長倉	喜久(静岡)北
眞木	光邦(福島)北	牧野	正一(愛知)北
三浦	弘(宮城)北	米村	長敏(鳥取)北
山本	久治(大阪)阪	寺島	富彦(京都)京
小林	喜久雄(福井)京	近藤	銳矢(静岡)京
覆本	秀治(和歌山)京	壺井	忠彦(香川)京
中川	觀(兵庫)京	辰井	正平(兵庫)京
小川	香七郎(石川)京	鈴木	仁(三重)京
谷岡	只雄(廣島)京	野村	雅介(愛知)京
福富	八作(兵庫)京	仁科	哲三(岡山)京
小谷	忍(京都)京	宮司	克巳(佐賀)東
古賀	秀夫(福岡)九	眞子	憲治(佐賀)九
齋藤	孝俊(福岡)九	市村	八郎(兵庫)九
和田	三郎(熊本)九	栗	篤吉(廣島)九
吉田	稔雄(徳島)九	上山	武男(鳥取)九
梶原	一雄(熊本)九	大西	克治(愛媛)海
菅原	昌(兵庫)東	鈴木	庄一(福島)新
改田	丈夫(北海道)海	足立	雪郎(静岡)東
松田	泰治(兵庫)阪	左海	藤太郎(大阪)阪
橋本	康世(山口)阪	福地	保夫(佐賀)阪
佐藤	信好(福島)阪	尾原	省三(鳥根)阪
金	衛(朝鮮)城	海老原	弘道(栃木)千
村田	昇(茨城)千	小張	志郎(千葉)千
原	順吉(東京)東	青木	大輔(神奈川)北
金子	喜八郎(新潟)北	保藤	保雄(宮城)北

高須	令三(愛知)北	高野	忠孝(山口)北
古橋	豊(栃木)北	武藤	武雄(群馬)北
吉松	捷五郎(東京)北	加納	治朗(大阪)阪
松本	靜雄(和歌山)阪	小倉	勇(大阪)阪
高石	新次(大阪)阪	西山	敬三(香川)阪
大藤	利治(山口)岡	倉橋	幸夫(岡山)岡
龜山	茂治(福岡)岡	高橋	實(富山)金
高良	武春(鹿児島)金	町田	秀雄(鹿児島)長
森	進(長崎)長	瀧澤	太一(栃木)名
栗田	四郎(富山)名	久米	逸郎(愛知)名
河野	雅雄(愛知)名	巫	昌(臺灣)名
高橋	市松(山形)名	佐野	彰(佐賀)熊
宮尾	定信(長崎)熊	山下	兼隆(鹿児島)熊
廣谷	政志(岡山)京	野津	芳孝(鳥根)京
原田	良雄(山口)京	清水	忠郎(兵庫)京
小林	盈藏(埼玉)京	濱田	仁生(兵庫)京
中野	宗彦(大阪)京	田中	龍三(山形)京
西廣	和市(岡山)京	江崎	四十男(京都)京
今井	朝太郎(新潟)京	入野	靜喜(高知)阪
三尾	陽太郎(大阪)阪	石川	濟(山形)阪
尖戸	政太(兵庫)阪	幸塚	彦二(富山)阪
門脇	忠貞(大阪)阪	長沼	良章(群馬)東
坪田	聰(福井)東	熊谷	洋(東京)東
渡邊	司法(廣島)東	北島	秀次(佐賀)東
谷	望(高知)東	三輪	保(長野)東
富田	清一(鳥根)東	鎌倉	正雄(岐阜)東

堀口	一郎(福井)東	竹内	慎治(新潟)新
高橋	一雄(北海道)海	横井	稔(北海道)海
越野	和(石川)金	本田	盛正(石川)金
高橋	久雄(石川)金	兒玉	勝利(岐阜)千
海保	保(千葉)千	井上	秋水(鹿児島)長
公文	適(高知)長	渡邊	伊勢雄(熊本)熊
本間	其道(愛知)熊	德山	省吾(福岡)九
山下	千代壽(鳥根)九	三好	義夫(愛媛)九
植木	剛(福岡)九	筒井	龍三(高知)九
高山	芳雄(佐賀)九	長主	從朗(福岡)九
葛城	研二(福岡)九	山下	朝郎(兵庫)九
長岡	研二(福岡)九	渡邊	嘉一郎(岡山)九
濱谷	軍治(富山)京	四谷	安平(岡山)京
高木	諦(岡山)京	秋月	寬重(鳥根)十
小林	長衛(長野)千	小川	幸之輔(千葉)千
中村	俊雄(山口)岡	瀬戸	忠次郎(香川)岡
露野	包夫(岡山)岡	相磯	正巳(静岡)海
渡邊	國一(新潟)海	越田	稔(石川)千
伊藤	理(埼玉)千	山本	襲吉(三重)千
野村	愛介(神奈川)海	白杵	仁(三重)千
關谷	浩(岐阜)名	岩倉	勝雄(香川)名
堀田	一(愛知)名	筒井	忠(三重)名
岩波	浩(千葉)名	福島	鐵哉(鹿児島)九
織田	健太郎(高知)九	伊野	正慶(鳥根)九
神田	喬平(鳥根)九	浦本	英明(福岡)九
松本	正己(福岡)九	富士川	次郎(廣島)九

清谷 壽(岡山)岡 小田源太郎(岡山)岡
 小西 信雄(廣島)岡 陳增全(臺灣)京
 北村 勇(滋賀)京 瀧川 一德(鳥取)京
 正木 信功(福島)京 御手洗 毅(東京)東
 末松 又男(大阪)京 野村 一郎(石川)金
 赤沼順四郎(福島)北 猪岡 宗男(宮城)北
 大谷 貞男(長野)北 黒澤 徹也(宮城)北
 佐藤美歌句(群馬)北 庄子 清(宮城)北
 武澤 滋(茨城)北 草地 英一(北海道)海
 石井 麟祥(山梨)海 青木 義勇(佐賀)海
 増本 鷹生(愛媛)長 森本 勉(高知)長
 植杉守之助(兵庫)新 龜谷 良雄(栃木)千
 藤倉 武男(千葉)千 加藤 貞治(千葉)千
 江良 一雄(神奈川)名 吳行全(臺灣)名
 神岡 三陸(福島)名 大橋 謙二(大阪)名
 飯田 忠恕(愛知)名 和田 義夫(愛知)名
 古橋 忠一(愛知)名 黃 逢 時(臺灣)京
 志水 幸嗣(兵庫)京 長井 澤(山口)京
 深井 親信(三重)京 池上 孟雄(高知)京
 鈴木 一男(和歌山)京 金内 三郎(山形)京
 西川 爲雄(奈良)阪 小西龍太郎(大阪)阪
 西岡 禎次(兵庫)阪 松浦 孝彦(廣島)阪
 西山 博(神奈川)阪 富田 維精(熊本)熊
 高田 之(熊本)熊 安川 やい(富山)東
 高安 俊雄(千葉)東 横山 秀雄(東京)東
 磯部 泰輔(愛知)東 飯久保知道(東京)東

荒木 清正(東京)東 高島八百八(福島)東
 齋藤基次郎(福岡)東 紅 友亮(福岡)城
 深山 一孝(富山)金 長田四郎男(兵庫)京
 長 親幸(愛媛)京 西塚 忠義(三重)京
 奥富 孝祐(埼玉)京 青地 重夫(滋賀)京
 尾鏡 二郎(岡山)岡 森岡雄太郎(香川)岡
 大田 颯司(兵庫)岡 吉良 猛(高知)京
 渡邊 勳(山梨)千 添 三郎(新潟)新
 谷口 道治(宮崎)長 池田 圭助(熊本)長
 佐々木猛馬(山口)長 鎌形 和夫(千葉)北
 坂巻 孝策(埼玉)北 本田 正夫(大阪)阪
 大黒甲子郎(大阪)阪 山本 正吉(大阪)阪
 稻田 稔郎(兵庫)阪 平尾 稔(兵庫)阪
 日置 達雄(鳥取)阪 内藤 良一(京都)京
 柏原 啓(長野)京 高谷雄次郎(大阪)京
 辻岡 新作(山口)岡 高田 新藏(兵庫)岡
 南部 卓夫(廣島)岡 松下 兼知(鹿児島)長
 化家 政雄(熊本)熊 市橋 貞三(千葉)京
 三宅 莊造(兵庫)京 小泊重比子(大分)京
 中谷 勝(大阪)阪 堀見 次郎(大阪)阪
 相原 忠雄(大阪)阪 森友 進(福岡)阪
 鈴木 統一郎(宮崎)九 石井 武一(千葉)九
 林 昌隆(福岡)九 山本 久雄(福岡)九
 矢野 巖(福岡)九 高橋 重親(高知)九
 三原 七郎(宮崎)九 的埜 正(兵庫)九

鈴木 俊男(滋賀)海 川原 達三(東京)海
 田島 十郎(長野)新 藤村 東夫(埼玉)新
 下山 忠典(東京)東 竹内 一(東京)東
 植田 貞三(東京)東 立花 押尾(東京)東
 草野 與平(東京)東 林光 一(茨城)東
 井原 俊男(静岡)東 千秋 四郎(石川)東
 鈴木 修一(宮城)東 青木 静人(廣島)東
 小澤 勳(福井)京 田中 壽己(愛媛)京
 村野 廉一(東京)京 國重 稠(香川)岡
 富岡 諒一(岡山)岡 平田 善夫(宮崎)岡
 尾立六次郎(鹿児島)長 久保 全(佐賀)長
 矢崎 俊明(長野)新 田岡純次郎(高知)京
 矢崎 茂一(愛知)京 岩崎 巖(東京)千
 蓮見喜一郎(東京)千 坂井 滿(福井)城
 石谷九左衛門(兵庫)京 福原利十郎(宮城)北
 楊 志雄(中華)北 橋川 謙一(長崎)長
 二宮 温次(愛知)北 高橋 陽夫(山梨)北
 全 能 基(朝鮮)城 横山 廣速(大阪)阪
 市坪 秀美(鹿児島)阪 松本俊四郎(茨城)阪
 高谷 廣(奈良)阪 堀田邦之助(愛知)阪
 中島哲太郎(京都)阪 平塚 軍平(宮城)北
 立松 進(愛知)名 棚橋 東一(愛知)名
 古川 博(愛知)名 田中采之助(長崎)名
 西林 新平(和歌山)名 平岡 俊一(三重)名
 森 賢吉(新潟)新 影山 民治(山口)九
 田中 貢(兵庫)九 高浦剛七郎(千葉)九

林 勝(熊本)九 木原 行男(熊本)九
 佐藤 信雄(長崎)九 城戸 勇(福岡)九
 石田 正三(青森)九 平澤 東一(長崎)千
 渡邊四郎治(神奈川)千 奥田 千秋(和歌山)千
 稻垣 哲也(兵庫)京 西川治良兵衛(奈良)京
 小野林利一(大阪)京 倉智 増夫(兵庫)岡
 中島 達二(岡山)岡 氏家 直記(岩手)岡
 水野 三男(福井)金 藤田 秀一(金澤)石
 松宮 勇(三重)名 清原 慶彰(宮城)東
 濱中 四郎(兵庫)阪 藤井元四郎(兵庫)阪
 淺田 徹雄(山口)阪 村上滿壽兒(福岡)阪
 日高 訥兒(廣島)阪 森山 弘(鹿児島)熊
 小清水邦夫(熊本)熊 林全 忠(臺灣)京
 福井 正雄(山口)京 廣田 東治(栃木)海
 本村 宗平(香川)京 平澤 俊男(徳島)京
 曾根 良夫(岩手)北 高塚 武次(埼玉)千
 安中 正哉(鹿島)千 北岡 俊一(兵庫)千
 西野 重孝(山形)東 河西梅太郎(福岡)熊
 北原 光(熊本)熊 前田 勝敏(熊本)熊
 成松 清品(佐賀)京 加藤 正由(愛知)京
 木崎 國嘉(京都)京 池上 義信(山口)京
 影山 壽男(鳥取)京 小松 茂治(高知)東
 梅里 時晴(長崎)東 村上 徹(山形)東
 鈴木 金藏(静岡)東 小林 清(東京)東
 瀬木 三雄(愛知)東 平野 忠(兵庫)九
 村本剛太郎(石川)九 八田 秋(福岡)九

柴田 勝(福岡)九 内野彌次郎(福岡)九
 伊藤 良二(廣島)九 橋本美智雄(熊本)九
 田村平八郎(徳島)九 高峯 博(東京)東
 加藤 朝捷(鳥取)東 萩野 了(鳥取)東
 楠 隆光(愛知)東 高橋新次郎(東京)東
 川原 久秀(富山)阪 内田 顯義(東京)東
 葛谷 信夫(愛知)名 山田 弘三(愛知)名
 後藤 堯(愛知)名 國島 俊一(愛知)名
 富田 慶平(埼玉)名 小杉 兼介(静岡)名
 辻村 薫(東京)海 野田 信茂(岐阜)海
 半田 國胤(栃木)湯 田村 三夫(和歌山)海
 楡田 衛治(金澤)石 美濃 眞澄(岡山)京
 淺越 嘉成(岡山)岡 上田 太朗(岡山)岡
 淡野 次郎(山口)岡 葛谷 進(長崎)長
 塚野 秀雄(熊本)長 葛谷 清(愛知)名
 末木千代司(愛知)名 神谷 芳根(愛知)名
 佐川 豊(熊本)名 大出 富士(群馬)名
 渡邊 駿(山梨)名 富川 盛清(京都)京
 笠井 善三(京都)京 成山愛之輔(京都)京
 桑島 勝助(山形)北 丸山秀太郎(長野)千
 蒲生 昇(東京)千 原野 廣生(廣島)千
 伊藤 秀一(京都)京 澤井 淳(新潟)京
 小南 吉男(京都)京 村上 治朗(愛媛)京
 甲斐 準一(大分)京 福田 金一(鳥根)京
 嶋田 静男(石川)京 市原 通(千葉)千
 橋本貴久馬(長崎)千 詫摩 武範(東京)千

鎌田 武雄(東京)東 渡邊 貫(大分)東
 滑川 忠夫(兵庫)京 佐々 憲三(愛知)京
 竹脇 深(富山)東 左右田徳郎(神奈川)東
 山本 時男(秋田)東 中野秀五郎(東京)東
 芝 龜吉(徳島)北 佐多 直康(大阪)東
 岡田 家武(東京)東 江口 孝(福岡)京
 渡邊 久吉(山形)東 中塚 佑一(岡山)東
 門脇 博明(鳥根)阪 野添 鐵男(神奈川)阪
 田村 幹雄(滋賀)京 馬 廷 英(滿洲)北
 福鳥榮之助(東京)北 林 威(長野)北
 山口 生知(茨城)北 堀口 清良(福井)阪
 平島 馨邦(廣島)東 堀口 義輔(秋田)東
 勝木 喜董(東京)東 佐竹 義輔(秋田)東
 本間不二男(東京)東 日比野 裕(岐阜)京
 河角 廣(長野)東 南雲 道夫(東京)東
 津原 清彦(静岡)東 林 孝三(新潟)東
 川崎 弘遠(岐阜)東 二神 哲五郎(東京)京
 鳥生 俊一(滋賀)京 岸野 佐吉(岐阜)京
 池田雄一郎(静岡)東 高橋龍太郎(秋田)東
 福田八十楠(和歌山)東 富山 一郎(鹿児島)東
 田中阿歌磨(東京)京 佐藤 貞彌(山形)北
 大川 忠吉(青森)東 市川 良正(新潟)東

尾河 武雄(京都)東 藤波 捷吉(岡山)京
 馬詰 哲郎(兵庫)京 林 重憲(長野)京
 三雲 英之助(京都)京 榎橋 諒(岐阜)京
 齋藤 定藏(静岡)京 秦 常造(鳥根)工
 長尾 不二夫(岡山)京 淺見 義弘(埼玉)東
 野口 尙一(福島)東 大河内 重助(福島)北
 柳澤 泰(東京)北 中村 素(東京)北
 伊藤 庸二(千葉)東 津枝 正介(兵庫)京
 葛西 泰二郎(福岡)九 武井 武(奈良)工
 小平 勇(青森)九 向井 參之允(佐賀)九
 松川 達夫(兵庫)京 久島 亥三雄(和歌山)京
 沼倉 三郎(宮城)京 石井 眞一(神奈川)東
 島崎 幸彦(高知)海 小林 明(兵庫)東
 日高 鏡一(東京)東 鈴木 茂哉(秋田)東
 藤村 建次(山口)京 中村 隆壽(熊本)京
 鈴木 重夫(千葉)東 鈴木 松雄(神奈川)東
 宇平 光太郎(三重)東 和島 藤助(岩手)東
 八瀨 義和(大阪)阪 藤田 義象(京都)京
 龜井 三郎(高知)京 土橋 力太(東京)東
 嘉村 平八(佐賀)九 二見 秀雄(京都)東
 木村 清三(大阪)阪 小山 亮清(静岡)阪
 荒木 鶴雄(兵庫)京 福島 政治(宮城)北
 市村 毅(茨城)東 大井 次三郎(東京)京
 柳本 武(熊本)東 絹川 武良司(秋田)東
 仲田 旭(山梨)京 入江 辰雄(京都)京

三田 村健太郎(北海道)海 直秀(北海道)海
 馬場 爲二(佐賀)海 武田 志麻之輔(北海道)海
 渡邊 千尙(静岡)海 藤本 實也(山口)京
 瀬戸 房太郎(和歌山)京 貴志 雪太郎(東京)九
 山藤 一雄(滋賀)九 丸山 捨吉(東京)東
 川上 行藏(新潟)東 丸山 勉(兵庫)京
 井上 吉之(和歌山)京 齋藤 三郎(山形)海
 春日 政治(長野)京 齋藤 定藏(静岡)京
 木方 庸助(岐阜)京 細江 逸記(三重)京
 土井 忠生(廣島)京 落合 太郎(東京)京
 宮本 和吉(山形)東 出 隆(岡山)東
 坂本 太郎(静岡)東 山谷 省吾(岡山)京
 藤川 福二郎(香川)東 津田 恭介(埼玉)東
 石黒 武雄(東京)東 鈴木 ひでる(愛知)東
 桑田 智(廣島)東 前田 賢郎(東京)東
 林 平三郎(岡山)東 平野 四郎(東京)東
 植田 高三(大阪)東 里田 勳(東京)東
 尾高 朝雄(東京)東 井上 盛義(山口)東
 仁井田 陸(東京)東 石井 良助(東京)東
 古屋 美貞(山梨)京 藤田 嗣雄(東京)東
 同崎 文規(大阪)京

(東京商科大學) 増地 庸治郎(東京)
 (神戸商科大學) 飯島 幡司(兵庫)
 (備考) 學位授與大學 略字 ○ 東一 東京帝國大學 ○ 京
 一 京都帝國大學 ○ 九一 九州帝國大學 ○ 北一 東北帝國
 大學 ○ 海一 北海道帝國大學 ○ 阪一 大阪帝國大學 ○ 城
 一 京城帝國大學 ○ 慶一 慶應帝國大學 ○ 東文一 東京文
 理科大學 ○ 廣島一 廣島文理科大學 ○ 東商一 東京商
 科大學 ○ 神商一 神戶商科大學 ○ 岡一 岡山醫科大學 ○ 千
 一 千葉醫科大學 ○ 金一 金澤醫科大學 ○ 長一 長崎醫科
 大學 ○ 熊一 熊本醫科大學 ○ 名一 名古屋醫科大學 ○ 東
 工一 東京工業大學 ○ 新一 新潟醫科大學
 ○
 以下の新博士は官報掲載以外のもので昭和
 十一年八月以降新聞紙に掲載されたもの
 のを學校別にしたものである。
 醫學博士
 (滿洲醫科大學) 中村 儀兵衛(福島)
 牧野 堅(新潟) 竹谷 精一(石川)
 宮下 公平(長野) 荒井 章(東京)
 荒井 定男(徳島) 川人 一彦(廣島)
 松田 亮一(岩手) 伊藤 亮一(岩手)
 村山 實(熊本) 岩尾 泰次郎(大分)
 栗谷 三四一(山口) 八木 雄次郎(兵庫)
 大井 清(愛知)
 桑野 鐵四郎(岡山)
 吉越 悦喜(長野)

菅能 啓一(東京) 富田 信雄(東京)
 田中 昌記(長崎) 岡崎 正見(佐賀)
 小山 重雄(和歌山) 川久保 俊一(長野)
 畑 昇(東京) 陳 彩 龍(臺灣)
 阪田 悌二郎(東京) 富田 恒男(愛知)
 平野 繁(静岡) 京 五郎(秋田)
 神山 敏雄(福井) 高野 七郎(東京)
 松田 三一(長野) 岡 垣一(鳥取)
 今井 清九郎(神奈川) 加藤 信一(福井)
 松隈 尙雄(佐賀) 井上 清吾(岐阜)
 青木 大司(新潟) 三井 文夫(福井)
 野元 秀雄(鹿児島) 古川 明(東京)
 佐野 隆義(静岡) 小室 正寛(東京)
 内村 保夫(東京) 山本 成之助(新潟)
 瀬尾 宥三(新潟) 平松 博(石川)
 植島 秀人(奈良) 佐々木 高行(徳島)
 出井 花郎(栃木) 小野 守一(佐賀)
 瀬戸 寛治(大阪) 天野 恒策(山梨)
 大城 信(沖繩) 小林 鏡之助(東京)
 西山 幸男(大分) 伊東 俊夫(愛知)
 益子 滋(愛知) 伊藤 光隆(東京)
 飯田 麟太郎(千葉) 小林 義雄(栃木)
 松島 實(東京) 沖津 喜六(徳島)
 豊浦 博雄(神奈川) 井出 潔(東京)
 三神 佑(山梨) 高月 晉(愛媛)
 牛久 昇治(栃木)

安齊 義一(福島) 乃木 幹男(千葉)
 岡田 弘(愛知) 松坂 光夫(神奈川)
 服部 俊二(東京) 波々 伯重(福井)
 菅沼 定明(東京) 三村 六郎(長崎)
 福留 勇(鳥取) (日本商科)
 安樂 銳則(鹿児島) (日本醫科大學)
 原崎 秋太(静岡) 草野 興二(大分)
 (京都府立醫科大學)
 三宅 康(兵庫) 石割 政夫(京都)
 橋本 徳治郎(大阪) 山上 又夫(大分)
 奥澤 正(京都) 小田 豊(京都)
 濱中 信三(和歌山) 松山 敏雄(富山)
 雨宮 白(長野) 望月 大太郎(静岡)
 山本 一夫(大阪) 津田 政則(大分)
 金井 源一(福井) 桑原 安治(新潟)
 精谷 伊作久(東京) 佐藤 民二郎(秋田)
 内古 閑一誠(熊本)
 古川 治平(大阪) 掛川 雄吉(長野)
 森 宗登(山口) 村本 昇二(山口)
 砂場 義彰(岡山) 灰田 茂生(廣島)
 追間 忠義(和歌山) 鈴木 保徳(静岡)
 孝久 虎松(福井) 乾 義太郎(香川)

市川 達男(京都) 長者 尙徳(京都) 速水 保彦(東京)
 (慈惠會醫科大學) 毛塚 好忠(栃木)
 竹内 笙五郎(東京) 黃 朝 清(臺灣)
 平尾 武夫(宮城) 石井 威雄(千葉)
 石上 等(大阪) 大平 余三郎(愛知)
 廣瀬 秀一(秋田) 阿保 龜之助(青森)
 寺田 和(茨城) 加藤 義三(東京)
 宇野 昭雄(福岡) 花岡 虎男(長野)
 齋藤 養一(福島) 清水 茂彌(長野)
 文學博士
 (早稲田大學) 坂崎 坦(兵庫)
 (慶應大學) 茅野 儀太郎(長野)
 (慶應義塾) 金原 賢之助(静岡)
 岡田 眞蒲之助(京都) 相馬 伴臣(京都)
 富澤 宗爾(京都) 荒木 治義(福島)
 横山 英(栃木) 五井 道夫(青森)
 仲尾 二郎(東京) 賀川 龍夫(宮城)
 吉森 延(静岡) 高石 常三郎(千葉)
 知久 源次郎(青森) 宮浦 禮三(青森)
 本間 五郎(群馬) 三宮 周六(東京)
 船津 重夫(福岡) 富田 理一郎(千葉)
 北條 和雄(香川) 小菅 鶴馬(栃木)

Table listing various religious groups and their representatives, including 神道各派管長, 宗, and 教. Includes names like 坂田 實, 佐野 珍彦, 中山 正善, etc.

Table listing representatives for various sects, including 宗 and 教. Includes names like 高橋 萬次郎, 品川 良夫, 永原 宗清, etc.

宗 教

神道各派管長(一一・九月現在)

Table listing representatives for various sects, including 宗 and 教. Includes names like 伊豆山, 香西 昌見, 石井 昌, etc.

佛教各派管長(參照二九六頁)

Table listing Buddhist sects and their representatives, including 天台宗, 真言宗, 淨土宗, etc. Includes names like 梅谷 孝永, 田中 道淳, 西村 閑念, etc.

人名錄——佛教各派管長・基督教各派代表

Table listing representatives for various sects, including 宗 and 教. Includes names like 關 清樹, 山崎 大耕, 竹田 顯川, etc.

基督教各派代表

Table listing representatives for various Christian sects, including 天主, 公, etc. Includes names like 望月 日隆, 水谷 日保, 木村 日正, etc.

人名錄——基督教各派代表・日本畫家

教會

四國教區 松山市三番町 モヂスト・ベレス
 新潟教區 新潟市東大橋通 ア・チエスカ
 名古屋教區 名古屋市東區主 ヨゼフ・ライネル
 鹿兒島教區 鹿兒島市外谷 エチド・ロア・ド
 宮崎教區 宮崎市南區島 ナ マ ツ チ
 日本ハリス正教會 神田區神保町 セリギイ
 日本基督教會 赤坂區新町四 川添萬壽得
 日本聯合基督教會 大阪市西區土 鈴木浩二
 日本聖公會 芝區榮町八 サムエル・ヘイズ
 日本バプテ教会 神田區三崎町 レシト
 日本メソヂ教会 澁谷區澁谷町 赤澤元造
 日本美善教會 神奈川縣藤澤市 酒井長吉
 日本自由メソヂスト 大田市住吉區丸 土山鐵次
 日本福音教會 中野區下落合 ビー・エス・メイヤ
 日本ルーテル教會 中野區二丁目 三浦 彖
 日本同盟基督教會 千葉市通町 杉本光平
 日本福音同教會 大田市東區成 森田誠一
 日本基督教會 京都市左京區 安田忠吉
 善及福音教會 京都市左京區 院院東町一〇 エオン・ヘッセル

日本畫家

日本同仁基督教會 東京市中野區 山五五 三田功運 エチ・エム・ケリー
 基督教友會 芝區三田功運 平川正壽
 基督教會 神田區中里 平井庸吉
 救世軍 神田區神保町 潮川八十雄
 ナザレン教會 京都市東山区 喜田川 廣
 セブンスデー・アドベンチスト 杉並區天沼一 ヴィ・チー・アー
 ベンチスト 丁目一七一 ムストロング

元帝展案(東京側)

池上 秀敏 六四 下谷區谷中清水町二三
 川崎 小虎 五三 杉並區阿佐ヶ谷町三ノ五〇六
 廣島 晃甫 四九 中野區小瀧町三一
 吉田 秋光 五五 澁谷區向山町〇二
 勝田 蕪琴 五九 澁谷區西ヶ原町七一
 島田 墨仙 六六 荏原區中延二〇二
 山口 蓬春 五五 世田谷區代田二ノ七三三
 服部 忠夫 四〇 豐島區巢鴨町五ノ二四二
 吉村 有恒 四〇 大森區池上本町二二
 伊東 深水 四〇 下谷區初音町二ノ二五
 兒玉 希望 四〇 本郷區駒込林町一九五
 松本 委水 五二 牛込區津久土町三〇
 西澤 笛吹 四九 澁谷區上落合一ノ四三三
 小泉 勝爾 五五 神田區河臺鈴木町二
 平田 松堂 五五 中野區打越町一
 伊藤 紅雲 五八 千葉縣船橋町九日市御殿
 磯田 長秋 五八 千葉市市川町平田三〇九
 町田 曲江 五八 麻生區本村町三
 水上 泰生 五五 澁谷區代々木西原町一〇〇六
 根上 富治 四七 澁谷區下落合一ノ四〇四
 高木 保之助 四七 本郷區弓町一ノ三三
 島山 錦成 四四 本郷區駒込千駄木町五九
 望月 春江 四四 下谷區上野櫻木町四〇
 五島 耕畝 五八 豐島區西巢鴨町二ノ三三七〇
 永田 春水 四九 品川區下大崎二ノ一八三
 山川 秀峰 四〇

人名錄——日本畫家

菊池 華秋 五〇 下谷區谷中眞島町一
 川船 水梓 五二 世田谷區代田二ノ七六五
 佐々木尙文 四八 牛込區二ノ騎町三五
 太田 天津 五五 本郷區森川町七九
 鴨下 晃湖 四八 向島區隅田町四ノ一七
 森村 宜稻 五七 本郷區根津須賀町二〇
 安田 半圓 四九 本郷區駒込淺嘉町六三
 常岡 文龜 四〇 下谷區上野櫻木町五
 吉岡 堅二 三三 府下北多摩郡上保谷東伏見五五

長山 ばく 四四 淀橋區下落合一ノ一三六七
 野口謙次郎 四四 世田谷區新町三ノ四九五
 磯部 草丘 三三 杉並區井荻町一ノ四〇
 木本 大果 五七 市外千歳村山一七八
 岡部 光邦 四八 杉並區高圓寺四ノ五六四
 森田 沙夷 四〇 淀橋區下落合一ノ七九四
 田中 針水 四八 杉並區堀ノ内一ノ一三一
 森村 稻門 三三 本郷區根津須賀町二〇
 山本 丘人 三三 下谷區上野櫻木町三三
 川部東二郎 三三 日本橋區人形町三ノ八ノ一
 井上 恒也 四四 澁谷區代々木初臺五五
 林 雲鳳 三三 本郷區駒込動坂
 長谷川路可 四四 神奈川縣藤澤町鳩沼
 加藤 榮三 三三 王子區稻付西町六ノ二二一
 橋本 明治 三三 本郷區根津宮永町三七
 田中咄哉州 四八 中野區昭和通三ノ三九
 石川 寒巖 四八 世田谷區下北澤二五

石崎 光瑤 五五 右京區鹿ヶ谷法然院町四九
 堂本 印象 四七 東山区八坂通東大路
 福田平八郎 四八 伏見區桃山泰長老八
 水田 竹園 五五 中京區御幸町三條南
 中村大三郎 四〇 右京區嵯峨有栖川町
 宇田 萩都 四三 上京區北野白梅町三
 矢野 橋村 四八 大坂市外京區沿線御殿山
 登内 微笑 四七 左京區鹿ヶ谷寺ノ前町六
 栗本 一洋 四四 下京區油小路綾小路下
 金鳥 桂華 四四 上京區衣笠小松原町
 福田 惠一 四四 左京區法勝小町二七
 堀井 香坡 四四 上京區北野神社裏
 川北 霞峰 六三 中京區間ノ町通竹屋町
 上村 松園 六三 上京區中長者町室町上
 小村 大雲 六三 伏見區東福寺南門
 平井 煤仙 四九 同上
 山内 信一 四八 下鴨中川原町三
 水田 硯山 四八 大坂市外豐中町春日通リ
 幸松 春浦 四四 二丁目
 山口 華楊 五九 上京區衣笠紅梅町三
 榊原 紫峰 五五 左京區岡崎東天王町四
 村上 華岳 五〇 神戸市神戶區花隈町三九
 小野 竹喬 四九 上京區衣笠等持院境内
 小川 翠村 四九 上京區衣笠等持院西町量

人名錄——日本畫家

小早川 清 二 下鴨森ヶ前町三
赤松 雲嶺 三 大阪市西町南堀江通り三ノ三
池田 遼邨 三 下鴨中川原町七二
森 守明 三 東山區清水産寧坂下東入

西山 英雄 二 東山區八坂通り東大路
梶原 紳佐子 三 上京區鷹野東町三
北野 以悦 三 上京區衣笠下町

中村 岳陵 三 湖南逗子町山ノ根谷戸
荒井 寛方 三 澁谷區代々木初臺
山村 耕花 三 品川區北品川二ノ二

洋畫家

○元帝展系
安宅安五郎 五 澁橋區戸塚町三ノ八六
有馬さとと 一 芝區白金三光町三三〇

矢島 堅士 三 瀧野川區中里町三五
山下 新太郎 三 芝區白金三光町三五
和田 三造 三 赤坂區福吉町一

宮本 三郎 三 世田谷區奥澤町二ノ五八〇
向井 潤吉 三 世田谷區結卷町一ノ九三
鈴木 信太郎 三 杉並區荻窪四ノ五七

人名錄——洋畫家

○獨立美術協會

梅原 龍三郎 三 麻布區新龍土町六

世田谷區新龍土町六
世田谷區玉川奥澤一丁目
澁谷區代々木山谷二

人名錄——洋畫家・彫刻・工藝

里見 勝藏 杉並區福戸町二六
兒島善三郎 府下國分寺多喜窪三六
小島善太郎 府下南多摩郡加住村中丹

八七〇

小倉右一郎 瀧野川區中里二ノ八
大國 貞藏 兵庫縣武庫郡芦屋權ノ深

彫刻

内田 殿 世田谷區世田谷町四ノ六
小林 萬吾 赤坂區新坂町五五

工藝

赤塚 自得 京橋區銀座五ノ四

落語

三升家小勝 本名加藤金之助(安五生)東京
市荒川區日暮里渡邊町一〇四〇(電下谷

講談

伊藤 陶山 七 京都市東山區白川三條
石田 英一 三 世田谷區新町一ノ六五

人名錄——工藝・講談・落語

三笑亭可樂 本名玉井長之助(明一九・一生) 東京市本郷區駒込坂下町一三五
 三遊亭金馬 本名加藤專太郎(明二七・一〇生) 東京市四谷區內藤町一(電四谷一九九四番)
 三遊亭圓生 本名村田源治(明一八・一〇生) 東京市四谷區大香町二(電四谷五六二八番)
 三遊亭小圓朝 本名芳村孝太郎(明二六生) 東京市下谷區谷中初音町三一五
 柳家枝太郎 本名島田信吉(明一〇・一生) 東京市本郷區駒込神明町二九一(電小石川五三四四番)
 柳家金語樓 本名山下敬太郎(明三四・四生) 東京市牛込區矢來町三四(電牛込一六八三番)
 柳家小さん 本名平山菊松(明二一・四生) 東京市四谷區三光町二四(電四谷一八六五番)
 柳家三語樓 本名山口慶三(明八・三生) 東京市本郷區駒込神明町八六(電小石川一三四一番)
 柳家つばめ 東京市淺草區壽町一ノ一(電淺草七九六六番)
 柳亭 左樂 本名中山千太郎(明五・三生) 東京市本郷區湯島切通坂町三七(電小石川二〇五七番)

川二〇五七番)
 柳亭 芝樂 本名島田勝己(明三八・一二生) 東京市本郷區駒込神明町二九一(電小石川五三四四番)
 林家 正藏 本名海老名竹三郎(明二五・一生) 東京市下谷區根岸一二六(電根岸八八七番)
 立川 談志 本名竹內榮次郎(明二一・一生) 東京市本郷區坂下町一三七
 橋家 圓藏 本名山崎松尾 東京市牛込區通寺町六七
 蝶花樓馬樂 本名岡本義(明二八・五生) 東京市下谷區入谷町三九一

義太夫

竹本津太夫 本名村上卯之吉(明二・一二生) 大阪府住吉區長峽町四七(電住吉三四五九番) 文樂座紋下、日本因會會長
 竹本土佐太夫 本名南馬太郎(文三九・一五生) 大阪府住吉區天下二ノ四三(電天下茶屋二〇〇九番) 昭和十二年六月文樂座引退
 豊竹古親太夫 本名金杉彌太郎(明一一・一二・一五生) 大阪府西成區粉濱中之四

ノ一三六(電住吉三一四五番) 文樂座附
 鶴澤友次郎 本名山本大次郎(明七・一七生) 大阪府東區淡路町一ノ二二 友次郎家元六、文樂座附
 鶴澤 清六 本名佐藤正哉(明二二・二七生) 大阪府南區難波新地一ノ一、清六家家元四、文樂座附
 豊澤松太郎 本名高木松太郎(安四・四・一八生) 東京市日本橋區濱町三ノ一七(電茅場町四〇八五番) 因會附、三味線方
 豊澤猿之助 本名高木宗太郎 東京市赤坂區田町六ノ四(電青山三〇四七番) 因會附、三味線方
 野澤 吉彌 本名佐藤小三郎(明一三・六一四生) 大阪府住吉區住吉一〇二五、八代目、文樂座附三味線方

浪花節

東家 樂燕 本名岡部六彌(明二〇・二生) 東京市下谷區下根岸一(電根岸三〇六番)
 東家 樂遊 本名村上雄(明二七・一一生) 東京市深川區清澄町二ノ五
 東 武藏 本名東常吉(明二六・一生)

東京市本所區厩橋四ノ二三(電墨田三九一四番)
 木村 重友 本名岩田市(明一五・九生) 東京市淺草區田島町三〇(電淺草二六一八番)
 木村 友齋 本名高木民藏(明三三・九生) 東京市中野區宮園町五ノ四八(電中野三三三二番)
 篠田 實 本名(藝名と各々)(明三一・一生) 東京市杉並區高圓寺四ノ五九四(電中野三三三四番)
 壽々木米若 本名藤田松平(明三一生) 東京市瀧野川區瀧野川四九三(電王子三三二五番)
 玉川勝太郎 本名石渡金久 東京市淺草區田島町九三(電淺草八〇三番)
 天中軒雲月 本名永田トメ 東京小石川區駕籠町二三九(電大塚三七七番)
 廣澤 虎造 本名山田信一(明三二・五生) 東京市淺草區駒形一ノ一(電淺草四〇八〇番)
 浪花亭綾太郎 本名加藤賢吉 東京市淺草區金龍山瓦二二
 吉田奈良丸 本名炭田嘉一郎 大阪府西成區千本通二ノ七(電天下茶屋三五四九番)
 藤甲齋虎丸 本名荒井正三郎(明一八生)

長唄

東京市中野區宮園通五ノ四八(電中野四〇〇番)
 春田亭清吉 本名田中純吉 東京市淺草區田原町一ノ一〇(電淺草一四八〇番)
 (浪方)
 芳村伊四郎 本名太田軍平(明一四・四・二〇生) 東京市品川區南品川一ノ一七(電高輪六九九五番) 東紫會主宰、伊十郎門下
 吉住小三郎 本名藝名と同じ(明九・一二・一五生) 東京市日本橋區通三ノ一ノ五(電日本橋一八一九番) 吉住家家元
 吉住小三藏 本名足立勝藏(明一〇・一〇・三〇生) 東京市芝區芝佐久町二ノ四(電芝二九二二番) 研精會派、小三郎門下
 吉住小四郎 本名島津友雪(明一八・六・二〇生) 東京市日本橋區濱町一ノ二(電茅場町六三〇九番) 父杵屋小四郎
 松永 和風 本名吉田定次郎(明七・二・一八生) 東京市赤坂區仲ノ町六ノ六七(電赤坂二九二六番) 松永家家元
 (三味線)
 京屋六左衛門 本名杵屋安彦(明三三・一

〇・六生) 東京市麻布區東鳥居坂町二(電赤坂一三八六番) 家元一四、寒玉の實子、杵六會、昭精會を主宰
 杵屋 寒玉 本名杵屋六左衛門(明三・五・一三生) 東京市芝區西久保神谷一八(電芝二七九一番) 十三代六左衛門
 杵屋六三郎 本名山崎忠之助(明二三・九・七生) 東京市深川區富岡町一ノ一〇(電本所六五八〇番) 六三郎家家元二、六寶會、成子會、桔梗會、仲好會主宰
 種香家六四郎 本名杉本金太郎(明七・三・四生) 東京市赤坂區新坂町三三(電赤坂四〇一一番) 六四郎家家元三、吉住小三郎と共に長唄研精會を起す
 杵屋 榮藏 本名小田榮次郎(明二〇・一〇・一七生) 東京市麴町區下二番町五〇(電九段四一二番) 榮藏家家元三、歌舞伎座邦樂部長、鶴命會主宰
 杵屋勝太郎 本名高橋秀幸(明一八・七・五生) 東京市日本橋區濱町一ノ一(電茅場町九六五番) 勝派總代、勝聲會を主宰
 杵屋 和吉 本名竹中金吾(明二一・三・二〇生) 東京市日本橋區蠣殻町四ノ四(電茅場町三五〇四番) 三代勝三郎門下、東紫會主宰
 杵屋勝五郎 本名小島鎌五郎(明三一・九・

一生) 東京市淺草區藏前二ノ二 (電淺草二三五九番) 四代勝五郎の實子
岸屋 佐吉 本名武藤良二 (明一七・九・一七生) 東京市麹町區平河町二ノ一 (電九段三一九〇番) 佐吉家元四、岸陸會、紫好會、佐門會、長唄芙蓉會、佐苗會各會長

岡安喜三郎 本名幸田嘉郎 (大二・四・六生) 東京市四谷區左門町五 (電四谷二〇六一番) 家元六
岡安喜三郎 本名芳村福太郎 (文二・二・一七生) 東京市牛込區拂方町二五 (電牛込二三三九番) 四代日喜三郎門下

杵屋正次郎 本名本橋新太郎 (明三・七・五生) 東京市日本橋區一ノ八ノ二、三代目正次郎實子
今藤長十郎 本名坂田政太郎 (慶二・二・二八生) 東京市麻布區飯倉六ノ一三 (電一三三六番) 今藤家派、二

柏 伊三郎 本名弓氣多伊三郎 (明三一・一・一五生) 東京市麻布區霞町七 (電赤坂一六九一番) 柏家派
稀香家和三郎 本名池田鏡太郎 (明一八・一・三〇生) 東京市麹町區紀尾井町三、勝派重領 (雜方)

田中傳左衛門 本名赤田禮三郎 (明一三・二・二生) 東京市豐島區駒込一ノ三一、田中家元、一〇
望月太左衛門 本名安倍光之助 (明三五・二・二〇生) 東京市牛込區市ヶ谷本村町一二 (電牛込一七七九) 小鼓・望月家元、九
望月 朴清 本名安倍清三久 (文二・三・一六生) 東京市日本橋區濱町一ノ八 (電茅場町五四六六番) 太左衛門の父
望月太左吉 本名白川清太郎 (明一〇・一・一〇生) 東京市芝區愛宕下町二ノ三、研精會所屬

福原鶴三郎 本名小田友太郎 (明六・三・五生) 東京市麻布區飯倉一ノ七、福原家派、三
福原百之助 本名若林市太郎 (明一七・七・一一生) 東京市日本橋區堀留一ノ一二ノ一 (電茅場町五〇一三番) 福原家派
梅屋勘兵衛 本名興津清三郎 (明一五・一・二一生) 東京市牛込區神樂町二ノ一 (電牛込四九〇七番) 梅屋家派、三

堅田喜總治 本名安部久藏 (明二六・二生) 東京市赤坂區傳馬町三ノ一八 (電赤坂三三六三番) 堅田家元、三

一生) 東京市神田區多町二ノ二ノ二、四 (電神田八一二番) 岡本流家元
富士松薩摩屋 本名小林かつ (文二・五・二二生) 東京市京橋區入船町一ノ一、江戸派初代家元
富士松觀世太夫 本名森山政吉 (明二一・八・二一生) 東京市豐島區巢鴨町一一一、富士松扶桑派創始
富士元加賀吉 本名金子とく (明一五・四・二一生) 東京市淺草區聖天橫町二五、富士元派家元
富士松喜昇 本名清水初五郎 (明二〇・九・五生) 東京市本郷區神明町二六九、富士松新派創始
富士松富士太夫 本名井上金太郎 (明三・六・九生) 東京市麹町區富士見町二ノ二ノ五、富士松東派家元
富士松曾根太夫 本名小林豐太郎、東京市淺草區田島町八七 富士松正派家元 八
代富士松加賀太夫の長男
富士松佐賀太夫 本名石川長三郎 東京市本所區鹿橋町三ノ四 富士松正派
富士松綾瀨太夫 本名魚津太吉 東京市淺草區馬道八ノ三 富士松正派
富士松長門太夫 本名田村百合熊 埼玉縣川口町飯塚五六八、富士松新派

清元

清元延壽太夫 本名岡村庄吉 (文二・八・一三三生) 東京市芝區高輪北町四八 (電高輪三二七番、四二四六番) 唄、高輪派家元、若葉會主宰
清元榮壽太夫 本名岡村圭壽郎 (明二八・一二・二二生) 東京府下吉祥寺野田南一八九三 (電吉祥寺一四〇番) 延壽太夫の實子
清元榮次郎 本名宮川源司 (明三七・四・二一生) 東京市赤坂區仲ノ町五 (電赤坂三三二〇番) 延壽太夫の立三枝
清元 梅吉 本名松原清一 (明二二・二・一七生) 東京市麹町區永田町二ノ一 (電銀座五〇六八番) 三味、清元派家元
清元梅壽太夫 本名松原三郎 (一) 住所清元梅吉と同じ、梅吉の女婿
清元喜久太夫 本名狩野駒之助 (明一五・六・二生) 東京市麹町區平河町一ノ五 (電九段一〇〇五番) 立唄、清元派副頭取

常磐津

常磐津文字太夫 本名常岡鏡之助 (明三〇・

歌澤・哥澤

歌澤寅右衛門 本名平田秀 (明三四・三・一八生) 東京市下谷區二長町五二 (電下谷四〇五五番) 寅派家元、五
歌澤 相模 本名平田ゆき (明五・八・五生) 住所寅右衛門と同じ、五代寅門の實母
哥澤芝勢以 本名柴田清子 (明一六・四・二五生) 東京市牛込區矢來町一〇五 (電牛込四八八八番) 芝派家元
哥澤 芝金 本名柴田錦子 (明二五・四・四生) 東京市芝區高輪南町三〇 (電高輪四八〇〇番) 芝派、芝勢以の實妹

小唄

田村小てる 本名田村壽美子 (大三・一〇・一四生) 東京市芝區新櫻田町一九 (電銀座五二五一番) 田村派家元
春日 とよ 本名柏原とよ (明一四・九生) 東京市下谷區上野櫻木町二二 (電下谷二五七九番) 春日派家元
堀 小多満 本名堀多満 (明九・四生) 東京市芝區南佐久間町二ノ三 (電芝二三八

新内

岡本 文彌 本名井上猛一 (明二八・一・

人名錄 — 常磐津・新内・歌澤・小唄

三番) 堀派家元
小唄幸兵衛 本名池田幸太郎(明一七・五
生) 東京市京橋區銀座座四ノ四、幸兵衛派
家元

藝 胡蝶 本名館なか 東京市芝區新橋
一ノ六(電銀座三四四〇番) 藝派家元
久満 廣代 東京市芝區南佐久間町二ノ一
六 久満派家元

市 丸 本名後藤幸子 東京市淺草區
柳橋一ノ二ノ五(電淺草二五二〇番) 春
日派、日本ビクター專屬
小唄勝太郎 本名佐藤かつ(明三七・一一、
六生) 東京市京橋區築地一ノ九ノ二(電
京橋二八番) 不二派家元、日本ビクター
專屬

漫談家

井口 靜波 本名井口誠一(明三一・三生)
東京市麴町區九段一ノ一四、五(電九段
四四六二番)
大辻 司郎 本名大辻四郎(明三八・八生)
東京市品川區五反田六ノ一九一(電高輪
四六三三番)
徳川 夢聲 本名福原駿雄(明二七・四生)
東京市杉並區天沼一ノ一三八(電荻窪二

箏曲

一三二番)
西村 樂天 本名西村吉藏(明一九・五生)
東京市芝區西久保明舟町八(電芝一四九
八番)
西村小樂天 本名田川實(明三五・一二生)
東京市本所區厩橋一ノ六
松井 翠聲 本名五百井清榮 東京市大森
區入新井四ノ六〇

箏曲

今井 慶松 本名今井新太郎(明四・三・
二五生) 東京市麻布區本村町二二五(電
三田三三四四番) 從四位勳四等、山田流
箏曲協會々長 移風會主宰
山室千代子 本名三輪千代子(明八・一二、
二五生) 東京市神田區小川町二ノ八(電
神田五五八番)
佐藤美代勢 本名佐藤たつ子(明三・二・
一八生) 東京市本郷區西片町一〇ノ二
八 青蛙會主宰
越野 榮松 本名越野三太郎(明二〇・三・
一九生) 東京市赤坂區新町三ノ四〇(電
赤坂三三一一番) 山田流、箏曲協會理事
町田 杉勢 本名町田かめ(明一五・一一、
五生) 東京市本郷區曙町二五(電小石川

三七四一番) 木の芽會主宰
千布 豐勢 本名千布豐(明四・九・二〇
生) 東京市芝區白金三光町五五四、山田
流、東京盲校教諭
富崎 春昇 本名吉倉助次郎(明一三・九・
一二生) 東京市赤坂區青山南町六ノ五八
(電青山四〇九八番) 生田流、野川系、温
心會主宰

川瀨 里子 本名川瀨さと(明六・九・三
生) 東京市四谷區黨町九五(電四谷四
六七六番) 生田流、琴古流尺八川瀨順輔
の妻
加藤 柔子(明八・四・二八生) 東京市赤
坂區丹後町一(電赤坂三一五七番) 生田
流、芙蓉會主宰
米川 親敏(明一六・一一・二五生) 東京
市麴町區下二番町五五(電九段三四九一
番) 生田流 研導主宰
宮城 道雄 本名(藝名と前じ) (明二七・
四・七生) 東京市牛込區中町三五(電牛
込三四八番) 生田流 東京音樂教授、
東京盲校講師

天笠 才壽 本名天笠さむ(明二三・一・
一七生) 東京市麻布區斧町一一(電赤坂
三一二九番) 生田流、松生會主宰
中島雅樂之都 本名中島利之(明二九・三・

琵琶

榎本 芝水 本名榎本辨之助 東京市日本
橋區通リ二ノ六、八(電日本橋二六七二
番) 薩摩、芝水流
水藤 錦環 本名水藤富美 東京市下谷區
上野櫻木町一八(電下谷六八一番) 錦環
舊宗家
橋 旭翁 本名橋一定(明七・一〇生)
東京市麴町區三番町三二(電九段二二三四
番) 筑前、橋流旭會派宗家、二
田中 旭嶺 東京市芝區松本町四四
芳村 岳城 東京市芝區愛宕町二ノ二四
豐田 旭積 東京市四谷區七軒町四

三絃

杵家 彌七 本名赤星ヨウ(明二三・一二、
一〇生) 東京市麻布區三河臺町一四(電
赤坂一五八八番) 杵家彌七女塾長

富本

富本 豐前 本名坂田とく(明一八・一・
一三三生) 東京市澁橋區角筈一ノ七五〇、

尺八

川瀨 順輔 本名(藝名と同じ)(明三・一
八生) 東京市牛込區左内町三(電牛込
二七〇六番) 正派家元、生田流、正派邦
樂會主宰
福田喜久子 本名福田きく(明二〇・三・
二八生) 東京市赤坂區青山町五ノ四八、
生田流、三つの音會主
高橋 榮清 本名高橋源太郎(明元・四・
二三生) 東京市四谷區左門町一〇八(電
四谷四二六六番) 山田流、樂成會組織
徳永 徳壽 本名中井徳太郎(安二・一・
一〇生) 東京市京橋區築地三ノ六ノ四(電
京橋五三〇八番) 生田流、東京地方の生
田流の先驅者
古賀 城武(萬元・一・二五生) 横濱市鶴
見區東寺尾町一六〇三、生田流、絃聲會
主宰
木谷壽恵子(明一五・三生) 東京市牛込區
揚場町一五(電牛込五三二九番) 生田流
初音會主宰
上原眞佐喜 本名上原淳子 東京市麴町區
下六番町一六(電九段二〇二一番) 山田
流眞摩琴會主宰

七代目家元の娘、富本さくら會主、富本豊前會々主

宮園

宮園 千之 本名片山ふさ 東京市京橋區
木挽町八ノ一七ノ三 宮園節家元 三
宮園 千廣 本名鈴田ゆき 東京市牛込區
新小川町二ノ一六

荻江

荻江壽々子 本名竹村すゞ 東京市赤坂區
青山南町六ノ一四七(電青山三二五二番)
荻江ふさ子 本名片山ふさ 東京市京橋區
木挽町八ノ一七ノ三

河東

山彦 秀子 本名片山ふさ 東京市京橋區
木挽町八ノ一七ノ三(電銀座二七四九番)
十寸見會派
山彦八重子 本名佐橋章子 東京市本郷區
湯島同朋町一ノ一 十寸見會派
山彦 米子 本名岡田米子 東京市麹町三

ノ八ノ二 十寸見會派

中

都 一梅 本名小林きん(明一・二・一・三〇生) 東京市京橋區築地三ノ一五、都
派、十代、一中門下
宇治 紫文 本名鈴木喜久(明一四・二・二八生) 宇治派家元(大正十年四代目紫文を相續、五代家元の後繼者として藝道に精進中)
菅野 序遊 本名菅野平太郎(明一九・三・二六生) 東京市淺草區茅町二ノ二二、管派五代家元
都大夫千中 本名西山龜助 京都市上京區右藥師寺町東入 都派

舞踊

日本舞踊

藤間 勘齋(藤間流後見、俳優名松本幸四郎本名藤間勘右衛門) 澁谷區中通リ一ノ三四(電青山五五)
藤間勘右衛門(藤間流家元、本名藤間豊) 同上

藤間金太郎(藤間流補佐、本名藤間治雄) 同上

藤間勘四郎(阿部銚三郎) 日本橋區吳服橋三丁目三ノ一(電日本橋三〇五一)
藤間 章郎(小山萬次郎) 大阪市西區新町南通二ノ三五
藤間壽右衛門(井口正太郎) 京橋築地一ノ六(電京橋八五三)
藤間藤之助(吉田清一) 麹町區三番町三〇ノ一(電九段四五二八)
藤間 勘作(濱野申六) 澁谷區上智町二六
藤間 勘郎(水田茂) 兵庫縣川邊郡福野住宅四號地三三
藤間 德造(田中德藏) 日本橋區葎町一ノ二(電茅場町三四四八)
藤間 政彌(山田すゞ) 京橋區銀座七丁目四ノ三(電銀二〇三一)
藤間 勘次(森田イネ) 牛込區矢來町一六二(電牛込二〇八四)
藤間 伊勢(田中いせ) 日本橋區葎町一ノ二(電茅場町三四四八)
藤間 壽枝(巴スエ) 京橋區銀座七丁目三ノ四(電銀座一七八三)
藤間 章吉(吉田ちよ) 本郷區湯島天神町三ノ二(電下谷一七七六)
藤間勘太郎(小林松枝) 赤坂區田町六ノ一

藤間 藤子(田中藤子) 淺草區柳橋二丁目四ノ一〇(電二五〇五)

藤間 勘園(西川多保子) 大森區田園調布三ノ三四〇

藤間喜與惠(能勢君子) 赤坂區表町二ノ一三

藤間 勘妙(須田靜枝) 淺草區千束町二ノ三二〇

藤間 乙女(藝名天津乙女、本名島井榮子) 兵庫縣川邊郡小濱村上川面西一丁目

花柳 壽輔(花柳流家元、本名花柳芳三郎) 京橋區木挽町六ノ六(電銀座三六三二)

花柳德太郎(花柳流分家、本名田代德太郎) 芝區新橋一ノ二二(電銀座二六八三)

花柳芳次郎(花柳流分家、本名花柳幾太郎) 京橋區新富町二丁目九ノ五(電京橋二七八)

花柳壽美江(久富はつ) 麻布區櫻田町七九(電青山三五九五)

花柳壽兵衛(新田源八郎) 赤坂區田町六ノ一三(電赤坂五一、五三、四一五)

花柳 芳波(若林奈美) 牛込區神樂町二ノ二二

花柳輔三郎(吉田梅吉) 淺草區象潟町二ノ九(電根岸一二六〇)

花柳 輔藏(三宅藤五郎) 下谷區數寄屋町

五(電下谷四四六二) 淺草區淺草橋二ノ花柳勝治郎(市川はな)

四ノ六 花柳 祿壽(金井ろく) 日本橋區濱町三ノ一九(電茅場町三六六八)

花柳壽美次(坂本しの) 麹町區平河町一ノ二(電九段二一三)

花柳 珠實(佐竹いれ) 麹町區下六番町一〇(電九段四四四七)

花柳壽太郎(仁科周雄) 四谷區傳馬町一ノ一八(電四谷五三九四)

花柳三之輔(相川三之助) 芝區南久間町二ノ三(電芝四三四八)

花柳 壽美(下谷いさみ) 麻布區六本木町三一(電赤坂一八八五)

花柳壽三郎(本田健雄) 四谷區大番町一〇(電四谷五五一二)

花柳 德彌(千田さだ) 長野縣上諏訪大手町三〇二一

花柳昌太郎(濱田清) 麹町區平河町二ノ一ノ九號(電九段二九三四)

花柳 德紫(平野みき) 日本橋區本町三ノ六ノ二

花柳 德秀(堀ひで) 品川町東品川三ノ三七ノ一二號(電高輪二三〇)

花柳德三郎(松留悦二) 福島縣平町中田町

七二 花柳德榮美(鈴木きみ) 日本橋區綱殼町四ノ三

花柳 壽滿(宮崎光子) 麻布區六本木町六三

花柳壽美葉(内田百合子) 目黒區洗足町一四七〇

花柳壽美之輔(千代川治延) 日本橋區芳町一ノ四(電茅場町四九七三)

花柳壽二郎(小林繁次) 麻布區霞町六

花柳德兵衛(寺崎孝太郎) 淺草區左衛門町三(電九段三六八〇)

花柳 泰輔(小山内登女子) 麻布區森元町二ノ二

花柳德之丞(高山豊光) 淺草區左衛門町一寺崎孝太郎方

花柳悦太郎(栗村徳) 品川區南品川一ノ二三七

花柳年之輔(鎌田年昭) 京橋區木挽町三ノ一三

花柳 啓之(三宅勇) 下谷區數寄屋町五(電下谷四四六二)

花柳 壽鑄(今井鑄子) 赤坂區青山高樹町

八(電青山四三四三) 松本 錦升(松本流家元、本名藤間順次郎) 澁谷區中通リ一ノ三四(電青山五五五) 松本 米三(志茂成枝) 目黒區中目黒三丁目一〇七五
若柳 吉藏(若柳流家元、本名竹内孝太郎) 日本橋區綱敷町三ノ六ノ二(電茅場町四七〇〇)
若柳 吉三郎(新井眞護) 淺草區柳橋一ノ一(電淺草五五〇一)
若柳 吉與志(寺田うめ) 本郷區湯島天神町三ノ一〇(電下谷一三〇三)
若柳 吉登代(中村千世) 麴町區上二番町二(電九段三八四一)
若柳 吉佑(五十嵐庸浩) 神田區宮本町二六(電下谷七〇二)
若柳 吉美津(新井光子) 淺草區柳橋一ノ一(電淺草五五〇一)
若柳 吉延(安藤世喜子) 大森區八新井五ノ三四二(電大森六五七六)
若柳 吉兵衛(永井宏明) 京都市東洞院藥師下ル(電本局一五八五)
若柳 吉市郎(小田切才一) 本所區向島須崎町七四(電隅田五五五六)
若柳 吉平(藤山嘉彌) 芝區新橋一ノ二八(電銀座六七四二)

若柳 敏三郎(見市敏三郎) 麴町區下六番町一七ノ四八號(電九段二三六)
若柳 三之輔(伊達慎一郎) 四谷區永住町二(電谷五二五三)
若柳 光妙(高木妙子) 日本橋區兩國一八ノ四
坂東 三津五郎(本名守田壽作、坂東流家元) 橫濱市鶴見區平安町一ノ二五三(電鶴見二二二八)
坂東 箕助(守田俊郎) 赤坂區青山北町四六(電青山六六三一)
坂東 三津之丞(小島日出丸) 京橋區港町三ノ一〇(電京橋四四二六)
坂東 三善次(色川すみ) 淺草區雷門一ノ二三ノ一
坂東 三津藏(川村サト) 本郷區丸山福山町七
坂東 三津榮(鷹野榮子) 牛込區改代町七
坂東 三津美(辻本敏子) 芝區田村町三丁目四ノ二
坂東 三津代(田村好子) 神田區末廣町一七(電下谷三一八八)
西川 扇藏(西川流十代目家元、本名尾村宏一郎) 下谷區仲御徒町二ノ四〇
西川 扇五郎(石井清次郎) 淺草區松葉町一〇(電淺草八四六八)

西川 扇之助(竹村佐一郎) 瀧野川區瀧野川七
西川 扇吉郎(山本榮治) 下谷區竹町五六
西川 喜尾八(伊東親) 神奈川縣鎌倉町村木座下河原町一〇〇〇
西川 扇龍(小島米子) 麴町區麴町二ノ二ノ四
中村 福助(中村流家元、本名河村藤雄) 澁谷區千駄ヶ谷五ノ八九一(電四谷一七三一)
中村 芝賀(村田ハル) 日本橋區本町四ノ一三ノ四(電日本橋二九三二)
中村 芝葉(鈴木奈美) 芝區田町四ノ一〇
藤間 勘十郎(藤間流家元、本名藤間秀雄) 京橋區新川一ノ五(電京橋四七〇五)
藤間 勘多美(高橋多美) 麴町區三番町一二(電九段三八〇五)
藤間 勘助(山口銀次郎) 淺草區千束町二ノ一八〇(電根岸一八〇七)
藤間 勘素娥(高橋元子) 麴町區三番町一二(電九段三八〇五)
藤間 勘美(島岡勝子) 淺草區田島町三八
藤間 勘三郎(星合茂) 芝區琴平町二三
藤間 勘次郎(羽鳥友吉) 淺草區新片町一六
西川 喜洲(二代目西川流家元、本名堀口敏子) 神田區淡路町三ノ二九

西川 喜代美(西崎みどり) 小石川區原町一〇二(電大塚九二八)
松島 金昇(松島流家元、本名松井トヲ) 神田區司町二ノ一一
松島 千恵(星野智恵子) 神田區五軒町四〇
中村 虎治(中村流家元、本名赤石八重) 淺草區田島町八六
中村 小虎(赤石千枝子) 同上
七扇 小橋(七扇流家元、本名長尾シン) 橫濱市中區榎町二ノ三七
柏木 琴章(柏木流家元、本名池田サダ) 荒川區日暮里町九ノ一一〇(電下谷二二九七)
藤村 鶴吉(家元、石黒伸子) 横須賀市深田一二七(電横須賀一七八六)
井上 八千代(家元、本名片山春子) 京都市新門前繩手東入ル
市山 七十世(家元、本名川田龜子) 新潟市古町八番町(電新潟二四一九)
市山 芳子(川田芳子) 蒲田區御園町三〇三(電蒲田一四四七)
志賀山 舞扇(家元、本名山添ふき) 京橋區八丁堀二ノ二
山賀山 勢以(山添やな) 同上
市川 翠扇(家元、本名堀起實子) 京橋區

築地二ノ二ノ八(電京橋四一一)
市川 紅梅(堀越貴久榮) 同上
吉村 雄光(家元、本名兒玉光子) 大阪市南區笠屋町三〇
岩井 杜紫松(家元、本名小林延子) 赤坂區青山南町二ノ六七ノ五(電青山五七二二)
山村 ツネ(家元、本名柴田ツネ) 大阪市南區墨屋町一六(電南一九〇)
水 木 流(家元、本名大久保忠吉) 兵庫縣武庫郡住吉村宮の前六五七
水 木 歌橋(増田ゆい子) 蒲田區蒲田町御園二六三
水 木 歌若 品川區西品川三丁目八三七
水 木 歌保 芝區二本榎四町二
水 木 歌紅(栗島すみ子) 大森區久々原町六四一(電池上七七)
吾妻 春枝(家元、本名山田喜久榮) 京橋區銀座七丁目四ノ三(電銀座二〇三二)
榎茂 都陸平 大阪市東區博愛町一ノ六一(電船場三一九三)
西 洋 舞 踊
青山 圭男 京橋區東大久保一ノ二七一 小沼方
東 勇作 澁谷區宇田川町六三 松本方
荒木 陽 杉並區荻窪二ノ八二
飯田 收 神田區錦町一ノ三サンストシ

石 井 漢 目黒區自由ヶ丘六二(電荏原三九三〇)
石 井 みどり 豊島區長崎東町三ノ五一五(電長崎二七三六)
石 井 小浪 目黒區自由ヶ丘一六九(電荏原四一三二)
石 井 郁子 世田谷區下北澤驛前綠ヶ丘
井上 徳雄 世田谷區北澤二ノ八六(電世田谷三七五二)
梅園 龍子 世田谷區三軒茶屋九一
江口 隆哉 目黒區平町三〇五(電荏原三九一四)
大橋 徳江 本郷區向ヶ丘彌生町二(電小石川三四八五)
柿 澤 充 目黒區宮前町一六八一
印 牧 季雄 四谷區南伊賀町一六(電四谷一九八一)
河上 鈴子 蒲田區蓮沼町三一三(電蒲田三一九三)
河野 達郎 目黒區上目黒八ノ五五二
フォレスト・カーネット 赤坂區檜町六 乃木坂俱樂部
岡本 八重子 豊島區雑司ヶ谷一丁目一ノ一 邦 正美 世田ヶ谷區北澤四ノ三六二(外遊中)

久米 雅子 中野新井町一山田方
 高ヘテイ 澁谷町櫻ヶ丘一四
 小森 敏 目黒區本郷町一〇〇
 崔 承 喜 杉並區永福町二六四(電松澤
 二九二五)
 堺 千代子 千葉縣市川市中山町五ノ六二
 島田 豊 芝區白金三光町二七六(電高
 輪四九五〇)
 執行 正俊 杉並區荻窪三ノ七〇
 鈴木 初江 中野區上高田二ノ三六九(電
 中野四〇六一)
 高田せい子 澁橋區柏木四ノ八六八(電四
 谷一二五四)
 田澤千代子 神田區神保町三ノ一七(電九
 段一五六八)
 竹崎 大輔 麴町區永田町二ノ三〇
 橋 秋子 杉並區大宮前五ノ二九八
 千葉みはる 四谷區永住町二
 津田 信敏 赤坂區青山高樹町三(電青山
 一九九九)(外遊中)
 津田 瑛子 同上
 中川 三郎 麻布區飯倉片町六和朗フラス
 ト(電赤坂二四八五)
 芝 晴園 芝區三田四國町芝園アパート
 (電三田二三八)
 エリアナ・バヴロバ 麴町區有樂町蠶絲會

館内
 花園 歌子 豊島區西巢鴨二ノ一九七九
 花月 達子 杉並區荻窪三ノ七〇執行方
 ニナ・ハマダ 目黒區原町一三五〇(電荻
 原三八七四)
 リワ・ハマダ 同上
 春野 芳子 中野區宮里町四(電中野二二
 〇六)
 檜 健次 四谷區鹽町三ノ三八(外遊中)
 平尾 初子 杉並區天沼一ノ二〇七
 平岡斗南夫 澁橋區柏木四ノ八六八高田方
 平山 陽子 神奈川縣鎌倉町末廣町八六〇
 深澤 朱嘉 浅草區雷門一ノ三一〇七
 福井 茂 本郷區千駄木町一七五
 福井 巖 同上
 藤田 繁 千葉縣市川市中山町五六二
 ショーシ・堀 品川區大井水神下町二〇三
 八増山方
 牧 幹人 杉並區大宮前五ノ二九八
 益田 隆 世田谷區北澤四ノ四〇一(電
 世田谷三五六一)
 宮 操子 目黒區平町三〇五(電荻原三
 九一四)
 矢野 文子 赤坂區新町一丁目一五(電赤
 坂三一三四)
 山田 五郎 本郷區向ヶ丘彌生町三三ノ八

號(電小石川六〇七七)
 新 舞 踊
 吾妻 春枝 (日本舞踊參照)
 栗島すみ子 (日本舞踊參照)
 清水 和歌 澁橋區百人町三ノ二七九
 西崎 綠 小石川區原町一二(電大塚九
 二八)
 花柳 壽儀 (日本舞踊參照)
 花柳 壽惠美 麻布區三河臺町一三
 花柳 壽美 (日本舞踊參照)
 花柳 珠實 (同)
 花柳 美 麻布區六本木町三一花柳壽美
 方
 花柳 壽二郎 (日本舞踊參照)
 花柳 德兵衛 (同)
 花柳 壽彌 澁谷區大和田町九八(電青山
 二八四三)
 林 きむ子 豊島區西巢鴨四ノ一二一(電
 大塚四一四八、四六六四)
 林 一枝 (同上)
 林 壽枝 澁谷區原宿二ノ一七〇ノ二一
 原田 佳明 中野區桃岡町三〇(電中野二
 四〇一)
 藤原 静枝 麻布區霞町六(電赤坂四九六
 八)
 藤原 千枝 四谷區北伊賀町三〇山本方

藤原 芳枝 澁谷區青葉町三(電青山三八
 二一)
 藤原 敏枝 横濱市若松町七九
 藤原 枝枝 目黒區上目黒五ノ二四四
 松 賀 綠 日本橋區綱敷町二ノ三
 藤間 勘素娥 麴町區三番町六ノ一二(電九
 段三八〇五)
 藤間 勘素風 (同上)
 藤間 喜與恵 (日本舞踊參照)
 水木 歌壽榮 芝區高輪車町七四池谷方
 舞 踊 關 係 者
 相島 敏夫(記者) 世田谷區北澤二ノ一〇
 三
 藤原 英了(評論) 四谷區南伊賀町一六
 (電四谷三六三五)
 瀧美清太郎(評論) 小石川區原町一〇(電
 大塚四六一四)
 穴澤喜美男(照明) 大森區南洗足六二(電
 荻原四三六四)
 池田 鏡子(作者) 赤坂區青山南町二ノ六
 (電青山四一〇)
 石井 迷花(記者) 目黒區自由ヶ丘荻原三
 三四(電荻原二八二七)
 伊藤 祐司(裝置) 小石川區金富町五九
 牛山 充(評論) 杉並區西田町一ノ六六
 一

江口 博(評論) 牛込區中里町二七中里
 アパート
 大泉博一郎(作者) 芝區芝公園七ノ一〇
 (電芝一四九)
 小寺 融吉(評論) 京橋區百人町三ノ二七
 九
 加藤 長江(評論) 世田谷區代田一ノ三九
 八
 河田 清史(評論) 鎌倉町長谷新宿七九加
 藤方
 久保田金徳(裝置) 麴町區三番町三(電九
 段四五〇五)
 齊藤 佳三(裝置) 赤坂新町一ノ一(電青
 山四一九二)
 佐藤 邦夫(評論) 大阪市南區鹽町通リ三
 ノ五(電船場一八四二)
 佐藤 寅雄(評論) 大森區馬込町東四ノ三
 〇七
 田中 良(裝置) 澁谷區榮通二ノ一五
 遠山 靜雄(照明) 大森區上池上町一〇〇
 九
 土岐 善曆(作者) 目黒區下目黒四ノ八〇
 四(電高輪五五八二)
 永田 龍雄(評論) 麴町區富士見町一ノ二
 〇
 西川 忠宏(評論) 大森區田圃調布三ノ三

四〇
 久本十美二(照明) 四谷區鹽町一ノ一七
 松崎 國雄(照明) 吉田谷區砦成城喜多見
 一五九
 光吉 積男(評論) 四谷區傳馬町一ノ三七
 村松 道彌(記者) 牛込區赤城下町六五
 森 満二郎(記者) 澁谷區原宿二丁目一
 九
 山崎淳之輔(裝置) 牛込區北町三五
 六
 洋 樂
 赤羽田鶴子(ピアノ) 田圃調布音楽スタジオ
 オ講師 明四三生 東京市杉並區清水町
 一六〇岡部方
 明本京静(テナリ) 東京合唱團 明三八生
 東京市世田谷區代田二ノ六八一ノ四
 秋田滋子(ピアノ) 明四〇生 東京市牛込
 區新小川町一ノ一四(電牛込一五六九)
 淺香錦三郎(テナリ) 京華高女 立教中學
 講師 明二一生 東京市瀧野川區田端町
 一三八(電小石川六二三八)
 淺野千鶴子(ソプラノ) 東京音楽學校助教
 授 明三七生 東京市豊島區池袋町二ノ

九二八
 淺野 常七(チェロ) 青山師範教諭 東京
 音樂學校教務囑託 明三七生 東京市豊
 島區長崎南町一ノ一八二四
 天野喜久代(メソオ・ソプラノ) 一明三〇生
 東京市下谷區上根岸八二
 天地 芳雄(チェロ) 東京高等音樂院囑託
 明三九生 東京市蒲田區御國町二三九安
 東方
 天地眞佐雄(ピアノ) 一明二生 東京市杉並
 區馬橋三ノ三六四
 安藤 幸子(ヴァイオリン) 東京音樂學校
 教授 明一一生 東京市麴町區中六番町
 三七(電九段一九八二)
 淡谷 規子(ソプラノ) 明四〇生 東京市
 大森區池上洗足二八一(電在原四〇三一)
 阿部 秀子(メソオ・ソプラノ) さつき會
 音樂研究所主宰 東調布高女教諭 明三
 八生 東京市大森區調布三嶺町一ノ四四
 四(電池上二七八)
 阿部 英雄(バス) 東京音樂學校 東洋音
 樂學校講師 明三〇生 東京市品川區西
 大崎四ノ七九五河原方(電高輪二四一一)
 阿部萬治郎(オーボエ、ピアノ) 新交響樂
 團員 明三一生 東京市世田谷區玉川奧
 澤三ノ九一五

安部 正義(バリトン) 日本洋學研究會主
 宰 明二四生 東京市目黒區向ヶ原二一
 二
 荒木 秋子(ピアノ) 明四三生 東京市目
 黒區富士見臺一五六三(電在原三五六四)
 安部 幸明(チェロ) 武蔵野音樂學校講師
 東京音樂學校管絃樂部員、上野樂屋會員
 明四四生 東京市豊島區長崎南町一ノ一
 七二〇
 池田 淑人(チェロ) 池田チエロ・スタヂ
 オ主宰 明三五生 東京市杉並區阿佐ヶ
 谷三ノ四三五
 井口 基成(ピアノ) 東京音樂學校教務囑
 託 明四一生 東京市豊島區目白町三ノ
 三五五九
 井口 愛子(ピアノ) 東京音樂學校教務囑
 託 明四四生 東京市世田谷區砧村喜多
 見一三五(電砧四一〇)
 井崎嘉代子(ソプラノ) 武蔵野音樂學校講
 師、ピクター專屬 明四三生 横濱市中
 區東ヶ丘四四(電横濱長者町四三八八)
 石川 義一(ピアノ) 自由樂團講師 明二
 四生 東京府下武蔵野境七五(電境七一)
 石川 寛(ヴァイオリン、ピアノ) 東京
 文化音樂學院主宰 明二八生 東京市葛

飾區本町五八(電本町三二五)
 井田 一郎(ヴァイオリン、作曲) 井田一
 郎ジャズ・オーケストラ指揮者 明二七
 生 東京市麻布區龍土町六三
 市 丸 ビクター專屬 東京市淺草區
 象潟町六(電根岸一二四〇)
 市川 元(バリトン) 金曜會 明四〇生
 東京市中野區本町通五ノ二一
 一柳 信二(チェロ) 明三五生 東京市澁
 谷區猿樂町四
 伊藤 敦子(ソプラノ) 明三五生 東京市
 大森區久ヶ原六九八
 伊藤 完夫(オルガン) 東京女子音樂學校
 育英小學校、本郷坂教會講師 明三九生
 東京市世田谷區北澤三ノ九二五
 伊藤 武雄(バリトン) 東京音樂學校教務
 囑託 明三八生 東京市中野區櫻山一
 伊藤能秀留(トロンボーン、作曲) 現代日
 本作曲家聯盟員 明三六生 東京市大森
 區北千束町五六六
 伊藤 久男(バリトン) コロムビア專屬
 明四四生 東京市世田谷區松原町三ノ九
 二九
 伊藤 祐司(テナール) 東京市小石川區金富
 町五九
 伊藤 義雄(ピアノ) 東洋音樂學校並武蔵

野音樂學校講師 明三七生 東京市中野
 區天神町二三
 伊藤 宜二(ピアノ、作曲) 日本現代作曲
 家聯盟員、映畫評論社音樂囑託 明四〇
 生 東京市蒲田區御國町二五九昇和アパ
 ー
 伊藤 隆一(指揮者) 東京市囑託 東京市
 澁橋區西大久保三ノ一〇四
 稲田ベティ(ジャズ歌手) コロムビア專屬
 大二生 東京市麴町區内幸町東洋ビル日
 本コロムビア會社氣付
 井上 協子(リ、ツク・ソプラノ) 明四〇
 生 在米
 井上 定吉(ピアノ) 東洋音樂學校講師、
 明三九生 東京市豊島區池袋三ノ一三九
 〇
 井上 圓子(ピアノ) 大四生 東京市神田
 區駿河臺四ノ三(電神田一〇〇四)
 井上 武雄(ヴァイオリン) 東京音樂學校
 教務囑託 明三九生 東京市大森區馬込
 町東四ノ二六八
 井上 武士(オルガン、作曲) 東京高等師
 範學校教諭、學校音樂研究會理事、大日
 本作曲家協會員 明二七生 東京市小石
 川區久堅町七四(電小石川八〇一四)
 井上 信子(ピアノ) 中央音樂學校講師

明四三生 東京市芝區白金三光町二七三
 (電高輪六〇五九)
 岩田 一(チェロ) 明三六生 東京市杉
 並區阿佐ヶ谷一ノ六八九(電二九七八)
 岩波桃太郎(フルート) 新交響樂團員 明
 三一生 東京市杉並區東田町一ノ四
 三
 岩本 政藏(ヴァイオリン) 東京音樂學校
 管絃樂部員 明三八生 東京市澁橋區西
 大久保一ノ五一九加藤方
 岩谷 廣子(ソプラノ) 女子音樂團講師
 東京市澁谷區常盤松町八八
 〔ウ〕
 上杉 定(ヴァイオリン) ビクター專屬
 明二八生 東京市杉並區一ノ一七三
 上田 仁(ピアノ、ファゴット) 新交響
 樂團員 明三七生 東京市目黒區大岡町
 一〇一
 上野 耐之(テナール) コロムビア專屬 明
 三四生 東京市澁橋區柏木四ノ九二七
 (電四谷五六八〇呼)
 上原 秋雄(ハーモニカ) 東京市教育局社
 會教育課囑託、ミヤマ・ハーモニカ・パン
 ド總務 明三三生 本郷區湯島新花町九三
 上宮 勝(ホルン、ピアノ、指揮、編曲) 新
 交響樂團員 明三二生 荏原區中延町一
 二〇三

宇賀神味津雄(ヴァイオリン) 明二九生
 東京市世田谷區喜多見町成城四三五
 内田 榮一(バリトン) 明三四生 東京市
 澁橋區十二社四二二 電四谷四三〇六
 内本 實(テナール) 明三八生 東京市世
 田ヶ谷太子堂町三二六
 〔エ〕
 江口 夜詩(作曲) 明三六生 東京市世田
 ヶ谷若林町二五 電在原三九一四
 〔オ〕
 大木 正夫(作曲) 明三四生 東京市牛込
 區南根町四七
 大澤 壽人(作曲、指揮) 神戸市灘區南通
 二ノ四五(電御影三六四七)
 大川 澄子(童謠) コロムビア專屬 大一
 二生 東京市豊島區西巢鴨二ノ一九九三
 多 忠紀(笙、チェロ) 百内省樂師 明
 三一生 東京市牛込區加賀町二ノ二五
 多 基永(ひちりき、チェロ) 宮内省樂
 師、日本音樂學校、武蔵野音樂學校講師
 明二一生 東京市牛込區矢來町五六(電
 牛込九七六)
 太田 綾子(ソプラノ、ハーブ) ビクター
 專屬 明三一生 東京市本郷區曙町二八
 太田 忠(打樂器、作曲) P.C.L管絃

樂部員、日本現代作曲家聯盟 東京市大森區馬込町西四ノ三八五一
 太田 恒子(ドラマチック・ソプラノ) 明二一
 二一 東京市荏原區小山町四八九(電荏原二九二二)
 太田 繁(テナー) コンセル・ルージュ部員 明三六生 東京市荏原區小山町五〇七(電荏原四一九五)
 大月 投網子(ピアノ) 明三六生 東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七七五
 大津 三郎(チェロ、トロンボーン) 新交響樂團員 明四三生 東京市大森區調布千鳥町六四九
 大塚 淳(指揮、ヴァイオリン) 東京音樂學校教師、ジュビター・クワルテット部員 明一九生 東京市目黒區下目黒四ノ九九六(電高輪三八四四)
 大 寅二(オルガン、作曲) 靈南坂教會オルガニスト 東京市赤坂區靈南坂町七
 大橋 勝雄(バリトン) 東京市赤坂區青山北町三ノ六八
 大村 卯七(チェロ) 新交響樂團員 東京市大森區上池上町一〇七〇
 大村 能章(作曲) 大日本作曲家協會 東京市葛飾區本木根町二〇三(電本木二六四)

大和田 愛羅(バリトン、チェロ) 府立女子師範講師、大日本作曲家協會監事 明四二生 東京市小石川區竹早町九二
 奥田 良三(テナー) P.C.L.ボリドール囃子 明三六生 東京市澁谷區藤田三ノ一七三(電青山七四〇九)
 奥村 麗子(ヴァイオリン) 東京市麻布區市兵衛町二ノ三三
 奥山 貞吉(指揮、作曲) コロムビア專屬 東京市大森區雪ヶ谷一八五(荏原五二二〇)
 小野 巡(ベース) ミリオン專屬 明四三生 東京市中野區神明町五〇
 小野 アンナ(ヴァイオリン) 東京市澁谷區百人町三ノ三三六
 笈田 光吉(ピアノ、作曲) 笈田ピアノ塾主宰、大日本作曲家協會 明三五生 東京市芝區白金三光町三四三(電高輪七七五七)
 香 丸 コロムビア專屬 明三二生 東京市麻布區龍土町二八鈴木方
 [カ]
 景山 牧子(ソプラノ) 明三四生 東京市澁谷區北谷町四八
 笠原壽々代(ソプラノ) 横濱捜査員高女教諭 明四三生 東京市澁谷區下落合二ノ六七

九 加藤 嘉一(ヴァイオリン) 新交響樂團員 明三一生 東京市神田區銀台町三ノ七
 加藤 爲三郎(ヴァイオリン) 新交響樂團員 明三九生 東京市杉並區荏原四ノ三九
 金子 茂子 東京市澁谷區千駄ヶ谷三ノ四九六(電青山三四八七)
 神戶 絢子(ピアノ) 東京音樂學校講師 明三二生 東京市麹町區中六番町五四(電四谷六二三五)
 紙 恭輔(指揮、作曲) P.C.L.管絃樂團指揮 明三五生 東京市澁谷區代々木富ヶ谷一五一(電四谷四五八七)
 勝 太郎 ビクター專屬 明三七生 東京市京橋區築地三ノ六(電京橋二八)
 川口 章吾(ハーモニカ) 日本ハーモニカ協會長、小林オーセイ社顧問 明二五生 神奈川縣藤澤町鶴沼五五〇(電鶴沼一三三)
 [キ]
 菊地 綾子(ソプラノ) 日本音樂學校講師 東京市神田區駿河臺二ノ一一(電神田三七八二)
 貴志 康一(指揮、作曲、ヴァイオリン) 大阪市北區東野田町一ノ七八
 北澤 樂(ソプラノ) 東京市牛込區柳町

二四(電牛込三八七三) 東京音樂學校囃子 城多又兵衛(テナー) 東京音樂學校囃子 明三七生 東京市本郷區駒込町三二七
 金 文輔(バリトン) 關東學院音樂教員 明三三生 東京市世田谷區東玉川町八七
 清瀬 保二(ピアノ、作曲) 大日本作曲家協會員 明三三生 東京市世田谷區松原町四ノ一四〇
 喜代 三(——) 帝著專屬 東京市芝區新橋三ノ八(電二三二七)
 [ク]
 日下部 ヨランダ(ピアノ) 東京市日下區本町三丁目日本町アパート内
 鯨井 孝(バリトン) 曙學院主宰 明三五生 東京市本郷區曙町一一(電大塚六四七九)
 楠木 繁夫(——) 帝著專屬 東京市豊島區駒込一ノ一六
 倉重 舜介(作曲) 日本現代作曲家聯盟 明三八生 東京市大森區馬込東三ノ八〇
 二(電大森六四三六)
 黒澤 愛子(ピアノ) 東京音樂學校囃子 明四二生 東京市世田谷區松原二ノ六五
 三(電松原三三三)
 桑原 哲郎(ピアノ) 東京兒童音樂學團主

幸 明三九生 東京市麻布區材木町三(青山二八二四)
 [コ]
 吳 泰次郎(チェロ、作曲) 東京音樂學校教務囃子、武蔵野音樂學校講師、成城合唱團指揮者、日本現代作曲家協會員 東京市世田谷區北澤二ノ七一
 古關 裕而(作曲) コロムビア專屬 明四二生 東京市世田谷區代田一ノ四〇八
 江 文也(バリトン、作曲) コロムビア專屬 明四三生 東京市大森區南千束町四六
 高 勇吉(チェロ) 明三三生 東京市澁谷區梅ヶ丘一四(電青山六四八呼)
 幸田 延子(ピアノ) 春聲會主宰 明三三生 東京市麹町區紀尾井町三(電九段八一九)
 古賀 政男(マンドリン、ギター、作曲) 帝著取締役 明三七生 東京市世田谷區松原町四ノ一四〇(電松原二五七八)
 小暮 正雄(アコーディオン、ピアノ) 及びパイプオルガン技師) 全國ピアノ技術者協會員 明三二生 東京市杉並區高圓寺五ノ八五八
 近衛 秀磨(指揮) 新交響樂團指揮者 大日本作曲家協會員 明三一生 東京市大森區池上町九八八(電荏原二三三九)

小松 耕輔(作曲) 學習院、日大藝術科講師 明一七生 東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ四八五(電荏原二四二二)
 小松 平五郎(指揮、作曲) 國民交響樂團主宰、仙臺交響樂團指揮者、東京兒童音樂院々長、東京高等工藝學校囃子、早稻田大學パドマ合唱團指揮者 明三〇生 東京市杉並區上荏原六八四
 小松 清(作曲、ピアノ) 帝國音樂學校教師、ポリヒムニア・コール指揮者、日本現代作曲家聯盟員 明三三生 東京市杉並區阿佐ヶ谷五ノ六九(電荏原三六三三)
 小林 千代子(ソプラノ) ビクター專屬 東京市四谷區南町八
 小林 武光(ヴァイオリン) 日本音樂學校女子高等學園講師、赤鈴會主宰 明三一生 東京市目黒區三谷町三三ノ三
 古筆 愛子(ソプラノ) 明四四生 東京市日本橋區通二丁目六ノ一〇(電日本橋一九〇五)
 小卷 千代(ピアノ) 東京高等音樂院教授 明三二生 東京市澁谷區向山町八七(電高輪六一三一)
 小森宗太郎(ピアノ、打樂器一般) 新交響樂團理事 明三三生 東京市澁谷區百人町二ノ一五一

〔サ〕

齋藤 秀雄(チェロ、作曲) 新交響樂團員
日本現代作曲家聯盟員 明三三三 東京
市麹町區五番町二(電九段一五二四)
齋藤 佳三(作曲) 大日本作曲家協會員
明二〇生 東京市赤坂區新町一(電青
山四一九二)
早乙女 光(作曲、指揮) 松竹大船音樂部
明三七生 東京市蒲田區御園町一六
榊原 直(ピアノ) 東京高等音樂學院教
授 明二七生 東京市杉並區上井草町一
四三三
佐々木 紅華(作曲) コロムビア專屬、大日
本作曲家協會員 明一九生 崎玉縣寄居
町玉淀
佐々木 俊一(作曲) ビクター專屬 明四〇
生 浦和市浦和町四一一五
佐々木 すぐる(作曲) 青い鳥童謡音樂學校
長、コロムビア專屬 明二五生 東京市
豊島區西巢鴨二ノ二三二八(大塚三五〇
三)
佐藤 清吉(指揮者) 松竹少女歌劇指揮者
明一八生 東京市目黒區下目黒四ノ九四
六
佐藤 美子(ドラママティック・ソプラノ)
コンセル・ルージュ部員 明三七生 横

濱市鶴見區龜ノ甲山(電鶴見二五三二) 明
佐藤あき子(メソ・ソプラノ) 明
四〇生 東京市品川區南品川四ノ三七八
佐藤千夜子(ソプラノ) ビクター專屬 東
京市京橋區銀座一ノ五銀座アバウト内
澤崎 家之(テナリ、指揮) 東京音樂學校
教授、澤崎四重唱團主宰 東京市豊島區
駒込三ノ三九〇
澤 智子(アルト) 東京音樂學校教務囑
託 明三六生 東京市芝區高輪南町二九
〔シ〕
篠原 正雄(指揮) 明二七生 東京
市目黒區自由ヶ丘四六(電荏原四四〇六)
芝 祐五(龍笛、ヴァイオリン) 宮内省
樂師 明二三生 東京市杉並區荏窪町三
ノ一三四
柴田 知常(バリトン) 東京市視學 明二
四生 東京市澁谷區幡ヶ谷町九二五
柴田 秀子(メソ・ソプラノ) 東洋音樂
學校、日本音樂學校講師、綠葉會指導
明二八生 東京市澁谷區幡ヶ谷町九二五
香(——) ホリドリル專屬
東京市淺草區象潟二ノ一三(電根岸二六
四三)
島田 晴譽(指揮、ホルネット、ヴァイオリ
ン) 松竹管絃樂指揮者 明一五生 東京

〔ス〕

市王子區稻付西町一ノ九七八
下八川圭祐(ベース) コーラ・エコー合唱
團主宰 明三五生 東京市淀橋區柏木四
ノ九三五
コンスタンティン・シヤヒロ(チェロ) 一
八九六年生 横濱市中區元町一ノ五谷
平坂
マキシム・シヤヒロ(ピアノ) 一
横濱市中區元町一ノ五谷平坂
バル・シヨルツ(ピアノ) 一
東京市澁谷區代々木富ヶ谷一四六六
東海林太郎(バリトン) ホリドリル專屬
明三一生 東京市小石川區宮下町六九
(電大塚六二一六)
レオ・シロタ(ピアノ) 一八八五年
生 東京市赤坂區檜町一〇
杉山長谷雄(ヴァイオリン、作曲) 東京音
樂學校、陸軍戸山學校囑託 明二二生
東京市牛込區矢來町七五(電牛込五九三)
鈴木 正一(ピアノ) 蒲田高等音樂院經營
明二五生 蒲田區小林町二五〇
鈴木 静一(マンドリン) ビクター專屬
明三三生 東京市牛込區中町二七
鈴木まさた(ピアノ) 一明三二生 東京
市淀橋區諏訪町二二四

鈴木 鎮一(ヴァイオリン) 帝國高等音樂
學院々長、鈴木クラレットット、鈴木スト
リングオーケストラ部員 明三一生 東
京市世田谷區經堂町一七〇
鈴木乃婦子(アルト) 自由學園、東京家政
學院、普連土女學校講師 一 東京市
麹町區元園町一ノ五一
鷺見 三郎(ヴァイオリン) 新交響樂團員
明三五生 東京市大森區北千束町七〇八
鷺見 四郎(ヴァイオリン) 新交響樂團員
大二生 東京市大森區北千束町七〇八
澄川 久(バリトン) 一 東京
市澁谷區宮下町九村井方
諏訪根自子(ヴァイオリン) コロムビア專
屬 大九生 東京市澁谷區代々木上原一
原一九〇
〔セ〕
關 種子(ソプラノ) 東洋音樂學校講師
コロムビア專屬 明四〇生 東京市中野
區桃園町二三
關 鏡子(ソプラノ) 一 東京
市大森區新井宿四ノ九九七(電大森三四
一八呼)
關屋 敏子(コロラチュラ・ソプラノ) 一
明三七生 東京市四谷區西信濃町一
瀬戸口藤吉(指揮、作曲) 法政大學音樂部

指揮者 明一生 東京市麻布區今井町三
〔ソ〕
曾根 賢(ヴァイオリン) 新交響樂團員
明三七生 東京市赤坂區青山北町六ノ二
五
蘭田 誠一(テナリ) 東京音樂學校教務囑
託、武藏野音樂學校講師 明三八生 東
京市代々木富ヶ谷一四五六
〔タ〕
高木 東六(ピアノ) コンセル・ルージュ
部員 明三七生 東京市品川區上大崎一
ノ七六一
高哲 宮次(ピアノ) 東京音樂學校教授
明二六生 東京市目黒區洗足一四三六
(電荏原二〇一一)
高安 哲夫(ヴァイオリン) 日本音樂學校
講師 明三九生 東京市杉並區高圓寺三
ノ三三六
高階 哲夫(ヴァイオリン、指揮、作曲) A
K洋樂部員、松竹大船囑託、御園家庭音
樂會主宰 明二九生 東京市小石川區大
塚辻町四
田中 常彦(作曲、マンドリン) 明二
三生 東京市世田谷區太子堂町三二六
ジエーム・スタン(ピアノ) 日大藝術科ヒ
アノ科主任、成城音樂團、東京音樂團講

師 明三一生 東京市牛込區砂土町三ノ
八(電牛込五六八七)
ダン 道子(ソプラノ) 日大藝術科兒童音
樂團長、東京音樂團講師 明三九生 東
京市牛込區砂土原町三ノ八(電牛込五六
八七)
竹岡 信幸(作曲、ギター) コロムビア專
屬 明四〇生 東京市麹町區平河町二ノ
一三
田村 虎藏(作曲、教育) 東京市視學、帝
國音樂學校講師、大日本作曲家協會員
明六生 東京市牛込區築土八幡町三一
(電牛込四五四)
田邊 尚雄(音響學) 國學院大學教授、帝
大並東京音樂學校講師 明一六生 東京
市淀橋區下落合一ノ五四六(電落合長崎
二八八三)
田谷 力三(テナリ) 笑の王國 明三二生
東京市赤坂區青山南町三ノ七六
宅 孝二(ピアノ) 日本音樂學校講師
明三七生 東京市赤坂區青山高樹町一三
立松 房子(ソプラノ) 東京音樂學校講師
一 東京市麻布區本村町二七(電高輪
三〇〇五)
武岡 鶴代(ソプラノ) 東京高等音樂學院
教授、東京音樂學校講師 明三一生 東

人名録——洋樂

京市澁谷區柏木三ノ三五七
 武井 守成(ギター、指揮) シンフォオニカマ
 ンドリニ・オルケストラ・タケイ主宰 明
 二三生 京市本郷區湯島三組町五九
 (電下谷三三四)
 瀧田 菊江(ソプラノ) — 明四五生
 京市中野區城山町一七
 [ツ]
 津村 圭一(オルガン、指揮) 教會音樂研
 究所主宰、東京シンフォオニツク・コーラス
 指揮者 明二九生 京市麻布區市兵衛
 町二ノ二一
 辻 順路(指揮) ホリドール東京吹込所
 長 明一五生 府下南多摩郡田町玉川學
 園前
 露木 次界(作曲) 秋田本莊高女講師、大
 日本作曲家協會員 明三五生 秋田縣本
 莊町本莊高女内
 [テ]
 照井 榮三(バリトン) 國民音樂協會、日
 本現代作曲家聯盟員 明二一生 京市
 澁谷區八幡通り一ノ一九
 [ト]
 遠山 艶子(ピアノ) 東京音樂學校助教授
 明三八生 bei Dr Abrahamsohn West
 fahische Str. 52. 11 Berlin W.

土岐 妙子(ソプラノ) 上野樂星會員 明
 四四生 京市本郷區西片町一〇
 徳山 穂(バリトン) ビクター、タマキ
 合唱團主宰 明三六生 京市澁谷區下
 落合五〇四
 外山 國彦(バリトン) 豊島師範學校講師
 大日本作曲家協會員 明一八生 京市
 牛込區甲良町三〇
 マリア・トル(ソプラノ) 東京音樂學校教師
 一八九九年生 京市麹町區中六番町一
 [ナ]
 中野 忠晴(テナー) コロムビア專屬 —
 京市麹町區永田町二ノ二九、三技方
 (電銀座七五九)
 中村 淑子(ソプラノ) 上野樂星會員 明
 四四生 京市豊島區池袋三ノ一四〇〇
 (電大塚三五四八)
 中山 晋平(作曲、ピアノ) ビクター專屬
 大日本作曲家協會理事 明二〇生 京
 市中野區本町五ノ一四(電中野二九七〇)
 永井 郁子(ソプラノ) 永井湖南音樂研究
 所長 明二六生 神奈川縣鎌倉町下町
 永井 智子(アルト) — 明四〇生 京
 市下谷區上野櫻木町二一田中方(電下谷
 二四二二)
 長坂 好子(ソプラノ) 東京音樂學校教授

東京市澁谷區代々幡大山一〇六七
 永田 絃次郎(テナー) キングレコード 明
 四二生 京市目黒區三谷町一四四尾島
 方
 長門 義保(ソプラノ) 成城高女講師、樂
 星會員 明四四生 京市世田谷區代田
 二ノ七二〇(電松澤三六五)
 南部タカネ(ソプラノ) — 明三五生
 京市麻布區新初町一ノ四二(電赤坂八
 〇六)
 成田 爲三(ピアノ、作曲) 東京音樂學校
 教務囑託 明二六生 京市澁谷區澁
 野川町五三五
 [ニ]
 ナデジダ・ニコルスカヤ(ピアノ) 聖心女
 學院講師 — 京市目黒區上目黒八
 ノ三五〇
 仁木多喜雄(作曲) コロムビア專屬 —
 京市目黒區富士見臺一五三七(電荏原
 三八四五)
 [ノ]
 信時 潔(作曲) 東京音樂學校教師 明
 二〇生 京市府下區分寺本田新田二七〇
 乗松 昭博(作曲) 千葉縣野田高女講師
 明三五生 京市芝區宮本町七(電芝三
 九〇七)

八九〇

[ハ]
 萩原 英一(ピアノ) 東京音樂學校教授
 大日本作曲家協會員 明二〇生 京市
 四谷區東信濃町一〇(電四谷三九七)
 橋本 國彦(作曲、ピアノ) 東京音
 樂學校助教授、ビクター專屬 — 京市
 澁谷區代々木初臺五九四
 服部 正(作曲) 慶應マンドリン俱樂部
 指揮者 明四一生 京市杉並區下高井
 戸二ノ六七五
 林 龍作(ヴァイオリン) セーヌ莊主宰
 明三〇生 京市目黒區洗足一三二六
 原 信子(ソプラノ) 原信子研究所主宰
 明二六生 京市赤坂區榎町一〇(電青
 山五八七七)
 原田 君代(メソオ・ソプラノ) 田園調布
 ミュージック・スタヂオ主宰 明三〇生
 大森區田園調布三ノ二四(電田園調布三
 一五二呼)
 [ヒ]
 久富 吉晴() ビクター專屬 —
 京市豊島區池袋四ノ四〇五
 平井 保三(チェロ) 東京音樂學校教授
 陸軍戸山學校軍樂隊講師 明二七生 京
 市大森區馬込町東四ノ二二四
 平井美奈子(ソプラノ) 日大藝術科講師

明三五生 京市澁谷區長谷戸町四九(電
 青山九四二呼)
 平井 英子() ビクター專屬 大
 六生 京市小石川大門町六
 平岡 均之(作曲) 大日本作曲家協會員
 京市豊島區池袋二ノ一七一
 平岡 文壽(テナー) 帝國高等音樂學院教
 授 明三三生 京市世田谷區北澤三ノ
 九五三(電松澤六六八呼)
 [フ]
 福田 宗吉(ヴァイオリン) 東京オーケス
 トラ主宰、日活音樂監督 明二五生 京
 市大森區北洗足町四九六
 藤井 清水(作曲) 武蔵野女子學院講師
 大日本作曲家協會理事 明二二生 京
 府下武蔵野町吉祥寺六七七(電吉祥寺七
 五七)
 藤山 一郎(テナー) 帝音專屬 — 京市
 目黒區下目黒四ノ九九二(電高輪一三五
 五)
 藤原 義江(テナー) — 明三一生 神奈
 川縣鎌倉山旭ヶ丘
 藤本二吉() コロムビア專屬 明三
 〇生 京市日本橋區人形町二ノ四(電
 浪花四六七三)
 二村 定一(バリトン) 松竹ビエール・ア

リアント座員 明三三生 京市杉並區
 高圓寺三ノ二五〇
 二葉あき子() コロムビア專屬 —
 京市中野區櫻山町三九
 クラウス・プリングスハイム(指揮、作曲
 ピアノ) 東京音樂學校講師 一八八三年
 生 京市麻布區本村町一四三
 [ケ]
 ハンカ・ベツオールド(ピアノ、ソプラノ)
 東京音樂學校講師 — 京市麻布區筒箭
 町六七
 ベルトラメリー・能子(ソプラノ) コロム
 ビア專屬 明三六生 京市牛込區若松
 町一〇二(電牛込四四〇九)
 [ホ]
 細田 義勝(作曲) ビクター專屬 明三七
 生 京市澁谷區東大久保二ノ二三八
 本加スミレ子(ピアノ) 武蔵野音樂學校講
 師 大一生 京市豊島區西巢鴨二ノ二
 三四五
 ロベルト・ボラツク(ヴァイオリン) 東京
 音樂學校教師 一八八四年生 京市大
 森區大森ホテル内
 前田 環(ヴァイオリン) 東寶專屬 —
 京市大森區北千束六四四(電荏原五二
 六八)

人名録——洋樂

幕田シナ子(アルト) 花柳幕田舞踊音樂研究所主宰 明三五生 東京市麻布區霞町六(電青山二六七九呼)
 増澤智恵子(ピアノ) 粕壁高女教諭 紫苑會主宰 明三七生 東京市澁谷區代々木初臺四八九(電四谷五九八七)
 町田 嘉章(作曲) 伶明音樂會主宰、ピクター專屬、大日本作曲家協會員 明二二生 東京市芝區西久保櫻川町一(電芝二六八五)
 松島 詩子(ソプラノ) 帝審專屬 明四三三 東京市豊橋區下落合四ノ一八九二
 松平 晃(テナー) コロムビア專屬 明四四生 東京市目黒區綠ヶ丘二二三七
 平松 信博(ピアノ、作曲) ピクター專屬 大日本作曲家協會員 明二二生 東京市本郷區根津須賀町九(電下谷四四五六呼)
 松平 頼則(ピアノ、作曲) 日本現代作曲家聯盟員 明四〇生 東京市澁谷區代々木富ヶ谷一四六四
 松平 操(メッソ・ソプラノ) コロムビア專屬 明四四生 東京市四谷區右京町二
 松原千加士(ハルモニカ) 東京リード・バンド主宰——東京市神田區神保町一ノ一五(電神田三〇五二)

松山芳野里(テナー) 松山芳野里研究所主宰 明二七生 東京市麻生區飯倉五ノ四二(電赤坂一五七四)
 三浦 環(ソプラノ) —— 東京市麴町區中六番町五二(九段一〇五一)
 三上 孝子(コロラチュラ・ソプラノ) —— 明四四生 東京市澁橋區柏木三ノ三五三(電四谷二〇四〇)
 三島 一尊() —— ピクター專屬 明二三生 東京市横濱市鶴見區東寺尾町一五七四(電鶴見三六〇五)
 箕作 秋吉(作曲) 日本現代作曲家聯盟員 明二八生 神奈川県平塚市 海軍水交社前
 宮田 東峰(ハルモニカ、指揮) コロムビア專屬 ミヤタ・ハルモニカ・バンド會長 明三一生 東京市永住町二美ち 奴() 帝審專屬 ——
 室崎 琴月(ピアノ、作曲) 中央音樂學校長、大日本作曲家協會員 明二四生 東京市下谷區谷中眞島町一(電下谷三三五四)
 毛利 幸尙(バリトン) —— 明三五生

東京市淺草區千束町二ノ二七松竹アパルト アレキサンダー・モギレフスキー(グアイオリン) 帝國音樂學校教授 一八八五年生 東京市澁谷區代々木富ヶ谷一五七八
 本居 長豫(ピアノ、作曲) 如月社主宰、大日本作曲家協會理事 明一八生 東京市目黒區下目黒四ノ八三八
 百太 郎() コロムビア專屬 東京市赤坂區田町六ノ一二若林方諸井 三郎(ピアノ、作曲) 日本現代作曲家聯盟員 明三八生 東京市中野區千光前二二
 矢田部勁吉(ベース) 東京高等音樂學院教授 明二九生 東京府下吉祥寺町本田北一三ノ三
 柳 兼子(アルト) 自由學園講師 —— 東京市澁谷區青葉町七
 マツクス・ヤノウスキー(ピアノ) 武藏野音樂學校教授 一九一二年生 東京市豊島區長崎南町一ノ一八八〇
 梁田 貞(テナー) 東京音樂學校講師、學習院講師 —— 東京市世田谷區砧町八三一
 山崎 祐康(グアイオリン、指揮) 山崎香

樂會、好聲會主宰 明二九生 下谷區上野櫻木町四五ノ二〇號
 山田 榮一(作曲) ホリドル專屬 明三九生 東京市目黒區本郷町一二
 山田 耕筈(作曲、指揮) 東京音樂協會常務理事、コロムビア顧問其他 明一九生 東京市赤坂區榎町三
 山本 直忠(作曲、指揮) 東京高等音樂學院教授、同管絃樂指揮者 明三七生 東京市豊島區高田本町二ノ一四五九
 山田 道夫(テナー) —— 東京市中野區新井町一一
 アウグスト・ユンケル(グアイオリン、指揮) —— 一八七〇年生 東京市澁橋區百人町三ノ三三五
 吉原 規(ピアノ) JOAK 明三〇生 東京市杉並區天沼一ノ二〇九
 四家 文子(アルト) ピクター專屬 明三九生 東京市荏原區小山町六〇五(電荏原三九一九)
 ガリス・ラス(グアイオリン) —— 一八九七年生 東京市澁谷區代々木八幡

ネトケ・レーヴェ(ソプラノ) 東京音樂學校講師 東京市芝區白金三光町二五五
 パウル・ローレンツ(ピアノ) 浦和高等學校教師 —— 東京市赤坂區青山高樹町一一
 ナデジダ・ロイヒテンベルヒ(ピアノ) 帝國音樂學校教授 一八九八年生 東京市澁谷區代々木富ヶ谷一五七八
 齋淵 賢舟(グアイオリン) —— 明四三生 500-6 Ave. Seattle U. S. A.
 渡邊 光(テナー) —— 東京市芝區高輪七(電高輪七八)
 渡邊はま子(ソプラノ) ——
 川崎市幸町三ノ六三〇

俳優

市川左團次 屋號高島屋 本名高橋榮次郎 (明一三・一〇・一九生) 東京市神田區駿河臺三ノ六(電神田八四八番)
 市川猿之助 屋號澤湯屋 本名喜殿斗政泰 (明二一・五・一〇生) 東京市京橋區明石町三一(電京橋二三四九番)
 市川壽美藏 屋號升田屋 本名太田照造(一九・七・一二生) 東京市赤坂區新町五ノ三(電赤坂四六一三番)
 市川 松蔭 屋號若松屋 本名鈴木鐵彌(明一八・九・二八生) 東京市麴町區平河町二ノ一七(電九段三一三番)
 市川 三升 屋號成田屋 本名堀越福三郎(明一五・一〇・三一生) 東京市京橋區築地二ノ二三(電京橋四一一番)
 市川男女藏 屋號瀧の屋 本名荒川清(明三一・八・二六生) 東京市京橋區築地二ノ九(電京橋七二〇五番)
 市川 九藏 屋號三芳屋 本名市川銀藏(明一五・五・一五生) 東京市下谷區上根岸九七(電根岸八六一番)
 市川 建升 屋號高島屋 本名高橋道之助(明二七・九・一一生) 東京市芝區下高輪町五七(電高輪二八三〇番)
 市川八百藏 屋號立花屋 本名喜殿斗俊貞(明二九・一一・一〇生) 東京市澁谷區代々木西原町九三一(電四谷三六九六番)
 市川新之助 屋號成田屋 本名堀越柳吉(明一八・五・二三生) 東京市牛込區余丁町五四
 市川高麗藏 屋號高麗屋 本名藤間治雄(明

人名錄——俳優

四二・一・六生) 東京市赤坂區水川一〇
 (電青山四四五九番)
 市川染五郎 屋號高麗屋 本名藤間順次郎
 (明四三・七・七生) 東京市澁谷區中通一
 ノ三四(電青山五五五番)
 市川段四郎 屋號澤湯屋 本名喜賀斗政則
 (明四一・一〇・五生) 東京市京橋區明石
 町三一(電京橋二三四九番)
 市川小太夫 屋號澤湯屋 本名喜賀斗光則
 (明三五・一・二六生) 神奈川縣鎌倉大佛
 前鈴木旅館裏
 市川米左衛門 屋號高島屋 本名市川愛藏
 (明一五・七・二〇生) 東京市豊島區長崎
 町三ノ三九一
 市川剛右衛門 屋號八幡屋 本名中村太郎
 (明一五・二・八生) 東京市芝區車町三六
 市川剛次郎 屋號升田屋 本名太田光之助
 (明三五・四・一生) 東京市本郷區駒込林
 町二四〇
 市川 紅若 屋號三河屋 本名榎本米五郎
 (明三・四・一七生) 東京市大森區池上町
 市野倉三〇
 市川 照藏 屋號瀧の屋 本名鈴木茂 (明
 一九・一・一七生) 東京市牛込區東五軒
 町二七
 市川荒次郎 屋號高島屋 本名中村福藏(明

八九四

二二・一〇・一五生) 東京市芝區白金三
 光町二五一
 市川 左升 屋號三州屋 本名由良常太郎
 (明五・一一・一七生) 東京市本所區綠町
 一ノ六ノ五
 市川 猿藏 屋號成田屋 本名堀越健吉(明
 三三・七・三〇生) 東京市京橋區築地二
 ノ二ノ八
 市川 松建 屋號高島屋 本名高橋壽雄(明
 四一・一・八生) 東京市麹町區麹町一ノ
 七ノ四(電九段一四〇九番)
 尾上菊五郎 屋號音羽屋 本名寺島幸三(明
 一八・八・二六生) 東京市芝區芝公園一
 一號地七號(電芝一六五番)
 尾上多賀之丞 屋號音羽屋 本名樋口鬼三
 郎(明二〇・九・一二生) 東京市蒲田區蒲
 田町一三六一
 尾上 梅朝 屋號音羽屋 本名千代田宗次
 郎(明二五・七・七生) 東京市麻布區飯倉
 片町六(電赤坂四七七番)
 尾上菊之助 屋號音羽寺 本名屋島誠三(大
 四・八生) 東京市芝區芝公園一號地七
 號(電芝一六五番)
 尾上菊次郎 屋號音羽屋 本名渡邊良雄(明
 三七・九・三〇生) 東京市本郷區駒込曙
 町二八(電大塚正四七五番)

尾上 松綠 屋號音羽屋 本名藤間豊(大
 二・三生) 東京市澁谷區中通一ノ三四(電
 青山五五五番)
 尾上鯉三郎 屋號南部屋 本名加川義雄(明
 三一・二・二六) 東京市板橋區板橋町
 五ノ六九一
 尾上菊十郎 屋號音羽屋 本名岡山牛次(明
 二一・二・一生) 東京市本郷區駒込神明
 町二八九
 尾上菊四郎 屋號音羽屋 本名小島吉造(明
 二三・七・二三) 東京市向島區寺島町
 七ノ七五
 坂東三津五郎 屋號大和屋 本名守田壽作
 (明一五・九・二一生) 横濱市鶴見區平安
 町一ノ二五三(電鶴見二二八番)
 坂東彦三郎 屋號音羽屋 本名坂東英造(明
 一九・一〇・二一生) 川崎市池田町二一
 三(電川崎三三〇一番)
 坂東 養助 屋號大和屋 本名守田俊郎(明
 三九・一〇・一九生) 東京市芝區芝公園
 九號地ノ三號
 坂東 薪水 屋號音羽屋 本名坂東衛(大
 五・七・一一生) 川崎市池田町一ノ一六
 四(電川崎三三〇一番)
 坂東勝太郎 屋號大和屋 本名水田安吉(明
 三四・三・一九生) 東京市麻布區森元町

二ノ一七
 坂東鶴之助 屋號音羽屋 本名渡邊龜藏(明
 四一・六・一一生) 東京市麹町區麹町三
 ノ六(電九段二〇三九番)
 坂東村右衛門 屋號橋屋 本名後藤賢治(明
 一六・一一・一生) 東京市澁谷區大和田
 町七二(電青山五六〇五番)
 坂東 彌好 屋號喜の字屋 本名島田甚(明
 一八・一・三一生) 東京市下谷區西町四
 五
 中村歌右衛門 成駒屋 本名中村榮次
 郎(慶元・一一・二九生) 相州葉山一色一
 四三三
 中村吉右衛門 屋號播磨屋 本名波野辰次
 郎(明一九・三・二四生) 東京市小石川區
 關口臺町二一(電牛込七九六番)
 中村 時藏 屋號播磨屋 本名小川米吉良
 (明二八・六・六生) 東京市澁谷區青葉町
 一八
 中村竹三郎 屋號成駒屋 本名村井道一(明
 三七・九・三〇生) 東京市四谷區永住町
 二(電四谷五四三八番)
 中村 仲助 屋號松鶴屋 本名三井喜一郎
 (明二二・一一・二一生) 東京市下谷區竹
 町七五

中村 福助 屋號成駒屋 本名河村藤雄(大
 六・二・二〇生) 東京市澁谷區千駄ヶ谷
 町五ノ八九
 中村 芝鶴 屋號新駒屋 本名祖父江由良
 (明三三・四・一四生) 東京市品川區大井
 町出石五〇六四(電大森二四四九番)
 中村もしほ 屋號播磨屋 本名波野聖司(明
 四二・七・二五生) 東京市麹町區麹町二
 ノ六ノ八
 中村辰之丞 屋號播磨屋 本名伊藤彌三郎
 (明二〇・二・一一生) 東京市淺草區北富
 坂町一六
 中村又五郎 屋號播磨屋 本名中村幸雄(大
 二・八・二生) 東京市本所區向島三ノ一
 中村福之丞 屋號成駒屋 本名青木關次(明
 三七・五・一六生) 東京市大森區大井鈴
 ノ森町二四八〇
 中村駒之助 屋號左海屋 本名大川實(明
 三九・一〇・二三生) 東京市京橋區築地
 三ノ一〇ノ二
 中村吉之丞 屋號播磨屋 本名吉田政吉(明
 一九・一一・二八生) 東京市麹町區九段
 三ノ一七
 中村七三郎 屋號中村屋 本名安田直次郎
 (明二二・八・二八生) 神奈川縣鎌倉郡大
 船町山の内四九五

中村飯右衛門 屋號成駒屋 本名三井金次
 郎(明三四・二・二生) 東京府下武藏野町
 吉祥寺二五四六前通座(電吉祥寺三二一
 番)
 澤村宗十郎 屋號紀伊國屋 本名澤村福藏
 (明八・一一・三〇生) 東京市赤坂區新坂
 町一ノ一〇九(電町區麹町一ノ七ノ四) 電
 九段一四〇九番)
 澤村 訥子 屋號紀伊國屋 本名鈴木大吉
 (明二〇・一一・五生) 神奈川縣鎌倉小町
 一九〇(電鎌倉四一六番)
 澤村田之助 屋號紀伊國屋 本名山本宗十
 郎(明三五・一〇・一一生) 東京市京橋區
 築地二ノ一一
 澤村 訥升 屋號伊國屋 本名澤村壽雄(明
 四一・一・八生) 東京市日本橋區兩國一
 〇ノ四
 澤村長十郎 屋號紀伊國屋 本名水野玉吉
 (明二二・一一・九生) 東京府下北多摩郡
 千歲村島山五九二
 澤村源之助 屋號紀伊國屋 本名木村宮之
 助(明四〇・一一生) 東京市下谷區龍泉寺町
 一一四(電淺草三八六五番)
 澤村源十郎 屋號紀伊國屋 本名山本清次
 郎(明一三・七・一三生) 東京市本所區向
 島須崎町一五二

人名錄——俳優

八九五

松本幸四郎 屋號高麗屋 本名藤間勘右衛門(明三・五・一・二生)東京市澁谷區澁谷町中通一ノ三四(電青山五五番)
 松本高麗之助 屋號高麗屋 本名松村源藏(明二・一・三・三生)東京市荏原區小山町一四六
 松本高麗五郎 屋號高麗屋 本名松本清一(明三九・八生)東京市四谷區愛住町一九(電四谷二六〇五番)
 片岡仁左衛門 屋號松島屋 本名片岡東吉(明一五・九生)東京市牛込區筑土八幡町二八(電牛込一五八七番)
 片岡 我當 屋號松島屋 本名片岡千代之助(明三七・四・一五生)東京市芝區西久保明舟町二(電芝一三二九番)
 片岡 若燕 屋號松島屋 本名片岡一(明四三・七・六生)東京市赤坂區新町三ノ四四
 片岡 市藏 屋號松島屋 本名片岡太郎(大五・二・一〇生)東京市京橋區銀座座西六ノ五ノ一井上方
 大谷友右衛門 屋號明石屋 本名青木八重太郎(明一九・六・一生)東京市下谷區御徒町二ノ五九(電下谷五六八五番)
 大谷廣太郎 屋號明石屋 本名青木清治(大九生)住所友右衛門と同じ

市村羽左衛門 屋號橋屋 本名市村錄太郎(明七・一・一・五生)東京市芝區西久保明舟町二五(電芝一三四五番)
 市村 家橋 屋號橋屋 本名市村勇(明三八・二・二六生)東京市芝區西久保明舟町二五(電芝一三四五番)
 守田 勘彌 屋號喜の字屋 本名守田好之(明四〇・三・八生)東京市芝區白金今里町一五一
 助高屋高助 屋號助高屋 本名澤村昇(明三二・三・二八生)東京市麻布區筈町一五五
 助高屋小傳次 屋號助高屋 本名長谷川壽郎(明四二・一・一二生)神奈川縣鎌倉町小町一九〇(電鎌倉四一六番)
 河原崎權十郎 屋號山崎屋 本名長谷幸太郎(明一四・八・六生)東京市芝區南佐久間町三ノ二
 河原崎長十郎 屋號山崎屋 本名河原崎虎之助(明三五・一・一・三三生)東京府下武藏野町吉祥寺二五四六前道座(電吉祥寺三二二番)
 河原崎國太郎 屋號山崎屋 本名松山太郎(明四二生)東京府下武藏野町吉祥寺二五四六前道座(電吉祥寺三二二番)
 吾妻市之丞 屋號吾妻屋 本名青木茂三郎

(明八・九・二八生)東京市豊島區池袋町二ノ一二〇光明内
 岩井余三郎 屋號大和屋 本名岩井久次郎(明一五・六・二七生)東京市板橋區板橋町二五二五
 【歌舞伎(大阪)】
 中村 梅玉 屋號高砂屋 本名笹木伊之助(明八・一・一四生)兵庫縣武庫郡精道村山芦屋(電芦屋三四〇八番)
 中村福太郎 屋號高砂屋 本名辻義三郎(明三一・五生)
 中村 福助 屋號高砂屋 本名笹木德太郎(明四三・八・一生)兵庫縣武庫郡精道村山芦屋(電芦屋三四〇八番)
 中村成太郎 屋號新駒屋 本名吉野乾太郎(明三三・九・一生)大阪府外八尾町佐堂五〇
 中村 魁車 屋號駒中屋 本名桂榮太郎(明一二・二・二一生)大阪府東成區天王寺町四三六
 中村 霞仙 屋號末廣屋 本名藤井幸藏改め重兵衛(明二六生)大阪府西成區玉出町六〇五
 中村 扇雀 屋號成駒屋 本名林好雄(明三五・二・一七生)京都市中京區河原町

通館樂師上 東入(電本局八三二番)
 林 長三郎 屋號成駒屋 本名藝名同じ(明二六・七・三生)西宮市夙川西山手一丁實川 延若 屋號河内屋 本名天星庄右衛門(明一〇・一・二・一一生)大阪府天王寺區上本町九ノ六ノ一(電天王寺七五八番)
 坂東壽三郎 屋號豐田屋 本名坂東與三郎(明一九・一・二・一〇生)大阪府南區長堀橋一ノ四七(電南二二四八番)
 市川右團次 屋號高島屋 本名市川右之助(明一四・一・三〇生)大阪府南區上本町七ノ五二五九(電南六一六番)
 中村 芳子 屋號成駒家 本名神山芳子(大九・一〇・三〇生)大阪府西區新町通り一ノ二六(電新町四二一九番)
 【新派】
 河合 武雄 本名内山武次郎(明一〇・三・一三生)東京市麴町區永田町二ノ七(電銀座五九五五番)
 喜多村綠郎 本名喜多村六郎(明四・七・二三生)京市麻布區龍土町五五(電青山五一六番)
 東上 正夫 本名小坂勇一(明一五・一・一生)東京市品川區大井町鈴ヶ森二四八〇(電大森五二二二番)
 花柳章太郎 本名青山章太郎(明二七・五・

二九生)東京市淺草區柳橋二ノ二九・一(電淺草二二八七番)
 英 太郎 本名上田英太郎(明一八・一・一・一九生)東京市京橋區銀座座五ノ三ノ二(電銀座一五四三番)
 梅島 昇 本名福島卯三郎(明二九・五・五生)東京市本所區向島町三ノ九(電墨田五二二番、二〇〇七番)
 小堀 誠 本名堀江謙太郎(明一八・三・三・六生)東京市四谷區鹽町一ノ一四
 大矢市次郎 本名藝名と同じ(明二七・二・一七生)東京市日本橋區中州町一三(電茅場町六六六三番)
 柳 永二郎 本名永井武(明二八・九・一・六生)東京市青山區高樹町二ノ五
 伊志井 寛 本名石井清一(明三四・二・七生)東京市京橋區築地三ノ四ノ三(電京橋二三六六番)
 伊井友三郎 本名伊井儀太郎(明三一・三・一五生)東京市本郷區駒込林町四八
 早川 雪洲 本名早川金太郎(明二三・六・生)東京市澁谷區下澁谷伊達町三九(電高輪七三六番)
 藤村 秀夫 本名小倉秀吉(明二二・八生)東京市日本橋區濱町一ノ二(電茅場町四五八五番)

若宮 里路 本名志摩殿(明三四・四・五・生)東京市澁谷區角管町一ノ八七九
 河合 明石 本名内山太郎(明四二・二・二〇生)東京市麴町區永田町二ノ七
 川島 柳峰 本名川島嘉一郎(明一五・一・一生)東京市京橋區新富町三ノ一(電京橋二九一五番)
 吉岡啓太郎 本名藝名と同じ(明一八・九・五生)東京市日本橋區芳町一ノ六ノ二
 武村 新 本名内村新太郎(明二二・四・一七生)東京市日本橋區中洲三
 村田 式部 本名村田源次郎(明二二・二・九生)
 村田 正雄 本名村田高一(明二四・三・一七生)東京市日本橋區濱町二ノ一四
 山田巳之助 本名藝名と同じ(明二六・一・一・一三生)東京市澁谷區柏木五ノ一〇五〇
 藤岡 勝英 本名内田常雄(明一五・一・〇・九生)東京市四谷區新宿町一ノ三二楠方
 藤井 昇 本名田中昇太郎(明三九・一・〇・二生)東京市日本橋區濱町三ノ五五
 木村 操 本名林庄之助(明一三・一・二生)東京市淺草區清川町三ノ二ノ一
 菊波正之助 本名廣波正之助(明二一・一・一六生)東京市淺草區清川町三ノ二ノ一

雪岡光次郎 本名行岡光次郎(明三〇・五・二三生) 東京市澁谷區千駄ヶ谷町三ノ五二四
 南 一郎 本名河口一郎(明二〇・二・九生) 東京市大森區南千束町三六
 白河 青峰 本名鈴木悟介(明三五・六・二二生) 東京市本郷區駒込追分六九
 瀬戸 英一 本名瀬戸日出夫(明三四・六・一六生) 東京市小石川區表町五五
 花和 幸一 本名嶋御一(明三二・二・五生) 東京市淺草區雷門二ノ一四ノ一(大阪)
 小織桂一郎 本名西卷行藏(明二・一二・一〇生) 大阪市南區相合橋
 【女優】
 水谷八重子 本名藝名同じ(明三八・八・一〇生) 東京市麴町區紀尾井町三(電九段三六八〇番)
 中村 歌扇 本名青江ひさ(明二二・八・一五生) 京市神田區駿河臺二ノ九ノ三
 村田嘉久子 本名村田覺子(明二六・四・一六生) 東京市芝區松本町一一(電三田三六一三番)
 藤間 房子 本名矢野島ギン子(明一五・八・二二生) 東京市日本橋區通二ノ六ノ一〇

森 律子 本名森リツ子(明二三・一・三〇生) 東京市麴町區永田町一ノ一四ノ四(電九段三一〇八番)
 川田 芳子 本名藝名同じ(明三一・生) 東京市蒲田區御園町三七三(電蒲田三四四七番)
 村田みね子 本名村田ミネ(明三一・六・一七生) 東京市品川區北品川二ノ一六三
 市川 紅梅 本名堀越貴久榮(大二・一二・一六生) 東京市京橋區築地二ノ二ノ八堀越方
 岡田 嘉子 本名藝名同じ(明三六・四生) 東京市麴町區三年町二(電銀座三五九三番)
 森 赫子 本名藝名同じ(大三・六生) 東京市麴町區永田町一ノ一四ノ四(電九段三一〇八番)
 夏川 靜江 佐々木靜江(明四二生) 東京市世田谷區松原町四ノ一八六(電松澤二五七一番)
 三益 愛子 東京市四谷區北伊賀町一二乾方
 村田 竹子 本名村田タケ(明三八・三・二〇生) 東京市品川區北品川二ノ一六三
 菊田衣見子 本名伊藤壽美(明三七・一一・二生) 東京市日本橋區鰯鼓町二ノ五

曾我通家五郎 本名和田久一(明一〇・九・六生) 東京市麴町區永田町二ノ二七・一(電銀座六五五番) 兵庫縣武庫郡精道村打出字劍ヶ谷六號莊
 曾我通家十吾 本名西海文吾(明二四・一・二・八生) 大阪市南區心齋橋筋二ノ一六
 曾我通家五九郎 本名武智故平(明九・四・一二生) 東京市淺草區藏前二ノ一〇
 曾我通家五一郎 本名谷光逸雄(一) 東京市淺草區駒形二ノ二
 志賀通家淡海 本名田邊耕(明一六・一二・一三三) 京都市三條寺町西入ル一二(電本六四七二番)
 古川 綠波 本名古川郁郎(明二五生) 東京市澁谷區上落合二ノ六七〇(電落合二二八一番)
 榎本 健一 本名藝名と同じ(明三七生) 東京市世田谷區若林八五(電世田谷三六七九番)
 【新劇】
 畑中 夢坡 畑中作吉 新國劇(明一〇・五生) 東京市麴町區車町九
 金井謹之助 本名同 新國劇(明二六・五生) 東京府北多摩郡調布鶴の木町二五〇
 辰巳柳太郎 新倉武一 新國劇(明三八・

四生) 東京市澁谷區宇田川町三
 島田 正吾 服部喜久太郎 新國劇(明三五生) 東京市芝區白金今里町九六
 野村清一郎 本名同 新國劇(明二七生) 東京市澁谷區西大久保二ノ二二四
 小川虎之助 小川寅次 新國劇(一) 東京市豊島區駒込三ノ三九〇
 秋月 正夫 堀田金藏 新國劇(一) 東京市本郷區根津須賀町二一
 小澤 榮 小澤榮太郎 新協(明四二・三三) 東京市芝區明舟町三
 伊達 信 本名同 新協(明三九・一二生) 東京市大森區池上洗足町三〇七(電荏原五八五三)
 瀧澤 修 瀧澤修 新協(明三九・一一生) 東京市澁谷區西大久保三ノ一四四
 鶴丸 陸彦 松井陸彦 新協(明三四・一〇生) 東京市牛込區鶴巻町四四四
 中村 榮二 今村重雄 新協(明四〇・五生) 東京市中野區江古田四ノ一六〇(二山本方)
 宇野 重吉 寺尾信夫 新協(大三・九生) 東京市中野區野方町一七六七寺尾方
 松本 克平 赤澤義巳 新協(明三九・四生) 東京市大森區馬込東一ノ一二九〇
 三島 雅夫 長岡正雄 新協(明三九・一

生) 東京市赤坂區新町三ノ二七
 友田 恭助 伴田五郎 (明三二・一〇生) 東京市蒲田區新宿四六〇(電蒲田三一四五)
 薄田 研二 高山徳右衛門 新築地(明三一生) 東京市中野區文園町二一
 沙見 洋 片山喜三郎 (明二八生) 東京市大森區田園調布都市七九御橋 公
 小杉 義男 東京市大森區北千束八九〇
 丸山 定夫 本名同 新築地(明三五・五生) 東京市四谷區鹽町一ノ一八關原方
 初瀬 音羽 東海林八重 新國劇(一) 東京市本郷區駒込上富士前町九七
 長島 丸子 長島優子 新國劇(明四一生) 東京市豊島區西巢鴨町二ノ三五
 二葉 早苗 小南菊枝 新國劇(一) 東京市麴町區上三番町二
 久松喜世子 岩本光子 新國劇(明一九生) 東京市芝區芝公園五ノ一五
 細川ちか子 横田冬子 新協(明三八・一二生) 東京市麻布區新龍土町一一(電赤坂九七)
 小峰千代子 小山のぶ 新協(明四〇・七

生) 東京市芝區濱松町一ノ七ノ四
 赤木 蘭子 筒井千代子 新協(大三・一〇生) 東京市神田區猿樂町二ノ一五
 北林 谷榮 安藤合子 新協(大三・五生) 東京市世田谷區玉川田園調布二ノ七二一平井方
 三好 久子 伊勢久子 新協(明三九・一一生) 東京市麻布區北日ヶ窪二八鈴木方
 清洲すみ子 三堀濱子 新協(大三・一一生) 東京市本郷區區眞砂町三一
 末弘 美子 岩尾壽恵子 新協(明四二・二生) 東京市豊島區西巢鴨二ノ一八九二
 田村 秋子 伴田秋子 (明三八生) 東京市蒲田區新宿四六〇(電蒲田三一四五)
 原 泉子 原政野 新協(明三九・二生) 東京市澁谷區柏木五ノ一一三〇
 山本 安英 本名同 新築地(明三八・一二生) 東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ五九二
 東山千枝子 (一) 東京市大森區山王一ノ二七二五
 伊藤 智子 (一) 東京市京橋區銀座八ノ四ノ六
 清川 玉枝 (一) 明三七・五生) 東京市芝區三田小山町一
 岸 輝子 (一) 東京市赤坂區新町一ノ一四新町寮アパート
 八九九

人名錄——俳優

毛利 菊枝 (明三六・一一生) 東京市澁谷區代官山アパート二五號館一八〇小林花代方 杉村 春子 (東京市中野區住吉町三三)

(少女歌劇)

(松竹スター) 水の江瀧子 本名三浦ウメ子 (大四・二・一) 一生(東京市牛込區喜久井町二〇) (電牛込五六四八番) 三田 綱代 本名多田政子 (大四・二・一) 八生(東京市板橋區板橋町八ノ五八三) 草香田鶴子 本名柳川ユウ (大二・九・二) 八生(東京市日本橋區人形町三ノ一〇) 楠見あきら 本名蓮見君子 (大五・三・三) 生(東京市豊島區巢鴨四ノ三八八) 駿河 春枝 本名不破照子 (大六・九・二) 五生(東京市淺草區永住町一〇六) 長門美千代 本名若林美代 (大元・九・六) 生(東京市荒川區日暮里元金杉九〇八) オリヱ津阪 本名添田よし美 (大二・二・二) 二四生(東京市小石川區江戸川町一八) (電小石川二九六九番) 富士 峰子 本名上瀧うた子 (大五・九・四) 生(東京市目黒區下目黒二) 小倉みれ子 本名淺井千鶴子 (大三・七・

九〇〇

六生(川崎市貝塚七七) 市川 菊子 本名酒橋重子 (大五・一〇・二) 四生(東京市京橋區銀座五ノ三) 熱海 芳枝 本名楠清子 (大四・三・一) 生(東京市赤坂區臺町三二) 川路 龍子 本名千葉柳 (大四・八・二) 三生(東京市日本橋區橋町三ノ九) 吉川 秀子 本名吉川ヒヲ子 (明四四・三・一) 八生(東京市芝區田村町六ノ一〇) 六光川 珠江 本名根本美津子 (明四二・三・二) 四生(東京市杉並區大宮前四ノ五六) 春野八重子 本名池上康子 (大二・五・一) 八生(東京市麻布區飯倉片町) 草間 光子 本名高平よしえ (大七・三・一) 生(東京市澁谷區伊達町) 小野小夜子 本名青山惠以子 (大五・二・二) 七生() 石上 都 本名猪澤春枝 (大二・二・一) 一生(東京市王子區上十條一三五) 夫草美登里 本名加藤よし子 (大元・八・二) 生(東京市麻生區飯倉片町) 青葉 照子 本名谷川ユウ (大五・三・三) 生(東京市向島區寺島二ノ二三) 川路 龍子 本名千葉柳 (大四・八・二) 三生(東京市日本橋區橋町三ノ九) 朝霧 鏡子 本名水谷小夜子 (大一〇・二・

一九生(東京市淺草區柳原二ノ一) 紅 十六 本名中村敏子 (大七・七・一) 生(東京市深川區永代二ノ五) 對島 洋子 本名鈴木喜美子 (大二・一・二) 二生(東京市中野區沼袋一) (松竹少女歌劇アドレス) 松竹少女歌劇團事務所 (電九ノ内三七四〇番) 松竹少女歌劇學校 松竹少女歌劇稽古場 東京市麴町區丸ノ内帝劇別館内 國際劇場(電根岸二一五一―五番) 東京市淺草區芝崎町二 歌舞伎座(電京橋三一三一―五番) 東京市京橋區木挽町 東京劇場(電京橋五一五一―五番) 東京市京橋區築地三 新宿第一劇場(電四谷六〇四四―七番) 東京市四谷區澁橋町角管一 新橋演舞場(電銀座一九〇、八一七番) 東京市京橋區木挽町河岸 座(電祇園二一五六―八番) 京都市四條大橋東詰 (鹽塚スター) 明津 麗子 本名藤井友子 (大二・二・一)

人名錄——俳優

天津 乙女 本名鳥居榮子 (明四三・一〇・九) 生) 豊原 邦子 本名岡本英子 (大三・一・二) 一六生(兵庫縣武庫郡本庄村深江六四二) 明野まち子 本名八木さた子 (大四・一・二) 一四生(大阪府東淀川區國次町) 一條 京子 本名山田逸子 (大五・一・二) 八生() 大空ひろみ 本名佐本きよ子 (大六・一・一) 一生(大阪府東淀川一三) 桂 よし子 本名佐々木かつ (明四三・三・七) 七生() 神代 錦 本名稻垣しづ子 (大六・三・一) 八生(兵庫縣本山村) 草路 潤子 本名谷野茂子 (大三・一・二) 六生() 神戶市下山手 雲野かよ子 本名鳥居華子 (明四四・八・二) 二〇生(寶塚歌劇學校わき) 佐保美代子 本名中野定子 (大元・七・一) 二生() 神戶市上筒井三ノ五六 櫻 耕紗子 本名神崎不二子 (大三・三・一) 一五生() 大阪府豊中町 國井 恵子 本名袴田とみ (大五・八・六) 生(寶塚) 高篠 浪子 本名上坂清子 (大三・一・一)

八生(大阪府港區八幡屋町) 橋 薫 本名神谷悦子 (明四五・三・二) 八生(寶塚歌劇學校わき) 立松 英子 本名岩上その子 (大四・八・五) 五生(寶塚歌劇學校) 玉津 眞砂 本名西野澄子 (大元・一・二) 一生() 西宮市安井町 夕張ゆき子 本名鴨川敬 (大八・六・一) 一生() 伊吹かく子 本名加藤きよ (明四三・七・三) 三生(寶塚歌劇學校) 宇和川朝子 本名宮地智子 (大六・三・一) 生() 神戶市西灘區町玉通り 大路多雅子 本名莊村ともえ (明四四・三・二) 二生() 兵庫縣寶塚歌劇音樂學校植物園裏 春日野八千代 本名石井吉子 (大六・一・一) 二生() 門田 若子 本名内山伸子 (大元・五・一) 五生(兵庫縣寶塚歌劇學校) 久美 京子 本名中村貞子 (大五・一・一) 一三() 兵庫縣寶塚歌劇學校 草笛 美子 本名朽木つな子 (明四四・八・三) 一生() 兵庫縣川邊郡小濱村中山寺 小夜 福子 本名飯田富美子 (明四四・三・五) 生() 神戶市葦合區宮本通り

巖崎あきら 本名古賀野とみ (明四四・九・八) 生() 兵庫縣川邊郡小濱村中山寺 沙見 洋子 本名祐野くに子 (大二・一・〇) 三〇生() 兵庫縣芦屋北ノ口三〇 田子字羅子 本名出口節子 () 八子字 本名遠山清子 () 兵庫縣寶塚歌劇學校 玉川 清子 本名宮脇雪枝 (大二・一・〇) 二五生() 兵庫縣寶塚歌劇學校わき 難波 章子 本名小出勝子 (大六・四・二) 一生() 兵庫縣寶塚歌劇學校内寄宿舎 錦 あや子 本名寺岡久菜 (明四五・一・二) 二生() 兵庫縣寶塚歌劇學校 奈良美也子 本名和田てつ子 (明四三・一・元) 生() 兵庫縣寶塚歌劇學校 二條 宮子 本名瀬川静子 (大五・八・一) 一生() 兵庫縣寶塚歌劇學校 泰 都美子 本名小畑都美 (大六・一・一) 一七生() 華澤 榮子 本名小林久子 (大四・四・一) 三生() 富士野たかね 本名加藤千春 (大五・一・四) 生() 尼崎市竹谷町 藤花ひさみ 本名野間三江 (大四・三・二) 八生() 大阪府中河内郡 三浦 時子 本名橋美笑子 (大二・四・二)

九〇一

一生)兵庫縣武庫郡寶塚歌劇學校わき
水乃也清美 本名水谷貞(不明)八・一八
生)兵庫縣寶塚寄宿舍
花田いさ子 本名長谷川咲子(不明)一・
二一生)神戸市兵庫
御幸 市子 本名田中得美(大二・六・二
〇生)大阪市石橋
敬子 本名妹尾静子(大五・八・一
生)大阪市港區新池田
柳 やよひ 本名松尾やよひ(大八・四・
八生)
(寶塚アドレス)——
東寶事務所(電九ノ内三五八三—九番)
東京市麴町區有樂町一ノ三東寶ビル内
東寶寄宿舍(電芝二七二四番)
東京市芝區芝公園五號地二二
寶塚少女歌劇事務所(電二一、三五—番)
寶塚歌劇學校・寶塚少女歌劇寄宿舍
兵庫縣武庫郡寶塚
東寶劇場(電銀座五一六一—六番)
東京市麴町區有樂町一ノ一
横濱寶塚劇場(電長者町五四六六番)
横濱市中區住吉町
名寶劇場(電本局四四九七番)
名古屋市中區新柳町
京寶劇場 京都市中區河原町通六角

映畫

▲松竹▼

(順序不同)

阿部正三郎(大船) 本名藝名同じ(大元生)
神奈川縣鎌倉材木座三ノ六
新井 淳(大船) 本名藝名同じ(明二三・
一生)東京市蒲田區新宿町四五二
磯野 秋雄(大船) 本名藝名同じ(明四三
生)神奈川縣鎌倉町材木座七一七
岩田 祐吉(大船) 本名藝名同じ(明二四・
三生)東京市世田ヶ谷區宇奈根上ノ臺八
二五
上原 謙(大船) 本名池端清亮(明四二・
一生)神奈川縣茅ヶ崎町東海岸
大山 健二(大船) 大山健治(明四二生)神
奈川縣鎌倉町材木座中島六五七
上山 草人(大船) 本名三田貞(明二二生)
横濱市鶴見區豐岡八二五
河村 黎吉(大船) 本名河村石五郎(明三
〇・九生)東京市蒲田區御園町二二一
日下部 章(大船) 本名伊藤正雄(大元・
一〇生)神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷一三二伊
藤方
近衛 敏明(大船) 本名柿崎敏一(明四四

七生)神奈川縣鎌倉町材木座二七四
小林十九二(大船) 本名小林徳治(明三四・
三生)神奈川縣戸塚町戸塚二〇三
小藤田正一(大船) 本名藤田眞砂生(大五
生)神奈川縣鎌倉町材木座五一
齋藤 達雄(大船) 本名藝名同じ(明三五・
六生)東京市蒲田區道塚町二三六
坂本 武(大船) 本名永石武平(明三二・
九生)東京市蒲田區女塚町一六〇
佐野 周二(大船) 本名關口正三郎(大元
生)東京市神田區東紺屋町二八
佐分利 信(大船) 本名石崎由雄(明四二・
二生)神奈川縣藤澤町沼海岸一木通り
武田 春郎(大船) 本名武藤祐喜(明二〇・
二生)東京市蒲田區古市町二八七
徳大寺 伸(大船) 本名寺田静夫(明四四・
一〇生)東京市赤坂區丹後町二二
夏川大二郎(大船) 本名佐々木大二郎(大
二・八生)東京市世田ヶ谷區松原町四
一八六(電松澤二五七一—番)
奈良 眞養(大船) 本名藝名同じ(明三三・
一生)東京市蒲田區古市場町二八七
日守 新一(大船) 本名守山一雄(明三八・
一生)神奈川縣鎌倉町新小川町五
藤野 秀夫(大船) 本名島田卯平(明一一・
五生)東京市蒲田區矢口町四五

山内 光(大船) 本名岡田桑三(明三六・
六生)東京市芝區芝公園十五號地一一
笠智 衆(大船) 本名藝名同じ(明四一
生)神奈川縣大船町映畫都市松竹住宅第
一區
志賀 靖郎(京都) 本名中江一男(明二一
生)京都市右京區太秦井戸ヶ尻二四(電
饒峨三七七番呼)
高田 浩吉(京都) 本名梶浦武一(明四四・
一生)京都府京左京區下鴨宮崎一八(電
上九七四番)
坪井 哲(京都) 本名坪井三郎(明三〇
生)京都市左京區下鴨宮崎町一二八
高松錦之助(京都) 本名渡部綱雄(明三三
生)京都市花園猪之毛町三
林 長二郎(京都) 本名長谷川一夫(明四
一・二生)京都市伏見町新町四(電伏見一
六四四番)
林 敏夫(京都) 本名藝名同じ(大三生)
京都市左京區下鴨宮崎町一一八
坂東橋之助(京都) 本名佐久間義雄(明四
〇・五生)京都市左京區下鴨宮崎町一六
六
坂東好太郎(京都) 本名本間健太郎(明四
四・五生)京都市左京區下鴨宮河町六二
ノ七(電上五一八一—番)

本郷 秀雄(京都) 本名吉田秀夫(大四生)
京都市左京區下鴨宮崎町一六八ノ一
結城 一朗(京都) 本名松崎龍雄(明三七・
七生)京都市左京區下鴨宮河原町六二
飯田 蝶子(大船) 本名飯田長子(明三四・
四生)東京市芝區高輪南町三〇(電高輪四
六〇三番)
大塚 君代(大船) 本名庵崎幸子(大五生)
神奈川縣鎌倉大町二〇
岡村 文子(大船) 本名岡村ふみ子(明三
五生)東京市澁谷區大向通一九
川崎 弘子(大船) 本名石渡静子(明四五・
四生)横濱市神奈川區鳥越三三(電神奈川
三七五一—番)
桑野 通子(大船) 本名桑野通(大五・一
生)東京市芝區三島町八
鈴木 歌子(大船) 本名藝名同じ(明一四
生)東京市大森區池上町徳持町三五四
高杉 早苗(大船) 本名清水ヒロ子(大七・
一〇生)東京市芝區宮本町一〇 清水方
高峰三枝子(大船) 本名鈴木三枝子(大七
生)東京市芝區三田四町二八
田中 絹代(大船) 本名藝名同じ(明四三・
一生)東京市大森區調布鶴ノ木町一八
四(電田調布三〇四七番)
坪内 美子(大船) 本名山崎登美子(大四・

六生)東京市赤坂區丹後町一一
松井 潤子(大船) 本名藝名同じ(明四一
生)神奈川縣鎌倉雪の下六四六 藏敷方
八雲理恵子(大船) 本名玉野喜代子(明三
六・八生)神奈川縣鎌倉町鎌倉山
吉川 満子(大船) 本名吉川ミツ子(明三
四・一生)東京市京橋區銀座五ノ三
若水 絹子(大船) 本名小川さく子(明四
二・三生)東京市蒲田區新一町三
飯塚 敏子(京都) 本名飯塚とし(大三・
六生)京都市左京區下鴨宮崎町一六三
井上 久榮(京都) 本名楠たま(大四・二
生)京都市伏見區西柳町(電伏見六五四番)
花岡 菊子(京都) 本名松崎底代(明四四・
九生)京都市左京區下鴨宮河原町六二
久松三津枝(京都) 本名上松美津枝(大三・
九生)京都市右京區谷口園町二
光川 京子(京都) 本名山口政代(大七生)
京都市左京區下鴨宮崎町一六三
北見 禮子(京都) 本名稻村美津(大四生)
京都市左京區下鴨宮河町三七 松の家内
柳 さく子(京都) 本名畔柳千代子(明三
五・一生)京都市左京區下鴨宮崎町一
二八
松竹東京本社

人名錄——俳優

東京市京橋區新富町三ノ五(電京橋四
一三一—八番)
大阪支社
大阪市南區久左衛門町八(電南六五三
一—六、六七三—二—五番)
大船撮影所
神奈川縣大船町(電大船一六一、一六
八番)
京都撮影所
京都市左京區下鴨宮崎町(電上二一八
七番)
京都第二撮影所
京都市左京區双ヶ丘
▲新興キネマ▼ (順序不同)
立松 晃(大泉) 本名吉崎潔(明四三・
八・一) 生 東京市板橋區練馬南町一ノ三
四四三(電練馬三二—一—番)
河津清三郎(大泉) 本名中島誠一(明四一・
八・三) 生 東京市豊島區池袋三ノ一四
一五 中島方
清水 將夫(大泉) 本名藝名同じ(明四一・
五・八) 東京市京橋區木挽町四ノ四ノ
二 銀座莊
小宮 一晃(大泉) 本名藝名と同じ(明三
五・一—・三) 生 東京市豊島區池袋三ノ
一二七二

菅井 一郎(大泉) 本名藝名同じ(明四〇・
七・二五) 生 東京市豊島區長崎仲町二ノ
三六四二ノ二
大井 正夫(大泉) 本名大原正雄(明三五・
一・二五) 生 東京市豊島區長崎南町三ノ
三九四八
田中 春男(大泉) 本名藝名同じ(明四三・
七・二〇) 生 東京市板橋區中村町三ノ六
二二
淺田 健三(大泉) 本名淺田董(明三九・
四・二五) 生 東京市豊島區長崎東町一ノ
八五四
生方 壯兒(大泉) 本名生方太吉(明四一・
三・三九) 生 東京市長崎南町三ノ三八九
〇
植村謙二郎(大泉) 本名藝名同じ(大三・
一ノ三) 生 東京市杉並區荻窪二ノ一九六
(電荻窪二五五—一—番呼)
田代 光(大泉) 本名金光六郎(明四二
生) 東京市京橋區木挽町二ノ四 竹田アハ
一ト内
大内 弘(大泉) 本名大内一郎(明四四
生) 東京市大泉新興撮影所
若葉 馨(大泉) 本名須田庄一(明三五・
二・一四) 生 東京市豊島區池袋三ノ一四
六八

九〇四

上田 寛(大泉) 本名藝名同じ(明四三・
七・一六) 生 東京市荒川區日暮里町九ノ
一四
大友壯之介(大泉) 本名尖倉恒氏(明三六・
一・九) 生 東京市豊島區長崎東町一ノ八
七七
鳥橋 弘一(大泉) 本名藝名同じ(明三四・
一・二) 生 東京市杉並區天沼三ノ六
五〇
菅原 秀雄(大泉) 本名藝名同じ(六一〇・
九・二八) 生 東京市板橋區練馬南町三五
一二
大谷日出夫(大泉) 本名鈴木盛夫(明四二・
九・四) 生 京都市右京區嵯峨天龍寺北邊
路町二五
市川男女之助(大泉) 本名河島武雄(明四
五・二・一七) 生 京都市右京區太秦多藏
町一四ノ七三
尾上榮五郎(大泉) 本名吉川島吉(明三八・
一・一〇) 生 京都市左京區下鴨宮河町
七
月田 一郎(大泉) 本名山田智次郎(明四
二・一〇・一一) 京都市右京區嵯峨野
有栖川町
荒木 忍(大泉) 本名荒木武雄(明二四・
四・二六) 生 京都市上京區等持院中町二

人名錄——俳優

小泉 嘉輔(本名) 本間義人(明二三・二・
二) 生 京都市右京區龍安寺五反田
大友柳太郎(大泉) 本名中富正三(明四五・
六・五) 生 京都市右京區蜂ヶ岡町三〇
淺香新八郎(大泉) 本名金谷幸太郎(明三
九) 生 京都市右京區鳴瀧町一〇
千代田勝太郎(大泉) 本名片野市太郎(明
四四・六・二〇) 生 京都市右京區太秦太
子前太秦アパート
市川右太衛門(大泉) 本名淺井善之助(明
三九) 生 京都市上京區紫野下柳町五(電西
陣七一五五番)
田村 邦夫(大泉) 本名田村邦夫(明四〇・
五) 生 京都市右京區太秦日活撮影所
松本三郎(大泉) 本名佐藤忠一(明二九・
一・二二) 生 京都市右京區太秦多藏町
四三
葛木 香一(大泉) 本名根石次郎(明二三・
三・七) 生 京都市右京區鳴瀧
嵐 寛壽郎(大泉) 本名高橋照一(明三
六・一—・八) 生 京都市京區等持院北町
小松原(電西陣四一六九番)
嵐 徳三郎(大泉) 本名小林徳太郎(明
二三・二) 生 京都市上京區等持院西町五
一(電西陣四六九七番)
頭山桂之助(大泉) 本名小林清次郎(明

三四・一・二五) 生 京都市右京區西ノ原
鶴岡町
南部 章三(大泉) 本名鷺海正次(明三三・
六・二五) 生 京都市右京區太秦、其撮影所
山路ふみ子(大泉) 本名大久保ふみ子(大
二・三・一三) 生 東京市澁谷區代々木西
原町九九四(電四谷六七八番)
歌川八重子(大泉) 本名前田雅子(明三九・
八・二二) 生 東京市淀橋區諏訪町二三九
浦邊 糸子(大泉) 本名木村久米(明三六・
一〇・五) 生 東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ
九〇五 利久莊
高津 慶子(大泉) 本名池田本子(明四五・
二・二三) 生 東京市豊島區池袋三ノ一四
一五 中島方
江川なほみ(大泉) 本名字田川幸子(大五・
三・一一) 生 東京市豊島區長崎南町三ノ
三二九〇ノ二
高野 由美(大泉) 本名高野松子(大七・
一・二三) 生 東京市小石川區香羽九ノ一
八
古川 登美(大泉) 本名古川トミ子(大八・
三・二五) 生 東京市豊島區池袋豊島師範
前 源美莊アパート
御影 公子(大泉) 本名増山君子(大三・
九・一〇) 生 東京市板橋區江古田町二二

九〇五

田中 筆子(大泉) 本名藝名同じ(明四五・
三・一六) 生 東京市豊島區目白町四ノ五
九
瀧 鈴子(大泉) 本名三澤喜曾子(大三・
六・二六) 生 東京市豊島區長崎東町一ノ
八五四
松平 龍子(大泉) 本名大倉みこ(大五・
一・三〇) 生 東京市板橋區中村町三ノ六
六五
小町美千代(大泉) 本名小池政江(大九) 生
東京市大泉新興撮影所
高倉惠美子(大泉) 本名高橋惠美子(大六・
六・二六) 生 東京府北多摩郡調布町國領四
二〇
春日 芳子(大泉) 本名山本忠子(六一〇・
三・三一) 生 東京市本郷區千駄木町五二
野邊かゝる(大泉) 本名高野美津子(大六・
一〇・六) 生 東京市淀橋區戸塚町四ノ八
四三
鈴木 澄子(大泉) 本名藝名同じ(明四〇・
一〇・二六) 生 京都市右京區嵯峨天龍寺
町
森 静子(大泉) 本名木村静子(明四一・
一二・一七) 生 京都市右京區太秦帷子丘

山田五十鈴(太泰) 本名山田美津子(大六・二・五生)京都市右京區嵯峨野有栖川
 梅村 蓉子(太泰) 本名鈴木ハナ(明三八・一〇・二一生)京都市大將軍一條町八
 白石 明子(太泰) 本名島直子(大三・一〇・二五生)京都市右京區太秦多敷町一
 四ノ五四
 歌川 網枝(太泰) 本名高橋トヨ子(大二・一〇・二四生)京都市右京區太秦堀ヶ内町三〇
 高山 廣子(太泰) 本名仲上八洲子(大八・三・一五生)京都市右京區太秦南堀ヶ内町九
 國友和歌子(太泰) 本名龜田和歌子(大六・五・九生)京都市右京區太秦多敷町四七ノ一八
 池 欽子(太泰) 本名池澤笑子(大六・一一・二七生)京都市右京區太秦多敷町二九
 甲斐世津子(太泰) 本名田中照子(大六・一・一生)京都市右京區太秦井戸ヶ尻一
 一七一一四番
 東京大泉撮影所
 新興キネマ本社
 東京市京橋區八丁堀二ノ三(電京橋五一七一一四番)

東京市板橋區大泉町(電石神井七九番一〇七番)
 京都太秦撮影所
 京都市右京區太秦蜂ヶ岡町(電嵯峨二〇三番、西陣四一二二番)
 京都第二撮影所
 京都市右京區嵯峨野千代の道町(電嵯峨五三三番)
 ▲日活▼ (順序不同)
 山本 嘉一(多摩川) 本名藝名同じ(明一〇・九・一一生)京都市澁谷區千駄ヶ谷町五ノ九〇二新宿ハウス内(電四谷一八三八番)
 廣瀬 恒美(多摩川) 本名同じ(明三一・三・三一生)京都市杉並區大原町一二五
 井染 四郎(多摩川) 本名齊藤四郎(明四〇・三・一四生)京都市杉並區和泉町三五六(電松澤三二一九番)
 伊澤 一郎(多摩川) 本名荳野季男(明四五・二・二二生)京都市世田ヶ谷區松原町三ノ八八八 近藤方
 松本秀太郎(多摩川) 本名藝名同じ(大三・三・三一生)京都市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一〇〇
 星 ひかる(多摩川) 本名内藤明(明四〇・

一〇・二六生)京都市世田ヶ谷區赤堤町二ノ四八四(電松澤二八四六番)
 高木 永二(多摩川) 本名高木英次(明二九・一〇・二八生)川崎市堀ノ内二〇(電川崎二〇一九番)
 杉 狂兒(多摩川) 本名杉植輔(明三六・七・八生)京都市世田ヶ谷區赤堤二ノ四八四(電松澤二八四六番呼)
 瀧口新太郎(多摩川) 本名藝名同じ(大二・二・一三生)京都市澁谷區代々木上原一二七三
 笠原 恒彦(多摩川) 本名藝名同じ(明四四生)京都市世田ヶ谷區松原町一ノ八五
 中田 弘二(多摩川) 本名中田博二(明四二・九・一四生)京都市世田ヶ谷區赤堤町二ノ四八四(電松澤三五六〇番)
 吉谷 久雄(多摩川) 本名石井金光(明三四・一〇・一〇生)京都市澁谷區幡ヶ谷原町五三九
 村田 宏壽(多摩川) 本名村田安作(明三二・二・二四生)京都市世田ヶ谷區大原町二二一八(電松澤二七五四番)
 江川宇禮雄(多摩川) 本名江川ウレオ(明三五・五・八生)京都市世田ヶ谷區赤堤町二ノ五二二(電松澤三二一九番)
 小杉 勇(多摩川) 本名小杉助次郎(明

三七・五・八生)京都市世田ヶ谷區上北澤二ノ五二一(電松澤二五二八番)
 島 耕二(多摩川) 本名鹿兒島武彦(明三四・二・一六生)京都市世田ヶ谷區赤堤町二ノ四八四(電松澤二八四六番)
 見明凡太郎(多摩川) 本名見明進(明三九・一・一生)京都市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一三六二
 山本禮三郎(多摩川) 本名山本博吉(明三三・九・一五生)京都市世田ヶ谷區上北澤三ノ一七四(電松澤二一七四番)
 大河内傳次郎(京都) 本名大邊勇(明三二・生)京都市右京區堀ノ内町一二(電嵯峨三六〇番)
 市川正二郎(京都) 本名荒木正(大二生)京都市右京區嵯峨天龍寺廣道町一
 市川百々之助(京都) 本名上田直正(明三九生)京都市上京區等持院南町一二
 大城龍太郎(京都) 本名新田稔(明四〇生)京都市右京區太秦堀ヶ内町、朝輝亭(電嵯峨三五三番)
 尾上菊太郎(京都) 本名田中章介(明四〇生)京都市東山區五條東大路西入
 高瀬 實乘(京都) 本名能登谷新一(明二九生)京都市右京區太秦東峰ヶ岡町一
 片岡千恵蔵(京都) 本名植木正義(明三六・

三生)京都市東山區九條 山莊園(電上四四八一番)
 坂東妻三郎(京都) 本名田村傳吉(明三四・一・二生)京都市左京區下鴨宮崎町 松竹京都撮影所
 澤村國太郎(京都) 本名加藤友一(明三八・六生)京都市右京區御室門西入下ル
 月形龍之助(京都) 本名門田潔人(明三五生)京都市出入通七本松東入
 星 玲子(多摩川) 本名辻野琴子(大四・一・二生)京都市世田ヶ谷區大原町一〇三八
 近松 里子(多摩川) 本名山本愛子(大二・一二・二五生)京都市世田ヶ谷區大原町一三〇六(電松澤三七一三番)
 村田知榮子(多摩川) 本名村田美代子(大四・二・二八生)京都市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一三六二(電四谷七六九六番)
 澤村 貞子(多摩川) 本名加藤貞子(明四一・一・一一生)京都市世田ヶ谷區上北澤二ノ五二五(電松澤三一四四番)
 美川かつみ(多摩川) 本名神取カツミ(大五・二・一五生)京都市杉並區和泉町七五 荒井方
 黒田 紀代(多摩川) 本名富田チヨ(大五・六・二〇生)京都市澁谷區代々木初臺町

七二四(電四谷四五七七番)
 桂 珠子(多摩川) 本名秋山演子(明四三・七・一五生)京都市杉並區和泉町四四三
 瀧花 久子(多摩川) 本名田坂富美子(明三九・二・一一生)京都市世田ヶ谷區上北澤二ノ五一七 田坂方
 花柳 小菊(多摩川) 本名齊藤よし子(大一一・二・二六生)京都市牛込區上宮北町二(電牛込四三九六番)
 石井美笑子(多摩川) 本名岩田美笑子(大四・一・二九生)京都市赤坂區田町七ノ三 和田方(電赤坂一八三八番)
 横田みさな(多摩川) 本名横田操(大六生)東京府北多摩郡調布布田多摩川撮影所内
 沖津 麗子(京都) 本名藤本英子(大九生)京都市右京區太秦辻ヶ本町一八
 衣笠 淳子(京都) 本名伊東英子(明四三・三生)京都市太秦日活撮影所氣付
 櫻木 梅子(京都) 本名沖山かよ(大元生)京都市右京區太秦井戸ヶ尻町二〇
 五月 潤子(京都) 本名曾我冬子(明四三生)京都市太秦日活撮影所内
 清水 照子(京都) 本名西山光(明三九生)京都市右京區太秦堀ヶ内町七ノ四
 深水 藤子(京都) 本名安田不二子(大五・

五生)京都市右京区宇野芝橋町二五
 轟夕起子(京都) 本名西山都留子(大七・
 九・一〇生)京都市右京区太秦森ヶ前町
 八
 香住佐代子(京都) 本名丸山菊代(大六生)
 京都市右京区嵯峨野開町二二
 水ノ江澄子(京都) 本名倉元貞子(明四二
 ・二生)京都市上京区御前通一條下ル下野
 町
 中野かほる(京都) 本名中野房江(大二・
 四生)京都市太秦日活撮影所内
 日活本社
 東京市京橋區三(電京橋二二二一九
 番)
 京都支店
 京都市中京區烏丸通三條下ル(電本局
 七一八一—四番)
 多摩川撮影所
 東京府北多摩郡調布市(電荻窪三三
 三五番、武蔵調布一七六、一三三番)
 京都撮影所
 京都市右京區太秦多藪町一四(電嵯峨
 二六三、西陣一〇九五、三二五番)
 京都第二撮影所
 京都市右京區嵯峨町(電嵯峨五一七、

五七二番)
 ▲P・C・L▼ (順序不同)
 大川平八郎 本名藝名同じ(明三八・九生)
 京都市世田ヶ谷區成城町九〇
 岸井 明 本名藝名同じ(明四三生)東京
 市京橋區築地四ノ二
 佐伯 秀男 本名鬼武秀治(大元生)東京市
 澁谷區永住町二〇
 藤原 釜足 本名安惠重男(明三六・八生)
 東京市世田ヶ谷區若林町二〇六
 丸山 定夫 本名藝名同じ(明三四・五生)
 東京市四谷區鹽町一ノ一八(電四谷二八
 七六番)
 徳川 夢聲 本名福原駿雄(明二七・四生)
 東京市杉並區天沼一ノ一三八(電荻窪二
 一三二生)
 嵯峨 善兵 本名——(明四二・五生)東京
 市世田ヶ谷區成城町一二四
 岡 譲二 本名中溝勝三(明三七・五生)
 東京市目黒區上目黒五ノ二三八一(電青
 山五七五九番)
 高田 稔 本名藝名同じ(明三二・一二生)
 東京市品川區五反田島津山(電大崎九八
 七番)
 小林重四郎 本名小林義雄(明四二生)東京
 市澁谷區幡ヶ谷後塚一二〇六

北澤 彪 東京市杉並區荻窪四ノ一〇四
 三橋 公 東京市大森區北千束町六九〇
 梅園 龍子 本名植草正枝(大五生)東京市
 世田ヶ谷三軒茶屋九一(電世田ヶ谷二七
 四九番)
 神田千鶴子 本名天島多喜恵(大六生)東京
 市目黒區三谷町八三
 竹久千恵子 本名能登谷千枝子(明四五・
 三生)東京市澁谷區松濤町二八(電青山五
 八七五番)
 伊達 里子 本名石川三枝(明四三・一〇
 生)東京市世田ヶ谷區成城町八一
 入江たか子 本名東坊城英子(明四四・二
 生)東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ六四〇(電
 青山七二四三番)
 千葉早智子 本名千葉富子(明四四・二生)
 東京市世田ヶ谷區櫻新町二ノ四〇四(電
 世田ヶ谷三三九八番)
 堤 眞佐子 本名堤雅子(大六・八生)川崎
 市貝塚町一六四
 英 百合子 本名逸見袈裟子(明三三・三
 生)東京市世田ヶ谷區成城町南一七七(電
 砧四四九番)
 山縣 直代 本名藝名同じ(大四・三生)東
 京市世田ヶ谷區成城南町一七〇
 江戸川蘭子 本名——(大二生)東京市芝區

白金臺町一ノ八〇
 細川ちか子 本名——(明四〇・一一生)東
 京市日本橋區通三ノ五、中將アパート
 霧立のぼる 本名島田きみ子(大六・一生)
 東京市豊島區目白町二ノ一五七三
 P・C・L 寫眞化學研究所
 東京市京橋區銀座西五ノ二共同建物ビ
 ル内(電銀座二一八五、二八六、二八
 四番)
 撮影所
 東京市世田ヶ谷區喜多見町一〇〇(電
 世田ヶ谷三九二一—四番、碓三六七番)
 ▲大 都 ▼ (順序不同)
 阿部九州男 本名伊東右太郎(明四一・四
 生)東京市日本橋區茅場町一ノ七、茅場
 會館(電茅場町三八六、九五五番)
 大岡 怪童 本名大岡菊次郎(明三四生)東
 京市澁野川區澁野川町一八九一
 杉山昌三九 本名藝名同じ(明三九・八生)
 東京市四谷區富久町一四
 大乗寺八郎 本名丹羽竹松(明四二生)東京
 市豊島區巢鴨町五ノ一〇六六
 ハヤブサ・ヒェト 本名廣瀬數夫(明四一
 生)東京市神田區小川町三ノ九
 藤間林太郎 本名原田林太郎(明三四生)東

京市豊島區池袋二ノ一〇一四
 松山宗三郎 本名小崎政房(明四〇生)東京
 市豊島區西巢鴨三ノ六九〇
 水島道太郎 本名藝名同じ(大元生)東京市
 豊島區巢鴨大都スタヂオ内
 東 龍子 本名南龍子(大二生)東京市豊
 島區巢鴨五ノ一・七三
 大河百々代 本名河合世喜子(大七生)東京
 市神田區小川町三ノ九
 大山アア子 本名神原ヤス子(明四四生)東
 京市澁野川區西ヶ原六〇〇
 木下 双葉 本名光田貞子(明四三生)東京
 市京橋區築地三ノ六 築地會館
 琴 糸路 本名宮澤定子(明四三・一生)
 東京市澁野川區澁野川町七三三
 佐久間妙子 本名西島靜子(明四一・三生)
 東京市神田區猿樂町二ノ六(電神田一七
 七九番)
 三城 輝子 本名河合教子(大七生)東京市
 下谷區上根岸七二、河合方
 水川八重子 本名角西ヤイ子(大六生)東京
 市荒川區町二ノ四三一
 大都本社
 東京市京橋區銀座一ノ二(電京橋三五
 一五・三五四〇番)

關西支社
 大阪市南區長堀橋筋一ノ一七(電南五
 八八九・一九四九番)
 ▲東京發聲▼ (順序不同)
 藤井 貢 本名藝名同じ(明四一生)東京
 市目黒區下目黒三ノ五二九
 押本 映治 本名中山俊武(明三三生)東京
 市蒲田區新宿町一六
 三井 秀男 本名三井日子秀(明四三生)東
 京市世田ヶ谷區北澤三ノ一〇六七
 山口 勇 本名藝名同じ(明三七生)東京
 市目黒區下目黒三ノ六四八
 鹿島 俊策 本名惠良俊次郎(明三六生)東
 京市蒲田區運沼町一三三
 逢初 夢子 本名横山八千代(大三・一二
 生)東京市世田ヶ谷區東玉川町二〇(電田
 園調布二一八番)
 市川 春代 本名藝名同じ(大二・二生)東
 京市世田ヶ谷區大原一二七一(電松澤三
 〇四二番)
 東京發聲本社
 東京市京橋區銀座四ノ二教文館ビル

(電銀座八六五三番)

撮影所

東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷四ノ三九一
(電世田ヶ谷三〇〇六番)

▲J・O▼

(順序不同)

黒川彌太郎 本名黒川清隆(明四三・一
生)京都市右京區嵯峨中山町三七
鳥羽陽之助 本名鳥羽輝雄(明三七・三生)
京都市右京區太秦堀ヶ内九
小笠原章二郎 本名小笠原長英(明三七・
七生)京都市左京區下加茂下河原町三五
(電上五三二一番)
清川 莊司 本名關口雄(次明三六生)京都
市右京區太秦松本町五ノ五
花井 蘭子 本名清水よし子(大七・七生)
京都市右京區下嵯峨朝日町三五(電嵯峨
一七九番)
鈴木 京子 本名高倉春子(大二・二生)京
都市右京區鳴瀧嵯峨岡町
大倉千代子 本名坂間喜代子(大四・八生)
京都市右京區太秦多敷町一九
原 駒子 本名倉形駒子(明四三・二生)
京都市東山安井學區下河原通
原 節子 本名會田昌江(大九生)東京市
世田ヶ谷區上北澤三ノ一一一三 熊谷方

J・O本社

京都市右京區太秦蠶ノ社(電西陣四九
九四番、嵯峨一七二番)

東京支社

東京市京橋區銀座西二ノ五(電京橋六
三三七番)

▲其他▼

(順序不同)

海江田讓二(今井アロ) 本名遠野武史(明
四一・三生)西宮市甲陽公園内
羅門光三郎(今井アロ) 本名岩井憲治(明
三四生)西宮市甲陽園女神山一
高津 愛子(今井アロ) 本名深川愛子(明
四三・三生)京都市右京區太秦多敷町一
三
泉 清子(今井アロ) 本名泉井初子(明
四二・二生)京都市右京區太秦堀ヶ内町
今井映畫製作所内
今井映畫製作所
京都市右京區太秦堀ヶ内(電嵯峨一七
二、五三〇番)
團 徳磨(極東) 本名山本徳磨(明三四
生)京都市右京區太秦桂ヶ原一七
葉山純之輔(極東) 本名田中慶一(明三二
生)京都市上京區大將軍西町三一
月 澄江(極東) 本名前川澄江(大五生)
京都市右京區太秦蜂ヶ岡二

極東キネマ本社

大阪市南區難波新地六番丁難波三和ビ
ル(電戎三八七五・三八七六番)

關東支社

東京市京橋區銀座一ビル(電京橋六六
五五番)

撮影所

大阪市外大鐵沿線古市白鳥園(電古市
一五番)

中野 英治 本名中野榮三郎(明三七・五
生)東京市京橋區築地二 築地會館内、

文 藝 家

飯島 正 卅五年三月、東京、東大佛文科
卒、東京市世田ヶ谷區北澤三ノ九七五。
井汲清治 卅五年十月、岡山縣津山市、慶
大文科卒、慶大教授、東京市大森區田園
調布二ノ八四三。
池崎忠孝 卅四年二月、岡山縣萬歲村、東
大文科卒、曾て赤木柝平と號し文藝評論
を書いた、文部參與官、代議士、大阪市
東常盤町一ノ一一。
伊集院齊 本名相良徳三、廿八年八月、鹿
兒島市、東大文學科卒、成城高校教授、

東京市世田ヶ谷區成城町八八六。

石川連三 卅八年七月、秋田縣横手町、早
大英文科卒、東京市杉並區馬橋三ノ四二
五。

石坂洋次郎 卅三年六月、弘前市、慶大國
文科卒、秋田縣横手町島崎三。

石濱金作 卅二年二月、東京、東大英文科
卒、東京市世田ヶ谷區大原町一、一五三。

板垣慶徳 廿七年十月、東京、東大文學卒
法大その他の講師、東京市淀橋區上落合
二ノ五九九。

泉 鏡花 六年十一月、金澤市、藝術院會
員、東京市麴町區下六番町一三。

伊藤 整 卅八年一月、北海道、東京商大
半、東京市杉並區和田本町七一四。

井東 憲 伊井藤吉郎の筆名あり、廿八年
八月、東京、明大法科卒、東京市荒川區
日暮里鶯谷アパート。

稻垣足穂 卅三年十二月、大阪市、關西學
院中學卒、東京市牛込區通寺町三七、旺
山荘。

大養 健 廿九年七月、東京、東大哲學科
半、衆議院議員、通信參與官、東京市四
谷區南町八八。

伊原青々園 三年四月、松江市、一高半、
文學博士、東京市四谷區南町八八。

井伏鱒二 卅一年、福山市外加茂村、早大
佛文科半、東京市杉並區清水町二四。

今井邦子 卅三年五月、徳島市、東京市澁
谷區千駄ヶ谷三ノ五二七。

岩田豊雄 廿六年七月、横濱市、慶大半、
獅子文六の筆名あり、東京市澁谷區千駄
ヶ谷二ノ四七四。

香匠谷英一 廿八年八月、大阪府佐野町、
京大獨文卒、立大教授、豊島區目白町四
ノ四三。

馬場孤蝶 三年十一月、高知市、明治學院
卒、東京市芝區三田豐岡町二。

春山行夫 卅五年七月、名古屋市、商業學
校卒、東京市中野區高根町二八。

原 久一郎 卅三年四月、新潟縣水原町、
早大文科卒、東京市豊島區長崎南町三ノ
三八九七ノ一。

葉山嘉樹 廿七年三月、福岡縣豐津村、中
學卒、長野縣上伊那郡赤穂村。

林 美美子 卅七年十二月、下關市、尾道
高女卒、東京市淀橋區下落合四ノ二ノ一
三三。

林 房雄 卅六年五月、大分市、東大法科
半、神奈川縣鎌倉町淨明寺宅間谷。

秦 豊吉 卅五年一月、東京、東大法科卒、
丸木砂土筆名、東京寶塚劇場支配人、東

京市大森區山王一ノ二七八一。

畑 耕一 廿五年五月、廣島市、東大英文
科卒、明大講師、東京市本郷區元町文化
アパート。

長谷川如是閑 八年十一月、東京、東京法
學院卒、東京市中野區上ノ原六。

長谷川 伸 十七年七月、横濱、東京市品
川區西大崎町四ノ八二六。

長谷川時雨 十二年、東京、東京市赤坂區
榎町三。

土師清二 本名赤松靜太、廿六年九月、岡
山縣國府村、東京市澁谷區代々木初臺五
三六。

橋本英吉 卅一年十一月、静岡縣井田町、
静岡縣田方郡陶南村八ッ溝。

萩原朝太郎 卅一年十一月、前橋市、六高
半、東京市世田ヶ谷區世田ヶ谷一ノ六三五。

新居 格 卅一年三月、徳島縣撫養町、東
大政治科卒、東京市杉並區高圓寺三ノ三
一六。

新關良三 廿二年八月、山形縣谷地町、東
大文科卒、學習院教授、東京市豊島區長
崎南町三ノ四〇一五。

西脇順三郎 廿七年一月、新潟縣小千谷町、
慶大、オクスフォード大學修、慶大教授、
東京市澁谷區宇田川町六三。

人名錄——文藝家

丹羽文雄 卅七年十一月、三重縣四日市、早大國文科卒、東京市中野區文園町四〇。本間久雄 十九年十月、米澤市、早大文卒、早大教授、東京市小石川區雜司ヶ谷一四四。本多顯彰 卅一年十月、名古屋市、東大文科卒、法大講師、東京市杉並區天沼一〇二八六。本庄陸男 卅八年二月、北海道石狩、師範學校卒、東京市中野區上高田一〇一四八。堀口大學 卅五年一月、東京、慶大、東京市牛込區新小川町江戸川アパルト。堀 辰雄 卅七年十二月、東京、東大文科卒、東京市本所區向島一〇一。細田民樹 卅五年一月、東京、早大英文科卒、東京市吉祥寺旭小路二六五八。細田源吉 卅四年六月、川越市、早大英文科卒、東京市杉並區上荻窪六五五。逸見 廣 卅二年一月、山形縣西里村、早大獨文科卒、東京市牛込區若松町八〇。豐島與志雄 卅三年十一月、福岡縣福岡村、東大佛文科卒、法大教授、東京市本郷區千駄木町五七。富田碎花 卅三年十一月、盛岡市、日大植民科卒、兵庫縣武庫郡若屋。戸坂 潤 卅三年九月、東京、京大哲學科

卒、前法大教授、東京市杉並區阿佐ヶ谷町三ノ二五〇。德永 直 卅二年一月、熊本市、東京市世田谷區世田谷三ノ二四一五。德田秋聲 四年十二月、金澤市、四高卒、藝術院會員、東京市本郷區森川町一二四。戸川秋骨 三年十二月、熊本縣彌富村、東大英文科選科、慶大教授、東京市杉並區荻窪二ノ一一九。土居光知 十九年八月、高知縣十市村、東北大教授、他處市五番町一七二。張 結宙 卅八年十月、大邱、大邱高等普通學校卒、世田谷區世田谷二ノ一九二〇。中條百合子 卅二年二月、東京、日本女子大、東京市淀橋區上落合二ノ七四〇。近松秋江 九年五月、岡山縣前野村、東京專門學校卒、東京市大森區新井宿二ノ一五九四。茅野蕭々 十六年三月、長野縣上諏訪町、東大獨文科卒、文學博士、慶大教授東京市荏原區中延一一二五。龍膽寺 雄 卅四年、茨城縣下妻町、慶大醫學部卒、東京市杉並區高圓寺一ノ四三。小田巖夫 三十三年、高田市、東京外語支那科卒、東京市杉並區馬橋三ノ二八三。大木惺夫 廿八年四月、廣島市、廣島商業

學校卒、東京市品川區南品川三ノ一五一七。大下字陀兒 廿九年十一月、長野縣中箕輪村、九大應用化學科卒、東京市豐島區雜司ヶ谷五ノ七一。太田千鶴夫 卅九年三月、鹿兒島市、千葉醫大卒、東京市澁谷區猿樂町一六。大谷藤子 卅六年十一月、埼玉縣兩神村、高女卒、東京市世田谷區北澤四ノ三〇〇。大森義太郎 卅一年、東京、東大經濟學部卒、神奈川縣鎌倉町塔ノ辻二〇〇。大宅壯一 卅三年九月、大阪、東大社會學科卒、東京日日新聞囑託、東京市世田谷區野澤町一ノ七二。岡田三郎 卅三年二月、北海道福山町、早大英文科卒、東京市大森區山王二ノ一九一一。岡田禎子 卅五年三月、愛知縣石井村、東京女子大卒、東京市牛込區田町三ノ一九。岡本綺堂 五年十月、東京、藝術院會員、東京市目黒區上目黒一ノ一一三。小川未明 十五年四月、高田市、早大英文科卒、東京市杉並區高圓寺一ノ五一二。沖野岩三郎 九年一月、和歌山縣寒川村、明治學院卒、東京市淀橋區下落合三ノ五〇七。

萩原井泉水 十七年六月、東京、東大言語學科、俳誌「層雲」主宰、東京市麻布區新堀町三。小栗虫太郎 卅四年三月、東京、中卒、東京市世田谷區太子堂町一〇六。尾崎喜八 卅五年一月、東京、商業學校卒、東京市杉並區荻窪一ノ一二八。尾崎士郎 卅年三月、愛知縣橫須賀村、早大政經科卒、東京市大森區山王二ノ一八七二。大佛次郎 本名野尻清彦、卅年十月、橫濱、東大法科卒、神奈川縣鎌倉町雪ノ下四二八。尾上榮舟 九年八月、津山市、東大國文科卒、歌誌「水鏡」を主宰、藝術院會員、文學博士、早大講師、東京市小石川區白山御殿町一二七。尾山篤二郎 卅二年二月、金澤市、金澤英學院卒、歌誌「自然」主宰、東京市本郷弓町一ノ一九近藤方。折口信夫 別名釋道空、卅二年二月、大阪市、國大國文科卒、文學博士、慶大教授、東京市品川區大井町六〇五二。和辻哲郎 卅二年三月、兵庫縣仁豐村、東大哲學科卒、文學博士、東大教授、本郷區西片町一〇はノ八號。

蒲原有明 九年三月、東京、中卒、靜岡市鷹匠町三。川端康成 卅一年六月、大阪市、東大國文科卒、東京市下谷區谷中坂町七九。川路柳紅 卅一年七月、東京、東京美術學校日本畫科卒、東京市淀橋區上落合二ノ五六九。川田 順 十五年一月、東京、東大法科卒、兵庫縣御影町字掛田。川口松太郎 卅二年十月、東京、東京市麻布區斧町一五五。川口 浩 卅八年一月、橫濱、東大獨文科卒、長野縣下伊那郡飯田町下荒山口方河上徹太郎 卅五年一月、長崎、東大經濟學部卒、東京市品川區五反田五ノ七八。河井醉茗 七年五月、堺市、早稻田專門學校文科卒、藝術院會員、東京市目黒區中日黒四ノ一四八〇。龜井勝一郎 四十年十二月、函館市、東大美術學科卒、東京市外吉祥寺西五條通上司小劍 七年十二月、奈良市、東京市大森區北千束町六一九。上泉秀信 卅二年二月、山形縣長井町、早大英文科卒、東京市杉並區清水町二四。加能作次郎 十九年一月、石川縣西海村、早大英文科卒、東京市牛込區藥王寺町二

二。金親 清 四十年五月、千葉市、牛込區早稻田鶴卷町三六南越館。金子洋文 廿七年四月、秋田縣港町、工業學校卒、東京市杉並區井荻町一ノ六七七。加藤武雄 廿一年五月、神奈川縣川尻村、東京府砦村成城學園前。加藤一夫 卅二年二月、和歌山縣大郡河村、明治學院神學部卒、神奈川縣川崎市小杉八三三。海音寺潮五郎 本名末富東作、三十四年、鹿兒島縣、國大卒、東京市澁谷區代々木上原一二一五。勝本清一郎 卅二年五月、東京、慶大文科卒、東京市牛込區新小川町江戸川アパルト。片岡鐵兵 卅七年二月、岡山縣芳野村、慶大英文科卒、東京市杉並區西高井戸一ノ一〇一。加賀耿二 本名谷口善太郎、卅二年十月、石川縣國府村、京都市東山區清閑寺靈山町二二。橫光利一 卅一年二月、大分縣長峰村、早大文科卒、東京市世田谷區北澤二ノ一四五。橫山美智子 卅二年七月、尾道市、東京市

人名錄——文藝家

人名錄 文藝家

澁谷區代々木一〇六〇。與謝野晶子 十一年十二月、堺市、堺高女卒、東京市杉並區下荻窪七三一。吉井 勇 十九年十月、東京、早大文科半、伯爵 市川市市川七五七。吉江喬松 十三年九月、長野縣鹽田町、早大英文科卒、文學博士、早大文學部長、東京市世田谷區世田谷三ノ二三一八。吉川英治 廿五年八月、横濱市、東京市赤坂區表町三ノ二四。吉田綾二郎 十九年十一月、佐賀縣西郷村、早大英文科卒、東京市世田谷區玉川瀬田五四五。吉屋信子 廿九年一月、新潟市、栃木縣立高女卒、東京市牛込區砂土原町三〇一八。米川正夫 廿四年十一月、岡山縣高梁町、東京外語露語科卒、陸軍大學教授、東京市杉並區西高井戸三〇。高須芳次郎 十三年四月、大阪、早大英文科卒、日大講師、東京市澁野川區西ヶ原五一七。高田 保 廿八年三月、茨城縣土浦、早大文科卒、東京日ヶ囃託、東京市大森區新井宿一ノ二三〇〇。高橋邦太郎 卅一年九月、東京、東大佛文科卒、東京中央放送局員、東京市下谷區

九一四

上野花園町一四。高濱虛子 七年二月、松山市、高橋半、俳誌「ホトトギス」主宰、神奈川縣鎌倉町原ノ臺。瀧井孝作 廿七年四月、岐阜縣、八王寺市子安町四七。武田麟太郎 廿七年五月、大阪、東大佛文科卒、東京市麴町區下二番町六九。武林無想庵 十三年二月、札幌、東大文科卒、滯佛中。太宰施門 廿二年四月、岡山縣小田村、東大佛文科卒、文學博士、京大助教、京都市左京區下鴨川町四六。辰野九紫 本名小堀龍二、廿五年七月、鳥取市、東大法科卒、東京市本郷區向ヶ丘彌生町三ノ一。辰野 隆 廿一年三月、東京市、東大佛文科並に佛法科卒、文學博士、東大助教、東京市目黒區駒場町九二八。立野信之 卅六年十月、千葉縣五井町、東京外語半、東京市四谷區番栗町三六青葉莊。田中實太郎 十三年三月、高知縣三里村、東京市目黒區原町一三六七。谷川徹三 廿八年五月、愛知縣常滑町、京大哲學科卒、法大教授、東京市杉並區東

田町一ノ五七。谷崎潤一郎 十九年七月、東京市、東大文科半、藝術院會員、兵庫縣武庫郡精道村打出下宮坂一六。谷崎精二 廿三年十二月、東京市、早大英文科卒、早大教授、東京市牛込區原町一ノ六七。高見 順 三十年二月、福井縣、東大英文科卒、東京市大森區大森二丁目一三七。外村史郎 卅四年六月、濱松市、東京外語露語科卒、東京市杉並區大宮前一ノ三馬場方。相馬御風 十六年七月、新潟縣大町、早大英文科卒、新潟縣糸魚川大町。土屋文明 廿四年一月、群馬縣上野村、東大文科卒、東京市赤坂區青山町六ノ一八。鶴田知也 三十五年二月、小倉市大坂町、中學半、東京市澁谷區代々木西原八六三坪田讓治 廿三年、岡山縣石井村、早大英文科卒、東京市豐島區雜司ヶ谷六ノ八六六。內藤 濯 十六年七月、熊本市、東大佛文科卒、東京商大教授、東京市世田谷區下馬町二ノ九五九。中河與一 卅二年二月、香川縣坂出町、早大

人名錄 文藝家

英文科卒、東京市外千歲村成城學園宅地中里介山 十四年、東京府下奧多摩、東京府下高尾妙音谷。中塚一碧樓 廿九年九月、岡山縣玉島町、早大牛、東京市世田谷區若林三三七。中西悟堂 廿八年十一月、金澤市、曹洞宗學林卒、日本島の會主宰、東京市杉並區井荻町三ノ四一。中野重治 卅五年一月、福井縣高松村、東大獨文科卒、東京市澁野區柏木町五ノ一三〇。中村吉藏 十年五月、鳥根縣津和野町、早大英文科、哲學科卒、早大教授、東京市豐島區西巢鴨町二ノ一九六九。中村星湖 十七年二月、山梨縣河口村、早大英文科卒、東京市杉並區上井草一四五六。中村白葉 廿三年十一月、名古屋市、東京外語露語科卒、東京市世田谷區新町三ノ四三一。中村正常 卅四年十一月、東京市、七高半、東京市杉並區下高井戸一ノ二五一。中村武羅夫 十九年十月、北海道岩見澤町、神奈川縣藤澤町辻堂海岸。永井荷風 十二年十二月、東京市、外國語學校支那語科半、東京市麻布區市兵衛町

九一五

一ノ六。長田秀雄 十八年五月、東京市、獨逸協會卒、東京市牛込區新小川町江戸川ア一ト五三。長田幹彦 廿二年三月、東京市、早大英文科卒、東京市四谷區東信濃町一〇。長與善郎 廿一年八月、東京市、東大英文科半、東京市目黒區下目黒二ノ一九一。槍崎 勤 卅四年十一月、山口縣萩町、東京市牛込區砂土原町三ノ八。成瀬無極 十七年一月、東京、東大獨文科卒、文學博士、京大教授、京都市中京區室町丸太町下ル。室生屋星 廿二年八月、金澤市、東京市大森區馬込町三ノ七六三。村山知義 卅四年一月、東京市、東大宗教哲學科半、東京市澁野區西落合一ノ一〇。村松梢風 廿二年九月、静岡縣飯田村、中卒、東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ四二四。村上鬼城 慶應元年五月、高崎市、群馬縣高崎市並復町。武者小格實篤 十八年五月、東京、東大社會學科半、藝術院會員、東京府下碓村喜多見臺一三五。椋 鳩十 本名久保田彦穗 卅八年二月、長野縣喬木村、法大國文科卒、鹿兒島縣

給良郡加治木町鹽入。白田亞浪 十二年二月、長野縣小諸町、法大卒、東京市中野區西町四〇。內田百閒 廿二年五月、岡山市、東大獨文科卒、法大教授、東京市牛込區市ヶ谷仲之町九。宇野浩二 廿四年七月、福岡市、早大英文科半、東京市下谷區上野櫻木町一七。宇野千代 卅年十一月、山口縣岩國町、岩國高女卒、東京市四谷區大番町一〇四。生方敏郎 十五年八月、群馬縣沼田町、早大英文科卒、東京市杉並區高圓寺五ノ八〇六。海野十三 本名佐野昌一 卅年十二月、德島市、早大電氣科卒、東京市世田谷區若林町三七三。野上豊一郎 十六年九月、大分縣白杵町、東大英文科卒、九大講師、東京市荒川區日暮里渡邊町一〇四〇。野上彌生子 十八年五月、同上、明治女學校卒、同上。野口雨情 十五年十二月、茨城縣磯原町、東京專門學校卒、東京府下吉祥寺七七七。野口米次郎 八年十二月、愛知縣津島町、慶大卒、慶大教授、東京市中野區櫻山町四一。

人名錄——文藝家

昇 曙夢 十一年七月、鹿兒島縣實久村、正教神學校卒、陸軍教授、神奈川縣鎌倉町稻村ヶ崎五二七。
野村胡堂 十五年一月、岩手縣彦部村、東京市外碓村字奈根七九五。
陸 直次郎 本名野澤嘉哉、卅一年一月、東京市、早稻田實業卒、東京市小石川區竹早町七〇。
楠山正雄 十七年十一月、東京市、早大英文科卒、東京市麻布區霞町一九ノ三。
邦枝完二 廿六年一月、東京市、慶大文科卒、東京市麹町區平河町四ノ七。
國枝史郎 廿年十月、長野縣宮川村、早大英文科卒、東京市大森區馬込東一ノ一二六四。
久野豐彦 卅一年九月、名古屋市、慶大經濟學部、東京市杉並區阿佐ヶ谷二ノ五四七。
窪川鶴次郎 卅六年二月、靜岡縣中内田村、四高半、東京市澁橋區戸塚町四ノ五七五。
窪川稻子 卅七年六月、長崎市、東京市澁橋區戸塚町四ノ五九三。
窪田空穂 十年六月、長野縣和田村、東京專門學校卒、小石川區雜司ヶ谷八八。
久保田萬太郎 廿二年十一月、東京市、慶大文學部卒、日本放送協會參事、東京市

芝區三田小山町六。
久米正雄 廿四年十一月、上田市、東大英文科卒、神奈川縣鎌倉町二階堂。
倉田百三 廿四年二月、廣島縣庄原町、一高半、東京市大森區新井宿四ノ一一〇九。
藏原惟人 卅五年一月、東京、東京外語露語科卒、東京市芝區芝公園十二號の四。
黑島傳治 卅一年十二月、香川縣苗羽村、香川縣小豆郡苗羽村。
山本有三 廿年九月、栃木縣栃木町、東大獨文科卒、明大文藝科長、東京市外吉祥寺野田南一八二〇。
山田清三郎 廿九年六月、京都市、東京市澁橋區上落合二ノ七九二。
山内義雄 廿七年三月、東京市、東京外語佛語科卒、早大教授、神奈川縣鎌倉郡深澤町。
山岸光宣 十二年二月、高田市、東大獨文科卒、文學博士、早大教授、東京市世田谷區北澤四ノ四〇四。
矢野峰人 廿六年三月、岡山縣、京大文學部卒、臺北大教授、臺北市大正町二ノ一三。
柳原輝子 十八年十月、東京、島居坂東洋英和女學校卒、東京市豐島區目白三ノ二六三〇。

九一六

柳田 泉 廿七年四月、弘前市、早大英文科卒、東京市小石川區西丸町二五。
柳澤 健 廿二年十一月、若松市、東大文科卒、白耳義大使館一等書記官、ベルギー日本大使館。
柳 宗悅 廿二年三月、東京、東大哲學科卒、京都市左京區下鴨膳部町九二。
矢田挿雲 十五年二月、金澤市、早大卒、東京市大森區入新井六ノ四七。
矢崎 彈 四十年、新潟縣佐渡ヶ島、慶大文科卒、東京市澁谷區代々木山谷二五二。
眞山青果 十一年九月、仙臺市、二高半、東京市小石川區第六天町四八。
松村みね子 本名片山廣子、十一年、東京、東京市大森區新井宿四ノ一三五二。
松村英一 廿二年十二月、東京、東京市澁橋區西大久保三ノ一二八。
松岡 讀 廿四年九月、新潟上越村、東大哲學科卒、東京市品川區大井元芝町八一三。
正宗白鳥 十二年三月、岡山縣伊里村、早稻田專門文科卒、東京市大森區南千束町二三七。
正木不如丘 廿年二月、長野市、東大醫學部卒、醫學博士、長野縣上諏訪町湖心莊。
前田河廣一郎 廿一年十一月、仙臺市、中

卒後渡米、千葉縣御宿町新町濱。
前田夕暮 十六年七月、神奈川縣大根村、中學卒、東京市杉並區荻窪一ノ一六五。
深尾須磨子 兵庫縣、東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ九〇二新宿ハラス。
深田久彌 卅六年三月、石川縣大聖寺町、東大哲學科半、神奈川縣鎌倉町二階堂。
福士幸次郎 廿二年十一月、弘前市、國民英學會卒、東京市深川區龜住町四七。
福田清人 卅七年十一月、長崎縣波佐見、東大國文科卒、東京市杉並區和田本町九〇一。
福田正夫 廿六年三月、神奈川縣小田原町、東京高師半、東京市世田谷區北澤町五ノ八〇九。
藤澤桓夫 卅七年七月、大阪市、東大文科卒、大阪市住吉區千鶴町十四石濱方。
藤森成吉 廿五年八月、長野縣上諏訪、東大獨文科卒、東京市豐島區池袋町二ノ一四三三。
舟橋聖一 卅七年十二月、東京市、東大國文科卒、明大講師、東京市澁橋區下落合一ノ四三五。
甲賀三郎 本名春田能爲、廿六年十月、滋賀縣日野町、東大應用化學科卒、東京市澁谷區榮通一ノ四三。

人名錄——文藝家

幸田露伴 慶應三年七月、東京、文學博士、藝術院會員、東京市小石川區表町七九。
小島政二郎 廿七年一月、東京、慶大文學部、東京市麻布區斧町一五五。
小杉天外 慶應元年八月、秋田縣六郷町、神奈川縣逗子町櫻山。
小寺菊子 富山縣、東京市澁橋區百人町三ノ三二九。
小林秀雄 卅五年四月、東京市、東大佛文科卒、神奈川縣鎌倉扇ヶ谷三九一。
小宮豐隆 十七年三月、福岡縣犀川村、東大獨文科卒、東北帝大教授、仙臺市北二番町六八。
後藤末雄 十九年十二月、東京、東大佛文科卒、文學博士、慶大教授、東京市本郷區向ヶ丘彌生町三ノはノ三。
小松 清 卅四年六月、神戸市、神戸高商半、外遊中。
江口 渙 廿年七月、東京市、東大半、東京市外吉祥寺六一五。
江戶川亂歩 廿七年十月、三重縣名張町、早大經濟學部卒、東京市豐島區池袋町三一六二六。
江馬 修 廿三年十二月、長野縣高山町、中學半、長野縣高山町。
青野季吉 廿三年二月、新潟縣佐渡ヶ島、

九一七

早大卒、東京市世田谷區世田谷三ノ二二四一。
秋田雨雀 十一年一月、青森縣黑石前町、早大英文科卒、東京市豐島區雜司ヶ谷三ノ二二。
淺原六朗 廿八年二月、長野縣池田町、早大英文科卒、東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七五九。
阿部次郎 十六年八月、山形縣上郷村、東大哲學科卒、東北帝大教授、仙臺市土樋二四五。
阿部知二 卅六年六月、岡山縣湯郷村、東大英文科卒、東京市杉並區荻窪二ノ九八。
安倍能成 十六年十二月、松山市、東大哲學科卒、京城大教授、京城岡崎町六ノ五相澤方。
西條八十 廿五年一月、東京、早大英文科卒、早大教授、東京市澁橋區柏木三ノ四三三。
齊藤茂吉 十五年七月、山形縣堀田村、東大醫學部卒、藝術院會員、醫學博士、青山醫院院長、東京市赤坂區青山南町五ノ八一。
笹川臨風 三年八月、東京、東大國史學科卒、文學博士、駒澤大學教授、東京市本郷區西片町一〇任二八號。

佐々木孝丸 卅一年一月、北海道釧路、杉並區西高井戸二ノ四八。
 佐々木邦 十六年五月、靜岡縣清水村、明治學院高等學部卒、東京市澁谷區豐分町一。
 佐々木信綱 五年六月、三重縣桑名村、東大古典科卒、文學博士、藝術院會員、東京市本郷區西片町一〇。
 佐々木茂索 廿七年十一月、京都市、東京市麴町區平河町二ノ二。
 ささきふさ 卅年十二月、東京、青山女學院英文專門科卒、同上。
 佐藤徳之助 廿三年十二月、川崎市、川崎市砂子町一ノ二六。
 サトウハチロー 卅六年五月、東京、中學卒、東京市下谷區上野櫻木町二六。
 佐藤春夫 廿五年四月、和歌山縣新宮町、慶大文學部卒、東京市小石川區關口町二〇七。
 里見 弼 本名山内英夫、廿一年七月、橫濱市、東大英文科卒、神奈川縣鎌倉町雪ノ下四四二。
 菊池 寛 廿二年十二月、高松市、京大英文科卒、藝術院會員、東京市豊島區雜司ヶ谷金山。
 貴司山治 本名伊藤好市、卅二年十二月、

德島縣鳴戸村、東京府下吉祥寺五三四。
 岩田國士 廿三年十一月、東京市、東大佛文科卒、明大教授、東京市杉並區松庵南町二〇曙通。
 北村小松 卅四年一月、青森縣八戸市、慶大文科卒、東京市大森區南千束一四〇。
 木下奎太郎 本名太田正雄、十八年八月、靜岡縣伊東町、東大醫學部卒、醫學博士、東北大学教授、仙臺市茂市ヶ坂六。
 木村 毅 廿七年二月、岡山縣勝間田村、早大英文科卒、東京市澁谷區西大久保三ノ四七。
 三上於菟吉 卅四年三月、埼玉縣櫻井村、早大英文科卒、東京市赤坂區榎町三。
 三木 清 卅年一月、兵庫縣瀧野町、京大哲學科卒、東京市杉並區高圓寺四ノ五三九。
 三木露風 廿二年六月、兵庫縣瀧野町、早大半、東京府下三鷹村幸禮五八二。
 三田村篤魚 三年三月、八王子市、橫濱法學學校卒、東京市中野區文園町二六。
 水上瀧太郎 本名阿部章藏、廿年十二月、東京、慶大理財科卒、明治生命重役、東京市麴町區富士見町一ノ一八。
 三宅周太郎 廿五年四月、兵庫縣加古川町、慶大文科卒、東京市豊島區池袋町三ノ一

六三七。
 三宅雪嶺 萬延元年五月、石川縣、東大哲學科卒、藝術院會員、文學博士、東京市澁谷區代々木初臺五五四ノ二。
 宮本顯治 四十一年十月、山口縣島田村、東大經濟學部卒、澁谷區上落合中條百合子氣附。
 三好十郎 卅五年四月、佐賀市、早大英文科卒、東京市世田谷區代田一ノ五二八。
 志賀直哉 十六年二月、宮城縣石卷町、東大半、奈良市上高畑。
 島本健作 卅六年九月、札幌市、東北大半、神奈川縣鎌倉町雪ノ下六九〇。
 島崎藤村 五年二月、長野縣神坂村、明治學院卒、東京市麴町區下六番町一三。
 子母澤 寛 本名梅谷松太郎、廿五年二月、北海道石狩、明大法科卒、東京市大森區新井宿二ノ一七四六。
 下村千秋 廿六年九月、茨城縣朝日村、早大英文科卒、東京市杉並區上荻窪八八一白井喬二 本名井上義道、廿二年九月、橫濱市、日大政經科卒、東京市世田谷區代田一ノ七六三。
 白石實三 十九年十一月、群馬縣安中町、早大英文科卒、東京市澁谷區代々木初臺五三四。

白鳥省吾 廿四年二月、宮城縣築館町、早大文科卒、東京市小石川區高田豐川町四二。
 新村 出 九年十月、山口縣山口町、東大文科卒、文學博士、京大教授、京都市上京區小山中溝町一九。
 日夏耿之介 本名樋口園登、廿三年二月、長野縣飯田町、早大文科卒、早大教授、東京市杉並區阿佐ヶ谷六ノ一一七。
 平田小六 卅七年十月、秋田縣大館町、中學卒、豊島區長崎町一ノ二三八九。
 平田禎木 六年二月、東京市、一高半、東京市本郷區駒込曙町二二。
 平林たい子 卅八年十月、長野縣中洲村、諏訪高女卒、東京市中野區驛前一九生稻方。
 平山蘆江 十五年十一月、兵庫縣湊村、中學半、東京市牛込區市ヶ谷富久町一一三。

廣瀨哲士 十六年九月、岡山縣津山市外、東大佛文科卒、慶大教授、東京市杉並上荻窪四三七。
 廣津和郎 廿四年十二月、東京市、早大英文科卒、東京市澁谷區西大久保一ノ四四五。
 本山荻舟 十四年三月、岡山縣藤戸の渡し、東京市京橋區京橋三ノ三。
 百田宗治 廿六年一月、大阪市、東京市中野區小澁三三三。
 森 葵菟 廿三年九月、東京、東大理學部及醫學部卒、醫學博士、東大助教授、埼玉縣大宮町外盆裁村。
 森田草平 十四年三月、岐阜縣鷺山村、早大英文科卒、法大教授、東京市目黒區上目黒一ノ一四三。
 森山 啓 卅七年三月、新潟縣、早大文科半、東京市澁谷區戸塚町三ノ一二〇。

關口次郎 廿六年六月、福井縣敦賀市、東大獨文科卒、東京市澁谷區幡ヶ谷本町二ノ三三六。
 芹澤光治良 卅五年五月、沼津市、東大經濟學部、東京市中野區小瀧町五二。
 菅 忠雄 卅二年二月、東京市、上智大學獨文科卒、神奈川縣鎌倉町二階堂大塔宮裏。
 杉山平助 廿七年六月、大阪市、慶大理財科卒、東京市目黒區綠ヶ丘二三〇一。
 鈴木 清 四十年、秋田縣旭村、山形高校半、秋田縣平鹿郡旭村塚塚字塚越。
 鈴木信太郎 廿八年八月、東京市、東大佛文科卒、東大助教授、東京市豊島區西巢鴨町一ノ三五一九。
 鈴木善太郎 十七年一月、福島縣郡山市、東京市品川區北品川六ノ三四五。

新聞通信社

社名	所在地	創刊	代表者
國民新聞	京橋區銀座西七ノ二	明治三三・二	田中勝造
中央新聞	麴町區内山下町一ノ一	三三・六	川勝
中外商業新報	日本橋區北島町一ノ二一	九・三	田中吉
帝國新報	京橋區銀座四ノ五	明治四〇・二	池田弘
帝都日日新聞	芝公園五號地	昭和七・八	野依秀一
東京朝日日新聞	麴町區有樂町二ノ三	明治二二・七	上野精
東京日日新聞	麴町區有樂町一ノ二	明治三三・二	岡村政次
東京每日新聞	日本橋區人形町一ノ二	明治三三・三	木村政次
東京夕刊新報	麴町區内幸町一ノ五	三三・三	千葉博
東京夕刊新報	京橋區京橋三ノ七	大正二・二	中島鐵哉

二六新報 芝罘口二ノ六 明治二六・〇 松本 贊吉
 報知新聞 麴町區有樂町一ノ一三 五・六 野間 清治
 都新聞 麴町區內幸町一ノ五 一七・九 福田 英助
 やまと新聞 芝罘區田村町五ノ一六 一九・〇 岩田 富美夫
 讀賣新聞 京橋區銀座西三ノ一 七・二 正力 松太郎
 萬朝報 京橋區銀座西二ノ三 二五・二 長谷川 善治
 朝日新聞 麴町區內山下町一ノ一 三三・二 比呂 善治
 朝日新聞 麴町區內山下町一ノ一 三三・二 比呂 善治
 朝日新聞 麴町區內幸町一ノ六 三〇・三 均

大阪朝日新聞 北區中之島三ノ三 明治三・一 上野 精一
 大阪毎日新聞 北區堂島上町二ノ三六 一五・二 岡 實
 大阪時事新聞 北區曾根崎上町四ノ四九 八・三 進藤 信義
 大阪日日新聞 東區北濱四ノ七 明治四・四 藤本 重次郎
 大阪今日新聞 東區北濱一丁目二八 大正三・二 村井 庄之助
 夕刊大阪新聞 北區堂島濱通四ノ三 二・七 前田 久吉
 大阪朝報 西區北堀江上通一ノ三 明治四・二 岡島 松次郎
 大正日日新聞 東區北濱四ノ六 大正八・二 米田 誠夫
 大阪經濟新聞 北區堂島中一ノ三九 四・一 吉田 益三
 大阪每日新聞 北區中ノ島五丁目 大正四・二 近藤 幸三郎
 日刊工業新聞 北區中ノ島五丁目 大正四・二 近藤 幸三郎
 大阪中外商業新報 東區北濱一丁目 大正三・三 村上 幸平
 每朝新聞 此花區上福島北一ノ三六 大正四・二 村上 幸平
 昭和日日新聞 東區北濱二ノ三一 昭和二・二 古川 浩
 橫濱貿易新報 中區本町六丁目 明治三・二 三宅 市郎

名古屋新聞 名古屋市中區西川端町一ノ五九 九・二 小山 浩司
 名古屋日日新聞 名古屋市中區新榮町 九・八 野村 浩司
 岐阜新聞 岐阜市朝日町三 明治二五・二 清 寬
 岐阜日日新聞 岐阜市今小町二二 二四・四 坂本 彌三
 福井新聞 福井市佐佳枝中町一〇 二六・八 今村 七平
 北國新聞 金澤市南町五〇 二六・八 林 政武
 北陸每日新聞 金澤市南町五〇 二六・八 高木 八良
 金澤新聞 金澤市南町六二 三三・五 土田 行丸
 北陸タイムス 富山市總曲輪三九九 明治四・二 田中 清文
 富山日日新聞 富山市總曲輪二五五 一七・三 横山 四郎右衛門
 北陸日日新聞 富山市總曲輪二五〇 二一・四 鷹取 健次郎
 伊勢新聞 津市九ノ内本町 二・一 松本 宗重
 三重縣民新聞 津市下部町田堤ノ内 昭和九・七 鈴木 友二郎
 近江新聞 大津市伊勢屋町六 明治三三・二 大久保 清治
 京都日日新聞 京都市中區區島丸通 一三・五 後川 晴之助
 京都日日新聞 京都市島丸通竹屋町 四五・二 山根 文雄
 神戶日日新聞 神戶市榮町通六丁目六一 三三・二 進藤 信義
 神戶日日新聞 同 上 一七・五 加藤 芳助
 中國日日新聞 姫路市東紺屋町八 三三・一 瀨川 武雄
 和歌山新聞 和歌山市本町四丁目一 四四・二 久下 豐忠
 松陽新聞 松江市殿町三八三 三三・二 勝部 本右衛門
 山陽中國合同新聞 岡山市中山下一五四 三三・一 岡本 佐市
 中國新聞 廣島市上流川町二 三三・五 山本 實一
 防長新聞 山口市大市六 一七・七 白銀 禮治
 藝備日日新聞 廣島市大手町二ノ二三 一九・七 中村 厚次郎

武州新報 浦和市岸町 大正三・〇 佐藤 彦久
 千葉日日新聞 千葉市香葉町二丁目 明治六・四 五十嵐 喜久
 房總日日新聞 千葉市寒川日本橋二丁目 昭和二・二 大立 日直
 いばらき新聞 水戸市市南町一六 明治二四・七 中 崎
 上野新聞 前橋市曲輪町一〇五 一九・二 篠原 秀吉
 下野新聞 宇都宮市池上町五一 一五・一 川村 直成
 河北新聞 仙臺市東三番丁一七〇 三〇・一 一 力次郎
 福島民友新聞 福島市大町七九 二八・五 氏家 清
 福島民報 福島市榮町二一 二五・八 中目 元治
 福島新報 福島市柳町三八 二六・六 釘本 衛雄
 岩手日日新聞 盛岡市內丸一〇四 九・七 後藤 一
 東奥日日新聞 青森市長島三ノ二 二二・三 山田 金次郎
 弘前新聞 弘前市一番町 三〇・五 工藤 十三雄
 山形新聞 山形市七日町四七一 九・九 服部 敬吉
 日刊山形 山形市香澄町八幡石五八 三三・四 西 方馬
 秋田魁新報 秋田市大町一丁目一四 七・二 井上 廣平
 新潟日日新聞 新潟市東通一番町 四・三 小柳 調
 新潟新聞 新潟市西堀前通七番町 九・三 山 柳助
 北越新聞 長岡市坂ノ上町 一四・六 吉原 彦一
 越後新聞 長岡市荒屋敷町 三三・五 藤井 浩然
 信濃日日新聞 長野市南縣町六五七 三・四 小坂 武雄
 長野新聞 同市旭町乙一 三三・四 山本 慎平
 山梨日日新聞 甲府市紅梅町二一 四〇・八 保坂 政治
 山梨日日新聞 甲府市百石町二八八 五・七 山口 忠五郎
 静岡新聞 静岡市追手町二二九 二五・〇 野口 二郎
 静岡民友新聞 静岡市紺屋町 二四・〇 大石 光之助
 新愛知 名古屋市中區區幸本町 二・七 大島 宇吉

關門日日新聞 下關市東南部町三三 一三・一 末光 鐵之助
 吳日日新聞 吳市堺川通三ノ一 四三・〇 吉田 益三
 鳥取新聞 鳥取市 四〇・二 山 折儀重
 山陰日日新聞 鳥取縣米子市日野町 九・四 三好 榮次郎
 德島日日新聞 德島市富田浦町六四 三三・六 多田 爲太郎
 德島日日新聞 德島市寺島町九三 三三・四 小田 榮次郎
 香川新聞 高松市濱ノ丁一二 三〇・〇 安藤 香三郎
 愛媛新聞 松山市一番町七 九・九 香川 和男
 海南新聞 松山市南堀端町一七 三三・九 野中 楠吉
 高知新聞 高知市本町二四 一〇・〇 橋田 早苗
 土陽新聞 高知市本町一九 一〇・〇 中野 正剛
 九州日日新聞 福岡市天神町二八 一〇・〇 永江 眞郷
 福岡日日新聞 福岡市渡邊通六丁目 一〇・〇 毛里 保太郎
 門司新聞 門司市西本町一丁目 明治三三・四 西岡 竹次郎
 長崎民友新聞 長崎市大浦町二二 大正三・一 牧 山耕藏
 長崎日日新聞 長崎市大通町四二 明治三三・九 深 水清
 九州日日新聞 熊本市上通町四二 一五・三 高木 第四郎
 九州新聞 熊本市花畑町三一 九・二 仲道 政治
 宮崎新聞 宮崎市南廣島三ノ四 一四・一 大正三・九 長津 征夫
 豐州新聞 大分市荷揚町二 明治九・四 大津 實良
 大分新聞 大分市碩田橋通六〇 三三・六 兒玉 實合
 鹿兒島新聞 鹿兒島市山下町一七一 一四・二 當眞 嗣合
 鹿兒島日日新聞 那覇市西本町四ノ二〇 大正四・三 屋富 祖德次郎
 沖繩日日新聞 那覇市西本町三ノ三 昭和八・一 阿部 良夫
 北海タイムス 札幌市大通西三丁目 明治三三・九 矢上 以久三郎
 小樽新聞 小樽市港町一六 二六・五 岡本 正一
 函館日日新聞 函館市元町二〇 二・一 岡本 正一

人名錄——新聞通信社

Table listing newspaper publishers and their details, including names like 旭川新聞, 室蘭每日新聞, and locations like 旭川市三條通九丁目.

在外

Table listing publishers located outside the main area, including 滿洲日日新聞, 大連市東公園町三一, and 大連市淡路町七.

Table listing various women's organizations and their details, including 千代田通信, 豐國通信, and 愛國婦人會.

主要團體

Table listing women's organizations and their details, including 牛込區婦人會, 櫻蔭會, and 大妻同窓會.

人名錄——主要團體・婦人團體

Table listing various women's organizations and their details, including 少年保護婦人協會, 品川區婦人會, and 大日本聯合婦人會.

主要團體——婦人團體

大日本國防婦人會 陸軍省恩賜課内、電話銀座五八〇一—三一省內二九三
 大日本聯合母の會 東京市豊島區雜司ヶ谷一ノ三〇、小
 林珠子方、電話牛込二九四
 東京市小石川區竹早町、府立第二高女
 校内、電話小石川七八九
 千草會 東京市牛込區市ヶ谷田町二ノ七、東京
 働く婦人の家内、電話牛込三四六六
 東京市京橋區銀座二ノ三ノ四、電話京
 橋七〇三七
 東京市淺草區松清町四〇、淺草本願寺内
 電話淺草七六四九
 東京市神田區駿河臺一ノ八ノ十一、電
 話神田一八・一一九
 東京市澁谷區幡ヶ谷榎町、東京女子
 藥學專門學校内、電話四谷二一〇六
 東京市神田區西神田二ノ十ノ十二、電
 話九段一〇三九
 東京市麹町區富士見町一ノ五ノ一、電
 話九段二七二七
 東京市京橋區京橋一ノ七、小口美容研
 究所内、電話京橋五九四九
 東京市芝區芝公園、電話芝一一五五—
 一八八九
 麹町區麹町二ノ三ノ三、電話九段四〇
 二一
 杉並區井荻三丁目東京女子大學内、電
 話荻窪二〇四九
 東京市小石川區竹早町、東京府女子師
 範學校内、電話小石川七八九

九二四

椰の葉會 東京市京橋區銀座西七ノ二、國民新聞
 社内、電話銀座五五五一
 東京市澁谷區百人町三ノ三六〇、電話
 四谷五八五〇
 日本基督教婦人矯風會
 (財團法人) 東京市本郷區本郷二ノ三ノ六、杉田鶴
 子方、電話小石川五七六六
 日本赤十字會 東京市芝區芝公園五號地、日本赤十字
 社内、電話芝一一〇一—一一〇四
 日本看護婦人會 東京市世田谷區弦卷町三ノ六二一
 篤本婦人記者俱樂部
 海外婦人協會 東京市麹町區內幸町一ノ三、大阪ビル
 柏葉婦人會 東京市澁谷區川區田端町三一八
 婦人選獲得同盟 東京市麹町區麹町二ノ三ノ三、電話九
 段四〇二一
 婦人同志會 東京市赤坂區丹後町一、電話赤坂四七
 四〇
 婦人セツルメント 東京市本所區菊川町一ノ一九ノ二、電
 話本所六五一七(呼出)
 婦人參政同盟 東京市小石川區關口町一九一、千葉チ
 ヲノ方、電話牛込三六九〇
 佛教女子青年會 東京市外吉祥寺、電話武藏境七七
 東京市麹町區富士見町一ノ二ノ四、和
 洋女子專門學校内、電話三一七九
 東京市澁谷區柏木一ノ一六八、電話四
 谷三七
 有隣園母の會 東京市四谷區三光町一、竹内茂代方
 電話四谷一四六〇
 四谷區婦人會 東京市世田谷區北澤五ノ八四八
 東京市芝區赤羽町一、東京府立第六高
 女内、電話三田六八〇・二三九
 わかば會 東京市世田谷區赤羽町一、東京府立第六高
 女内、電話三田六八〇・二三九

技 會

聯 會 東京市京橋區銀座二ノ三三、東京聯合婦
 人會内、電話京橋七〇三七
 京都市聯合婦人會 京都市上京區紫野郷ノ上町一一、電話
 西陣五三〇〇
 大阪市婦人聯合會 大阪市北區中ノ島大阪市役所教育内
 電話北濱五〇五〇
 選舉肅正婦人聯合會 東京市京橋區銀座二ノ三三、東京聯合婦
 人會内、電話京橋七〇三七
 大日本航空婦人會 東京市芝區田村町一丁目、飛行會館内
 電話銀座五七一
 東京市牛込區河田町東京女子醫學專門
 學校内、電話牛込七七
 東京市有樂町東京日日新聞社内、電話
 丸ノ内三二一—三三三
 日本婦人聯盟 東京市本郷區追分町五三、基督教青年
 會館、電話小石川一七七八
 日本消費組合婦人協會 東京市麹町區丸ノ内二ノ一二、電話丸
 ノ内四六六
 日本國際協會婦人部 東京市品川區大井金子山五八八八、電
 話大森五六三九
 日本產兒調節婦人同盟 東京市牛込區市ヶ谷田村二ノ七、電話
 牛込三四六六
 働く婦人の家

學術文化團體

名 稱 創立 所在地 代表者 出版物
 衛生工業協會 大正六 京橋區銀座西建築會館 竹村 勘悉 會誌
 國藝學會 三 澁谷區松濤町三七
 江戸時代 日比谷市政會館内 山崎 麓 會報
 文化研究會

主要團體——婦人團體・學術文化團體

九二五

榮養學會 小石川區駕籠町 佐伯 矩
 應用動物學會 昭和四 榮養研究所内
 音聲學會 大正五 小石川區竹早町 石黒 魯平 會報
 大阪發明協會 三 大阪市内 發明ニ
 大阪醫學會 明治四 大阪市阪大醫學部内 ュース
 大阪釀造協會 大阪三 大阪市阪大工學部内 齋藤 賢造 雜誌
 大原社會問題 澁谷區柏木四ノ八九六 高野岩三郎 雜誌
 研究所 溫故學會 明治四 澁谷區水川町四 齋藤茂三郎 雜誌
 經濟研究會 大阪府天王寺區鳥ヶ辻 河田 嗣郎
 學術研究會議 大正九 上野公園學士院會館内 櫻井 鏡二
 科學知識 三 麹町區丸ノ内二ノ六 井上 仁吉 日本學
 普及會 三 麹町區丸ノ内二ノ六 井上 仁吉 雜誌
 漢學會 明治四 東大文學部内 雜誌
 痛研究會 三 豐島區西巢鴨二 長興 又郎 痛
 火兵學會 三 澁谷區永川町四 緒方 勝一 火兵學
 海洋學會 大正二 神戸市海洋氣象臺内 岡田 武松 海と空
 海事協同會 神戸市神戸區京町 雜誌
 史蹟名勝天然記 文部省内
 念物保存協會